

# ユーザーズガイド

Vaisala viewLinc Enterprise Server

バージョン 5.0



## 発行元

### Vaisala Oyj

所在地住所:

Vanha Nurmijärventie 21, FI-01670 Vantaa, Finland

郵送先住所:

P.O. Box 26, FI-00421 Helsinki, Finland

電話:

+358 9 8949 1

弊社のホームページ ([www.vaisala.com](http://www.vaisala.com)) をご覧ください。

© Vaisala 2018

本マニュアルは著作権保持者の書面による許可なしに、いかなる部分も電子的、機械的（写真複写を含む）、またはその他のいかなる形式または方法によっても複製、発行、または公表されること、または内容の一部、または全部が修正、翻訳、脚色、第三者へ販売や公開されることが禁じられています。翻訳されたマニュアルおよび多言語文書の翻訳された部分は英語版の原文に基づいています。不明な点がある場合、訳文ではなく英語版が適用されるものとします。

本マニュアルの内容は事前の通知なしに変更される場合があります。

地域によって法規等が異なっており、こうした法規等が本マニュアルに記載された情報に優先するものとします。Vaisala は、いかなる時でも本マニュアルが該当する地方の規則・規定に遵守していることを表明しないものとし、これによって、これらに関する責任を一切負いません。

本マニュアルによって、お客様、またはエンドユーザーに対する法的拘束力のある義務が Vaisala に発生するものではありません。すべての法的拘束力のある

義務、および同意は、該当の供給に関する契約、または一般販売条件および Vaisala のサービスに関する一般条件に限定して含まれています。

本製品には Vaisala によって開発されたソフトウェアが含まれています。ソフトウェアの使用に関しては、該当の供給契約に含まれる使用許諾契約に、別途の使用許諾契約がない場合は、Vaisala グループのライセンスに関する一般条件に拘束されます。

本製品にはオープンソースソフトウェア (OSS) の構成要素が含まれている場合があります。本製品が OSS の構成要素を含んでいる場合、当 OSS は該当の OSS ライセンスの利用規約に準拠しており、本製品の OSS の利用および配布に関しては当ライセンスの利用規約に拘束されているものとみなします。該当の OSS ライセンスは、お届けした各製品、製品項目に応じて、それぞれの製品内に含まれているか、その他の該当のメディア上で支給されます。

## 目次

|  |           |
|--|-----------|
| <b>1. 製品の概要</b> .....                        | <b>1</b>  |
| 1.1 Vaisala viewLinc Enterprise Server ..... | 1         |
| 1.2 viewLinc の仕組み .....                      | 1         |
| 1.2.1 ハードウェア要件 .....                         | 1         |
| 1.2.2 サーバー要件 .....                           | 2         |
| 1.2.4 エンドユーザーPCおよびリモートディスプレイ要件 .....         | 3         |
| 1.2.5 既定のアプリケーションファイルの場所 .....               | 3         |
| 1.3 新機能 .....                                | 4         |
| 1.3.1 アップグレードユーザー向けの新規機能に関する情報 .....         | 5         |
| 1.3.2 ツアーを視聴する .....                         | 9         |
| 1.4 デバイス接続オプション .....                        | 9         |
| 1.4.1 ハードウェアの接続方法 .....                      | 10        |
| 1.4.2 ワイヤレスデバイスの使用 .....                     | 11        |
| 1.4.3 vNet デバイスの使用 .....                     | 12        |
| 1.4.4 単一ポートまたはマルチポートのイーサネットデバイスコネクタの使用 ..... | 12        |
| 1.4.5 USBポートの使用 .....                        | 13        |
| 1.4.6 シリアルポートの使用 .....                       | 13        |
| 1.5 『viewLinc ユーザーガイド』について .....             | 14        |
| 1.5.1 本マニュアルの構成について .....                    | 14        |
| 1.5.2 この文書で使用される表記規則 .....                   | 14        |
| 1.5.3 関連ユーザーマニュアル .....                      | 15        |
| 1.5.4 お問い合わせ .....                           | 15        |
| 1.5.5 トレーニングが必要ですか？ .....                    | 15        |
| <b>2. 設定とインストール</b> .....                    | <b>17</b> |
| 2.1 チェックリストの設定 .....                         | 17        |
| 2.2 viewLinc Enterprise Server の構成 .....     | 18        |
| 2.3 viewLinc 構成の計画 .....                     | 19        |
| 2.4 viewLinc のインストール .....                   | 22        |
| 2.4.1 viewLinc のインストール .....                 | 22        |
| 2.4.2 viewLinc のデバイスホストサーバーへのインストール .....    | 23        |
| 2.4.3 アップグレードとしての viewLinc のインストール .....     | 24        |
| 2.5 viewLinc にログインする .....                   | 25        |
| 2.6 システムテスト .....                            | 26        |
| 2.7 システムの検証 .....                            | 27        |
| <b>3. デバイス管理</b> .....                       | <b>29</b> |
| 3.1 デバイスホスト .....                            | 29        |
| 3.1.1 サーバーホストの追加 .....                       | 29        |
| 3.1.2 アクセスポイントホストの追加 .....                   | 30        |
| 3.2 デバイスの追加方法 .....                          | 30        |
| 3.2.1 ネットワーク接続済みデバイスの検出 .....                | 31        |
| 3.2.2 ワイヤレスデバイスの受理 .....                     | 31        |

|           |                           |           |
|-----------|---------------------------|-----------|
| 3.2.3     | デバイスの手動追加                 | 32        |
| 3.2.4     | 複数のデバイスタイプの追加             | 33        |
| 3.3       | ホストとデバイスの構成               | 34        |
| 3.3.1     | ホストおよびデバイスプロパティの表示        | 34        |
| 3.3.2     | ホストプロパティの編集               | 37        |
| 3.3.3     | デバイスプロパティの編集              | 38        |
| 3.3.4     | チャンネルプロパティの編集             | 41        |
| <b>4.</b> | <b>サイト管理</b>              | <b>43</b> |
| 4.1       | ゾーンとロケーション                | 43        |
| 4.2       | ゾーンとロケーションの作成             | 44        |
| 4.2.1     | ゾーンの作成                    | 45        |
| 4.2.2     | ロケーションの作成                 | 45        |
| 4.3       | デバイスチャンネルのロケーションへのリンク     | 46        |
| 4.3.1     | チャンネルのロケーションへのリンク         | 46        |
| 4.3.2     | リンクされたロケーションの自動作成         | 47        |
| 4.3.3     | チャンネルのリンク履歴の表示            | 48        |
| 4.3.4     | リンクしたチャンネル/リンクしたロケーションの検索 | 49        |
| 4.4       | ダッシュボードの作成                | 50        |
| 4.4.1     | ダッシュボードの作成                | 51        |
| 4.4.2     | ダッシュボード表示設定の変更            | 52        |
| 4.4.3     | ダッシュボード画像またはデータポイントの削除    | 54        |
| <b>5.</b> | <b>グループとユーザー</b>          | <b>55</b> |
| 5.1       | 権限                        | 55        |
| 5.2       | グループ                      | 57        |
| 5.2.1     | グループの追加                   | 57        |
| 5.3       | ユーザー                      | 58        |
| 5.3.1     | ユーザーの追加                   | 58        |
| <b>6.</b> | <b>アラームテンプレート</b>         | <b>61</b> |
| 6.1       | アラームのタイプ                  | 62        |
| 6.2       | システムアラーム                  | 63        |
| 6.3       | しきい値アラーム                  | 63        |
| 6.3.1     | しきい値アラームテンプレートの作成         | 64        |
| 6.3.2     | しきい値アラームテンプレートのロケーションへの適用 | 66        |
| 6.3.3     | しきい値アラームテンプレートの編集         | 67        |
| 6.3.4     | ロケーションしきい値アラーム設定の編集       | 68        |
| 6.3.5     | しきい値アラームの非アクティブ化/再アクティブ化  | 68        |
| 6.4       | デバイスアラーム                  | 69        |
| 6.4.1     | デバイスアラームの種類               | 69        |
| 6.4.2     | ホスト通信アラーム設定               | 71        |
| 6.4.3     | ホスト構成アラーム設定               | 72        |
| 6.4.4     | デバイスアラームテンプレートの作成         | 73        |
| 6.4.5     | デバイスアラームテンプレートの適用         | 75        |
| 6.4.6     | デバイスアラームテンプレートの編集         | 77        |

|           |                       |            |
|-----------|-----------------------|------------|
| 6.4.7     | ロケーションデバイスアラーム設定の編集   | 77         |
| 6.5       | アラーム通知                | 78         |
| 6.5.1     | アラーム通知テンプレートの作成       | 79         |
| 6.5.2     | アラーム通知テンプレートの適用       | 81         |
| 6.5.3     | アラーム通知テンプレートの編集       | 83         |
| 6.6       | メール/SMSの内容            | 83         |
| 6.6.1     | カスタム電子メールまたはSMSの内容の作成 | 84         |
| <b>7.</b> | <b>システム環境設定</b>       | <b>87</b>  |
| 7.1       | 全般設定                  | 87         |
| 7.2       | リモート受信確認              | 88         |
| 7.3       | スケジュール機能              | 89         |
| 7.4       | 音声アラーム                | 89         |
| 7.5       | 温度測定単位                | 90         |
| 7.6       | MKT活性化エネルギー           | 90         |
| 7.7       | デバイスまたはチャンネルエイリアス     | 91         |
| 7.8       | デバイス校正期間              | 91         |
| 7.9       | タイムベースの同期             | 92         |
| 7.10      | viewLinc Aware        | 92         |
| 7.11      | ライセンスキー               | 93         |
| 7.12      | システム変更の認証             | 93         |
| 7.13      | 技術サポートログ              | 94         |
| 7.14      | 言語プリファレンス             | 94         |
| 7.15      | 単位表示プリファレンス           | 95         |
| 7.16      | メールとSMS設定             | 96         |
| 7.16.1    | メールサーバーのプリファレンスの設定    | 96         |
| 7.16.2    | SMSモデムプリファレンスの設定      | 97         |
| 7.17      | システムアラームプリファレンス       | 98         |
| 7.18      | コメント                  | 99         |
| 7.18.1    | 事前定義済みコメントの追加         | 99         |
| <b>8.</b> | <b>追加の設定タスク</b>       | <b>101</b> |
| 8.1       | アクセス許可                | 102        |
| 8.1.1     | アクセス許可レベル             | 103        |
| 8.1.2     | ゾーンにグループアクセス許可を適用する   | 104        |
| 8.1.3     | アクセス許可ビューアの使用         | 105        |
| 8.2       | スケジュール                | 106        |
| 8.2.1     | スケジュールの作成             | 106        |
| 8.2.2     | しきい値アラームスケジュールの設定     | 108        |
| 8.2.3     | ユーザースケジュールの追加         | 109        |
| 8.3       | ビュー                   | 109        |
| 8.3.1     | あなたのビュー               | 110        |
| 8.3.2     | ビューの作成                | 110        |
| 8.3.3     | ビューの共有                | 111        |
| 8.3.4     | 既定のビューの選択             | 111        |
| 8.3.5     | リモートディスプレイ用のビューの作成    | 112        |

|           |  |            |
|-----------|--|------------|
| 8.4       | リモートディスプレイまたはモバイル デバイスで viewLinc にアクセスする | 112        |
| 8.4.1     | リモートディスプレイ要件                             | 113        |
| 8.4.2     | リモートディスプレイの設定                            | 113        |
| 8.4.3     | viewLinc Mobile の使用                      | 114        |
| <b>9.</b> | <b>毎日の作業</b>                             | <b>115</b> |
| 9.1       | デスクトップのオリエンテーション                         | 115        |
| 9.1.2     | ゾーンとロケーションの検索                            | 117        |
| 9.1.3     | カラムの操作                                   | 118        |
| 9.2       | 状態のモニタリング                                | 119        |
| 9.2.1     | アクティブアラームの識別                             | 120        |
| 9.2.2     | [サイト] または [概要] ウィンドウ: [状態] タブ            | 121        |
| 9.2.3     | viewLinc がしきい値アラームを識別する方法                | 121        |
| 9.2.4     | アラームがトリガーされた場合                           | 122        |
| 9.2.5     | ダッシュボードで状態を表示                            | 123        |
| 9.2.6     | ダッシュボード ロケーションのトレンドの表示                   | 124        |
| 9.2.7     | リンクしたダッシュボード ロケーションの検索                   | 124        |
| 9.2.8     | 現在のアラーム データの印刷またはエクスポート                  | 124        |
| 9.3       | アラーム通知の受信                                | 125        |
| 9.3.1     | アラームの受信確認方法                              | 126        |
| 9.3.2     | 非アクティブなアラームの受信確認                         | 129        |
| 9.3.3     | 音声アラームへの応答                               | 130        |
| 9.4       | アラームを一時停止する                              | 130        |
| 9.4.1     | しきい値アラームの一時停止                            | 131        |
| 9.4.2     | デバイスまたはホストアラームの一時停止                      | 132        |
| 9.4.3     | しきい値、デバイス、ホストアラームの再開                     | 133        |
| 9.5       | イベントの追跡                                  | 134        |
| 9.5.1     | イベントの表示                                  | 134        |
| 9.5.2     | イベントへのコメントの追加                            | 135        |
| 9.5.3     | カスタムイベントの追加                              | 136        |
| 9.5.4     | イベントログの印刷とエクスポート                         | 136        |
| 9.6       | トレンドの作成                                  | 138        |
| 9.6.1     | トレンドの作成                                  | 139        |
| 9.6.2     | トレンド機能                                   | 140        |
| 9.6.3     | トレンド ナビゲーション                             | 140        |
| 9.6.4     | トレンドの修正                                  | 141        |
| 9.6.5     | トレンドの保存                                  | 142        |
| 9.7       | クイックトレンドの表示                              | 143        |
| 9.8       | レポート                                     | 144        |
| 9.8.1     | レポートの種類                                  | 144        |
| 9.8.2     | レポートの生成                                  | 144        |
| 9.8.3     | クイックレポートの共有                              | 145        |
| 9.8.4     | クイックレポートの生成                              | 146        |
| 9.8.5     | ダウンロードしたレポートの表示                          | 146        |
| 9.8.6     | レポートの非アクティブ化/アクティブ化                      | 147        |

|            |                                  |            |
|------------|----------------------------------|------------|
| 9.8.7      | アラーム期間のレポート                      | 148        |
| 9.9        | カスタムレポートの作成                      | 148        |
| 9.9.1      | ロケーション履歴レポートの作成                  | 149        |
| 9.9.2      | アラームレポートの作成                      | 153        |
| 9.9.3      | システムレポートの作成                      | 155        |
| 9.10       | viewLinc Mobile でのデータの表示         | 156        |
| 9.10.1     | viewLinc Mobile でのアラームの一時停止または再開 | 158        |
| 9.10.2     | viewLinc Mobile でのアラームの受信確認      | 159        |
| 9.10.3     | リモートディスプレイでのデータの表示               | 159        |
| 9.10.4     | ディスプレイ端末ビューの変更                   | 160        |
| <b>10.</b> | <b>管理者タスク</b>                    | <b>161</b> |
| 10.1       | グループとユーザー                        | 161        |
| 10.1.1     | ユーザーまたはグループの詳細の編集                | 161        |
| 10.1.2     | ユーザーの非アクティブ化/再アクティブ化             | 161        |
| 10.1.3     | グループの非アクティブ化/再アクティブ化             | 162        |
| 10.2       | ゾーンとロケーション                       | 163        |
| 10.2.1     | ロケーションプロパティの表示                   | 163        |
| 10.2.2     | ロケーションまたはゾーンの名前変更                | 165        |
| 10.2.3     | ロケーションとチャンネルのリンクを解除/再リンクする       | 165        |
| 10.2.4     | ロケーションの移動                        | 168        |
| 10.3       | ゾーンとロケーションの削除                    | 169        |
| 10.3.1     | ロケーションの非アクティブ化                   | 169        |
| 10.3.2     | ロケーションの再アクティブ化                   | 170        |
| 10.3.3     | 非アクティブ化されたロケーションの非表示/表示          | 170        |
| 10.3.4     | ゾーンまたはロケーションの削除                  | 170        |
| 10.4       | アラームの無効化/有効化                     | 171        |
| 10.4.1     | しきい値アラーム設定の無効化/有効化               | 171        |
| 10.4.2     | しきい値アラーム テンプレートの無効化/有効化          | 172        |
| 10.4.3     | デバイス アラームの無効化/有効化                | 172        |
| 10.4.4     | ホストアラームの無効化/有効化                  | 173        |
| 10.5       | デバイス メンテナンス                      | 173        |
| 10.6       | デバイスの削除                          | 173        |
| 10.6.1     | ホストまたはデバイスの非アクティブ化/再アクティブ化       | 174        |
| 10.6.2     | RFL データロガーの解放                    | 175        |
| 10.7       | デバイスの切り替え                        | 175        |
| 10.7.1     | デバイスのスワップ                        | 175        |
| 10.8       | デバイスの校正                          | 177        |
| 10.8.1     | チャンネル校正プロパティの編集                  | 177        |
| 10.8.2     | デバイスやブローブの校正プロパティの編集             | 178        |
| 10.8.3     | オフサイトでの校正                        | 178        |
| 10.8.4     | オンサイトでの校正                        | 179        |
| 10.9       | DL データロガーをロック/ロック解除する            | 179        |
| 10.9.1     | DL データロガーのロック/ロック解除              | 179        |
| 10.10      | 履歴サンプルのクリア                       | 180        |

|                                     |            |
|-------------------------------------|------------|
| 10.10.1 DL データロガーでの履歴サンプルのクリア ..... | 181        |
| 10.11 セキュリティ状態の修正 .....             | 181        |
| 10.12 ネットワーク通信のテスト .....            | 182        |
| 10.13 viewLinc の再起動 .....           | 182        |
| <b>11. よくある質問 (FAQ) .....</b>       | <b>183</b> |
| 11.1 viewLinc のインストール .....         | 183        |
| 11.2 データの管理 .....                   | 184        |
| 11.3 デバイスの管理 .....                  | 185        |
| 11.4 事前定義済み設定 .....                 | 187        |
| 11.5 トラブルシューティングのヒント .....          | 189        |
| <b>用語集 .....</b>                    | <b>193</b> |
| <b>索引 .....</b>                     | <b>200</b> |



## 表の一覧

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 表1 システム規模に応じたサーバー要件    | 2   |
| 表2 既定のインストールフォルダー      | 3   |
| 表3 新機能                 | 4   |
| 表4 viewLincの主な機能       | 5   |
| 表5 アップグレードユーザー向けの重要な変更 | 6   |
| 表6 デバイス接続オプション         | 10  |
| 表7 参照資料                | 15  |
| 表8 プロトコル検証の参照資料        | 27  |
| 表9 デバイスおよびホストプロパティ-カラム | 34  |
| 表10 権限の定義              | 56  |
| 表11 アラームの説明            | 62  |
| 表12 アクセス許可レベル          | 103 |
| 表13 アイコンの用語集           | 116 |
| 表14 [状態]タブのカラム         | 121 |
| 表15 トレンドグラフの重要な要素      | 138 |
| 表16 ロケーションプロパティ列       | 164 |
| 表17 定義ファイルフィールド        | 185 |
| 表18 メールおよびSMSの内容用のマクロ  | 188 |
| 表19 アラーム管理のヒント         | 191 |



# 1. 製品の概要

## 1.1 Vaisala viewLinc Enterprise Server

Vaisala viewLinc Enterprise Server は、Vaisala viewLinc Monitoring System のすべての組み合わせに対応したソフトウェアです。三重冗長によるデータ保持機能があり、電源障害、ネットワーク障害、および人的エラーに対する回復力を保証します。

viewLinc では、対応バージョンのインターネット ブラウザー、または iPhone® や Google Android® などのモバイル デバイスを使用して、ネットワーク全体の デバイス の読み取り値をローカル PC で監視できます。

Vaisala viewLinc Enterprise Server ソフトウェアは、貴社の所在地にかかわらず、リアルタイムデータの監視、データ履歴のバックアップ確認、アラームの受信確認をしたりアラーム通知を個人またはグループに自動的に送信したりできます。柔軟性と拡張性に優れたこのシステムを使えば、バリでサーバーを設定してベルリンでセンサーを監視したり、貴社のチームメンバーに 8 か国語の中から好きな言語でレポートを送信するようにスケジュールを設定することができます。

viewLinc には多くの構成オプションがあります。ユーザーの責任レベルに合わせてシステムを設定したり、複数のアラーム通知方法を管理したり、さまざまな表示形式のデータのカスタムレポート要件に合わせて調整することが可能です。

## 1.2 viewLinc の仕組み

各 Vaisala viewLinc モニタリングシステムは、専用の Windows® サーバー(1日 24時間、週 7日稼働)に Vaisala viewLinc Enterprise Server ソフトウェアを一部ずつインストールする必要があります。ネットワーク要件とデータ監視ニーズによって異なりますが、viewLinc デバイス ホストソフトウェアを追加の Windows サーバーにインストールできます。

- viewLinc **Enterprise Server**: デバイスからデータを収集し、状態の逸脱を認識し、関連付けられたアラームの対応アクションを実行し、ユーザーとグループを管理し、システム全体とユーザー固有の設定両方を制御します。
- viewLinc **デバイス ホスト**: オフサイトまたはリモートロケーションにあるデバイスのデータ配信ポイントで、デバイス データを Vaisala viewLinc へ、処理および保存のために転送します。

### 1.2.1 ハードウェア要件

お使いの Vaisala viewLinc モニタリングシステムは、次のハードウェア コンポーネントの組み合わせで構成されています。

- viewLinc Enterprise Server ソフトウェアを実行する、週 7日、1日 24時間いつでも利用可能の専用 Windows® サーバー。

- 1台または複数の Vaisala DL データロガー、RFL100 シリーズまたは HMT140 シリーズのワイヤレス データロガー、または 300 シリーズトランスミッター。
- オプションのハードウェア要件
  - RFL100 シリーズのデータロガーを管理するための VaiNet アクセス ポイント。
  - 複数のロケーションでデバイスを管理するための追加のサーバー (viewLinc Device Host ソフトウェアを実行)。
  - PC のないエリアで追加のモニタリングを行う場合のリモート ディスプレイ端末。
  - Vaisala ケーブル。データロガーを接続し、HMT140 データロガーまたは 300 トランスミッターを設定する。
  - vNet またはマルチポートイーサネットインターフェース デバイス。イーサネット接続を使用して Vaisala DL データロガーに接続するため。

## 1.2.2 サーバー要件

最適なパフォーマンスを確保するため、viewLinc Enterprise Server には以下が必要です。

- リンクしたチャンネル データの格納には、1 日あたり 200 KB のデータポイントを利用することができます。
- viewLinc Enterprise Server ソフトウェアのインストールには、2 GB のディスク領域が必要です。
- Microsoft® Windows® Server 2016 (64 ビット)、Windows Server 2012 R2 (64 ビット) オペレーティングシステム、Windows 2008 R2 (64 ビット)、または Windows 10 (64 ビット)。
- (任意指定) viewLinc (Google Chrome™、Microsoft® Internet Explorer® 11、または Microsoft Edge™) の実行に使用する場合のみ、viewLinc Enterprise Server コンピューターでサポートされているインターネット ブラウザーが必要となります。

viewLinc Device Host 要件

- 専用サーバーは年中無休で利用できます。
- 2 GB のディスク領域。
- Microsoft® Windows Server 2016 (64 ビット)、Windows Server 2012 R2 (64 ビット)、Windows Server 2008 R2 (64 ビット)、Windows 10 (64 ビット)。
- 対応しているインターネット ブラウザー (Google Chrome™、Microsoft® Internet Explorer® 11、または Microsoft Edge™) がインストールされていること。

## 1.2.3 インストールされているシステムのサイズ

計画されている監視用デバイス チャンネル数 (データポイント) によっては、viewLinc Enterprise Server が次の要件を満たす必要があります。

表1 システム規模に応じたサーバー要件

| システム サイズ                                     | viewLinc Enterprise Server 要件   |
|--|---|
| <b>大規模</b><br>デバイスが 100 台以上<br>(400 チャンネル以上) | 専用コンピューター、3.2 GHz、クアッドコア、16 GB RAM。1 日にデータポイント当たり 200 KB をサポートする十分な空き領域のあるハードディスク。<br>例えば、リンクしているデバイス チャンネルが 400 の場合、1 年に約 30 GB (400 x 200 x 365) が必要です。 |

| システム サイズ                                    | viewLinc Enterprise Server 要件  |
|---|--|
| <b>中規模</b><br>デバイスが 20 台以下<br>(400 チャンネル以下) | 専用、または共有コンピューター、1.6 GHz、デュアルコア、12 GB RAM。1 日にデータポイント当たり 200 KB をサポートする十分な空き領域のあるハードディスク。例えば、リンクしているデバイス チャンネルが 40 の場合、1 年に約 3 GB (40 x 200 x 365) が必要です。 |
| <b>小規模</b><br>デバイスが 5 台未満<br>(20 チャンネル以下)   | 専用、または共有コンピューター、1.6 GHz、デュアルコア、8 GB RAM。1 日にデータポイント当たり 200 KB をサポートする十分な空き領域のあるハードディスク。例えば、リンクしているデバイス チャンネルが 4 の場合、1 年に約 300 MB (4 x 200 x 365) が必要です。  |

## 1.2.4 エンドユーザー PC およびリモート ディスプレイ要件

インターネット ブラウザーがインストールされているネットワークに接続されている他のコンピューターを使用してデバイスを監視できます。コンピューターは以下の最低要件を満たしている必要があります。

- 2.4 GHz
- 4 GB RAM
- Google Chrome™、Microsoft® Internet Explorer® 11、または Microsoft Edge™

## 1.2.5 既定のアプリケーション ファイルの場所

既定のインストール フォルダーを使用してデータファイルを保存することをお勧めします。他のフォルダーには特別なセキュリティ制限がある場合があります。例えば、Windows Server 2008 では、非管理者ユーザーはプログラム ファイル フォルダーにあるファイルを削除することはできません。

表2 既定のインストール フォルダー

| プラットフォーム  | 既定のファイルの保管場所   |
|---|--|
| Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2008 R2 | プログラム ファイル:<br>C:\Program Files\Vaisala\Vaisala viewLinc<br>データ ファイル:<br>C:\Users\Public\Documents\Vaisala\Vaisala viewLinc                        |
| Windows 10 と Windows Server 2016                  | Program files:<br>C:\Program Files\Vaisala\Vaisala viewLinc<br>データ ファイル:<br>C:\Documents および Settings\All Users\Documents\Vaisala\Vaisala viewLinc |

## 1.3 新機能

Vaisala viewLinc 5.0 では、以前のバージョンの viewLinc ソフトウェアを刷新して、機能も豊富でデザインが一掃されています。ユーザーおよびそのチームの方々が viewLinc を設定、構成し、さらに迅速かつ効率的に継続的にモニタリングシステムを使用していただくため、シンプルなユーザーインターフェース (UI) および使いやすい新機能がご用意されています。

表3 新機能

| 機能              | 説明   |
|-----------------|--|
| VaiNet サポート     | Vaisala 独自のワイヤレス テクノロジーを駆使した新しいデバイス、VaiNet におけるサポート  |
| 設定サポート          | 対話型でアクセスが簡単なツアー、新しいシステム計画ワークシート、チェックリストなどを使用することで、viewLinc システムの設定がより簡単になりました。   |
| アクセスしやすいユーザーガイド | ユーザーを重視した新デザインにより、直感性の高いソフトウェア操作が保証されています。画面上にヒントが表示されるほか、ユーザーはオリエンテーションや対話型ツアーに参加したり、包括的なオンラインヘルプや eラーニングビデオ (サポートプランでご利用できるビデオ) にアクセスしたりすることができます。 |
| 柔軟性の高いアラーム通知    | 監視対象の状態がコンプライアンスから外れた場合や、ネットワーク通信の問題がある場合、視覚的、聴覚的、メールまたは SMS によるアラーム通知を送信することができます。特定のグループを設定して、さまざまな種類のアラーム通知をそれぞれ別の時間に受け取れるようにすることもできます。           |
| アクセスコントロールの向上   | ユーザーの所属グループに対するアラーム受信確認、システム構成、監視対象エリアへのアクセス機能を管理します。  |
| 複数レベルのしきい値      | 1つのテンプレートで1つ以上のしきい値レベルを簡単に有効にできます。   |
| 統合型のソフトウェア機能    | データロガーの校正期間をはじめとした重要なデバイス設定は viewLinc で構成できるため、別途のソフトウェアが不要です。   |
| グラフィカル表示の向上     | 重要な機能へのアクセスが簡単になり、アラーム状態の可視性が向上され、オンラインヘルプが組み込まれて必要なときにいつでも利用できるようになりました。  |
| 音声アラーム          | 新しいアラームコマンドは音声アラームに対応しています。  |
| 多言語サポート         | 8言語 (英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、スウェーデン語、日本語、中国語) のいずれかの言語で、レポートや通知を各国のチームメンバーに送信できます。  |

| 機能             | 説明  |
|----------------|---|
| ワイヤレス デバイスの検出  | お使いのネットワークに接続された新規のワイヤレス デバイスは、すべて自動で viewLinc が検出します。  |
| 容易なリンク管理       | デバイス チャネルをロケーションにリンクする際に、データ履歴を含めるかどうかを選択できます。  |
| システム セキュリティの向上 | viewLinc へログインするユーザーにとって信頼できる通信が必要不可欠です。インストール時に、既存のセキュリティ証明書およびキー ファイルをアップロードするか、自己署名証明書およびキー ファイルを自動で生成することができます。 |

表4 viewLinc の主な機能

| 機能                | 説明   |
|-------------------|--|
| 監査証跡のセキュリティ       | 21 CFR Part 11やその他の規制要件および認定要件に準拠していることを報告できるように、監査証跡記録を保存することができます。 |
| モニタリングの可視化        | ダッシュボードにサイト マップを追加して、デバイスとデバイスが稼働するエリアを簡単に識別できるようにしました。              |
| アラームへの対応が簡単に      | アラーム通知に素早く応答できるよう、事前定義したコメントを作成して、使用できます。                            |
| データ監視             | カスタマイズ可能なグラフ形式でリアルタイムのデータを表示します。                                     |
| グローバルレポート         | ユーザーが指定した言語で履歴データに関するレポートとアラームレポートを生成します。                            |
| データロガー メンテナンスの効率化 | データ監査証跡を損なわずに、校正または交換目的で、デバイスを交換できます。                                |

### 1.3.1 アップグレードユーザー向けの新規機能に関する情報

すでに viewLinc の機能をよくご存じの方は、ここで重要な改良事項および変更点を確認してください。

#### 改良点

- **再利用可能な通知:** アラーム通知テンプレートをデバイス アラームやしきい値アラーム設定に適用できます。これらのテンプレートは、アラームのアクティブ時に開始する通知のタイプ(電子メール、SMS、コマンド)、通知する人、および通知を遅延または繰り返すかどうかを定義します。
- **簡略化アクセス許可:** viewLinc のさまざまな機能エリアへのユーザー アクセスをより幅広く制御するために、権限とアクセス許可がグループに割り当てられるようになりました。
- **サイトセキュリティの検証:** viewLinc 5 の新規インストールでは、セキュリティ証明書とキー ファイルを提供する必要があります。viewLinc Enterprise Server ソフトウェアのインストール時に、既存





の証明書とキーファイルをインストールするか、自己署名証明書とキーファイルを自動的に生成することができます。

- **電子メール サポートの拡張:** viewLinc 5 には、IMAP と POP3 の両方のメール設定がに対応するようになりました。
- **グラフ作成オプションの向上:** 最大 16 のロケーションと 4 つの測定の種類でのデータトレンドを作成します。
- **システムアラーム通知の配信:** viewLinc 管理者グループのメンバーへの配布を含めてシステムアラーム通知を設定して、通知の配信ミスをなくします。
- **わかりやすい用語集:** ゾーンとロケーションは「サイト」に総称されます。オンデマンドレポートはクイックレポートに変更されました。すべての用語の変更は、「用語集」(193 ページ)を参照してください。

表5 アップグレードユーザー向けの重要な変更

| 機能               | 説明   |
|------------------|--|
| [概要] ウィンドウ、始める前に | 管理者グループのメンバーが初めてログインすると、[概要] ウィンドウの [始める前に] タブに、オンラインヘルプへのリンクが 3 つのカテゴリ、「設定 - 理解する - 使う」で表示されます。一般ユーザーがログインする際は、[始める前に] タブに、オンラインヘルプへのリンクが 2 つのカテゴリ、「理解する - 使う」で表示されます。  |
| デバイス             | お使いのネットワークで新しいワイヤレス デバイスが認識されると、自動的に viewLinc デスクトップに通知されます。<br>詳細は、「ワイヤレス デバイスの受理」(31 ページ)を参照してください。  |
| ゾーンとロケーション       | ゾーンとロケーションの管理は [サイト マネージャー] で実行できます。<br>デバイスとロケーションの説明が混同しないように、ゾーン内のロケーションのリンクは、ドラッグ & ドロップ機能でしかできません。<br>詳細は、「ゾーンとロケーションの作成」(44 ページ)を参照してください。   |
| アクセスコントロール       | アクセス許可は、グループのみに割り当てられます。以前のバージョンで割り当てられたアクセス許可を持つユーザーの場合、これらのアクセス許可は引き続き有効です(レガシーアクセス許可)。ただし、こうしたユーザーの場合、アクセス許可を削除して、必要なアクセス許可レベルがあるグループに追加することをお勧めします。<br>[カスタムしきい値の構成] は [アラームの構成] に変更され、アクセス許可の [非表示] は「ビュー」アクセス許可の削除によって管理されることになりました。<br>新しいアクセス許可はゾーンレベルで付与されます。<br>詳細は、「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)を参照してください。 |
| ユーザーおよびグ         | アラーム通知とレポートを受信する際のユーザー優先言語を割り当てます。   |




| 機能          | 説明  |
|-------------|---|
| ループ         | <p>権限はグループにのみ割り当てられるようになりました。以前のバージョンで割り当てられた権限を持つユーザーの場合、これらの権限は引き続き有効です(レガシー権限)。ただし、ユーザー権限を削除し、ユーザーに必要な権限があるグループに追加することをお勧めします。</p> <p>コメントの管理は<b>システムの管理</b>権限に含まれ、しきい値テンプレートの管理は<b>アラームテンプレートの管理</b>の権限に含まれるようになりました。ロケーションの管理は<b>サイトの管理</b>に名前が変更になりました。</p> <p>詳細は、「グループとユーザー」(55 ページ)を参照してください。</p>  |
| アラーム テンプレート | <p>アラーム通知の詳細は、しきい値およびデバイス アラーム テンプレートから削除され、単独のアラーム通知テンプレートとして保存されます。アラーム通知テンプレートは、ロケーションのデバイス アラーム設定、およびロケーションに割り当てられたしきい値アラーム設定に追加できます。</p> <p>デバイスおよびしきい値アラームのテンプレートでは、アラームの色はアラームのプライオリティを意味します:  高、 中、 低、 情報。</p> <p>詳細は、「アラーム テンプレート」(61 ページ)を参照してください。</p> |
|             | <p>しきい値アラーム テンプレート:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのしきい値アラームは、最大 5 つのしきい値に対応しています。</li> <li>• アップグレードされたすべての単一レベルのしきい値は、単一のままにすることも、追加のしきい値レベルを含めるように設定することもできます。</li> <li>• すべてのしきい値設定は、しきい値アラームテンプレートに含まれます。特定のロケーションに対してプライベートしきい値を作成していた場合は、アップグレード時にしきい値アラームテンプレートに変換されます。</li> </ul>   |
|             | <p>アラーム通知テンプレート:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アラーム通知テンプレートは、アラーム状態発生時に通知を受け取る人、通知を送信する時間、および配信方法(電子メール、SMS、コマンド)を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 通知設定が特定のロケーションに割り当てられている場合(プライベート設定)、通知の詳細はアラーム通知テンプレートとして保存されます。新しいアラーム通知テンプレートは、元のロケーションに適用されます。</li> <li>- 通知設定がアラーム テンプレートまたはしきい値テンプレートに割り当てられている場合、独立したアラーム通知テンプレートとして区分され、保存されます。</li> </ul> </li> <li>• ポップアップアラーム通知はサポートされなくなりました。</li> <li>• 非 viewLinc ユーザーへの電子メール アドレスはもはや許可されなくなり、アップグレード時に削除されます。</li> </ul>  |

| 機能       | 説明  |
|----------|---|
|          | デバイスアラームテンプレートは今後、ロケーションで適用され管理されます。  |
|          | 電子メールとSMSの内容:<br>自動生成されるシステムアラーム通知またはしきい値アラーム通知に、アラームメッセージまたはコメントを指定すると、既定の関連する電子メールテンプレートに内容が自動的に組み込まれ、カスタム電子メールまたはSMSテンプレートを作成することができます。詳細は、「メール/SMSの内容」(83ページ)を参照してください。   |
| システム環境設定 | システムアラーム、電子メール、およびSMSの設定は、「システム環境設定」ウィンドウで設定できます。詳細は、「システム環境設定」(87ページ)を参照してください。  |
| ビュー      | 新しい[概要]ウィンドウであなたのビューをすべて検索します。すべてのユーザーは、[ビューマネージャー]ウィンドウにアクセスして独自のビューを作成できます。他のユーザーとビューを共有するには、「ビューの管理」権限が必要です。固定のビューは既定のビューになりました。詳細は、「あなたのビュー」(110ページ)を参照してください。  |
| レポート     | レポートの出力内容と形式の変更を確認するには、[レポート]ウィンドウでサンプルを参照してください。<br>非 viewLinc ユーザーへの電子メールアドレスはもはや許可されなくなり、アップグレード時に削除されます。<br>レポートは、すべてのユーザーが作成でき、他のユーザーに所有権を割り当てることができます。所有権によって、他のユーザーもレポートを変更または共有できるようになりました。<br>詳細は、「レポート」(144ページ)を参照してください。                 |
| トレンド     | トレンドは、[サイト]または[概要]ウィンドウで作成できます。<br>しきい値アラームテンプレートにしきい値ラインの色を設定します。<br>詳細は、「トレンドの作成」(139ページ)を参照してください。   |
| 用語       | 用語の変更:<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• サイト=ロケーションとゾーンの総称</li> <li>• オンデマンドレポート=クイックレポート</li> <li>• デッドバンド=アラームオフマージン</li> <li>• アクセスコントロールリスト=アクセス許可</li> <li>• アクセス許可インスペクタ=アクセス許可ビューア</li> </ul> すべての用語変更の詳細は、「用語集」(193ページ)を参照してください。 |

viewLinc 5.0 の全新機能の概要については、「新機能」(4ページ)を参照してください。

### 1.3.2 ツアーを視聴する

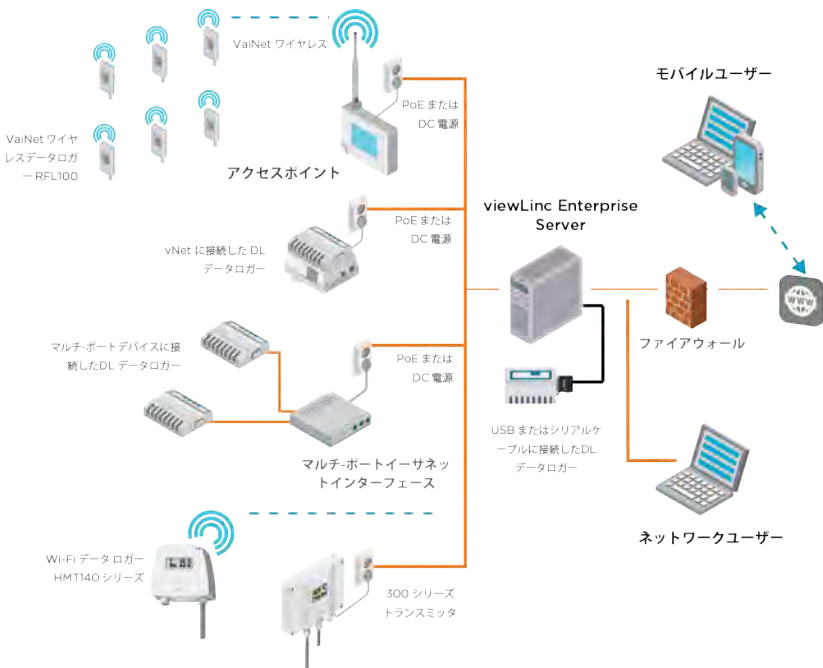
デザインを一新した viewLinc デスクトップの主な変更点または viewLinc の新機能についての詳細をご確認ください。2種類のツアーがご利用できます。

- **オリエンテーションツアー**: ツアーの手順で重要な機能を説明します。
- **タスクツアー**: ツアーの手順を使用することで、特定の viewLinc タスクを完了できます。のアイコンにご注意ください。

ツアーはいつでも viewLinc デスクトップでご利用いただけます。[ヘルプ]>[ツアー]を参照してください。

## 1.4 デバイス接続オプション

お使いの viewLinc Enterprise Server では、デバイスの接続とセットアップ構成の組み合わせに対応しています。



## 1.4.1 ハードウェアの接続方法

お使いのネットワークにどのように AP10 アクセス ポイント、RFL100 シリーズ、DL、HMT140 シリーズ データロガーまたは 300 シリーズ トランスミッタを接続するかは、管理上とても重要です。接続方法ごとに特有のハードウェア接続が必要となります。システム要件によっては、接続方法を組み合わせて実施することもできます。

表6 デバイス接続オプション

| データロガー           | 接続方法   |
|------------------|--|
| RFL100 シリーズ      | <p>VaiNet ワイヤレスを使ってデバイスを接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>VaiNet AP10 アクセス ポイントのインストールが必須です(インストールの詳細については、関連の RFL、および AP10 デバイス ユーザーガイドを参照)。</li> </ul>   |
| DL               | <p>イーサネット インターフェース デバイスにデバイスを接続します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PoE を使ったインストールには、(vNet ドライバーまたは viewLinc Aware を使用した)vNet デバイスまたはマルチポートのイーサネット デバイスとそれに対応しているドライバーが必要です。</li> <li>viewLinc と同じサブネット上に vNet デバイスをインストールする場合、viewLinc Aware 機能を有効にするとデバイスドライバーが自動でインストールされます(「viewLinc Aware」(92 ページ)を参照)。</li> <li>インストール手順に関しては、vNet またはその他のマルチポートイーサネット デバイスの関連マニュアルを参照してください。</li> </ul> <p>viewLinc Enterprise Server または viewLinc Device Host サーバーへデバイスを接続します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vaisala USB またはシリアル コネクタケーブルが必要です。</li> </ul> |
| HMT140 シリーズ      | <p>802.11b/g Wi-Fi を使ってワイヤレスでデバイスを接続します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HMT140 シリーズ データロガーは、HMT140 構成ケーブルおよび HMT140 ユーティリティソフトウェアを使用した構成が必要です。インストールの詳細については、『HMT140 ユーザーガイド』を参照してください。</li> </ul>  |
| 300 シリーズ トランスミッタ | <p>LAN または WLAN にデバイスを接続します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>300 シリーズのインストール詳細については、製品の説明書を参照してください。</li> </ul>  |



インストールおよび構成の詳細については、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

## 1.4.2 ワイヤレスデバイスの使用

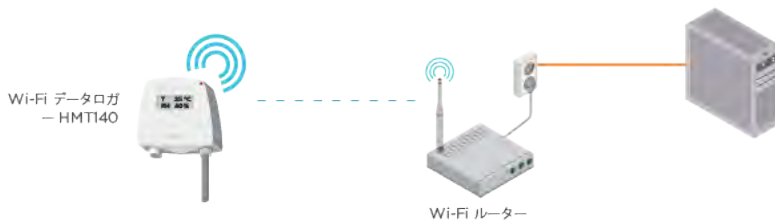
### VaiNet RFL100シリーズ

VaiNet RFL100シリーズ データロガーをセットアップするには、AP10 アクセスポイントが必要です。完全なセットアップと構成の手順については、RFL100シリーズおよびAP10 デバイスのマニュアルを参照してください。RFL データロガーを viewLinc に接続する方法に関しては、「アクセスポイントホストの追加」(30 ページ)および「ワイヤレスデバイスの受理」(31 ページ)を参照してください。



### HMT140シリーズ

HMT140シリーズ データロガーのセットアップには、構成ケーブルおよびHMT140 ユーティリティソフトウェアが必要です。完全なインストールの手順については、HMT140 デバイスのマニュアルを参照してください。HMT140 デバイスを viewLinc に追加するには、「ワイヤレスデバイスの受理」(31 ページ)を参照してください。



### 1.4.3 vNet デバイスの使用

vNet デバイスを使って Vaisala データロガーをお使いのネットワークへ接続する方法に関する詳細は『vNet ユーザーガイド』を参照してください。



viewLinc と同じサブネット上に vNet デバイスをインストールする場合、viewLinc Aware 機能を有効にするとデバイスドライバーが自動でインストールされます(「viewLinc Aware」(92 ページ))を参照)。詳細は『vNet ユーザーガイド』でお確かめください。

新しいデバイスは viewLinc で自動的に検出されます。時間がかかる場合、強制的に検出することも可能です。「ネットワーク接続済みデバイスの検出」(31 ページ)を参照してください。

### 1.4.4 単一ポートまたはマルチポートのイーサネット デバイスコネクタの使用

単一ポートまたはマルチポートイーサネットの接続デバイス(Digi または Moxa デバイスなど)を使用して、Vaisala データロガーをお使いの viewLinc ネットワークに接続することができます。Vaisala デバイスを接続するには、お使いの各サーバーにイーサネットデバイスドライバーがインストールされている必要があります。インストールの詳細については、イーサネットの製品説明書を参照してください。



ネットワークポリシーによって DHCP を使用して IP アドレスを予約する必要がある場合を除いて、IT 部門からイーサネットデバイス用の予約済み(推奨)または静的 IP アドレスを取得します。

新しいデバイスは、viewLinc で数分以内に自動的に検出されます。自動検出プロセスに時間かかる場合は、強制的に検出を行うことも可能です。「ネットワーク接続済みデバイスの検出」(31 ページ)を参照してください。

## 1.4.5 USB ポートの使用

Vaisala データロガーは、USB ポートを使って直接サーバーに接続することができます。

### ドライバー: USBドライバーのインストール

デバイスを接続する各サーバーに USB ドライバーをインストールします。

### USB ポートの接続

1. Vaisala デバイスを Vaisala USB ケーブルに接続します。
2. Vaisala USB ケーブルをお使いの viewLinc Enterprise Server またはデバイスホストに接続します(コンピューターがご使用のネットワークに接続されていることを確認してください)。ドライバーのインストールは、デバイスに接続されている各機器に一度だけ必要になります。

すべてのデバイスでこの手順を繰り返してください。viewLinc にお使いの DL デバイスを設定するには、「ネットワーク接続済みデバイスの検出」(31 ページ)を参照してください。



USB またはシリアルケーブルに接続した DL データロガー

## 1.4.6 シリアルポートの使用

DL データロガーおよび 300 シリーズトランスミッターをシリアルポートを使って viewLinc ES またはデバイスホストサーバーに接続します。

### シリアルポートの接続

1. デバイスを Vaisala シリアルポートケーブルに接続します。
2. Vaisala シリアルポートケーブルをお使いの viewLinc ES またはデバイスホストサーバーに接続します(コンピューターがご使用のネットワークに接続されていることを確認してください)。

viewLinc に DL デバイスをセットアップするには、「ネットワーク接続済みデバイスの検出」(31 ページ)を参照してください。

viewLinc に D300 シリーズトランスミッターをセットアップするには、「デバイスの手動追加」(32 ページ)を参照してください。



USB またはシリアルケーブルに接続した DL データロガー

## 1.5 『viewLinc ユーザーガイド』について

『viewLinc ユーザーガイド』は、viewLinc 管理者とユーザーの両方を対象としています。

- **管理者:** viewLinc Enterprise Server ソフトウェアとその関連コンポーネントのインストールおよび構成方法、さらに継続的なシステム管理タスクに関するユーザーのサポート方法が記載されています。
- **ユーザー:** お使いのネットワーク上のデバイス読み取り値を表示したり、監視したりするなど、viewLinc の一般的なタスクを完了する方法が記載されています。

### 1.5.1 本マニュアルの構成について

Vaisala viewLinc ユーザーガイドには、viewLinc システムのインストール、構成、および運用に必要な情報と、viewLinc で実行する標準タスクの段階的な手順が掲載されています。

2~8章: 管理者のための重要なシステム セットアップ情報

9章: 共通のユーザー アクティビティの実行方法について


10章: 管理者レベルの継続的システムメンテナンス タスクについて


11章: ユーザーおよび管理者のための参考資料


### 1.5.2 この文書で使用される表記規則

この文書では、次の表記規則が使用されます。

- メニューオプション、選択した項目、タブやウィンドウ、ボタンの名前は**太字**で表示されます。
- 一連のメニュー項目選択は、矢印で区切られたリストによって示されます。例: 「viewLinc で、**[ヘルプ]** > **[ツアー]** を選択します。」
- キーボード上のキーは、**[角括弧]**で示されます。
- Vaisala データロガー、デバイス ホスト、アクセス ポイントは、すべて「デバイス」です。

 鍵のアイコンは viewLinc のタスクを実行するために権限が必要であることを示しています。

 注記は、製品の使用方法に関する重要な情報を強調するための注意事項です。

 「ヒント」には、製品を効率的に使用するための情報が記載されています。



**注意**

他の人に影響を与える可能性を警告しています。



## 1.5.3 関連ユーザー マニュアル

表7 参照資料

| 文書コード     | 名前   |
|-----------|--|
| M211820EN | Vaisala viewLinc モニタリング システム設定ガイド                |
| B211708EN | Vaisala viewLinc Enterprise Server ソフトウェア データシート |
| M211822EN | RFL100 クイック ガイド                                  |
| M211861EN | RFL100 ユーザー ガイド                                  |
| M211820EN | AP10 クイック ガイド                                    |
| M211860EN | AP10 ユーザー ガイド                                    |

## 1.5.4 お問い合わせ

viewLinc テクニカル サポート:

Vaisala 製品 サポート/サービス センター:

eラーニング:

校正:

セールス:

[helpdesk@vaisala.com](mailto:helpdesk@vaisala.com)

[www.vaisala.com/support](http://www.vaisala.com/support)

[www.vaisala.com/en/viewlinc-elearning](http://www.vaisala.com/en/viewlinc-elearning)

[www.vaisala.com/calibration](http://www.vaisala.com/calibration)

[www.vaisala.com/contact](http://www.vaisala.com/contact)

## 1.5.5 トレーニングが必要ですか？

viewLinc の新しいユーザーまたは知識を更新したいユーザーのために、Vaisala ではリモートとオンサイトトレーニング、およびご都合に合わせてご覧いただける eラーニング ビデオをご用意しています。すでにアクティブなサポート プランにご登録いただいているお客様は、リンクに従って eラーニング ポータル ([www.vaisala.com/viewLinc-elearning](http://www.vaisala.com/viewLinc-elearning)) にアクセスしてください。

Vaisala サービスの詳細については、Vaisala 技術サポートにお問い合わせください。



## 2. 設定とインストール

viewLinc 監視システムのインストールは、1つ1つ固有の特徴があります。設定チェックリストを使用して特定のサイト要件を識別し、viewLinc モニタリングシステムのコンポーネントが効率良く正常に設置されていることを確認します。

### 2.1 チェックリストの設定

| viewLinc Server          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | ネットワークおよびサーバー構成を支援できるシステム管理者、または IT サポート担当者が揃っている。  |
| <input type="checkbox"/> | ネットワーク サーバーが、viewLinc Enterprise Server を 1 日 24 時間、週 7 日体制で実行するように割り当てられている。IP アドレスとホスト名を把握しており、viewLinc 最小サーバー要件を満たしている。  |
| <input type="checkbox"/> | ネットワークにあるネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバーのアドレスを把握している。   |
| <input type="checkbox"/> | 自分のノートパソコン、またはワークステーションにサポート対象の Web ブラウザー (Microsoft® Internet Explorer バージョン 11、Chrome®, または Edge® v1) があり、PDF リーダーアプリケーション (Adobe Acrobat® など) がインストールされている。        |
| <input type="checkbox"/> | プログラム ファイルと viewLinc データベースがどこに保存されるべきかを把握している。サーバーに不具合が起きたときにファイルを確実に回復できるようにするためのバックアップシステムが備えられている。  |
| <input type="checkbox"/> | ローカル ネットワークのセキュリティポリシーで信頼できる TLS 証明書の使用が必要かどうかを理解している。必要な場合、会社の署名付きセキュリティ証明書とキーファイルの場所を知っているか、あるいはインストール時にプライベート証明書とキーを作成するのに必要な情報 (ホスト名、エイリアス、証明書の有効年数など) を持ち合わせている。 |
| <input type="checkbox"/> | viewLinc 設定ファイルとライセンス キーが入った USB ドライブを持っている。  |
| デバイス                     |   |
| <input type="checkbox"/> | 各デバイスのシリアル番号とインストール場所が記載された計画がある。   |
| <input type="checkbox"/> | この計画には、各デバイスの設置方法 (磁石、ネジなど) の情報が含まれている。   |
| <input type="checkbox"/> | 使用している HMT330 シリーズトランスミッタおよびデータロガーのネットワーク接続に IP アドレスが割り当てられている (DHCP アドレス予約、または静的 IP)。  |
| <input type="checkbox"/> | 計画した有線デバイスのロケーションは、電源コンセントから 180cm (6 フィート) 以内にある。  |
| <input type="checkbox"/> | プローブ用にドリル穴を開けるか、またはドア アクセスが必要かどうかを理解している (冷凍庫設置の場合など)。  |

## ネットワーク

- 有線ネットワーク接続が必要な各場所で、RJ45 イーサネット ネットワーク ポイントのジャックが取り付けられており、テスト済みである。
- PoE 駆動デバイスが設置されるネットワークポイントで、パワー オーバー イーサネット (PoE) インジェクタまたはスイッチが動作電力を提供する。

## 2.2 viewLinc Enterprise Server の構成

viewLinc にデバイスをインストールおよび追加した後、サイト固有のモニタリング ニーズに合わせて viewLinc を構成する方法は数多くあります。viewLinc 計画ワークシートに記入して、サイトのモニタリング ニーズをすべて検討したことを確認することをお勧めします(「viewLinc 構成の計画」(19 ページ)を参照)。



1. viewLinc Enterprise Server の構成:
  - ゾーンとロケーションの作成
  - グループとユーザーの追加
  - アラーム テンプレートの定義
  - システム環境設定の設定
2. 追加のタスク:
  - アクセス許可
  - スケジュール
  - 事前定義済みコメント
  - ビュー
3. 設置/インストールの検証

- 構成設定の手順ごとに、オンラインツアーが利用できます([ヘルプ]>[ツアー])。

## 2.3 viewLinc 構成の計画

貴社の監視ニーズを定義することで、より確実に保守しやすいモニタリングシステムを構築することができます。このワークシートを見直して、viewLinc の構成に必要な情報が確保できていることを確認し、「viewLinc Enterprise Server 設定手順」を完了させてください。

### viewLinc 計画ワークシート

| ゾーンとロケーション (サイト マネージャー)  |  |
|--------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | 1つのデバイス チャネルによる監視対象の各エリアの命名規則を定義します。<br>(1つのデバイス チャネル=1つのロケーション) |
|                          | 1.   |
|                          | 2.   |
|                          | 3.   |
|                          | 4.   |
| <input type="checkbox"/> | ゾーンを作成して、多くのロケーションを持つエリアを整理します (オプション)                           |
|                          | 1.   |
|                          | 2.   |
| グループとユーザー                |  |
| <input type="checkbox"/> | グループに名前を付け、各グループに割り当てる権限を特定します。                                  |
|                          | グループ名/権限:  |
|                          | グループ名/権限:  |
| <input type="checkbox"/> | 権限を割り当てるユーザーとグループの一覧を作成します。                                      |
|                          | viewLinc の既定の管理者グループのユーザー (すべての権限):                              |

## グループとユーザー

「全員」グループのユーザー(「イベントの管理」権限):

\_\_\_\_\_ グループのユーザー:

\_\_\_\_\_ グループのユーザー:

## しきい値アラーム

- 各ロケーションに必要なしきい値設定を記録します。  
(高-高、高、低、低-低、変更レート、アラームオフ マージン)

ロケーション 1:

ロケーション 2:

ロケーション 3:

## アラーム通知設定(アラームテンプレート)

### しきい値アラーム通知

- しきい値アラームが発生した場合に通知するユーザーとグループ、通知を出す時期、および配信方法(メール、SMS、またはコマンド)を識別します。

名前:

遅延:

最初の通知の送信方法:

2 番目の通知の送信方法:

繰り返し:

頻度:

**全般設定、単位、言語 (システム環境設定)**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | viewLinc でデバイスおよびチャネルの説明を使用するか、または長文説明(エイリアス)をviewLinc に作成するかを決定します。                    |
| <input type="checkbox"/> | アクセス ポイントを使用している場合は、データロガーのロック設定(自動/無効)を決定します。  |
| <input type="checkbox"/> | 有効化して、アラーム状態に応答するユーザーが追加できるように、事前設定済みコメントを作成します。  |
| <input type="checkbox"/> | 有効化して、特定の期間中にロケーションの監視/アラーム受信確認が必要かどうか、あるいは別のグループが別のアラーム通知を受け取るかどうかなどを決定するスケジュールを作成します。 |
| <input type="checkbox"/> | 測定単位の表示方法を定義します。  |
| <input type="checkbox"/> | 多言語企業の場合、システム通知に使用する言語を決定します。   |

**メール通知設定 (システム環境設定)**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 必須: すべてのシステム アラーム メール通知を <b>受け取る</b> IT ネットワーク マネージャーのメール アドレス。 |
| <input type="checkbox"/> | viewLinc 通知の <b>送信</b> に使用できるメールアドレス。                           |
| <input type="checkbox"/> | SMTP サーバーアドレス、ポート番号、アカウントのユーザー名およびパスワード                         |
| <input type="checkbox"/> | POP3 サーバーアドレス、ポート番号、アカウントのユーザー名およびパスワード(オプション)                  |

**SMS 通知設定 (システム環境設定)**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | SMS 通知が有効になっている場合は、すべてのシステム アラーム SMS 通知を <b>受け取る</b> IT ネットワーク マネージャーの携帯電話番号を特定します。 |
| <input type="checkbox"/> | SMS モデム SIM カードの PIN  |
| <input type="checkbox"/> | SMS COM ポート番号   |
| <input type="checkbox"/> | SMS モデムのボーレート   |

## 2.4 viewLinc のインストール

すべての viewLinc モニタリングシステムでは、ローカルまたはリモートの専用サーバーに viewLinc Enterprise Server ソフトウェアをインストールする必要があります。複数のデバイスを使用して中規模または大規模のモニタリングシステムを設定する場合は、viewLinc Device Host ソフトウェアを追加の専用サーバーにインストールして、ネットワークの安定性と柔軟性を高めることをお勧めします。

- **viewLinc Enterprise Server ソフトウェア:** このインストールソフトウェアは、専用の Windows サーバーで、有線、無線を問わず接続されているすべてのデバイスを監視および管理するために必要です。ここでシステム言語、データ保存のパス、監視する状態が定義されます。
- **viewLinc Device Host ソフトウェア:** このインストールソフトウェアは、別の専用サーバーにインストールできません。viewLinc Enterprise Server コンピューターとの自動通信が可能になるほか、帯域幅とネットワーク通信の問題からも保護されます。また、大規模なネットワーク全体のデバイス構成を管理すると同時に、柔軟性も広がります。

これ以外のインストール規模や、システムに適したソフトウェアインストール数を判断するには、デバイスホストと Enterprise Server の要件を参照してください(「ハードウェア要件」(1 ページ)を参照)。

### 2.4.1 viewLinc のインストール

ネットワークに古いバージョンの viewLinc ソフトウェアがある場合は、「アップグレードとしての viewLinc のインストール」(24 ページ)を参照してください。

#### 初めての viewLinc インストール

1. セットアップチェックリストを完了し、お使いの viewLinc USB のシリアル番号を書き留めたことを確認してください。
2. 専用の viewLinc ES サーバーに、viewLinc USB を挿入し、viewLincInstall.exe が自動的に起動しない場合はこれを実行します。



(ローカルコンピューターではなく)リモートサーバー上で viewLinc ソフトウェアをインストールするには、USB ドライブから **viewLincInstall.exe** ファイルを保存先サーバーにコピーします。

3. インストール言語を選択してください。この言語設定は、ウィザードで使用されます。また、viewLinc ブラウザー、レポート、および通知の既定の言語として使用されます。既定の言語は、インストールが完了した後に変更することができます。



ユーザーはログイン時にブラウザーの言語を変更できます。レポートや通知で使用される言語は、各ユーザーのプロファイルで設定できます。

4. インストールウィザードを開始します。
5. ライセンスキーを入力します。



6. インストール言語を選択します。すべてのviewLincモニタリングシステムは、Vaisala viewLinc Enterprise Server ソフトウェアが必要になります。お使いのシステムが複数のデバイスを伴う大規模なインストールに対応している場合は、インストール ウィザードを再起動して、追加の専用サーバーに viewLinc Device Host のパッケージをインストールします(「ハードウェア要件」(1 ページ))を参照)。
7. Vaisala 使用許諾契約および BerkleyDB ライセンス同意書に同意します。
8. viewLinc ソフトウェアの既定のインストール パスを承諾するか、別の保存先フォルダー(ディスクの空き領域に最低 2 GB が必要)を指定します。
9. viewLinc データの既定のインストール パスを承諾するか、別の保存先フォルダー(ディスクの空き領域に最低 10 GB が必要)を指定します。
10. 証明書とセキュリティキーファイルを選択します。
  - ファイルをすでにお持ちで、お使いのネットワーク上で使用可能な状態の場合は、**[購入した(信頼できる)証明書とキーをアップロードする]** のオプションを選択します。
  - **[(自己署名の)証明書とキーを生成する]** のオプションを選択する場合は、サイトおよび会社情報を入力してください。インストール ウィザードが、インストールの一環として自動で自己署名のファイルを生成します。このファイルは、管理者ユーザーが初めて viewLinc にログインした際にサーバーにインストールされます。

○ 証明書とキーファイルの詳細については、「viewLinc のインストール」(183 ページ)を参照してください。

11. **[インストール]** を選択して、インストール ウィザードを完了します。

インストールが完了したら、デバイスを設定したり、viewLinc の構成を開始したりできます(『Vaisala viewLinc モニタリングシステム設定ガイド』を参照してください)。

デバイス ホストとして追加コンピューターを設定することもできます。このオプションは、デバイス管理をより柔軟にし、サーバーとデバイス間の通信に必要な帯域幅が削減され、ネットワーク干渉の可能性が削減されます(「viewLinc のデバイス ホストサーバーへのインストール」(23 ページ))を参照)。viewLinc の構成を開始する準備が整ったら、デスクトップ上の viewLinc のショートカットアイコンをダブルクリックします。

## 2.4.2 viewLinc のデバイス ホストサーバーへのインストール

- i** ファイアウォール設定を調整してパブリック/プライベートドメインの例外を指定する必要がある場合があります。ヘルプが必要な場合は、Vaisalaカスタマーサポートまでお問い合わせください。

### viewLinc Device Host ソフトウェアのインストール

1. viewLinc USB を挿入し、viewLincInstall.exe を実行します。
2. インストール言語を選択してください。
3. インストール ウィザードを開始します。
4. Vaisala および BerkleyDB ライセンス同意書に同意します。
5. USB パッケージに入っているライセンス キー番号を入力します。

- viewLinc プログラム ファイルのインストール先を選択します。
- [デバイス ホスト]** を選択します。
- [インストール]** を選択します。
- アプリケーションのインストールが完了したら、**[完了]** を選択します。

必要な viewLinc コンポーネントをインストールすると、ネットワーク上の任意のコンピューターから viewLinc にログインして状態を監視できます。

**i** ソフトウェアをインストールすることなく、すべてのユーザーはお使いの PC またはモバイルデバイスで viewLinc にアクセスできます。ただし、PC に対応しているインターネットブラウザが動作していることが必要であり、viewLinc がインストールされている環境の IP アドレスおよび viewLinc のユーザーとしての設定が必要です。

## 2.4.3 アップグレードとしての viewLinc のインストール

お使いの viewLinc ソフトウェアを確実にアップグレードするには、システムが viewLinc 5 のシステム要件を満たしていることを確認（「ハードウェア要件」(1 ページ)を参照）し、viewLinc 5 に追加された新機能や機能に関する変更を確認（「アップグレード ユーザー向けの新規機能に関する情報」(5 ページ)を参照）します。


**o** viewLinc ソフトウェアのアップグレードを開始する前に、イベントログのコピーをエクスポートします。アップグレードが完了したら、viewLinc 5 でのメッセージ機能の改良点を理解するために、イベントログをもう一度エクスポートしてください。

### viewLinc Enterprise Server ソフトウェアのインストール

既存のサーバーまたは新規サーバーに viewLinc をインストールするには以下の手順に従ってください。

- セットアップチェックリストを完了し、viewLinc USB のライセンス キー番号を書き留めたことを確認してください。
- 既存のサーバーにインストールする場合は、インストールされた viewLinc の現バージョンが 3.6.1 以降であることを確認します。
- 現在のアプリケーション データ用ディレクトリをバックアップします。既定のディレクトリは、C:\Users\%Public%\Documents\Vaisala%\Vaisala viewLinc です。
- バックアップアプリケーションがオープン データベース バックアップに対応していない場合、viewLinc Watchdog および viewLinc Enterprise Server サービスを停止します。
  - Windows サーバーで、**[スタート]** > **[コントロール パネル]** > **[管理ツール]** > **[サービス]** の順で選択します（このパスはお使いの Windows のバージョンと設定によって異なる場合があります）。
  - 該当サービス (viewLinc Enterprise Server、viewLinc Watchdog) を右クリックして、**[停止]** を選択します。
- 既存または新規サーバーに viewLinc USB を挿入し、viewLincInstall.exe が自動的に実行されない場合はこれを実行します。

6. インストール言語を選択してください。この言語設定は、ウィザードで使用されます。また、viewLinc ブラウザー、レポート、および通知の既定の言語として使用されます。既定の言語は、インストールが完了した後に変更することができます。
7. Vaisala および BerkleyDB ライセンス同意書に同意します。
8. viewLinc ライセンス キー番号を入力します。
9. お持ちのセキュリティ証明書とキーファイルを選択します。現在インストールされている証明書とキーファイルを保持するか、新しい証明書とキーファイルをアップロードするか、または自己署名した新しい証明書とキーファイルを自動で生成するかを選択することができます。(セキュリティファイルに関する詳細は、「viewLinc のインストール」(183 ページ)を参照)。
10. インストール設定を確認し、**[インストール]** をクリックします。
11. **[完了]** をクリックします。
12. 再起動します。viewLinc がデータベースを更新するのに 20 分～1 時間待ちます。その間、viewLinc はご利用できません。サービスを再起動したり停止したりしないでください。イベントログには、アップグレード時間を反映したギャップができます。
13. 新しいサーバーにインストールする場合は、バックアップデータを古いサーバーから新しいデータ移行先ディレクトリにコピーします。
  - %db フォルダを Vaisala%Vaisala Veriteq viewLinc%db にコピー
  - %log フォルダを Vaisala%Vaisala Veriteq viewLinc%log にコピー (%debug フォルダおよび log%watchdog\*\* を含むファイルを除く)
  - レポートおよび転送フォルダを Vaisala%Vaisala Veriteq viewLinc% にコピー
14. Vaisala%Vaisala Veriteq viewLinc%config%viewLinc.cfg ファイルを開き、level = debug に設定します ([Logging] セクション)。
15. デスクトップアイコンをダブルクリックして、viewLinc を起動します。起動するのに数分かかることがあります。
16. 「admin/admin」などの管理者認証情報を入力してログインし、**[システム環境設定]** を選択します。
17. **[システム環境設定]** ウィンドウで、**[システム ログ]** を **[詳細情報]** に設定します。
18. viewLinc Device Host がインストール済みであれば、インストール ウィザードを実行して、各デバイス ホストサーバーにデバイス ホストソフトウェアをインストールします。
19. **[サイト マネージャー]** を開き、ロケーション データが使用可能であることを確認します。

 イベントログには、アップグレード時間を反映したギャップができます。

## 2.5 viewLinc にログインする

viewLinc へのログインは、インターネット ブラウザーがある任意の PC で行うことができます。

### viewLinc にログインする

1. デスクトップのアイコンをダブルクリックするか、サーバーの IP アドレスとポートを Web ブラウザーのアドレス欄に入力します。正しい IP アドレスは貴社の管理者が提供します。(例: https://computername:[portnumber]) ポート番号が指定されていない場合は、既定値の 443 が使用されます)。

このアドレスをブラウザのお気に入りリストに保存するか、ホームページに設定すると、ブラウザで簡単にviewLincにアクセスできます。

- viewLinc ログイン画面で、viewLincに表示する言語を選択します。新しい言語が選択されると、ページは自動的に更新し、適用されます。

表示用の言語設定を保存するには、ブラウザの終了時に自動的にCookieを削除しないように設定されていることを確認します。受信するレポートや通知の既定言語を設定するには、ユーザープロファイルで優先言語を設定（「ユーザー」(58 ページ)）を参照します。

- ユーザー名とパスワードを入力します。
  - 管理者として初めて viewLinc システムにログインする場合は、既定の管理者ユーザー名/パスワード、「admin/viewLincAdmin」をそれぞれ入力します。

セキュリティ上、管理者ユーザーの既定パスワードを速やかに変更することをお勧めします（「グループとユーザー」(161 ページ)）を参照）。

- 管理者グループのメンバーが初めて viewLinc にログインする場合は、短いセットアップツアーが自動で再生します。ツアーを完了して、主な設定要件を学習してください。
- 管理者グループのメンバーでなく、初めて viewLinc にログインする場合は、ツアーを完了して、「viewLinc のご使用」を学習してください。

ツアーを完了または終了したら、viewLinc の【概要】ウィンドウに【始める前に】のページが表示されません。

## 2.6 システムテスト

すべての viewLinc 構成とデバイス設定が完了したら、システムが順調かつ安全に稼働していることを確認するために、以下の簡単な手順に従ってください。

- メールとSMSの機能を確認する（「メールとSMS設定」(96 ページ)）を参照）。
- すべてのデバイスが校正済みであることを確認する（「デバイスの校正」(177 ページ)）を参照）。
- ロケーション履歴レポートを生成し、リンクしたロケーションがデータを報告していることを確認する（「ロケーション履歴レポートの作成」(149 ページ)）を参照）。
- 【イベント】ウィンドウを確認して、システムへの変更によって viewLinc でイベントが作成されていることを確認する。（「イベントの追跡」(134 ページ)）を参照）。

GMP 環境で viewLinc を実行している場合、検証テストが必要になることがあります（「システムの検証」(27 ページ)）を参照）。

## 2.7 システムの検証

viewLinc は、GxP/FDA 規制関連の申請および価値の高い製品を備える環境に最適です。絶対安全な環境モニタリング方法および文書化を必要としている状況で、viewLinc の検証を活用すれば、厳格な監査や査察においてもお墨付きの検印を受けることができます。

GxP 対応の「据付時適格性評価および運転時適格性評価プロトコル」文書は、Vaisala でお求めいただけます。IQOQ は、システムが正しく設置され、期待どおりに動作していることを確認するために採用されています。IQQQ テストは、有資格者または Vaisala フィールド サービスが実施する必要があります。詳細は、[www.vaisala.com/contact-us](http://www.vaisala.com/contact-us) を参照してください。

表8 プロトコル検証の参照資料

| テスト手順                | 参照資料                   |
|----------------------|------------------------|
| メール構成の検証             | システム環境設定               |
| SMS 構成の検証            | システム環境設定               |
| イベントログおよび監査証跡の検証     | イベント                   |
| ユーザーの作成とパスワードの検証     | グループとユーザー              |
| グループの作成と割り当ての検証      | グループとユーザー              |
| セキュリティプリファレンスの検証     | システム環境設定               |
| セキュリティ権限の検証          | 権限とアクセス許可              |
| アクセス許可の検証            | 権限とアクセス許可              |
| 通知およびしきい値テンプレートの検証   | アラーム テンプレート            |
| メールによるアラーム通知の検証      | アラーム テンプレート            |
| SMSによるアラーム通知の検証      | アラーム テンプレート            |
| 低しきい値アラームの検証         | しきい値アラーム テンプレート        |
| 高しきい値アラームの検証         | しきい値アラーム テンプレート        |
| 複数のしきい値の検証           | しきい値アラーム テンプレート        |
| RFL シリーズのローカルしきい値の検証 | デバイス管理、しきい値アラーム テンプレート |
| 140 シリーズのローカルしきい値の検証 | デバイス管理、しきい値アラーム テンプレート |
| ユーザー スケジュールの検証       | スケジュール、ユーザーとグループ       |
| しきい値スケジュールの検証        | スケジュール                 |

| テスト手順             | 参照資料          |
|-------------------|---------------|
| 通信アラームの検証         | デバイスアラーム      |
| 構成アラームの検証         | デバイスアラーム      |
| ホスト通信アラームの検証      | デバイスアラーム      |
| データプレゼンテーションの検証   | レポート          |
| 計算の検証             | レポート          |
| タイムゾーンの検証         | システム環境設定、レポート |
| システム Watchdog の検証 | アラーム テンプレート   |

## 3. デバイス管理

データはネットワークに接続した Vaisala デバイスから viewLinc を使用して収集されます。新しいデータロガーまたはトランスミッタをネットワークに接続すると、viewLinc によって自動識別されます。その後、さまざまな方法で各種のデバイスを viewLinc に追加できます。

- RFL100 シリーズ データロガー: 自動で識別され、手動で受理。
- vNet デバイス: 自動で識別され、自動で追加 (同じサブネット上にある場合)か、手動で追加。
- DL データロガー: 自動で識別され、自動/手動で追加。
- HMT140 シリーズ データロガー: 自動で識別され、自動/手動で追加。
- 300 シリーズトランスミッタ: 手動で追加。



デバイスとホストは、「**デバイスの管理**」権限を割り当てられているユーザーが管理できません。特定の構成タスクは、管理者グループのメンバーだけが実行できます。

### 3.1 デバイス ホスト

大規模な viewLinc システムのインストールの場合、viewLinc では複数のサーバーを追加して、デバイスホストとして機能させるオプションがあります。デバイスのグループをデバイスホストに接続すると、特定のデバイス (単一ホストに接続しているデバイスのグループ管理) の制御能力が高まり、ネットワークをより安定化できます。追加のアクセスポイント (AP10) をデバイスホストとして設定し、RFL100 シリーズのデータロガーを管理することができます。

例えば、複数のオフィスにあるデバイスを監視できます。各オフィスのロケーションですべてのデバイスを Vaisala viewLinc Enterprise Server の機器に接続するのではなく、各オフィスでローカル デバイスを接続する追加のデバイスホストをセットアップします。

この設定によって次のことができます。

- デバイスをより効果的に管理します。特定のデバイスでアラームを一時停止するのではなく、1つのオフィスですべてのデバイスのアラームを一時停止する方が簡単だと思われるでしょう。
- ネットワークトラフィックの均等な配分を確保します。デバイスホストによって Vaisala viewLinc Enterprise Server へのデバイスデータのフロー管理が容易になります。

#### 3.1.1 サーバーホストの追加



##### デバイスの管理

デバイスのグループ管理のために、追加のサーバーをデバイスホストとして追加します。デバイスホストを追加する前に、最初に Windows のサーバーに viewLinc Device Host ソフトウェアをインストールします (「viewLinc のインストール」(22 ページ)) を参照)。

## デバイスホストの追加

1. **[サイトマネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、**[構成]>[ホストの追加]** を選択します。
3. ホスト名または IP アドレスを入力します。
4. **[OK]** を選択します。viewLinc システムが新しいホストと接続されているすべてのデバイスを自動検出します。新しいホストのすべてのデバイス検出が完了するには、数秒から数分かかる場合があります。検出処理中には他の作業を続行できません。処理が完了すると通知されます。
5. 更新するように指示されたら、**[はい]** を選択します。

### 3.1.2 アクセスポイントホストの追加

#### デバイスの管理

アクセスポイントをデバイスホストとして追加します。アクセスポイントの接続が完了すると、viewLinc で自動的に認識されます。

#### アクセスポイントホストの追加

1. アクセスポイントが構成済みでネットワークに接続されていることを確認してください(確認方法は、『API10 ユーザーガイド』を参照してください)。
2. **[サイトマネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択し、**[更新]** を選択します。
3. 新しいアクセスポイントが自動的に**[ホストとデバイス]** ツリーに表示されない場合は、AP を手動で追加します。
  - a. **[構成]>[ホストの追加]** を選択します。
  - b. ホスト名または IP アドレスを入力します。
  - c. **[保存]** を選択します。
  - d. viewLinc を更新するように指示されたら、**[はい]** を選択します。

viewLinc はアクセスポイントを自動で受理しますが、すべての RFL データロガーが接続されるまでに数秒から数分かかる場合があります。処理が完了したという通知があるまで、他の作業を続けることができます。RFL データロガーがこのアクセスポイントに接続されている場合は、viewLinc デスクトップの最上段に**[新しいデバイス]** のプロンプトが表示されます。新しい RFL データロガーを受理するには、「ワイヤレスデバイスの受理」(31 ページ) を参照してください。

## 3.2 デバイスの追加方法

ネットワーク監視の拡張が必要なときには、新しいデバイスを追加することで、容易に監視機能を拡張できます。

ネットワークに追加するデバイスのタイプに応じて、次のオプションが使用できます。

- 新しい RFL100 シリーズまたは HMT140 シリーズ デバイスの自動検出 (デバイスの受理)。
- vNet、USB、または マルチポートイーサネット デバイスで接続している新しい DL デバイスの自動検出 (デバイスの検出)。
- 手動追加。さまざまな種類の複数のデバイスを同時に追加したり、300 シリーズトランスミッタを追加したい場合に使用します (デバイスの追加)。




## 3.2.1 ネットワーク接続済みデバイスの検出

### デバイスの管理

[デバイスの検出] 機能で、USB またはシリアル接続ケーブル、または Vaisala 付属品ではない単一ポートまたはマルチポートのイーサネット デバイス コネクタを使用して DL データ ロガーを識別します。[デバイスの検出] は、vNet デバイスを使用して接続中の DL デバイスが viewLinc Aware 機能で検出されない場合にも使用することができます。

viewLinc Aware サービスの詳細については、「viewLinc Aware」(92 ページ)を参照してください。

 [デバイスの検出] 機能を使用した場合、viewLinc は 300 シリーズ トランスミッタを認識しません。viewLinc で自動的に検出されない場合は、手動でトランスミッタを追加します(「[デバイスの手動追加」(32 ページ)を参照)。

### DL データ ロガーを検出する

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、デバイスが接続されているホスト マシンを選択し、[構成] > [デバイスの検出] (または右クリックして [デバイスの検出]) を選択します。


ネットワークのデバイスやコンポーネントの数によっては、この処理に数分かかる場合があります。

## 3.2.2 ワイヤレス デバイスの受理

### デバイスの管理


新しい RFL100 シリーズ データ ロガーをネットワークに追加すると、最寄りのアクセス ポイントによって自動識別されます。このアクセス ポイントを RFL100 シリーズ データ ロガーとペアリングすると、新しいデバイスが使用可能であることを viewLinc に伝えるメッセージが送信されます。HTM140 シリーズ データ ロガーも viewLinc によって自動識別されます。RFL100 シリーズ および HMT140 シリーズ のデータ ロガーは [新しいデバイス] ウィンドウで viewLinc に追加されます。

データ ロガーが viewLinc システムによって受理されると、[ホストとデバイス] ツリーの [サイト マネージャー] に表示されるようになります。

 所属先の施設でのデータ ロガーとアクセス ポイントの設定方法に関する詳細については、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

### ワイヤレス データ ロガーの受理

1. **サイト マネージャー** を開きます。
2. viewLinc で新しい RFL100 シリーズ または HMT140 シリーズ のデバイスが検出されると、[サイト マネージャ] ウィンドウの最上部に [新しいデバイス] というテキストが表示されます。[新しいデバイス] のプロンプトを選択します。

 [新しいデバイス] のプロンプトが表示されない場合、「デバイスの追加方法」(30 ページ) を参照してください。

3. **【新しいデバイス】** ウィンドウの **【受理】** カラムで、viewLinc システムに追加するデバイスを選択します。後でデバイスを受理したり (**【保留のままにする】** を選択)、別のアクセス ポイント ホストまたは viewLinc のデバイス ホストが受理できるデバイスとしてフラグを立てたりすることができます (**【拒否】** を選択)。



デバイスを拒否することで選択済みのホストに接続されることを防止します。デバイスが拒否されると、他のホストとの接続が可能になります。拒否されたデバイスは、正しいホストに接続され、viewLinc で受理されるまで、**【新しいデバイス】** ウィンドウに引き続き表示されます。

4. **【受理】** を選択します。
5. **【保存】** を選択します。
6. **【サイト マネージャー】** を開き、受理されたすべてのデバイスが viewLinc で使用可能であることを確認します。
  - a. **【ホストとデバイス】** タブを選択します。
  - b. **【ホストとデバイス】** ツリーで、新しいデバイスを見つけます。

## 3.2.3 デバイスの手動追加

### デバイスの管理

次のような場合に、手動でデバイスを追加する必要があります。

- DL デバイスやワイヤレス データロガーの検出に時間がかかりすぎる。
- 300 シリーズトランスミッタを追加しようとしている。
- さまざまなタイプのデバイスを一度に追加したい (**「複数のデバイスタイプの追加」** (33 ページ) を参照)。

#### Vaisala DL データロガーを追加する

1. **【サイト マネージャー】** で、**【ホストとデバイス】** タブを選択します。
2. **【ホストとデバイス】** ツリーで、Vaisala viewLinc またはデバイス ホストを選択し、**【構成】** > **【デバイスの追加】** を選択します。
3. **【デバイスの追加】** ウィンドウで、**【デバイス クラス】** リストに、COM ポート番号を入力します (使用可能な COM ポート番号を表示するには、Windows **【スタート】** メニューを選択し、**【デバイス マネージャー】** を開きます)。
4. **【保存】** を選択します。


#### 300 シリーズトランスミッタを追加する

1. 追加するトランスミッタに他のユーザーがログオンしていないことを確認します (接続されている PC のコマンドプロンプトで、「telnet <IP アドレス>」と入力します)。
2. **【サイト マネージャー】** で、**【ホストとデバイス】** タブを選択します。
3. **【ホストとデバイス】** ツリーで、Vaisala viewLinc またはデバイス ホストを選択し、**【構成】** > **【デバイスの追加】** を選択します。
4. **【デバイスの追加】** ウィンドウの **【デバイス クラス】** リストで、**【300 シリーズトランスミッタ】** を選択します。

5. 以下の情報を入力します。
  - **タイムアウト**: 継続監視を確実にするために、変更しないでください(既定値30秒)。
  - **接続タイプ**: トランスミッタにLANまたはワイヤレスLANモジュールがある場合、ネットワークを選択します。外部単一ポートまたはマルチポートイーサネットデバイスを使用する場合、COMポートを選択します。
  - **IPアドレス**: IPアドレスを入力します。
  - **サンプルレート**: 90を選択します(推奨ですが、記録データを増やすか減らす場合にはレートを修正できます)。
6. **[保存]**を選択します。

#### HMT140シリーズ データロガーを追加する

1. 追加するHMT140にログオンしているユーザーがいないことを確認します。
2. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
3. **[ホストとデバイス]** ツリーで、Vaisala viewLincまたはデバイス ホストを選択し、**[構成]>[デバイスの追加]** を選択します。
4. **[デバイスの追加]** ウィンドウで、**[デバイス クラス]** フィールドで、**[HMT140]** を選択します。
5. 以下の情報を入力します。
  - **タイムアウト**: 連続監視を確実にするために、変更しないでください(既定値30秒)。
  - **シリアル番号**: HMT140のシリアル番号を入力します。
  - **UDP ポート**: 必要に応じて変更できます。
  - **ビーコン毎の最高ブロック数**: viewLincとデバイス間で転送されたデータブロックの既定値(64)を使用し、ネットワーク効率を最大化するか、必要に応じて修正します(最大256)。

 HMT140 データロガーの**ビーコン毎の最高ブロック数**値は、技術サポートに相談せずに変更しないでください。この設定を変更すると、バッテリーの寿命に悪影響を及ぼす可能性があります。

6. **[保存]**を選択します。

### 3.2.4 複数のデバイスタイプの追加

#### デバイスの管理

時間を節約するために、定義ファイルを使って複数のデバイスタイプを同時に viewLinc に追加することができます。

#### 複数デバイスを一度に追加する

1. デバイスのクラスとデバイス プロパティを識別する .txt の定義ファイルを作成します(「**[デバイスの管理]**」(185 ページ)を参照)。
2. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
3. **[ホストとデバイス]** ツリーでホストを選択し、**[構成]>[デバイスの追加]** を選択します。
4. **[デバイスの追加]** ウィンドウの **[デバイス クラス]** リストで、**[定義ファイルのアップロード]** を選択し、適切なファイルを参照します。
5. **[保存]**を選択します。

## 3.3 ホストとデバイスの構成

デバイスがネットワークに接続され、viewLinc で表示されたら ([サイト マネージャー] > [ホストとデバイス])、viewLinc モニタリング システムに使用するデバイスの構成準備が整ったことを示します。

viewLinc で実行できる構成作業は以下の通りです。

- デバイスの説明の変更、またはエイリアスの追加
- サンプル間隔を設定する
- チャネルを有効または無効にする
- デバイスとチャネルの説明を変更する
- 履歴データのバックアップ用のファイル保管場所を指定する



viewLinc 5 のインストールにあたり、DL データロガーを使用していた場合は、vLog ソフトウェアでシステム設定を行っている可能性があります。新しい構成作業には、引き続き vLog を使うことも viewLinc を使うこともできます。viewLinc での構成を確実にするには、「DL データロガーをロック/ロック解除する」(179 ページ)を参照してください。

### 3.3.1 ホストおよびデバイス プロパティの表示

[サイト マネージャー] で [ホストとデバイス] タブを選択して、デバイスまたはホストのプロパティを表示します。[ホストとデバイス] ツリーで最上位の viewLinc フォルダーを選択して、プロパティグリッドにすべてのデバイスを含めます。



グリッド カラムを並び替えたり、表示/非表示にするには、「カラムの操作」(118 ページ)を参照してください。

表9 デバイスおよびホストプロパティ-カラム

| プロパティ      |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| デバイス プロパティ |                                       |
| 説明         | 使用中のシステム環境設定 - 説明またはエイリアス。            |
| デバイスの説明    | デバイスで事前設定された説明、または viewLinc で変更された説明。 |
| デバイスのエイリアス | viewLinc で構成された詳しい説明。                 |
| デバイス ID    | デバイスを追加したときに viewLinc によって割り当てられる ID。 |
| デバイスの状態    | viewLinc との接続状態。                      |
| シリアル番号     | デバイスに関連付けられたシリアル番号。                   |
| プローブシリアル番号 | チャネルに接続されていれば、プローブのシリアル番号を表示。         |

| プロパティ         |   |
|---------------|---|
| サンプル間隔        | デバイスから取得したサンプル間隔。   |
| ログ容量          | データ収集の推定残り時間。データの保存に関する詳細については、「デバイス プロパティの編集」(38 ページ)を参照してください。  |
| デバイス アドレス     | viewLinc で認識されたデバイスのアドレス。   |
| デバイスの IP アドレス | デバイスの IP アドレス。  |
| MAC アドレス      | (利用可能な場合)チャンネル デバイスの MAC アドレス。  |
| セキュリティ状態      | DL データロガーのみが安全ではないものとして表示されます。DL データロガーが改ざんされていると考えられる場合は、「DL データロガーをロック/ロック解除する」(179 ページ)を参照してください。  |
| 次回の校正日        | デバイスに設定されている場合に次の校正日を表示。  |
| 校正            | 直近の校正を実施した企業名。300 シリーズと SP データロガーの校正情報は、デバイスと一緒に出荷されている校正証明書にのみ記載。  |
| チャンネル         | 選択したデバイスで使用可能なチャンネル数。   |
| デバイスのアラーム     | デバイスのアラームを一時停止するかどうかを示します。  |
| ハードウェア モデル    | チャンネル デバイスのハードウェア モデルに関する情報。  |
| ハードウェア リビジョン  | チャンネル デバイスの最新のハードウェア リビジョン番号。   |
| ファームウェア バージョン | チャンネル デバイスのファームウェアの最新リビジョン番号。   |
| 送信間隔          | 送信ごとの間隔。  |
| バッテリー状態       | バッテリーの推定残量。   |
| RSSI (信号強度)   | ワイヤレス デバイスで表示されるデバイスの信号強度 (dBm)。  |
| 信号の質          | ワイヤレス デバイスで表示される現在の信号の質 (RSSI)。   |
| SNR           | ワイヤレス デバイスでの信号対雑音の比率 (dB)。  |
| ロックの状態        | DL データロガーは、viewLinc に対してロックされており(ロック済み)、viewLinc 外で変更できないか、vLog またはその他の viewLinc のインスタンスに対してロックされているか(リモートロック)、もしくは、どのソフトウェアに対してもロックされていません(ロック解除済み)。 |
| リアルタイムのみ      | 「はい」を選択すると、データロガーがリアルタイムのデータのみを viewLinc に送信。データ履歴は保存されません。   |

| プロパティ          |   |
|----------------|---|
| 通信アラームテンプレート   | チャンネル デバイスで使用されているアラームテンプレート名。              |
| 構成アラームテンプレート   | チャンネル デバイスで使用されているアラームテンプレート名。              |
| 検証アラームテンプレート   | チャンネル デバイスで使用されているアラームテンプレート名。              |
| 校正アラームテンプレート   | チャンネル デバイスで使用されているアラームテンプレート名。              |
| チャンネル インデックス   | チャンネルがそのデバイスに割り当てたインデックス番号。                 |
| チャンネルの説明       | 使用中のシステム環境設定 - 説明またはエイリアス。                  |
| デバイスのチャンネルの説明  | デバイスにとともに提供される説明。ロケーション名を参照してください。          |
| チャンネル エイリアス    | viewLinc で生成された場合に表示するエイリアス。                |
| チャンネル アラーム     | デバイスのアラームを一時停止するかどうかを示します。                  |
| チャンネル ID       | 一意のチャンネル識別子。                                |
| デバイス単位         | 測定単位 (RH、C、mA、mV など)。                       |
| 編集可能           | デバイスに、viewLinc で変更できるプロパティがあるかどうかを示します。     |
| ロケーション         | (リンクされている場合)チャンネルにリンクしたロケーション名を表示。          |
| ホストプロパティ       |   |
| ホスト名           | 選択したデバイスまたはチャンネルのホスト名が表示されます。               |
| 解決名            | 管理用。  |
| 説明             | 使用中のシステム環境設定 - 説明またはエイリアス。                  |
| 状態             | viewLinc との接続状態。                            |
| ホストの IP アドレス   | ホストの IP アドレス。                               |
| ホストタイプ         | 選択したホストが Vaisala viewLinc コンピューターかどうかを示します。 |
| デバイス数          | ホストに接続されたデバイス数。                             |
| バージョン          | ホストで実行されている viewLinc のバージョン。                |
| 状態             | ホストが現在 viewLinc 監視システムに接続しているかどうかを示します。     |
| viewLinc Aware | viewLinc Aware サービスがホストで有効かどうかを示します。        |

| プロパティ        |  |
|--------------|--|
| ホストのアラーム     | ホストアラームが現在有効になっているかどうかを示します。               |
| インストール モード   | ホストが VaiNet アクセス ポイントの場合、状態が有効か無効かを示します。   |
| VaiNet チャンネル | (該当の場合)VaiNet アクセス ポイントに使用されているチャンネルを示します。 |
| ホストID        | 一意のホスト識別子。                                 |

### 3.3.2 ホストプロパティの編集

#### デバイスの管理

使用するホストのタイプによって、変更できるプロパティが異なります。

- viewLinc Enterprise Server (ES)では、すべてのプロパティが編集可能です。
- アクセス ポイント ホストでは、新しいRFL データ ロガーをペアリングする際に説明を変更したり、インストール モードの有効/無効を切り替えたりすることができます。
- デバイスのホスト サーバーでは、vNet デバイス (viewLinc Aware)の説明を変更したり、自動認識の有効/無効を切り替えたりすることができます。

#### ホストプロパティを編集する

1. [サイト マネージャー]で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、ホストを選択します。
3. [構成]>[プロパティの編集]を選択します。
4. [ホストプロパティの編集] ウィンドウで、使用可能なプロパティを編集します。

##### Enterprise Server プロパティ :

- **代替の viewLinc サーバー名:** viewLinc ES がファイアウォールの背後にある場合、サーバー名を追加して、viewLinc ES の IP アドレスが変更されていてもデバイス ホストが確実に認識されるようにします。
- **viewLinc Enterprise Server ポート:** これが viewLinc ES に接続するときにデバイス ホストが使用するポートになります (変更が必要かどうか判断するには、お使いの IT ポートのポリシーを参照してください)。
- **viewLinc Aware:** 同じサブネットで別の viewLinc ES またはデバイス ホストが実行されている場合はこの機能を無効にします (vNet が正しい viewLinc ES またはデバイス ホストに接続されるようにするため)。
- **viewLinc システム ID (64 ビット):** viewLinc ES を認識するために、自動生成のシステム ID がデバイスによって使用されます。この番号を変更するためのサポートが必要な場合は、Vaisala 技術サポートにお問い合わせください。

##### アクセス ポイントのプロパティ :

- **説明:** 説明 (半角英数字 64 文字まで)を入力して、該当ホストを識別します。

[ホストとデバイス] ツリーでは、説明に加えてホスト名が表示されます。例:「マイホスト(AP10-X###)」

- **インストールモード:** 新しい RFL データロガーをアクセスポイントとペアリングしたい場合、この機能を有効にします。

**i** RFL データロガーは、インストールモードが有効になっているアクセスポイントとしかペアリングできません。ペアリングが終了したら、インストールモードは無効にすることができます。インストールモードの有効化/無効化は、viewLinc またはアクセスポイントの Web UI で行うことができます。詳細については、『AP10 ユーザーガイド』を参照してください。

- **VaiNet チャンネル(1~8):** お使いの viewLinc システムが同じ無線周波数の複数のアクセスポイントに対応している場合、各アクセスポイントに一意のチャンネル番号を割り当てて、無線通信が中断されないようにする必要があります。
- **AP 表示:** AP パネル表示をオンかオフに設定します。
- **AP 表示の明るさ:** AP パネル表示の明るさレベルを選択します。
- **AP LED:** デバイスの信号光をオンかオフに設定します。
- **AP LED の明るさ:** デバイス信号光の明るさレベルを選択します。

#### デバイスホストのプロパティ:

- **説明:** 説明(半角英数字 64 文字まで)を入力して、該当ホストを識別します。  
[ホストとデバイス] ツリーでは、製品名に加えてホスト名が表示されます。例:「マイホスト(van10-X###)」
- **viewLinc Aware:** 同じサブネットで viewLinc ES または他のデバイスホストが実行されている場合はこの機能を無効にします。これは vNet が正しい viewLinc ES またはデバイスホストに接続されるようにするためです。

5. 変更を保存します。

## 3.3.3 デバイスプロパティの編集

### デバイスの管理

説明、エイリアス、タイムアウト秒数、UDP ポート、パスワード、データ転送パラメーターなどのデバイスプロパティは表示と編集ができます。

viewLinc では、デバイスに応じて、殆どのプロパティを編集できます。DL デバイスが vLog 監査証跡にリンクしている場合は、vLog ソフトウェアでデバイスプロパティを編集するか、まず監査証跡へのリンクを無効にして、viewLinc でプロパティを変更できます。



#### 注意

DL データロガープロパティの編集を行うと、データ履歴(サンプリング間隔、サンプルウォームアップ時間、チャンネルの有効化/無効化、校正設定)が自動的にクリアされます。viewLinc で全デバイスデータが最新であることを確認するには、リンクされたロケーションのトレンドグラフを表示して、最後のデータ転送のタイムスタンプを確認します。



## デバイスプロパティの編集

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、編集するデバイスを選択します。
3. [構成] > [プロパティの編集] を選択します。
4. **デバイスプロパティの編集** ウィンドウを使って、以下のプロパティを編集します。

### Vaisala RFL データロガー :

- **デバイス エイリアス:** 任意指定。より長いデバイスの詳細説明を入力します (英数字 ASCII で 64 文字まで、UNICODE の場合はこれより少ない文字数)。システム環境設定でエイリアスを使用するオプションが指定されている場合は、説明ではなくエイリアスが viewLink とレポートに表示されます。
- **デバイスの説明:** デバイスの短い説明 (半角英数字 16 文字まで) を入力して、該当デバイスを識別します。[ホストとデバイス] ツリーでは、製品名に加えてデバイスの説明が表示されます。例:「マイ デバイス (van10-X####)」
- **RFL LED:** デバイスの信号光をオンかオフに設定します。
- **RFL 表示パネル:** デバイスのパネル表示をオンかオフに設定します。
- **RFL 単位:** メートル法か慣用単位を表示します。

### Vaisala DL データロガー :

- **デバイス エイリアス:** 任意指定。より長いデバイスの詳細説明を入力します (英数字 ASCII で 64 文字まで、UNICODE の場合はこれより少ない文字数)。システム環境設定でエイリアスを使用するオプションが指定されている場合は、説明ではなくエイリアスが viewLink とレポートに表示されます。
- **デバイスの説明:** デバイスの短い説明 (半角英数字 16 文字まで) を入力して、該当デバイスを識別します。[ホストとデバイス] ツリーでは、製品名に加えてデバイスの説明が表示されます。例:「マイ デバイス (van10-X####)」

- デバイス説明フィールドを使用して、デバイスのモデルとシリアル番号を特定することをお勧めします。

- **COM ポート:** 新しい COM ポートが必要な場合に変更します。
- **サンプル間隔:** データ サンプル収集頻度を選択します。選択したサンプル間隔に応じて、[ログ容量] フィールドはデバイスに履歴データを上書きする前に、利用可能な推定ログ時間を更新します (すべてのデータ履歴は引き続き viewLink に保存されます)。
- **サンプルウォームアップ時間:** データ収集準備に必要な時間を設定します (データロガーで機能がサポートされている場合に利用可能なオプション)。
- **チャンネル [#(番号)]:** チャンネルでデータ収集を開始する (有効) か、チャンネルでのデータ収集を停止します (無効)。
- 校正設定を変更するには、「デバイスやプローブの校正プロパティの編集」(178 ページ) を参照してください。

### Vaisala 300 シリーズトランスミッタ :


- **デバイス エイリアス:** 任意指定。より長いデバイスの詳細説明を入力します (英

数字 ASCII で 64 文字まで、UNICODE の場合はこれより少ない文字数)。システム環境設定でエイリアスを使用するオプションが指定されている場合は、説明ではなくエイリアスが viewLinc とレポートに表示されます。

- **タイムアウト(秒)**: 転送をキャンセルする前にデータが来るのを待つ秒数を指定します。
- **IP アドレス**: DHCP を使用する場合、新しい IP アドレスを入力します。
- **TCP ポート**: 選択した TCP ポート番号が既に使用されている場合に変更します。
- **サンプル間隔**: 監視中のロケーションから必要になるデータサンプルの頻度に応じて、サンプルレートを調整します。
- 校正設定を変更するには、「デバイスやプローブの校正プロパティの編集」(178 ページ)を参照してください。

#### Visala HMT140 Wi-Fi データロガー :

- **デバイス エイリアス**: 任意指定。より長いデバイスの詳細説明を入力します(英数字 ASCII で 64 文字まで、UNICODE の場合はこれより少ない文字数)。システム環境設定でエイリアスを使用するオプションが指定されている場合は、説明ではなくエイリアスが viewLinc とレポートに表示されます。
- **デバイスの説明**: デバイスの短い説明(半角英数字 16 文字まで)を入力して、該当デバイスを識別します。[ホストとデバイス] ツリーでは、製品名に加えてデバイスの説明が表示されます。例:「マイ デバイス (van10-X####)」
- **タイムアウト(秒)**: 転送をキャンセルする前にデータが来るのを待つ秒数。
- **UDP ポート**: 自動生成され、必要に応じて修正できます。
- **パスワード**: デバイスがパスワード保護されている場合はパスワードを入力します。パスワードは保存されません。
- **ビーコン毎の最高ブロック数**: 履歴データ取得に許可された最大サイズ。低い値にすると、バッテリー寿命を延長できます。

 HMT140 デバイスのビーコン毎の最高ブロック数の値は、技術サポートに相談せずに変更しないでください。この設定を変更すると、バッテリーの寿命に悪影響を及ぼす可能性があります。

- **リトライカウント**: 受信確認できない場合のデバイスによるデータ転送の試行回数。
- **送信期間(分数)**: データ転送の頻度を分数で設定します。
- **サンプル間隔(分数)**: データサンプルがデバイスに保存される頻度を分数で設定します。
- 校正設定を変更するには、「デバイスやプローブの校正プロパティの編集」(178 ページ)を参照してください。

#### 5. 変更を保存します。

### 3.3.4 チャネルプロパティの編集

#### 🔒 デバイスの管理

viewLinc で特定のチャネルを容易に識別するために、チャネルの説明、エイリアス、および優先温度単位を必要に応じて編集できます。

**i** 使用するデバイスによっては、viewLinc で別のプロパティを変更できる場合があります。詳細については、該当デバイスのユーザーガイドを参照してください。

#### チャネルプロパティの編集

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、編集するデバイス チャネルを選択します。
3. [管理] > [プロパティの編集] を選択します。
4. [チャネル プロパティの編集] ウィンドウで、必要に応じてフィールドを変更します。
  - **チャネル エイリアス:** 任意指定。チャネルの詳細い説明を入力します(英数字 ASCII で 64 文字まで、UNICODE の場合はこれより少ない文字数)。チャネル エイリアスを使用するオプションがシステム環境設定で指定されている場合、説明ではなくエイリアスが viewLinc とレポートに表示されます。
  - **チャネルの説明:** (DL および HMT140 シリーズ データロガーの場合)チャネルの短い説明(半角英数字 16 文字まで)を入力して、[ホストとデバイス] ツリーで該当チャネルを識別します。「温度」を例に挙げます。

**o** チャネルの説明によって、温度、湿度、電圧、圧力等の測定されている対象を識別し、リンクしたロケーション名を使って、冷蔵庫の参照コードやラボ名等、監視されている対象を識別します。

#### RFL データロガー :

チャネル エイリアスのみが viewLinc で変更できます。その他のチャネル プロパティはすべて、リンクしたロケーションのしきい値アラーム設定で定義されます。

#### Vaisala DL データロガー:電圧、または現在のチャネル :

- **1 番目/2 番目の入力値:** データ入力を変換するには、1 番目と 2 番目の入力範囲のスケーリング値を設定します。
- **1 番目/2 番目の出力値:** データ出力を変換するには、1 番目と 2 番目の出力範囲のスケーリング値を設定します。
- **出力単位:** viewLinc で表示する、変換後の入力値の単位を指定します。

#### Vaisala DL データロガー:ブール値のチャネル :

- **閉じたときの値:** viewLinc で表示する値を設定します。
- **出力単位:** チャネルがロケーションにリンクされていない場合に編集可能にします。viewLinc で表示するチャネルの単位を指定します。

#### HMT140 シリーズ Wi-Fi データロガー (HMP110 プローブ付き) :

- **パスワード:** HMT140 デバイスでパスワードが有効になっている場合 (HMT140

ユーティリティソフトウェアを使用)、パスワードを入力して、HMT140のプロパティに加えた変更がデバイスで更新されていることを確実にします。

- **小数点以下の桁数:** デバイスに表示する小数点以下の桁数を入力します。
- **高/低アラーム値:** データ転送を開始する高および低範囲のアラーム値。
- **高/低アラーム時間:** 高/低アラーム時間は、ビーコンを送信するまでにプローブがアラーム状態にある秒数を指定します。既定設定の 255 を使用すると、送信できなくなります。
- **表示スケール/オフセット:** チャンネルタイプによっては編集が可能です。Vaisala の『*HMT140 Wi-Fi データロガーユーザーガイド*』を参照してください。
- **エンジニアリングスケール/オフセット:** チャンネルタイプによっては編集が可能です。Vaisala の『*HMT140 Wi-Fi データロガーユーザーガイド*』を参照してください。
- **校正スケール/オフセット:** 主要校正スケール ( $x = \text{スケール} * V + \text{オフセット}$ )。校正スケールまたはオフセットが変更されると、デバイス校正日が表示されません。新しい校正スケールまたはオフセット値を保存する前に、デバイス校正設定を更新してください(「**デバイスやプローブの校正プロパティの編集**」(178 ページ))を参照)。

5. 変更を保存します。

## 4. サイト管理

デバイスでモニタリングしているエリアは、viewLinc 上では、ロケーションと呼ばれ、複数のロケーションはゾーンにまとめることができます。管理者グループや他のグループのメンバーで「サイトの管理」権限が割り当てられている場合、[サイト マネージャー] ウィンドウでゾーンとロケーションの作成と変更を行うことができます。

ロケーションは、モニタリングに使用するデバイス タイプに関わらず、割り当てられたしきい値およびアクセス許可の設定を確実に保持するために、データ収集に使用されているデバイスとは独立して作成できます。校正のためにデバイスを交換したり、保守サイクル中にデバイス アラームを一時停止させたりしても、ロケーションに割り当てられたしきい値とアクセス許可の設定は維持されます。

### 4.1 ゾーンとロケーション

新しいゾーンを作成する際、まず監視するエリア（建物、フロア、貯蔵室、検査室など）を考えてから、そのエリア内のロケーションをすべて特定します。このエリア内で、デバイスが設置され、チャンネルがデータ（キャビネット、冷蔵庫、収納ラックなど）を記録します。

複数のデバイスが設置されている組織では、ゾーンを作成すると、複数のデバイスまたはデバイスチャンネルからデータを集めるエリアを特定しやすくなります。複数サイトの複数エリアを監視する場合にはサブゾーンを作成することもできます。

ゾーンのロケーションを特定すると、次のことも可能です。

- 1つのゾーンから別のゾーンに簡単にデバイスを切り替えられます（校正のためにデータロガーを送る場合など）。
- ロケーションを監視するために使用されるデータロガーに関係なく、特定のゾーンで確実に一貫したレポートが行われます。

フル構成の viewLinc デスクトップでは監視エリアをオンライン表示できます。



## 4.2 ゾーンとロケーションの作成

サイト マネージャーでは、監視するエリアをロケーションとして設定したり、これらをゾーンにまとめたり、ロケーションをデバイス チャネルにリンクしたり、しきい値アラーム テンプレートを適用したり、グループ アクセス許可の設定やスケジュールの割り当てを行ったりすることができます。

viewLinc では、最上位のゾーンとして、自動的に viewLinc が提供されます。これは、いつでも会社名やモニターする建物の名前などに変更できます。

追加のゾーンとサブゾーンを設定して、監視するフロアや部屋、倉庫、冷暖房設備などの特定に役立てることができます。デバイス チャネルで簡単にロケーションを作成し、ゾーンに追加することができます。

- ゾーンまたはロケーションの作成方法のデモを見るには、[ヘルプ] メニューでツアーをご利用ください。

デバイスの接続とチャネルの有効化/無効化の詳細については、デバイス専用のユーザーガイドを参照してください。

## 4.2.1 ゾーンの作成

### 🔒 サイトの管理

ロケーションのグループを整理するためにゾーンを作成する

#### 新しいゾーンを作成する

1. **[ゾーンとロケーション]** ツリーの **[サイト マネージャー]** で、最上位のフォルダーを選択します。また、既存のゾーンを選択して、サブゾーンを作成することもできます。
2. **[管理]** > **[ゾーンの作成]** の順で選択するか、**[ゾーン]** フォルダーを右クリックして **[ゾーンの作成]** を選択します。
3. **[ゾーンの作成]** ウィンドウに一意のゾーンの名前を入力し、以下を指定します。
  - **ダッシュボード アイコン:** ダッシュボードに表示するゾーンタイプを表すアイコンを選択します。
  - **説明:** わかりやすくするために、このゾーンの説明を入力することができます(任意指定)。
4. **[作成]** を選択します。
5. **[保存]** を選択するか、または **[元に戻す]** を選択してキャンセルします。

- ゾーンをツリー上の間違った位置に追加した場合は、マウスを使って新しいツリーの位置にドラッグできます。

## 4.2.2 ロケーションの作成

### 🔒 サイトの管理

viewLinc でデバイス データを監視するためのロケーションを作成します。ロケーションの作成が完了したら、ロケーションをデバイス チャネルにリンクします。ロケーションをデバイス チャネルにリンクさせるには、「デバイスの管理」権限が必要です。

- マウスで **[ホストとデバイス]** ツリーからデバイス チャネルをゾーンにドラッグして、新しくリンクしたロケーションを自動作成します(「**[リンクされたロケーションの自動作成]**」(47 ページ)を参照)。

#### ロケーションの追加

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリーに移動して、ゾーンまたはロケーションを選択します。
2. **[管理]** > **[ロケーションの作成]** を選択するか、**[ゾーン]** フォルダーを右クリックして **[ロケーションの作成]** を選択します。
3. **[ロケーションの作成]** ウィンドウにロケーションの名前を入力します。

- ロケーション名を使って監視するエリアを説明するようにします。デバイスが交換されたり移動したりした場合でもロケーションの説明は維持されます。

4. ロケーションプロパティを入力:
  - **測定の種類**: 測定対象となる値を選択します。種類が温度の場合、ブラウザーウィンドウに表示させる温度の推奨単位を選択します([システム環境設定]で設定されているシステム既定値、または °C、または °F)。
  - **小数点以下の桁数**: 表示する小数点桁数を入力します。
  - **説明**: わかりやすくするために、このロケーションの説明を入力することができます(オプション)。
5. **【作成】**を選択します。
6. **【保存】**を選択するか、または**【元に戻す】**を選択してキャンセルします。

viewLincでのアラーム監視およびデータのレポート作成を有効にするには、このロケーションをデバイスチャンネルにリンクします。

## 4.3 デバイスチャンネルのロケーションへのリンク

デバイスチャンネルをロケーションにリンクして、viewLincで記録したデバイスデータを監視します。デバイスチャンネルをロケーションにリンクすると、監視対象デバイスが変更(別のエリアの監視に切り替えたり、校正や修理に出したりする場合など)されても、監視対象エリアのデータの一貫性とアラーム履歴は維持されます。

- ロケーションにリンクされているデバイスチャンネルのみがアラームを発動できます。

特定のエリアのデータ監視が必要なくなったときは、デバイスチャンネルのリンクを簡単に解除して別のロケーションにリンクすることができます(「ロケーションとチャンネルのリンクを解除/再リンクする」(165ページ)を参照)。

- ❗ 監査証跡のセキュリティの関係上、デバイスチャンネルにリンクされていたロケーションを削除することはできません。ただし、使用していないロケーションはリンクを解除してビューを非表示にすることができます(「ロケーションの非アクティブ化」(169ページ)を参照)。

### 4.3.1 チャンネルのロケーションへのリンク

#### 🔒 サイトの管理

viewLincで状態の監視を開始する前に、お使いのviewLincロケーションにデバイスチャンネルをリンクする必要があります。新しいチャンネルから新しいロケーションを自動作成するには、「リンクされたロケーションの自動作成」(47ページ)を参照してください。

- ❗ リンクしたロケーションすべてにおいては、フルコントロールアクセス許可が必要です。



### 新しいチャンネルを新しいロケーションにリンクする

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、リンクされていないロケーション(斜体で表示)を選択します。
2. [ホストとデバイス] タブを選択します。
3. [ホストとデバイス] ツリーで、リンクされていないチャンネル(斜体で表示されます)と一致する測定タイプを選択します。
4. [構成] > [チャンネルのリンク] を選択します。
5. [チャンネルをロケーションにリンク] ウィンドウで、この新しいロケーションでデータ監視を開始する時期を選択します。
  - **今すぐ開始:** 次回から使用可能なサンプリング時間から、データの記録が開始されます。
  - **使用可能な最も早いリンク時刻から開始:** デバイスで記録されたすべてのチャンネルデータ履歴を含めます。このオプションは、チャンネルを使用中であるにも関わらず、一定期間リンクされていない場合に便利です。
  - **指定した日時から開始:** データ履歴の記録を開始する特定の時刻を設定します。履歴の記録開始を遅らせるには、このオプションを使用するとよいでしょう。
6. [リンク] を選択します。
7. [保存] を選択します。

## 4.3.2 リンクされたロケーションの自動作成


### 🔒 サイトの管理

ドラッグアンドドロップ機能を使用して、自動的にデバイス チャンネルにリンクする新しいロケーションを作成します。



新しいロケーションを作成するゾーンに対するフルコントロール アクセス許可が必要です。

## リンクされていないデバイス チャネルでロケーションを作成する

1. [サイトマネージャー]で、[ホストとデバイス]タブを選択します。
2. [ホストとデバイス]ツリーで、新しいデバイスを選択します。
3. リンクされていないデバイス チャネルを選択し、新しいロケーションを作成するゾーンまでドラッグします。位置が有効であれば、アイコンが  に変わります。
4. [チャンネルをロケーションにリンク] ウィンドウで、この新しいロケーションでデータ監視を開始する時間を選択します。
  - **今すぐ開始:** 次回から使用可能なサンプリング時間から、データの記録が開始されます。
  - **使用可能な最も早いリンク時刻から開始:** デバイスで記録されたすべてのチャンネルデータ履歴を含めます。このオプションは、チャンネルを使用中であるにも関わらず、一定期間リンクされていない場合に便利です。
  - **指定した日時から開始:** データ履歴の記録を開始する特定の時刻を設定します。履歴の記録開始を遅らせたい場合に、このオプションを使用するとよいでしょう。
5. [リンク]を選択します。
6. 一意のロケーション名を定義するには、新しいロケーションを選択して、右クリックで[プロパティの編集]を選択します。
7. [更新]を選択してから[保存]を選択します。


## 4.3.3 チャンネルのリンク履歴の表示

### デバイスの管理



[サイトマネージャー]のゾーンとロケーションを表示するには、最低でもビューのアクセス許可が必要になります(「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)を参照)。

### リンク履歴の表示

1. [サイトマネージャー]で、[ゾーンとロケーション]ツリーに移動して、リンクしたロケーションを選択します。
2. [ロケーションプロパティ]タブで、グリッド上のロケーションを選択します。
3. [チャンネルの履歴] ツールバー ボタン  を選択します。

| リンク済みチャンネル履歴 |          |                        |                 |                 |
|--------------|----------|------------------------|-----------------|-----------------|
| デバイスの説明      | シリアル番号   | チャンネルの説明               | リンクの開始          | リンクの終了          |
| HAFT41       | 15205134 | Channel1 (HAFT110-Reg) | 使用可能です          | 2018-05-17 14:0 |
| City         | 20081389 | Ext (pwr)              | 2018-05-08 13:1 | 警告リンク解除         |

[詳しく](#)

4. **[リンク済みチャンネル履歴]** ウィンドウで履歴の詳細を確認します。
  - **リンクの開始:**[無制限]を選択した場合、このチャンネルはリンクされたままとなり、チャンネルがデータの監視を開始してからずっと、リンクしたロケーションのデータが継続的に監視されます。
  - **リンクの終了:**[無制限]を選択した場合、このチャンネルは引き続きロケーションにリンクされており、継続的にデータを監視していることを示します。

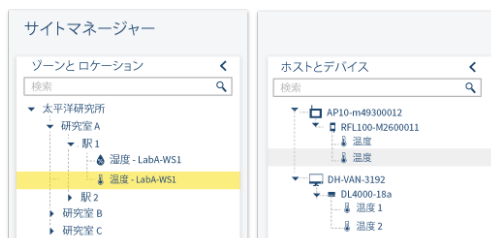
### 4.3.4 リンクしたチャンネル/リンクしたロケーションの検索

#### 🔒 サイトの管理

デバイス/チャンネル数が多い大規模システムでは、viewLinc のツリーで検索機能をお試しください。リンクしたすべてのロケーションに対して、表示アクセス許可が必要です。

#### ロケーションにリンクしたチャンネルの検索 - サイト マネージャー

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ゾーンとロケーション]** ツリーの 1 つのロケーションに移動します。
3. **[構成]** > **[リンク済みのチャンネル検索]** を選択するか、右クリックして **[リンク済みのチャンネル検索]** を選択します。黄色のハイライトバーが **[ホストとデバイス]** ツリーに一時的に表示され、リンクしたチャンネルを示します。




#### チャンネルにリンクしたロケーションを検索する - サイト マネージャー

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、チャンネルに移動します。
3. **[構成]** > **[リンクしたロケーション]** を選択するか、右クリックして **[リンクしたロケーション]** を選択します。黄色のハイライトバーが **[ゾーンとロケーション]** ツリーに一時的に表示され、リンクしたロケーションを示します。

**i** 黄色のハイライトが表示されない場合、リンクしたロケーション/チャンネルを表示するアクセス許可がありません。

### ロケーションにリンクしたチャンネルの検索 - サイト

1. **[サイト]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリー上の 1 つのゾーンに移動します。
2. **[状態]** タブでロケーションを選択します。
3. **[ツリーで検索]** ツールバーボタンで  を選択するか、ロケーションを右クリックして **[ツリーで検索]** を選択します。黄色のハイライトバーが **[ゾーンとロケーション]** ツリーに一時的に表示され、対応するロケーションを示します。

## 4.4 ダッシュボードの作成

ダッシュボードを作成して、チームがデータポイントの物理ロケーション (viewLinc ロケーション) を把握できるようにします。ダッシュボードには、特定エリアを表す施設マップ、図面、写真などの画像ファイル (.png または .jpg) などを配置できます。



画像を追加したら、ダッシュボード上でサブゾーンや個々のロケーションに選択して配置します。ダッシュボードの作成では、大型のリモート画面ディスプレイで使用するために、背景画像なしでロケーションデータを表示することもできます。

- **[ヘルプ]** メニューからダッシュボード ツアーをご利用いただけます。

## 4.4.1 ダッシュボードの作成

### 🔒 サイトの管理

ダッシュボード画像ファイルは、デスクトップやネットワーク ロケーションから.png または .jpg 形式でアップロードできます。

ダッシュボード画像は、ゾーンまたはロケーションに追加したり、ビュー(自分が作成したビュー、または編集を許可されているビュー)に追加したりできます。

- 📘 ゾーンまたはロケーションのダッシュボード画像を追加したり、他の人が作成したビューにダッシュボード画像を追加するには、「フルコントロール」アクセス許可 が必要です。

### ダッシュボード画像の追加

1. [ゾーンとロケーション] ツリーの [サイト マネージャー] で、ゾーンまたはロケーションを選択します (あるいは [ビュー マネージャー] の [ビュー] ツリーでビューを選択します)。
2. [ダッシュボード] タブで、[ダッシュボード画像の追加] を選択します。
3. [参照] で画像を見つけ、[追加] を選択します。画像は画面に合わせて自動的にサイズ変更されます。画像のサイズを変更する必要がある場合、右下隅を起点として枠線をマウスで調整します。
4. [保存] を選択します。

### ゾーンまたはロケーション データポイントの追加


- 📘 ゾーンのサブゾーンと子ロケーションのみを、ダッシュボード画像上にデータポイントとして追加できます。

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーか、[ビュー マネージャー] の [ビュー] ツリーで、ダッシュボードに表示するゾーンまたはロケーションを選択します。
2. ゾーンまたはロケーションをクリックし、ダッシュボードにドラッグします。ゾーンまたはロケーションをドラッグすると、ダッシュボードに追加できることを示すアイコンが表示されます 📍。
  - ダッシュボードにサブゾーンを追加すると、割り当てられていたダッシュボードのアイコンが表示されます。割り当てられていない場合は既定のフォルダーのアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックすると、ロケーション データが表示されます。
  - ダッシュボードにロケーションを追加すると、(しきい値アラーム テンプレートでの設定に従って)現在の状態の重大性を示すアイコンの色とともに、現在の数値データ読み取り値を表示します。
3. [保存] を選択します。

## 4.4.2 ダッシュボード表示設定の変更


### サイトの管理

ダッシュボードの内容およびゾーンやロケーション データポイントの外観を変更します。

 選択したゾーン、ロケーション、またはビューのダッシュボード表示を変更するには、「フルコントロール」アクセス許可 が必要になります。

### ダッシュボード画像の変更

ダッシュボード画像を変更してもデータポイントは削除されません(しかし、新しい画像上での位置を調整することが必要なことがあります)。

1. **[サイトマネージャー]**の**[ゾーンとロケーション]** ツリー上で、変更するゾーンまたはロケーションを選択します(または **[ビューマネージャー]** でビューを選択します)。
2. **[ダッシュボード]** タブで、**[ダッシュボード画像の追加]**、 を選択します。
3. ファイルの場所を入力するか、**[参照]** ボタンを使用して使用する画像に移動し、**追加**を選択します。
4. 変更を保存します。

### ゾーンのフォントを変更する

ダッシュボード上のすべてのゾーンに同じ設定を適用することも、特定のロケーション用に設定を変更することもできます。

選択したダッシュボード上のすべてのゾーン用のフォントサイズを変更するには:

1. **[サイトマネージャー]** の **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、ゾーンを選択します。
2. **[ダッシュボード]** タブで、**[設定]**>**[ダッシュボードゾーン設定]** を選択します。
3. **[ダッシュボードのゾーン設定]** ウィンドウの **[値]** カラムで、フォントサイズを選択します。
4. 変更を保存します。

ダッシュボードの個々のゾーンでフォントサイズを変更するには:

1. **[サイトマネージャー]** の **[ダッシュボード]** タブで、ゾーンを右クリックして、**[表示設定の編集]** を選択します。
2. **[ゾーン表示設定の編集]** ウィンドウで、ドロップダウンリストでフォントサイズを選択するか、**[既定値として設定する]** を選択してダッシュボードプリファレンスを適用します。
3. 変更を保存します。

### ロケーションのフォントサイズ、アイコン、または色を変更する

ダッシュボード上のすべてのロケーションに同じ設定を適用することも、特定のロケーション用に設定を変更することもできます。

選択したダッシュボード上のすべてのロケーション用のロケーションプリファレンスを指定するには:

1. **ゾーンとロケーション** ツリー上の **[サイトマネージャー]** で、ダッシュボード上でロケーションが設定されているゾーンを選択します。
2. **[ダッシュボード]** タブで、**[設定]**>**[ダッシュボードロケーション設定]** を選択します。

3. **[ダッシュボード ロケーションの設定]** ウィンドウで、変更するプロパティを選択します。値列の行を1つ選択して利用可能なオプションを見ます。
4. 変更を保存します。

個々のダッシュボードロケーション用のロケーションプリファレンスを指定するには:

1. **[ダッシュボード]** タブの**[サイト マネージャー]** で変更するロケーションを右クリックして、**[表示設定の編集]** を選択します。
2. **[ロケーションの表示プリファレンスの編集]** ウィンドウで、変更するプロパティを選択します。値列の行を1つ選択して利用可能なオプションを見ます。
3. 変更を保存します。

### ロケーション説明表示オプションを変更する

ダッシュボード上のすべてのロケーション用のロケーション説明表示オプションを設定するには:


1. **[サイト マネージャー]** の **[ダッシュボード]** タブで、**[設定]** > **[ダッシュボード ロケーション設定]** を選択します。
2. **[ダッシュボード ロケーション設定]** ウィンドウで、説明表示オプションを変更します:
  - **説明:** (ロケーションプロパティで指定した通りに) データ読み取り値の上、下、または横に、ロケーションの説明を表示する場合に選択します。
  - **説明形式:** ロケーション名のみ、またはロケーション名とゾーン名を表示します。
3. 変更を保存します。

ダッシュボード上の個々のロケーション用のロケーションの説明表示オプションを設定するには:

1. **[サイト マネージャー]** の **[ダッシュボード]** タブで変更するロケーションを右クリックして、**[表示設定の編集]** を選択します。
2. **[ロケーション表示設定の編集]** ウィンドウで、説明の表示オプションを変更します。
  - **説明:** (ロケーションプロパティで指定した通りに) データ読み取り値の上、下、または横に、ロケーションの説明を表示する場合に選択します。
  - **説明形式:** ロケーションの説明のみ、またはロケーションとゾーンの説明を表示します。
  - **既定値として設定する:** グローバル設定ダッシュボードプリファレンスをすべて受け入れる場合に選択します (ステップを参照)。
3. 変更を保存します。

### ウォールマウントモニター用のダッシュボードを設定する

1. **[サイト マネージャー]** の **[ダッシュボード]** タブで、**[設定]** を選択します。
2. ロケーションデータを1、2、3、または4列に表示する場合に選択します。ロケーション数が増えると、必要な列数が増えます。各オプションをテストし、最も効果的にニーズに合う表示オプションを判断します。


 列を並べて表示するオプションを選択すると、アップロードしたダッシュボード画像は背景となります。

3. 変更を保存します。

## 4.4.3 ダッシュボード画像またはデータポイントの削除

### サイトの管理 または ビューの管理

監視対象の施設数の変更やモニターエリアの追加に応じてダッシュボードを更新できます。どのユーザーでも **[ビュー マネージャー]** に追加したダッシュボード画像、または編集を許可されているビューのダッシュボード画像を変更することができます。

-  「サイトの管理」権限および「フルコントロール」アクセス許可のあるグループに属しているユーザーであれば、**[サイト マネージャー]** でダッシュボードを変更することができます。  
「ビューの管理」権限および「フルコントロール」アクセス許可のあるグループに属しているユーザーであれば、**[ビュー マネージャー]** でダッシュボードを変更することができます。

#### 単一ダッシュボードのデータポイントを削除する

1. **[サイト マネージャー]** の **[ゾーンとロケーション]** ツリー上 (または **[ビュー マネージャー]** の **[ビュー]** ツリー上) で、変更するゾーンまたはロケーションダッシュボードを選択します。
2. **[ダッシュボード]** タブで、ダッシュボードデータポイントを右クリックして **[削除]** を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、**[削除]** を選択します。
4. 変更を保存するか、または **[元に戻す]** を選択してキャンセルします。

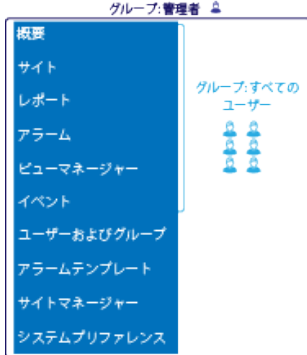
#### ダッシュボード画像またはすべてのデータポイントを削除する

1. **[サイト マネージャー]** の **[ゾーンとロケーション]** ツリー上 (または **[ビュー マネージャー]** の **[ビュー]** ツリー上) で、削除するダッシュボードを選択します。
2. **[ダッシュボード]** タブで **[ダッシュボードをクリア]** を選択します。
3. **[ゾーンとロケーション]** またはダッシュボード画像、あるいは両方を削除することを選択してから **[クリア]** を選択します。
4. 変更を保存するか、または **[元に戻す]** を選択してキャンセルします。



## 5. グループとユーザー

すべての viewLinc ユーザーは、1つ以上のグループに割り当てられている必要があります。各グループは権限が割り当てられており、グループ内のユーザーがアクセスできる viewLinc ウィンドウが定義されています。



ユーザーは1つ以上のグループに属することができます。作業開始に役立つように、使用可能な既定のグループが2つ用意されています。

**管理者:** viewLinc の管理者に追加されたユーザーは、すべての権限が割り当てられます。viewLinc でのすべての機能の実行、およびすべてのウィンドウへのアクセスが可能です。

**全員:** 新しいユーザーは、自動的に「全員」グループに割り当てられます。このグループは、[概要]、[サイト]、[レポート]、[アラーム]、[ビューマネージャー]、および[イベント]のウィンドウへのアクセスが与えられます。

ゾーンとロケーションのユーザーは、設定されたアクセス許可レベルによってウィンドウ内での表示または変更することができます(「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)

を参照)。


管理者グループのユーザーには、すべてのゾーンとロケーションに対するフルコントロールアクセス許可が自動的に与えられます。また、viewLinc Enterprise Server またはデバイスホストの再起動、システムアラームの受信確認、すべてのオフアラームの受信確認、ゾーンまたはロケーションの永久削除、検証状態の修正または DL データロガーのリモートロックなど、システムレベルでの変更を行うこともできます。

- ツアーを表示します:「権限とアクセス許可」、「グループの作成」、および「ユーザーの作成」が [ヘルプ] メニューでご視聴いただけます。

### 5.1 権限

権限はグループに割り当てられており、グループのすべてのユーザーは viewLinc の機能エリアにアクセスできます。グループには1つ以上の権限を割り当てることができ、ユーザーは1つ以上のグループのメンバーになることができます。既定では、新しいユーザーは、イベント管理の権限がある「全員」グループに自動的に割り当てられます。

- 以前のバージョンの viewLinc で作成されたユーザーは、割り当てられていた権限がすべて保持されます。さまざまな viewLinc 機能エリアへのアクセスをより効果的に管理するには、ユーザーのレガシー権限を削除して、同じ権限のあるグループに割り当てます。

 いったん削除されると、レガシーユーザー権限は再適用できません。



### 注意

viewLinc 管理者グループに割り当てられているユーザーは、次のシステムレベル機能へのアクセス許可が自動的に追加で付与されます。

- DL データロガーのリモートロックを解除する
- viewLinc を再起動する
- ネットワーク通信のテスト
- 非アクティブなアラームの受信確認
- システムアラームの受信確認
- セキュリティ状態の修正
- ホストアラームの一時停止
- 管理者グループにユーザーを追加する
- 管理者グループメンバーのユーザー情報の編集

表10 権限の定義

| 名前            | アクセス先  | 説明   |
|---------------|--|--|
| アラームテンプレートの管理 | アラームテンプレート   | アラームテンプレート(しきい値アラーム、デバイスアラーム、通知、メールとSMSの内容、スケジュール)を追加または編集します。   |
| デバイスの管理       | サイト マネージャー、ホストとデバイス タブ   | デバイスの追加、編集、非アクティブ化、ロック、およびホストアラーム設定の変更を行います。リンクしたロケーションに対するフルコントロールアクセス許可が必要です。                                  |
| イベントの管理       | [概要] ウィンドウ、[サイト] ウィンドウ、[レポート] ウィンドウ、[アラーム] ウィンドウ、[ビュー マネージャー] ウィンドウ、および [イベント] ウィンドウへのアクセスが与えられます。 | イベントとイベントコメントを表示および追加します。個人用ビューの作成。  |
| レポートの管理       | レポート   | 他のユーザーが作成したレポートを表示、印刷、コピー、および編集します(すべてのユーザーが自身のレポートの追加、編集、削除を行うことができます)。   |
| サイトの管理        | サイト マネージャー、ホストとデバイス タブ   | ゾーンとロケーションの追加、編集、非アクティブ化、リンクしたロケーションとのデバイスの交換、しきい値アラームとスケジュールの追加、ゾーンへのグループアクセス許可の割り当て、およびロケーションとチャネルのリンク解除を行います。 |

| 名前      | アクセス先     | 説明  |
|---------|-----------|---|
| システムの管理 | システム環境設定  | システム全体のプリファレンスの設定または編集、事前定義済みコメントの追加、およびユーザーとグループの追加と変更を行います。 |
| ビューの管理  | ビューマネージャー | 自身または他のユーザーのビューを追加、編集、または共有します。                               |

**i** グループ権限は、アクセス許可によって詳細に区分されます。権限とは、グループが viewLinc ウィンドウでの特定のタスクを完了することを許可するものであり、アクセス許可とは、グループが表示、構成、管理できるゾーンやロケーションを制御するものです(「アクセス許可」(102 ページ))を参照)。

## 5.2 グループ

### 5.2.1 グループの追加

#### システムの管理

グループを使うと、特定のユーザーだけがアクセスできる viewLinc エリアを定義できます。

- グループ内のユーザーにゾーンとロケーションのビューまたは管理を許可するには、ゾーンにグループアクセス許可を割り当てます(「アクセス許可」(102 ページ))を参照)。

#### グループの追加

1. [ユーザーおよびグループ] ウィンドウで、[グループ] タブを選択し、続いて [追加] を選択します。
2. [グループの追加] ウィンドウの [プロパティ] タブで、グループの名前を入力します。[説明] フィールドを使用してグループに割り当てる権限、またはグループの主な職務の説明を入力することができます。
3. [権限] タブを選択し、[権限の追加] を選択します。グループのユーザーには自動的に「イベントの管理」権限が付与されます。
4. このグループにユーザーを追加するには、[メンバー] タブを選択し、グループに追加するユーザーを選択します。
5. [保存] を選択します。


グループに変更を加えるには、「グループとユーザー」(161 ページ)を参照してください。

## 5.3 ユーザー

### 5.3.1 ユーザーの追加

#### システムの管理

ユーザーをシステムに追加する前に、ユーザーに付与する必要がある権限を決定します。ユーザーは、自分が割り当てられているグループを通じて権限を付与されます。

 管理者グループのメンバーのみが管理者グループに新しいユーザーを追加することができます。

#### ユーザーの追加

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、**[ユーザー]** タブを選択します。
2. ユーザーアカウントの重複追加を防ぐために、ユーザーが既に存在していないことを確認します。
  - a. **[検索]** フィールドで、ユーザー名または氏名を入力し、検索アイコンの 🔍 を選択します。
  - b.  を選択すると、フィールド内がクリアされ、全ユーザーの一覧が表示されます。
3. **[追加]** を選択します。
4. **[プロパティ]** タブで、以下の情報を入力します。
  - **ユーザー名と氏名:** ログインページで使用するユーザー名と社内参照用のフルネームを入力します(会社によって、ログイン認証のために省略名が使用されることがあります)。このユーザーが Windows 認証を使用してログインする場合は、その Windows ユーザー名を入力し、認証方法に **[Windows]** を選択します。
  - **メール、携帯番号:** レポートやアラーム通知を受け取ったり、アラーム受信確認を送信する際に使用するユーザーの連絡先の詳細情報を追加します。「+」記号、国番号および市外局番を含めて携帯電話番号を入力します。例: +44 604 273 6850(ダッシュ、スペースまたはピリオドを含めることもできますが、必須ではありません)。
  - **アラーム通知を送信:** (スケジュール機能が有効な場合に使用可能)スケジュールを選択して、このユーザーにアラーム通知を送信するタイミングを定義します。
    - **[常に]:** このユーザーは昼夜問わず、いつでも通知を受け取ります。
    - **[スケジュールに基づく]:** このユーザーがアラーム通知を受信するよう設定されているグループのメンバーである場合、このユーザーが通知を受け取る条件を定義するスケジュールを選択します。
    - **[なし]:** このユーザーは、アラーム通知を受け取るグループに割り当てられていてもアラーム通知を受け取りません。
  - **viewLinc PIN:** 1000~999999 の 4~6 桁の一意の PIN 番号を入力します。この番号は、ユーザーのメールアドレスまたはモバイル デバイスでメールまたは SMS アラーム受信確認を受け取る時に必要となります。
  - **優先言語:** ユーザーがレポートを作成したり、viewLinc がこのユーザーにレポートやアラーム通知を送信する際に使用する言語を選択します。言語を選択しないと、システムの既定の言語が使用されます。ユーザーはどの言語も選択できます。

**i** viewLinc にログインする際に選択した言語は viewLinc の表示のみに適用されます。

- **音声アラーム:** viewLinc にログインしているときに、ユーザーのデバイス(デスクトップ PC)で音声アラームを有効にすることを選択します。システム環境設定で音声アラームを有効にする必要があります(「音声アラーム」(89 ページ))を参照)。

**i** 音源の生成は、直近のアラームによってのみ行われます。ユーザーはメインの viewLinc ウィンドウで音声アラームアイコン(🔊)をクリックして、音声アラームをオフにすることができます。

5. **認証**の方法を選択します。

- **viewLinc:** 一意の viewLinc パスワードを設定する場合はこのオプションを選択し、続いて **[パスワード]** フィールドと **[パスワードの確認]** フィールドに新しいパスワードを入力します。
- **Windows:** ユーザーが現在の Windows パスワードを入力して viewLinc にログインできるようにする場合はこのオプションを選択します。Windows ユーザー名が入力されていることを **[ユーザー名]** フィールドで確認し(手順 4 を参照)、続けて **[ドメイン]** を指定します。

**o** ViewLinc において何かを変更した場合や、設定した分数が経過するたびに、ユーザーが ID を再確認(ユーザー名とパスワードを再入力)するのを必須にできます。「システム変更の認証」(93 ページ)を参照してください。

6. **[グループ]** タブで、ユーザーをグループに割り当てます。**[選択済み]** カラムで、このユーザーを所属させるすべてのグループにチェックを入れます。**[権限]** カラムを見直し、このユーザーに必要な権限が与えられていることを確認します。

7. **[保存]** を選択します。

後でユーザー プロファイルに変更を加える方法は、「グループとユーザー」(161 ページ)を参照してください。



## 6. アラーム テンプレート

アラーム テンプレートは、ロケーションとデバイスのアラーム状態と通知要件を定義するために使用します。



- **しきい値アラームテンプレート**を作成して、アラームをトリガーする状態を指定し、1つ以上のロケーションにテンプレートを適用します。
- 既定の**デバイスアラームテンプレート**が用意されており、viewLine システムに接続されている新しい各デバイスに割り当てられます。デバイスアラームテンプレートは、デバイス状態をいつどのように通知するかを指定します。既定のテンプレートを変更すること、または新しいデバイスアラームテンプレートを作成することができます。
- **アラーム通知テンプレート**を作成して、しきい値またはデバイスアラームの発生時に通知するユーザー、メールやSMSメッセージで配信する情報、一般対象ユーザーに通知するために他の

視聴覚的キュー(ライトの点滅やサウンドなど)を実行するかどうか、および通知を受けたユーザーがアラームを受信確認する必要があるかどうかを定義します。アラーム通知テンプレートは、しきい値アラームテンプレートを使用して、ロケーションに適用されます。

- 既定の**メールとSMSテンプレート**が用意されています。ネットワークのさまざまなアラーム状態に関して viewLinc が発行する標準情報が含まれています。既定のテンプレートは変更できます。
- (任意指定)**スケジュール**を作成して、ロケーションしきい値を監視する時期とアラーム通知を送信する時期を定義します。日中のスケジュールと夜間のスケジュールを設定して、異なるチームに通知を送信すること、または休暇中のユーザーにアラームを送信しないようにスケジュールを設定することができます。スケジュール機能を有効にする必要があります。「スケジュール機能」(89 ページ)を参照してください。

**i** アラームテンプレートは、**アラームテンプレートの管理権限**を持つグループに割り当てられているユーザーが追加/変更できます。

## 6.1 アラームのタイプ

アラームは早急な解決が必要な可能性のある問題を通知するだけでなく、デバイスやホストと viewLinc Enterprise Server 間の通信の中断に関する通知、システムの状態や構成の変更に関する最新情報、および今後のメンテナンス要件に関するリマインダーを提供します。

アクセス許可アラームは、[アラーム] ウィンドウ(デバイスおよびシステムアラーム、および表示アクセス許可があるロケーションのしきい値アラーム)、[サイト] ウィンドウ(表示許可があるロケーションのデバイスおよびしきい値アラーム)、または [概要] ウィンドウ(ビューに割り当てられたロケーションのデバイスおよびしきい値アラーム)に表示することができます。

すべてのアラームイベントは、監査証跡を確保するために、イベントログに記録されます。

表11 アラームの説明

| アラームの種類 | 説明   |
|---------|--|
| システム    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• イベントログ検証アラームは、viewLinc システム外でイベントログの変更が行われたかどうかを提示します。</li> <li>• データベース検証アラームは、データベースの破損や viewLinc の外側から履歴データベースに加えられた構成の変更を知らせます。</li> <li>• システムアラーム設定は、システム環境設定で構成します。</li> </ul>                             |
| しきい値    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• しきい値アラームは、監視対象環境の過剰な状態の変化を通知します。</li> <li>• しきい値アラーム設定はしきい値アラームテンプレートで定義されその後、ロケーションに適用されます。</li> </ul>   |
| デバイス    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイス構成アラームは、デバイス データ収集の中断を示します。</li> <li>• ホスト構成アラームは、デバイス ホストやアクセス ポイントと viewLinc Enterprise Server 間の同期エラーを通知します。</li> <li>• デバイス検証アラームは、デバイス メモリの破損を示します。</li> <li>• デバイス校正アラームは、今後の校正サービス要件を通知します。</li> </ul> |



| アラームの種類 | 説明   |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイス ホストやアクセス ポイントと viewLinc Enterprise Server 間の接続が切断されると、ホスト通信アラームが発生します。</li> <li>• デバイス通信アラームは、ホストコンピューター、アクセス ポイント、または ViewLinc Enterprise Server と、これらに接続しているデバイスとの間の通信エラーを示します。</li> <li>• デバイス アラームの設定はテンプレートで定義します。</li> </ul> |

## 6.2 システム アラーム

システムアラームは、viewLinc が標準のデスクトップ連携外で行われた変更を検出すると発生します。これは、データベース改ざんの可能性を警告するために発動します。

システムアラーム通知(メールまたは SMS)を受け取ったら、可能性がある原因を調査し、アラーム通知を受信確認して、必要があれば会社の標準操作手順書(SOP)に従って問題を解決します。

重大なシステムエラーと警告は IT ネットワーク マネージャーに自動的に送信されますが、追加のメールまたは SMS システムアラーム通知を既定の管理者グループのメンバーに送信するかどうかを選ぶオプションがあります。

システムアラームのメールと SMS のメッセージの内容は変更できます(「メール / SMS の内容」(83 ページ))を参照してください。

### システムアラームの種類

- データベース検証: このアラームは、構成データベースへの変更、データ改変(外部スクリプトの可能性)、データ破損などのデバイスの改ざんがあることを示します。
- イベントログ検証: このアラームは、viewLinc システムの外部からイベントログに変更が加えられた場合など、データベース セキュリティが中断されたことを示します。

システムアラーム設定を定義するには、「システムアラームプリファレンス」(98 ページ)を参照してください。

## 6.3 しきい値アラーム

しきい値により、在庫や生産環境の品質を維持する上で必要な許容される状態の限度値を定義します。しきい値状態の限度値はしきい値アラームテンプレートとして保存され、1つ以上のロケーションに適用することができます(「しきい値アラームテンプレートの作成」(64 ページ)を参照してください)。状態の限度値を超えると、viewLinc でアラームが発生します。オプションとして、1つ以上のアラーム通知を送信することもできます(「アラーム通知」(78 ページ)を参照してください)。

しきい値アラームテンプレートでは、以下が定義されます。

- 1つ以上の状態に関連付けられている値(低-低、低、高、高-高、変更レート、アラームオフ マージン)
- 状態の重大性を表す色コード

- 1つ以上のしきい値アラームのアクティブ化の遅延
- アラーム受信確認の必要性

しきい値を変更する頻度または状態の変化に関する情報を得る頻度に応じて、1つ以上のしきい値テンプレートをロケーションに適用することができます。

また、アラームオフマージンを指定して、指定の温度範囲内に収まる状態の変化が viewLinc で無視され、状態がこの範囲に留まっている間はアラーム通知が持続的に送信されるようにすることができます。

最大 5 つのしきい値設定を単一のテンプレートとして保存でき、それを 1 つ以上のロケーションに割り当てることができます。設定が変更されると、割り当てられたすべてのロケーションに新しい設定が適用されます。

#### 例

温度を 10° C ~ 12° C に保つ必要がある監視対象エリアがある場合、次のレベルを 1 つまたはすべて設定することができます。

- 低しきい値を 10.5° C に設定して、温度が低-低しきい値に近づいた場合に警告が発せられるようにする。
- 低-低しきい値を 10° C に設定し、温度が 1 分以上低いほうのしきい値を超えた場合に特定のアラーム設定がトリガーされるようにする。
- 高しきい値を 11.5° C に設定して、温度が高-高しきい値に近づいた場合に警告が発せられるようにする。
- 高-高しきい値を 12° C に設定し、温度が 5 分以上高いほうのしきい値を超えた場合に特定のアラーム設定がトリガーされるようにする。
- 変更レートを 0.25° C/分に設定して、温度が急激に上下に変化した場合に警告が発せられるようにする。

## 6.3.1 しきい値アラーム テンプレートの作成

### アラーム テンプレートの管理

しきい値設定 (高/低状態の限度値) は、再利用可能なテンプレートに格納されており、1 つ以上のロケーションに適用することができます。これらのしきい値設定は、特定のロケーションでアラームをトリガーする状態を定義します。

しきい値アラーム テンプレートの詳細については、「しきい値アラーム」(63 ページ)を参照してください。

#### しきい値アラーム テンプレートを作成する

1. [アラーム テンプレート] ウィンドウで、[しきい値アラーム] タブを選択します。
2. [追加] > [しきい値アラーム テンプレートの追加] を選択します。既存のテンプレートから設定をコピーするには、テンプレートを選択してから、[追加] > [選択したしきい値アラーム テンプレートをコピー] を選択します。

**しきい値アラームテンプレートの追加**

名前

測定の種類

単位

アラームオフマージン

アクセス許可

説明

**しきい値**  
1つ以上のしきい値レベルを選択してください。

| 選択                       | レベル    | しきい値   | プライオリティ | レポート<br>カテゴリ | アラーム遅延 |   | 受信確認 | しきい<br>値<br>アイコン<br>の色 |
|--------------------------|--------|--------|---------|--------------|--------|---|------|------------------------|
|                          |        |        |         |              | 時間     | 分 |      |                        |
| <input type="checkbox"/> | ↑ high | >20.00 | 高       | 警告           | 0      | 0 | 強制可  | 赤                      |
| <input type="checkbox"/> | ↑ high | >20.00 | 中       | 警告           | 0      | 0 | 強制可  | 黄                      |

3. **【しきい値アラームテンプレートの追加】** ウィンドウで、新規テンプレートに一意の名前を入力し、テンプレートの詳細を設定します。
  - **測定の種類:** 選択したロケーションの監視に使用する測定の種類を選択します。
  - **単位:** この測定の種類を記録する際の単位を選択します。
  - **アラームオフマージン:** アクティブなアラーム範囲を指定します。アラーム状態がアクティブなアラーム範囲内で変動している場合、アラームはオフになりません。例を挙げると、高しきい値が 10° C で、アラームオフマージンが 1° C の場合は、温度が 9° C を下回るまでアラームはオフになりません。
  - **アクセス許可:** このテンプレートをロケーションに適用するか、または変更することが許可されているグループを選択します。
  - **説明:** (任意指定)しきい値テンプレート設定に関する詳細を入力します。
4. 1つ以上のしきい値レベルを有効にします。
  - **選択:** アクティブ化したいしきい値レベルを選択します。
  - **レベル:** 5つのしきい値レベルが使用可能ですが、選択したレベルに対する値のみを入力します。
  - **しきい値:** 手で数値を入力するか、または上下矢印で数値を指定します。
  - **プライオリティ:** しきい値の応答プライオリティを設定します。プライオリティ値は、[アラーム] ウィンドウの状態の重大性を目で確認する際の目安になります。
  - **レポートカテゴリ:** この設定は、しきい値レベルによってトリガーされたアラームをレポートで「アラーム」と表示するか、または「警告」と表示するかを定義します。レポート要件に応じて、これらのカテゴリをレポートに含めるか、レポートから除外するかレポートオプションを設定できます。

- **アラーム遅延**:しきい値を超えて直ちにしきい値アラームをトリガーしないようにする場合には遅延を設定します。遅延期間を過ぎても逸脱が継続する場合にアラームをトリガーするには、遅延を設定するとよいでしょう。

#### 5. 【保存】を選択します。

しきい値アラーム テンプレートをロケーションに適用するには、「しきい値アラーム テンプレートのロケーションへの適用」(66 ページ)を参照してください。

## 6.3.2 しきい値アラーム テンプレートのロケーションへの適用

### アラーム テンプレートの管理

しきい値アラーム テンプレートを作成すると、テンプレートをゾーンまたは特定のロケーションに適用できるようになります。1つのロケーションに最大6つのしきい値アラーム テンプレートを適用して有効にし、それぞれ別の時間に異なる監視ニーズに対応することができます。

しきい値アラーム テンプレートの作成については、「しきい値アラーム テンプレートの作成」(64 ページ)を参照してください。



しきい値アラーム テンプレートをロケーションに適用するには、選択したロケーションに対して「アラームの構成」以上のアクセス許可が必要となります。

### しきい値アラーム テンプレートのロケーションへの適用


1. **【サイト マネージャー】**の**【ゾーンとロケーション】**ツリーで、ゾーンまたはロケーションを選択します ([Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数のゾーンとロケーションを選択することができます)。






ロケーションのリンクされたデバイス測定範囲外のしきい値アラームレベルは無視されます。

2. **【管理】**>**【しきい値アラームの追加】**を選択します。**【しきい値アラームの追加】** ウィンドウで、以下のフィールドに入力します。
  - **ロケーション**:しきい値アラーム テンプレートが正しいロケーションに追加されていることを確認します。ゾーンを選択した場合は、ゾーン内のすべてのロケーションにしきい値アラーム テンプレートが適用されます。
  - **状態**:状態を[有効]に設定して、選択したロケーションのしきい値が積極的に監視されるようにします。このロケーションである時期までしきい値アラーム設定をアクティブにたくない場合(他の構成を処理する必要がある可能性があります)は、「無効」に設定します。
  - **デバイスに送信**:しきい値レベルの情報をRFL100シリーズまたはHMT140シリーズのデータロガーに送信するかどうかを選択します。**【デバイス上のアラーム】**カラムのチェックボックスを使用して、表示するしきい値レベルを選択します。HMT140 データロガーに表示できるのは2レベルのみです(「高」1つおよび「低」1つ)。
  - **デバイスのパスワード**:選択したロケーションが、パスワード機能が有効になっているHMT140 デバイスにリンクされている場合は、パスワードを入力して、しきい値設定を適用します。
  - **測定の種類**:このロケーションで測定する状態の種類を選択します。

- ・ **しきい値アラーム テンプレート**: 利用可能なしきい値アラーム テンプレートを選択します。しきい値テンプレートの詳細がグリッドに表示されます。
3. 各アラームレベルで、しきい値アラーム設定を更新します。
    - ・ **デバイス上のアラーム**: RFL100 および HMT140 シリーズのデータロガーが対象です。表示するしきい値レベルを選択します (HMT140 では「高」1 つと「低」1 つの 2 レベル、RFL では 4 レベルを受け入れることができます)。デバイスが複数あるエリアでは、最も重要なしきい値レベルのみを表示することが勧められます。デバイスを移動しても、デバイスのしきい値レベルは有効のままとなります。

 **[デバイスに送信]** オプションを有効にして、しきい値レベルがデバイス上のアラームを示すようにする必要があります。

- ・ **アラーム通知テンプレート**: このしきい値を超えた場合に使用するアラーム通知テンプレートを選択します。アラーム通知テンプレートにより、通知先と通知時期を定義することができます。「アラーム通知」(78 ページ)を参照してください。
  - ・ **メッセージまたはコメント**: すべてのしきい値アラーム通知に、viewLinc の既定の SMS とメールの内容テンプレートに指定された内容が使用されます。このフィールドを使用して、内容テンプレートに組み込まれている [AlarmMessage] と [Comment] マクロの代わりにカスタムテキストを挿入します。メッセージ内容の詳細については、「メール / SMS の内容」(83 ページ)を参照してください。
4. **[保存]** を選択します。

-  同じ測定の種類を使用しているしきい値テンプレートを他のロケーションにコピーする方法:
1. **[しきい値アラーム設定]** タブで、しきい値を選択します。
  2.  **[選択したしきい値アラーム設定をコピー]** を選択します。
  3. **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、ゾーンまたはロケーションを選択します。
  4. **[しきい値アラーム設定]** タブで、 **[選択したゾーンまたはロケーションに貼り付け]** を選択します。

### 6.3.3 しきい値アラーム テンプレートの編集

#### アラーム テンプレートの管理

同じしきい値アラームテンプレートを使用して、すべてのロケーションのしきい値レベルを調整します。しきい値アラームテンプレートの詳細については、「しきい値アラーム」(63 ページ)を参照してください。



#### 注意

しきい値アラームテンプレートに変更を加えると、テンプレートを使用しているすべてのロケーションが影響を受けます。

#### しきい値アラームテンプレートを編集する


1. **[アラームテンプレート]** で、**[しきい値アラーム]** タブを選択します。
2. 変更するテンプレートを選択して、**[編集]** を選択します。

3. **[ロケーションの表示]**を選択して、現在テンプレートを\_usingしているすべてのロケーションに変更を適用できることを確認します。
4. **編集可能な設定を変更**します。すべてのフィールドオプションについては、「しきい値アラームテンプレートの作成」(64 ページ)を参照してください。
5. **[保存]**を選択します。


## 6.3.4 ロケーションしきい値アラーム設定の編集

### アラーム テンプレートの管理

個々または複数のロケーションで使用されるしきい値アラーム状態、しきい値アラームテンプレート、またはアラーム通知テンプレートを変更します。


-  しきい値アラーム設定を変更するには、選択したロケーションに対して「アラーム構成」以上のアクセス許可が必要となります。

### しきい値アラーム設定の編集

1. **[サイト マネージャー]** の **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、変更するゾーンまたはロケーションを選択します ([Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数のゾーンとロケーションを選択することができます)。
2. **[しきい値アラーム設定]** タブを選択して、1 つ以上の **[しきい値アラーム]** ロウを選択します。
3.  **[しきい値アラーム設定の編集]** を選択します。編集可能なオプションについては、「しきい値アラームテンプレートのロケーションへの適用」(66 ページ)を参照してください。



#### 注意

異なる設定の複数のロケーションの設定 (アイコン  が付いています) を変更する場合は、混合設定を変更しないことをお勧めします。

4. **[保存]**を選択します。

## 6.3.5 しきい値アラームの非アクティブ化/再アクティブ化

### アラーム テンプレートの管理

しきい値アラーム設定は削除できませんが、非アクティブ化することはできます。非アクティブ化すると、しきい値アラーム設定ロウが非表示になります。非アクティブ化されたしきい値アラーム設定は、ロケーションでいつでも再アクティブ化することができます。

適用されているしきい値アラーム設定がロケーションで一時的に使用されないようにするには (6 つ以上のしきい値アラーム設定をロケーションに保存する必要がある場合に便利です)、しきい値アラーム設定を無効にします (「しきい値アラーム設定の無効化/有効化」(171 ページ)を参照してください)。

### ロケーションのしきい値アラームを非アクティブ化する

1. [サイト マネージャー] で、[ゾーンとロケーション] ツリーからロケーションを選択します。
2. [しきい値アラーム設定] タブで、非アクティブ化するしきい値を選択します。
3. [非アクティブ化]を選択します。
4. プロンプトが表示されたら、[非アクティブ化]を選択します。

- 非アクティブ化されたしきい値を表示するには、[表示] > [非アクティブ化されたしきい値設定を含める]を選択します。

### ロケーションのしきい値アラームを再アクティブ化する

1. [サイト マネージャー] で、[ゾーンとロケーション] ツリーからロケーションを選択します。
2. [しきい値アラーム設定] タブで、[表示] > [非アクティブ化されたしきい値設定を含める] の順に選択します。
3. 表示されるしきい値アラームテンプレートのリストから、再アクティブ化するしきい値をハイライトし、[アクティブ化]を選択します。
4. プロンプトが表示されたら、[アクティブ化]を選択します。

## 6.4 デバイス アラーム

デバイスと viewLinc Enterprise Server 間の通信は、状態を継続的に監視するために必要です。会社の通知要件に従って、対応が必要なすべての問題に関する通知を確実に受信するために、既定のホストとデバイスアラームテンプレートを設定してください。

[サイト マネージャー] の [デバイス アラーム] タブに、デバイスに適用するデバイスアラームテンプレートの一覧が表示されます。既定のデバイスアラームテンプレートを変更できるほか、[アラームテンプレート] ウィンドウで新しいデバイスアラームテンプレートを作成することもできます。

### 6.4.1 デバイスアラームの種類

4つのデバイスアラームテンプレートが viewLinc Enterprise Server (データロガーとトランスミッタ) に接続されている各監視デバイスに自動的に適用されます。2つのアラームテンプレートがホスト(デバイスホストコンピューターとアクセスポイント)に適用されます。

デバイスアラームテンプレートには、既定の設定(変更可能)が含まれています。これにより、以下を定義できます。

- アラームのプライオリティ
- アラーム通知の遅延
- 受信確認要求
- デバイスアラーム設定を変更する権限を付与されているグループ

デバイスに割り当てられている既定のデバイスアラームテンプレートは変更できます。特定のロケーション用として、固有の設定で新しいデバイスアラームテンプレートを作成することもできます。

### \* デバイスまたはホストの通信アラーム

ホストコンピューター、アクセスポイント、または ViewLinc Enterprise Server と、これらに接続しているデバイスとの通信が中断されたときに、デバイス通信アラームが発生します。

デバイス ホストやアクセスポイントと viewLinc Enterprise Server 間の接続が切断されると、ホスト通信アラームが発生します。通信アラームは、viewLinc における監視やアラーム障害の可能性などの問題を示唆するシステムの健康診断に相当するものです。

既定では、ホストとデバイスごとに通信アラーム テンプレートが 1 つ事前構成されています。

通信アラーム テンプレートにより、以下を管理することができます。

- アラーム通知の表示方法
- 通知の受取人
- アラーム通知を発動する時間
- アラーム受信確認の必要性

- デバイス ホストコンピューターまたは アクセスポイントホストがオフラインになると、ホスト通信アラームのみが発生します。接続されているデバイスでは、デバイス通信アラームは生成されません。

### ⊗ デバイスまたはホストの構成アラーム

デバイス構成アラームは、デバイスが正しく構成されていない場合、またはデータ履歴の記録が停止された場合に発信されます。ホスト構成アラームは、ホストと接続されているデバイスの中で同期エラーが発生した場合にトリガーされます。

いくつか例を挙げます：

- 内部デバイス エラーのためデータ履歴が記録できない。
- viewLinc デバイスの停止モードが「メモリフルで上書き」に設定されていないことが検出された (DL ロガー)。
- デバイスがデータ記録開始を遅延する設定となっているため、viewLinc で履歴サンプルを取得できない (DL ロガー)。
- デバイスが別のシステムでロックされていることが viewLinc で検出された。
- デバイスで、ロケーションにリンクされているチャンネルが無効になった可能性がある。
- IR センサーの送信が多すぎるため、バッテリーが消耗している。

viewLinc では、デバイス構成アラーム通知が送信されるまでの既定の遅延時間は 60 秒に設定されています。viewLinc で、通知の遅延時間をはじめとしたデバイス構成設定を調整することができます。



### △ デバイス検証アラーム

デバイス内の検証メモリに破損または変更が生じた場合、このアラーム通知は Vaisala テクニカル サポートに連絡して支援を仰ぐことが推奨されます。

### ≡ デバイス校正アラーム

デバイス校正アラームは、Vaisala データロガーまたはプローブの校正予定日が近づくと断続的に送られる通知です。

既定では、校正期限の3か月前、1か月前、再校正予定日当日に通知が送信されます(最終校正日から1年間、自動生成されます)。このアラームは、受信確認された後でも、デバイスの再校正が行われるまでアクティブのままとなります(詳細については、Vaisala 校正サービスセンターにお問い合わせください)。

- すべてのデータロガーに関する既定の校正期間は **[システム環境設定]** で設定できます。また、「デバイスの管理」権限がある場合は、**[サイト マネージャー]** で特定のデータロガーまたはプローブの校正期間を変更することができます(**[ホストとデバイス]** > **[構成]** > **[プロパティの編集]**)。

## 6.4.2 ホスト通信アラーム設定

### 🔒 アラーム テンプレートの管理

viewLinc は既定で、viewLinc モニタリングシステムに追加されたすべての新しいホストにホスト通信アラーム テンプレートを割り当てます。ホスト通信アラーム設定は変更でき、アラーム通知テンプレートを追加することができます。これらのテンプレートにより、ホスト通信アラームをアクティブ化する時期、通知先、および(報告目的のために)割り当てられるアラームのプライオリティを定義します。

- 既定またはカスタムのデバイス アラーム テンプレートのプロパティを表示するには、「デバイス アラーム テンプレートの編集」(77 ページ)を参照してください。

### ホスト通信アラーム設定の編集

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、1つ以上のホストを選択します。
3. **[構成]** > **[ホスト通信アラーム設定]** を選択します。

#### 4. プロパティを設定します。

- **状態:** ホスト通信アラームは、状態が有効になっている場合にのみ生成されます。
- **デバイスアラームテンプレート:** 既定のテンプレートまたは既定の通信アラームを使用します。または、ドロップダウンリストでカスタムテンプレートを選択します。選択したテンプレートは、選択されているすべてのホストに適用されます。
- **アラーム通知テンプレート:** ドロップダウンリストでカスタムテンプレートを選択します。アラーム通知が選択されていないと、通知は送信されません(アラームは常に、[サイト]、[概要]、または [アラーム] ウィンドウの [ロケーションアラーム] タブに表示されます)。
- **警告メッセージ:** (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める説明メッセージを入力します。このテキストは、関連する既定のメールテンプレートの [AlarmMessage] マクロの代わりに使用できます。または、カスタムメールまたは SMS テンプレートに追加することができます。
- **アラームコメント:** (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める内容を事前定義済みコメントのリストの中から選択します。または、カスタムコメントを入力します。このテキストは、関連する既定のメールテンプレートの [Comments] マクロの代わりに使用できます。または、カスタムメールまたは SMS テンプレートに追加することができます。

#### 5. 変更を保存します。

## 6.4.3 ホスト構成アラーム設定

### アラームテンプレートの管理

viewLinc では、既定で、viewLinc 監視システムに追加された新しいホストすべてにホスト構成アラームテンプレートが割り当てられます。ホスト構成アラーム設定は変更でき、アラーム通知テンプレートを追加することができます。これらのテンプレートにより、ホスト構成アラームをアクティブ化する時期、通知先、および(レポートのために)割り当てられるアラームのプライオリティを定義します。

- 既定またはカスタムのデバイス アラーム テンプレートのプロパティを表示するには、「デバイス アラーム テンプレートの編集」(77 ページ)を参照してください。

### ホスト構成アラーム設定の編集

- [**サイト マネージャー**] で、[**ホストとデバイス**] タブを選択します。
- [**ホストとデバイス**] ツリーで、1 つ以上のホストを選択します。
- [**構成**] > [**ホスト構成アラーム設定**] の順に選択します。
- プロパティを設定します。
  - 状態**: ホスト構成アラームは、状態が有効になっている場合にのみ生成されます。
  - デバイス アラーム テンプレート**: 既定のデバイス アラーム テンプレートまたは既定のホスト構成アラームを使用します。または、ドロップダウンリストでカスタム テンプレートを選択します。選択したテンプレートは、選択されているすべてのホストに適用されます。
  - アラーム通知テンプレート**: ドロップダウンリストでテンプレートを選択します。アラーム通知が選択されていないと、通知は送信されません(アラームは常に、[**サイト**]、[**概要**]、または [**アラーム**] ウィンドウの [**ロケーションアラーム**] タブに表示されます。
  - 警告メッセージ**: (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める説明メッセージを入力します。このテキストは、関連する既定のメール テンプレートの [AlarmMessage] マクロの代わりに使用できます。または、カスタム メールまたは SMS テンプレートに追加することができます。
  - アラームコメント**: (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める内容を事前定義済みコメントのリストの中から選択します。または、カスタム コメントを入力します。このテキストは、関連する既定のメール テンプレートの [Comments] マクロの代わりに使用できます。または、カスタム メールまたは SMS テンプレートに追加することができます。
- 変更を保存します。

## 6.4.4 デバイスアラーム テンプレートの作成

### アラーム テンプレートの管理

テンプレート プロパティの大部分を複製したいときは、デバイス アラーム テンプレートのコピーを作成します。また、新しくすべてのプロパティを定義したいときは、新規のテンプレートを作成します。

デバイス アラームの詳細については、「デバイス アラームの種類」(69 ページ)を参照してください。

### デバイスアラームテンプレートを作成する

- [**アラーム テンプレート**] で、[**デバイス アラーム**] タブを選択します。
- [**追加**] > [**デバイス アラーム テンプレートの追加**] を選択します。設定をコピーするには、既存のテンプレートを選択して、[**追加**] > [**選択したデバイスアラームテンプレートをコピー**] を選択します。

### デバイスアラームテンプレートの追加

名前

プライオリティ i

アラーム遅延 i  時間 :  分

受信確認  省略可

アクセス許可 i

説明

3. [デバイスアラームテンプレートの追加] ウィンドウで、新規テンプレートに一意の名前を入力して、テンプレートのプロパティを設定します。
  - **プライオリティ:** プライオリティレベルは、問題の重大性を視覚的に示す指標として使用するもので、これにより問題にどれほど迅速に対応しなければならないかを判断することができます。
  - **アラーム遅延:** 遅延とは、viewLinc でデバイスアラーム状態が識別された際に、問題が検出されてからデバイスアラームがトリガーされるまでの時間差を指します。プライオリティに従って、遅延の値を設定することをお勧めします。
  - **受信確認:** このデバイスアラームのユーザー受信確認が必要かどうかを示します。アラームが受信確認されると、アクションがイベントログに記録されます。
  - **アクセス許可:** このテンプレートを変更または適用することを許可するグループを選択します。ロケーションにテンプレートを適用できるようにするには、グループに「アラームの構成」アクセス許可を付与する必要があります。
  - **説明:** (オプション) デバイスアラームテンプレートに関する詳細を入力します。
4. **【保存】**を選択します。


これでこのデバイスアラームテンプレートをロケーションに適用できるようになりました。

- i デバイスアラームテンプレートをロケーションに適用した場合、そのロケーションが別のデバイスにリンクされていても、ロケーション上で有効性は維持されます。


## 6.4.5 デバイスアラーム テンプレートの適用

### アラーム テンプレートの管理

既定のデバイスアラームテンプレートはリンクしたロケーションに自動的に適用され、テンプレート設定は変更することができます。また、カスタムデバイスアラームテンプレートを作成して適用することができます。

 カスタムデバイスアラームテンプレートをロケーションに適用するには、選択したロケーションに対して「アラーム構成」以上のアクセス許可が必要となります。

### カスタム デバイス アラーム テンプレートをロケーションに適用する

1. [サイト マネージャー] で、[ゾーンとロケーション] ツリーに移動して、ゾーンまたはロケーションを選択します。
2. [デバイスアラーム設定] タブを選択します。
3. 変更する各デバイスのアラームタイプのロウを選択して、 [編集] を選択します(または、メニューを右クリックします)。**[アラームタイプ]** カラムを昇順または降順に並び替えて、同じデバイスアラームタイプのグループを選択します。
4. [デバイスアラーム設定を編集する] ウィンドウで、正しいロケーションが選択されていることを確認します。

### デバイス アラーム設定を編集する

//van-dh001/Tokyo (13051005)

影響を受けるロケーション

状態  有効

アラームの種類  デバイス構成アラーム

デバイスアラームテンプレート

アラーム通知テンプレート

警告メッセージ 

アラームコメント 

5. デバイス アラーム設定を編集します。
  - **状態**: デバイス アラームは、状態が有効になっている場合にのみ生成されます。
  - **デバイス アラーム テンプレート**: アラーム タイプに使用するテンプレートを選択します。複数のテンプレートを使用している場合は、現在のテンプレートの選択を変更しないことをお勧めします。
  - **アラーム通知テンプレート**: 選択したロケーションでデバイス アラームに使用するアラーム通知テンプレートを選択します。複数のテンプレートを使用している場合は、現在のテンプレートの選択を変更しないことをお勧めします。
  - **警告メッセージとアラームコメント**: viewLinc の既定の SMS とメールの内容テンプレートで指定されている内容が、すべてのデバイス アラーム通知に使用されます。これらのフィールドを使用して、内容テンプレートに組み込まれている [AlarmMessage] と [Comment] マクロの代わりにカスタムテキストを挿入します。メッセージ内容の詳細については、「メール / SMS の内容」(83 ページ)を参照してください。
6. **[保存]**を選択します。

## 6.4.6 デバイスアラーム テンプレートの編集

### アラーム テンプレートの管理

既定の viewLinc デバイスアラーム テンプレートを使用して、すべてのロケーションのデバイスアラーム テンプレート設定を変更します。

デバイスアラーム テンプレートの詳細については、「デバイスアラームの種類」(69 ページ)を参照してください。


#### デバイスアラームテンプレートの編集

1. [アラーム テンプレート] で、[デバイスアラーム] タブを選択します。
2. 変更するテンプレートを選択して、[編集] を選択します。
3. [ロケーションの表示] を選択して、現在テンプレートを使用しているすべてのロケーションに変更を適用できることを確認します。
4. 編集可能な設定を変更します。すべてのフィールド オプションについては、「デバイスアラーム テンプレートの作成」(73 ページ)を参照してください。
5. [保存] を選択します。


## 6.4.7 ロケーション デバイスアラーム設定の編集

### アラーム テンプレートの管理

デバイスアラーム設定はデバイスごとに個別に変更したり、複数のデバイスに同時に適用したりすることができます。

 デバイスアラーム設定を変更するには、選択したロケーションに対して「アラーム構成」以上のアクセス許可が必要となります。

#### デバイスアラーム設定を編集する

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、変更するゾーンまたはロケーションを選択します ([Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数のゾーンとロケーションを選択することができます)。
2. [デバイスアラーム設定] タブを選択して、グリッドで 1 つ以上の [デバイスアラーム] ロウを選択します。
3.  [デバイスアラーム設定を編集する] を選択して、[デバイスアラーム設定を編集する] ウィンドウで設定を調整します。
  - **影響を受けるロケーション:** このデバイスにリンクしているすべてのロケーションが、新しいデバイスアラーム設定で更新できることを確認します。あるデバイスのチャンネルに複数のロケーションがリンクしている場合、影響を受けるすべてのロケーションに新しいアラームテンプレート設定が適用可能なことを確認してください。
  - **状態:** 状態が無効に設定されている場合は、viewLinc では指定のデバイスアラームやデバイス通知は行われません。
  - **デバイスアラームテンプレート:** デバイスアラームテンプレートを選択するか、または提供されている既定のオプションを使用します。デバイスアラームテンプレートは、デバイスアラーム

ム状態のプライオリティレベル、発動条件、受信確認の有無を設定します。複数のデバイスアラームが選択されている場合は、現在のテンプレートの選択を変更しないことをお勧めします。

- **アラーム通知テンプレート:** アラーム通知テンプレートを選択するか、または提供されている既定のオプションを使用します。アラーム通知テンプレートで、通知先相手、通知時期、通知方法を指定します。複数のデバイスアラームが選択されている場合は、現在のテンプレートの選択を変更しないことをお勧めします。
- **警告メッセージ:** (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める説明メッセージを入力します。このテキストは、関連する既定のメールテンプレートの [AlarmMessage] マクロの代わりに使用できます。または、カスタムメールまたは SMS テンプレートに追加することができます。
- **アラームコメント:** (任意指定) メールまたは SMS 通知に含める内容を事前定義済みコメントのリストの中から選択します。または、カスタムコメントを入力します。このテキストは、関連する既定のメールテンプレートの [Comments] マクロの代わりに使用できます。または、カスタムメールまたは SMS テンプレートに追加することができます。

4. **【保存】**を選択します。

## 6.5 アラーム通知

アラーム通知テンプレートでは、以下が定義されます。

- アラーム通知のタイミング。
- 通知の受取人。
- 通知の配信方法。
- 視覚の外部アラームコマンドを起動するかどうか。
- アラームのトリガー後に通知の遅延が必要になるか、またこの通知を指定時間間隔で繰り返すかどうか。

通知の内容は、アラームに関連付けられているメールまたは SMS テンプレートによって定義されます (「メール / SMS の内容」(83 ページ)) を参照)。



音声アラームは、[全般] タブの [システム環境設定] で有効にしますが (「システム環境設定」(87 ページ)) を参照)、音声アラームの受け取りはユーザーが設定する必要があります (「グループとユーザー」(55 ページ)) を参照)。

アラーム通知テンプレートは、しきい値アラームテンプレートを使用しているロケーション、リンクしたロケーションのデバイスアラームテンプレート、またはシステムアラームに割り当てることができます (「システム環境設定」>「システムアラーム」を参照)。

### 例

現地のスーパーバイザに通知を送信したい場合、最初の通知先には短い遅延 (1分程度) でメール通知を送信し、20分後に SMS 通知を送信するように作成できます。

また、異なる遅延時間 (例えば 20 分など) で、別のメール通知を他の人に出すこともできます。最初の通知が 20 分以内に受信確認されなかった場合、2つ目の通知は自動的に送信されます。



## 6.5.1 アラーム通知テンプレートの作成

### 🔒 アラーム テンプレートの管理

アラーム通知テンプレートは、しきい値、デバイス、またはシステムアラームが発生したときに、誰に通知するかを定義するものです。通知タイプ、受信者と配信時間を組み合わせて、メール、SMS、ローカルの視覚通知（コマンド）または、エスカレーションパスを設定することができます。

**i** コマンド通知ではシステムアラームは起動しません。

アラーム通知用に作成された内容が40を超える既定の電子メール/SMSテンプレートで提供されています。メッセージ内容は選択したグループに特定の情報を送るためにカスタマイズすることもできます。（「メール / SMS の内容」(83 ページ)）。

### アラーム通知テンプレートの作成

1. [アラーム テンプレート] で、[アラーム通知] タブを選択します
2. [追加] > [アラーム通知テンプレートの追加] を選択します。設定をコピーするには、既存のテンプレートを選択し、[追加 > 選択したアラーム通知テンプレート]をコピーを選択します。

The screenshot shows a web interface for adding an alarm notification template. The title is 'アラーム通知テンプレートの追加'. It contains several input fields and sections:

- 名前:** A text input field with the placeholder '一意の名前を入力します'.
- アクセス許可:** A dropdown menu with '管理者' and '全員' as options.
- 説明:** A text input field with the placeholder '説明を入力します'.
- 通知エスカレーションパス:** A section with a '+' icon and '追加' button, and a '-' icon and '削除' button.
- 通知設定:** A section with the title '通知設定' and the instruction '通知を追加して設定を構築します。'
- Table:** A table with columns '名前', '種類', '時間', and '分'. Below the table is a note: 'これらのアラーム通知テンプレートを保存する際に、1つ以上のメール、SMSまたはコマンド通知を追加する必要があります。'
- Buttons:** '保存' and 'キャンセル' buttons at the bottom right.

- **アクセス許可:** このテンプレートをロケーションに適用するか、または変更することが許可されているグループを選択します。
- **説明:** (任意指定) アラーム通知テンプレートに関する詳細を提供します。

3. **[通知エスカレーションパス]** エリアで **[追加]** を選択し、メールまたは SMS アラーム通知、あるいはコマンド通知を選択します。

通知エスカレーションパス ⓘ

メール通知設定

名前

通知の遅延  h:  min

送信先

繰り返しの通知を送信  はい

Recurring notification

この後に停止:  回数

アラームが受信確認された場合

アラームが受信確認された場合に通知  いいえ


アラームがオフにされた場合に通知  いいえ

4. メール、または SMS 通知を作成するには、**[E メール/SMS 通知設定]** パネルのフィールドに必要な情報を入力します。


- **名前:** 通知ごとに一意の名前を入力します。最初の通知かフォローアップの通知かを指定したり、通知の送信先グループを特定したりすることができます。
- **通知遅延:** アラームがトリガーされてからアラーム通知メッセージを送信するまでの遅延時間を時間/分単位で指定します。アラームアクティブ化の遅延は、しきい値アラームに追加することもできます。

ⓘ 通知メッセージを送信するまでの時間遅延を入力する場合、しきい値アラームのアクティブ化の遅延とアラーム通知の遅延の組み合わせがアラーム通知要件を満たしていることを確認してください。

- **送信先:** 通知したいユーザー、あるいはユーザーが含まれるグループを選択します。グループの全ユーザーが既定のアラーム通知メッセージを受信します。使われる既定のテンプレートはアラームタイプによって異なります(「メール / SMS の内容」(83 ページ)を参照してください)。
- **繰り返し通知の送信:** このオプションをオンにすると、アラーム状態が存在する間、または特定数の通知メッセージを送信した後に、設定された間隔で既定の繰り返し通知を送ります。
- **アラームが受信確認された時:** 特定アラームが受信確認された後に通知の送信を停止あるいは継続するか、既定の受信確認通知メッセージかアラームオフの通知メッセージ(あるいはその両方)を送信するか指定します。

 既定のアラーム通知メッセージの内容を変更するには、「メール / SMS の内容」(83 ページ)を参照してください。

5. コマンド通知を作成するには、**[コマンド通知設定]** ウィンドウの次のフィールドに情報を入力します。
  - **名前:** コマンドを記述する一意の名前を入力します。
  - **通知の遅延:** アラームがトリガーされてからコマンドを実行するまでの遅延時間を時間/分単位で指定します。アラーム アクティブ化の遅延は、しきい値アラームに追加することもできます。

 コマンドを実行するまでの時間遅延を入力する場合、しきい値アラームのアクティブ化の遅延とコマンド実行の遅延を組み合わせた値がアラーム通知要件を満たすことを確認してください。

- **実行する主なコマンド:** アラームがトリガーされたときに実行する最初のコマンドを入力します。繰り返しコマンドエリアに追加のコマンドを設定することもできます。ここで紹介する例は、デジタルリレー I/O デバイスに固有の Python スクリプトです。パラメーターは個々のコマンドまたはスクリプトによって異なります。


```
C:¥Program Files¥Vaisala¥viewLinc¥python¥python" -m
viewLinc.scripts.SwitchBbRelay [COM port number]
```

- **繰り返しコマンドの実行:** 状態がまだ存在する間、同一または異なるコマンドを繰り返し送信するよう選択します。アラームが受信確認された後、または特定のコマンド数が実行された後で、コマンドの実行を停止するかどうか指定します。
  - **アラームが受信確認された場合:** 繰り返しコマンドを継続するかブロックするか選択します。
  - **アラームが受信確認されたとき/アラームがオフになったときのコマンドの実行:** アラームが受信確認されたとき、またはアラームがオフになったときに、別のコマンドを実行するよう選択します。
6. **[保存]**を選択します。これで、このアラーム通知テンプレートを1つ以上のロケーション([サイトマネージャー]>[マネージャー])に適用したり、システムアラーム([システム環境設定]>[システムアラーム])で使えるように割り当てたりできます。

## 6.5.2 アラーム通知テンプレートの適用

### アラーム テンプレートの管理

アラーム通知テンプレートを作成すると、このテンプレートを現在有効なしきい値アラームテンプレートを使用しているロケーションに適用したり、特定のデバイスアラームテンプレートに追加したり、システムアラームで使用するように割り当てたりできます。

-  アラーム通知テンプレートを適用するには、選択したロケーションに対して「アラームの構成」以上のアクセス許可が必要となります。

### アラーム通知テンプレートをロケーションしきい値アラームに適用する

1. **[サイトマネージャー]** の **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、ロケーションを選択します。
2. **[しきい値アラーム設定]** タブを選択します。
3. グリッドでしきい値アラーム設定ロウを選択して、**[しきい値アラーム設定の編集]** を選択します。テンプレートが使用できない場合は、まずしきい値テンプレートをロケーションに追加する必要があります (**[管理]** > **[しきい値アラームの追加]**)。
4. **[しきい値アラーム設定の編集]** ウィンドウで、有効なしきい値レベルを選択します。

| レベル  | しきい値            | アラーム遅延 |   | 受信確認 | アラーム通知テンプレート | メッセージまたはコメント |
|------|-----------------|--------|---|------|--------------|--------------|
|      |                 | 時間     | 分 |      |              |              |
| ▲ 高  | ▲ +150.00000 °C | 0      | 0 | 省略可  | (なし)         | (なし)         |
| ▼ 低低 | ▲ +125.00000 °C | 0      | 0 | 省略可  | (なし)         | (なし)         |

5. **[アラーム通知テンプレート]** カラムのドロップダウンリストで使用可能なアラーム通知テンプレートを選択します。
6. **[保存]** を選択します。

### アラーム通知テンプレートを複数のロケーションしきい値アラームに適用する

1. **[サイトマネージャー]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリーに移動して、ゾーンまたはいくつかのロケーションを選択します ([Ctrl] + クリック)。
2. **[しきい値アラーム設定]** タブで、1つ以上のしきい値設定ロウを選択します。
3. **[しきい値アラーム設定の編集]** を選択します。
4. **[しきい値アラーム設定の編集]** ウィンドウの **[アラーム通知テンプレート]** カラムで、1つ以上の有効なしきい値レベルのテンプレートを選択します。

| レベル         | しきい値 | アラーム遅延 |   | 受信確認 | アラーム通知テンプレート | メッセージまたはコメント |
|-------------|------|--------|---|------|--------------|--------------|
|             |      | 時間     | 分 |      |              |              |
| ▲ 高高        | ●    | ●      | ● | ●    | (混合・変更しな...  | (なし)         |
| ▲ 高         | ●    | ●      | ● | ●    | (混合・変更しな...  | (なし)         |
| ▼ 低低        | ●    | ●      | ● | ●    | (なし)         | (なし)         |
| ▼ LowLo...  | ●    | ●      | ● | ●    | (なし)         | (なし)         |
| ▲ HiClim... | ●    | ●      | ● | ●    | (なし)         | (なし)         |

アラームオフマージン ⓘ ● (2のテンプレート)

5. **[保存]** を選択します。

### アラーム通知テンプレートをロケーション デバイス アラームに適用する

1. **[サイトマネージャー]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリーに移動して、ロケーションを選択します。
2. **[デバイスアラーム設定]** タブを選択します。
3. リストでデバイスアラームタイプを選択してから、**[デバイスアラーム設定を編集する]** を選択します。

4. **[デバイス アラーム設定を編集する]** ウィンドウの **[アラーム通知テンプレート]** フィールドで、アラーム通知テンプレートを選択します。
5. **[保存]**を選択します。

#### アラーム通知テンプレートを複数のロケーション デバイス アラームに適用する

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリーに移動して、1つのゾーンまたは複数のロケーションを選択します([Ctrl]+クリック)。
2. **[デバイス アラーム設定]** タブを選択します。
3. 同じデバイス アラーム タイプを選択してから(アラームタイプのカラム見出しを使用して、グリッドを昇順または降順に並べ替えます)、**[デバイス アラーム設定を編集する]** を選択します。
4. **[デバイス アラーム設定を編集する]** ウィンドウの **[アラーム通知テンプレート]** フィールドで、アラーム通知テンプレートを選択します。
5. **[保存]**を選択します。

#### アラーム通知テンプレートをシステムアラームに適用する

1. **[システム環境設定]** で、**[システムアラーム]** タブを選択します。
2. データベース検証アラームおよび/またはイベントログ検証アラームのアラーム通知テンプレートを選択します。
3. **[保存]**を選択します。

## 6.5.3 アラーム通知テンプレートの編集

### アラーム テンプレートの管理

アラーム通知テンプレートを変更する前に、そのテンプレートを使用しているロケーションとシステムアラームを確認します。アラーム通知テンプレートの詳細については、「アラーム通知」(78 ページ)を参照してください。

#### アラーム通知テンプレートの編集

1. **[アラームテンプレート]** で、**[アラーム通知]** タブを選択します。
2. 変更するテンプレートを選択して、**[編集]** を選択します。
3. 編集可能な設定を変更します。すべてのフィールド オプションについては、「アラーム通知テンプレートの作成」(79 ページ)を参照してください。
4. **[保存]**を選択します。

## 6.6 メール / SMS の内容

しきい値、デバイス、システムのアラーム通知には既定のメール/SMSの内容が含まれており、ネットワーク上で生じるアラーム状態に関する情報をチームに提供します。

viewLincでは40を超える既定のメールとSMSの内容テンプレートが提供されています。アラーム状態の初期通知用のテンプレート、繰り返し通知が必要な場合の各アラームタイプ用のテンプレート、アラーム状態がもはや存在しないことを通知するテンプレートなどがあります。

指定された場合は、既定のメールとSMSテンプレートに事前定義あるいはカスタムのアラームコメントやアラームメッセージを入れることができます。あるいは、新しいテンプレートの内容を作成することもできます（「カスタム電子メールまたはSMSの内容の作成」(84 ページ)を参照）。

利用可能なすべてのテンプレートを一覧表示するには、[アラームテンプレート]>[メールとSMSの内容]に移動します。

## 6.6.1 カスタム電子メールまたはSMSの内容の作成

### 🔒 アラームテンプレートの管理

viewLinc が発行したメール/SMSのメッセージ内容を変更することができます。

- ❶ カスタムアラームメッセージやコメントをメールやSMSのテンプレートに入れることができます。
  - 「システムアラームプリファレンス」(98 ページ)
  - 「ロケーションデバイスアラーム設定の編集」(77 ページ)
  - 「しきい値アラームテンプレートのロケーションへの適用」(66 ページ)

#### カスタムのメール/SMSメッセージ内容を作成する

1. [アラームテンプレート] で、[メール/SMSの内容]タブを選択します。
2. 変更するテンプレートを選択し、[編集]を選択します。[メール/SMSの内容の編集] ウィンドウに、既定の内容が表示されますが、変更はできません。

**メール / SMS の内容の編集**  
しきい値繰り返しアラーム

メッセージの内容  既定を使用  カスタムの使用


[マウスの追加]

|  |   |
|--|---|
| メール件名<br>繰り返し: viewLinc [LocationZone] のロケーション [LocationName] でのしきい値アラーム   | カスタムコンテンツを入力してください。入力しない場合、既定のコンテンツが使用されます。 |
| メールテキスト<br>[AlarmMessage]<br>繰り返ししきい値アラームが [AlarmTimestamp] でゾーン [LocationZone] のロケーション [LocationName] で発生しました。<br>== イベントの詳細 ==<br>ロケーション: [LocationName]<br>ゾーン: [LocationZone]<br>デバイスの説明: [DeviceDescription]<br>デバイスシリアル番号: [DeviceSerialNumber]<br>デバイスロケーション: [DeviceAddress] | カスタムコンテンツを入力してください。入力しない場合、既定のコンテンツが使用されます。 |
| SMSテキスト<br>繰り返し [LocationZone] のロケーション [LocationName] でのしきい値アラーム   | カスタムコンテンツを入力してください。入力しない場合、既定のコンテンツが使用されます。 |

[マウスの追加]

[戻る] [キャンセル]

3. **[カスタムの使用]** を選択します。
4. アクティブなカスタム テキスト エリアに新しい内容を入力します。
  - a. **[メールの件名]**、**[メール テキスト]** または **[SMS テキスト]** エリアに、新しい内容を入力します。

 SMS メッセージは 70 文字以内に制限されています。ネットワークでより長い SMS メッセージがサポートされている場合は、より長いメッセージを送ることができます。サポートをご希望の方は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。

- b. タイムスタンプやviewLincアラーム メッセージなどのシステム生成された内容を挿入するには、追加したい内容の場所へカーソルを移動して、**[マクロ]** ドロップダウンでオプションを選択します。マクロ定義の完全な一覧表については、「**[メールおよび SMS の内容用のマクロ]** (188 ページ)」を参照してください。
5. 変更を保存します。





# 7.システム環境設定

viewLinc では、データとデバイスの動作と表示に影響するさまざまなシステム オプションが定義されます。システム環境設定は、「システムの管理」権限を割り当てられているグループのユーザーが変更できます。

## 7.1 全般設定

### システムの全般設定の変更

#### システムの管理

- [システム環境設定] の [全般] タブで、[全般] オプションを設定します。
  - システム言語:** レポートと通知の既定のシステム言語を設定します。追加の言語を有効にして、レポート、通知、および viewLinc デスクトップ ディスプレイに関してユーザーが優先言語を設定できるようにすることもできます。詳細は、「言語プリファレンス」(94 ページ)を参照してください。
  - スケジュール:** このオプションを有効にすると、ユーザーが通知を受信する時期およびロケーションアラームをアクティブにする時期を管理できます。このオプションを有効にしたら、スケジュールを作成します。「スケジュールの作成」(106 ページ)を参照してください。
  - メールと SMS アラーム受信確認:** これにより、ユーザーはモバイル デバイスでメールおよび/または SMS メッセージに返信して、アラームを受信確認できるようになります。詳細は、「リモート受信確認」(88 ページ)を参照してください。
  - 音声アラーム通知:** 音声アラーム通知を有効にしてから、各ユーザーが音声アラームを受信するように設定します。詳細は、「音声アラーム」(89 ページ)を参照してください。
  - 音声アラームのサウンド:** 音声アラームのサウンドを選択します。▶ を選択して、サウンドテストを開始/停止します。
- 既定の単位と値を設定します。これらの値は、単位が表示されるすべての場所(トレンドグラフ、レポート)で使用されます。これらの値はこうした場所ごとに変更することができます。
  - 既定の温度単位:** 既定では、温度を監視するすべてのデバイスで温度が摂氏で表示されます。
  - 既定の MKT 活性化エネルギー:** 貴社の GxP 要件に従って MKT 値を設定します。詳細については、「MKT 活性化エネルギー」(90 ページ)を参照してください。
- デバイス オプションを指定します。
  - デバイスの説明:** チャネルのエイリアス(詳しい説明)を viewLinc に表示するように選択します。詳細は、「デバイスまたはチャネルエイリアス」(91 ページ)を参照してください。
  - チャネルの説明:** チャネルのエイリアス(詳しい説明)を viewLinc に表示するように選択します。詳細は、「デバイスまたはチャネルエイリアス」(91 ページ)を参照してください。
  - デバイス校正期間:** 既定のデータロガーとプローブの校正周期を月単位で設定します。詳細は、「デバイス校正期間」(91 ページ)を参照してください。

- **DL デバイスを自動的にロック:** 自動ロックを有効にすると、新しく接続されたすべての DL データロガーが確実に viewLinc によってのみ変更されるようになります。詳細は、「DL データロガーをロック/ロック解除する」(179 ページ)を参照してください。
  - **DL データロガーのタイムベース同期:** ロガーのタイムベース同期機能を有効にすると、ロガーのタイムクロックが継続的に viewLinc クロックと比較されて、必要に応じて調整されます。詳細は、「タイムベースの同期」(92 ページ)を参照してください。
  - **viewLinc Aware 機能:** viewLinc Aware を有効にすると、vNet デバイスの設定をより迅速に行うことができます。詳細は、「DL データロガーをロック/ロック解除する」(179 ページ)を参照してください。
4. セキュリティオプションを設定します。
- **ライセンス キー:** viewLinc ライセンス キーにより、お使いのシステムに接続できるデバイスの数を定義します。ライセンス オプションの詳細については、「ライセンス キー」(93 ページ)を参照してください。
  - **変更についてのコメント:** ユーザーがアラームを受信確認した際、またはシステムに変更を加えた際に、ユーザーにコメントを要求するかどうかを示します。事前定義済みコメントを作成するには、「事前定義済みコメントの追加」(99 ページ)を参照してください。
  - **変更の際に ID を確認:** システム変更の際に、ユーザー認証を要求します。詳細は、「システム変更の認証」(93 ページ)を参照してください。
5. テクニカル サポート ログの設定を調整します(任意指定)。
- **システム ログ:** さまざまな量のシステム アクティビティを記録します。
  - **デバイスドライバ ログ:** さまざまな量のデバイス アクティビティを記録します。
  - **ログ最大経過時間:** テクニカル サポート ファイルの保存期間を指定します。指定した期間に達すると、古いログファイルが削除されます。「技術サポート ログ」(94 ページ)を参照してください。



Vaisala 技術サポートから指示があった場合を除き、サポート ログの設定は変更しないことをお勧めします。

6. 変更を保存します。

## 7.2 リモート受信確認

### システムの管理

アラーム受信確認は、モニターのブラウザーまたはモバイル デバイスの [概要]、[サイト]、または [アラーム] ウィンドウでいつでも完了できます。

ユーザーがメールまたは SMS でアラーム通知を受信確認できるようにするには、リモート受信確認を許可するように viewLinc を設定する必要があります。



リモートでのアラーム受信確認を許可されている各ユーザーは、プロフィールに携帯電話の番号と一意の PIN を含める必要があります(「ユーザー」(58 ページ)を参照してください)。

### リモート受信確認の許可

1. **[システム環境設定]**の**[全般]**で、**[メールとSMSアラームの受信確認]**の行を選択します。
2. 受信確認のプリファレンスを選択します:
  - **メール:** メールでの受信確認を許可するには、メールサーバーがメール受信確認を受信できるように設定されていることを確認してください(「メールサーバーのプリファレンスの設定」(96 ページ)を参照してください)。
  - **SMS:** SMS での受信確認を許可するには、SMS モデムが SMS 受信確認を受信できるように設定されていることを確認してください(「SMS モデムプリファレンスの設定」(97 ページ)を参照してください)。
3. **[保存]**を選択します。

## 7.3 スケジュール機能

### システムの管理

ユーザーまたはグループにアラーム状態を通知する特定の時刻や日数を設定します。またスケジュールは、ロケーションしきい値アラームをアクティブにする時刻を指定するためにも使用されます。既定では、このオプションは無効です。

#### スケジュールを有効または無効にする

1. **[システム環境設定]**の**[全般]**タブで、**[スケジュール機能]**の行を選択します。
2. スケジュール機能の有効と無効を切り替えます。
3. 変更を保存します。

スケジュールの作成および適用方法の詳細については、「スケジュール」(106 ページ)を参照してください。

## 7.4 音声アラーム

### システムの管理

アラーム状態が発生したときに、ユーザーのコンピューターで音声アラームの音が鳴ります。音声アラームアイコンが viewLinc デスクトップ UI に表示されます(🔔 **[アラーム(21)]**)。

- 音声アラームが鳴るようにするには、お使いのコンピューターでユーザーが viewLinc にログインしており、ユーザープロファイルで音声アラームが有効になっている必要があります(「ユーザー」(58 ページ)を参照してください)。
- アクティブな音声アラームをオフにするには、アラームアイコンをクリックします。「[音声アラームへの応答」(130 ページ)」を参照してください。

**注意**

ユーザーがログインしていない場合、またはオーディオをオフにしてブラウザーを使用している場合は、音声アラームは聞こえません。

**音声アラームを有効または無効にする**

1. **[システム環境設定]** で、**[全般]** タブを選択します。
2. **[音声アラーム通知]** ロウで、**[有効化]** または **[無効化]** を選択します。
3. 音声アラームが有効になっている場合は、**[音声アラームのサウンド]** ロウでサウンドを選択します。▶を選択して、サウンドテストを開始/停止します。
4. **[保存]** を選択します。

## 7.5 温度測定単位

**🔒 システムの管理**

viewLinc が最初にインストールされたとき、温度は摂氏で表示されるように設定されます。viewLinc を構成すると、摂氏または華氏で温度を表示できます。この設定は全体に適用されます。この設定によって、デバイスの温度測定方法は変更されません。温度を表示する単位を変更するだけです(優先単位設定が割り当てられているチャンネルを除く)。

- 測定単位は個々のデバイスチャンネルで設定できます。「**[デバイスプロパティの編集]**」(38 ページ)を参照してください。

**温度単位の設定**

1. **[システム環境設定]** の **[全般]** タブで、**[既定の温度単位]** ロウを選択します。
2. 単位を設定します。
3. **[保存]** を選択します。

## 7.6 MKT 活性化エネルギー

**🔒 システムの管理**

レポートやトレンドの生成時には、MKT 活性化エネルギーの既定値が使用されます。

- 📘 平均動態温度 (MKT) は、GDP 対応アプリケーションで温度の逸脱を理解する際に有益だと考えられています。「**[MKT アプリケーションノート]**」を参照してください。

### MKT 値の設定

1. [システム環境設定] の [全般] タブで、[MKT 活性化エネルギー] ロウを選択します。
2. 値を設定します。
3. [保存] を選択します。

## 7.7 デバイスまたはチャネル エイリアス

### 🔒 システムの管理

Vaisala デバイスでは、最大16文字の半角英数字で説明が表示されます (300シリーズトランスミッターでは説明が格納されません)。これらの説明は、viewLincまたはデバイス構成ソフトウェア (vLogまたはHMT140ユーティリティ) を使用して定義および修正できます。

参照を容易にするために、デバイスまたはチャネルに対し情報量の多い説明 (最大 64 文字の半角英数字) を表示するように、viewLincを構成できます。この詳しい説明はエイリアスと呼ばれます。イベント、アラーム、レポートウィンドウ、およびメール メッセージはすべて、チャネルとデバイスに選択された説明を使用します。

### エイリアス プリファレンスの設定

1. [全般] タブの [システム環境設定] で、[チャネルの説明] または [デバイスの説明] を選択します。
2. エイリアスを使用するように設定します。
3. [保存] を選択します。

## 7.8 デバイス校正期間

### 🔒 システムの管理

デバイス校正アラームは、Vaisala データロガーまたはプローブの校正予定日が近づくと断続的に送られる通知です。

既定では、校正期限の 3 か月前、1 か月前、再校正予定日当日に通知が送信されます (最終校正日から 1 年間、自動生成されます)。このアラームは、受信確認された後でも、デバイスの再校正が行われるまでアクティブのままとなります (詳細については、Vaisala 校正サービス センターにお問い合わせください)。

- すべてのデータロガーに関する既定の校正期間は [システム環境設定] で設定できます。また、「デバイスの管理」権限がある場合は、[サイト マネージャー] で特定のデータロガーまたはプローブの期間を変更することができます ([ホストとデバイス] > [構成] > [プロパティの編集])。

## システム全体における既定の校正期間の設定

1. **[システム環境設定]** で、**[既定校正期間]** オプションの横の **[値]** カラムを選択します。
2. 期間を月単位で入力します。

**i** データロガーまたはプローブで設定した校正期間は、システム環境設定よりも優先されます。

3. **[保存]** を選択します。

## 7.9 タイムベースの同期

### **i** システムの管理

viewLinc とデータロガーのデータ収集タイミングを同期すると、時間ドリフトが自動補正されるため、データ収集が正確になります。ロガーのタイムベース同期機能を有効にすると、データロガーのタイムクロックが継続的に viewLinc クロックと比較されて、必要に応じて調整されます。

長期の時間経過に伴い、多少の時間のずれが生じることは想定されています。これは、デバイスがデータを収集する場所(気温の低いエリアのデータロガーなど)とデータが送信される場所(制限区域のサーバー室のコンピューターなど)における温度の影響により発生する可能性があります。

**i** データロガーのタイムベース同期は、1つの viewLinc Enterprise Server でのみ有効にしてください。ロガータイムベースの同期では、最大 15 分までのドリフトしか補正されません。ドリフトが 15 分を超える場合は、データロガー履歴をクリアします(「履歴サンプルのクリア」(180 ページ)を参照)。

### タイムベース同期の有効化/無効化

1. **[システム環境設定]** の **[全般]** タブで、**[DL データロガーのタイムベース同期]** ロウを選択します。
2. フィールドを **[有効]** または **[無効]** に設定します。
3. **[保存]** を選択します。

## 7.10 viewLinc Aware

### **i** システムの管理

この機能により、viewLinc で自動的にネットワークまたはサブネットの vNet デバイスを検索して通信することができます。各 vNet デバイス(v1.4以降)に最新のファームウェアがインストールされている必要があります。

**i** このオプションは、サブネットあたり 1 つの viewLinc Enterprise Server インストールでのみ有効にしてください。

### viewLinc Aware サービスの有効化/無効化

1. [システム環境設定] で、[全般] タブを選択します。
2. [viewLinc Aware の機能] ロウを選択して、[有効] または [無効] を選択します。
3. [保存] を選択します。5 分以内に viewLinc で新しいデバイスが自動的に検出されます。自動検出プロセスに時間かかる場合は、強制的に検出を行うことも可能です。「[ネットワーク接続済みデバイスの検出]」(31 ページ) を参照してください。

viewLinc で vNet デバイスを設定する方法については、『vNet ユーザーガイド』を参照してください。

## 7.11 ライセンス キー

### システムの管理

この数字は、使用許諾された viewLinc 製品によって管理されるデバイス数を指定します。システムにアクセスできるユーザー数は監視されません。インストール時、またはシステムサイズをアップグレードする際に、ライセンス キーを入力する必要があります。

#### 新しいライセンス キーの入力

1. [システム環境設定] で、[全般] タブを選択します。
2. [ライセンス キー] ロウのフィールドにライセンス番号を入力します。
3. [保存] を選択します。

## 7.12 システム変更の認証

### システムの管理

より堅牢なシステム セキュリティを確保するために、viewLinc で変更する際にユーザーにパスワードを再入力するように要求することができます。この設定は、すべての viewLinc ユーザーに対して全体的に適用されます。

#### 認証要件の設定

1. [システム環境設定] で、[全般] タブを選択します。
2. [変更の際に ID を確認] を選択して、認証オプションを選択します。
  - なし: ログインしたユーザーには、変更時に ID の確認が要求されません。
  - 常に: ログインしたユーザーが変更を試みるたびにパスワードの入力が要求されます。
  - 1 ~ 30 分後 / 1 時間後: ログインしたユーザーが最後に認証された変更から選択した期間が経過すると、パスワードの再入力が要求されます。
3. [保存] を選択します。

## 7.13 技術サポート ログ

### 🔒 システムの管理

viewLinc 技術サポートが必要な場合、Vaisala 技術サポート担当者は、発生している問題を把握するために、技術サポート ログ設定を一時的に変更するよう依頼することがあります。

このオプションで、viewLinc やデータロガードライバーでサポート ログファイルに含める詳細情報の量、およびデータが削除されるまでの期間(保存期間)を指定します(適用されるべき設定については、技術サポート担当者がアドバイスします)。

#### サポート ログ設定を変更する

1. **[システム環境設定]** で、**[全般]** タブを選択します。
2. **[システムログ]**、**[デバイスドライバーログ]**、および **[ログ最大経過時間]** ロウで、Vaisala 技術サポートから指示されたとおりに、必要な詳細技術情報量を設定します。
3. **[保存]**を選択します。

- 分析が終わったら、Vaisala 技術サポートより、既定の値をリセットしたかどうか再確認するための連絡があります。

## 7.14 言語プリファレンス

### 🔒 システムの管理

レポートと通知には、システム言語設定が使用されます。既定では、viewLinc Enterprise Server のインストール時に選択された言語です。他の言語が話されている国々で操業している場合、ユーザーのネイティブ言語による通知やレポート、viewLinc デスクトップの表示オプションを提供したいことでしょう。

**[システム環境設定]** > **[言語]** タブの順に選択して追加言語を有効にし、各ユーザーのプロファイルでユーザー言語のプリファレンスを設定する必要があります(「ユーザー」(58 ページ)を参照してください)。

#### システム言語設定とユーザーの言語プリファレンスに関する重要事項:

- クイックレポート: ユーザーがクイックレポートを生成すると、ユーザーの言語設定と異なる場合でも、ユーザーのログインした言語に従って内容が生成されます。
- スケジュールされたレポート: 受信者の言語設定に従って受信者に送信されます。
  - ユーザーの言語プリファレンスを指定しないと、レポートの内容はレポート言語で生成されます。
  - ユーザーの言語プリファレンスまたはレポート言語が指定されていない場合は、既定のシステム言語に従って内容が生成されます。
- ユーザー生成レポート: レポートの内容は、システム言語で作成されます。



**サポートされている言語:**

英語 (EN)  
 中国語 (簡体 - ZH)  
 フランス語 (FR)  
 ドイツ語 (DE)  
 日本語 (JA)  
 スウェーデン語 (SV)  
 スペイン語 (国際 - ES)  
 ポルトガル語 (ブラジル - PT)

**システム言語の設定**

1. **[システム環境設定]** で、**[全般]** タブを選択します。
2. **[システム言語]** ロウで、システム言語を選択します。
3. **[保存]** を選択します。

**追加言語を使用可能にする**

1. **[システム環境設定]** で、**[言語]** タブを選択します。
2. ユーザーがログインするときに表示される言語オプションを有効にします。
3. **[保存]** を選択します。

## 7.15 単位表示プリファレンス

### システムの管理

チャンネルの測定単位はデバイスであらかじめ設定されています。しかし、viewLinc では異なるデバイス測定単位で表示することができます。例えば、チャンネルにおいてミリアンペアで電圧を追跡する場合は、viewLinc の表示テキストを mA に変更できます。

**単位説明の設定**

1. **[システム環境設定]** で、**[単位]** タブを選択します。
2. **[単位のタイプ]** ロウを選択してから、**[編集]** を選択します。
3. 単位のプロパティを更新します。
  - **名前:** 単位のタイプ名を入力します。
  - **デバイス単位:** Ent 測定単位ごとに、最大 6 つの大文字を入力します。単位タイプを区切るときはコンマ (,) を使用します。
  - **表示テキスト:** 単位ごとに表示する形式を入力します。例えば、温度単位が「C」の場合は、摂氏を表示することができます。
  - **最小:** この単位で許可される最小値を設定します。
  - **最大:** この単位で許可される最大値を設定します。

- 新しいデバイス単位を追加するには、**[追加]**を選択します。**[新しい単位]** ウィンドウで、お使いのデバイスに設定されているのとまったく同じ単位プロパティを入力します。

 お使いのデバイスのユーザーガイドを参照して、現在の単位プロパティと最小値/最大値を判断してください。

- [保存]**を選択します。

### 単位の削除

手動で追加された単位タイプで、その時点でロケーションまたはしきい値アラームテンプレートで使用されていない単位タイプは削除することができます。

## 7.16 メールとSMS 設定

システムアラーム通知は、メールまたはSMS経路で送信されます。viewLinc 管理者が、送信・受信メールサーバーや配信アドレスなど、既定のメールサーバーとSMSモデム設定を定義します。システムの通知プリファレンスの設定を完了するには、システムアラーム通知を受信するユーザーまたはグループを定義します（「システムアラームプリファレンス」(98ページ)を参照してください）。


### 7.16.1 メールサーバーのプリファレンスの設定

#### システムの管理

システムアラームメール通知の送信に使用される会社の送信メールアカウント情報、およびシステムアラームメール受信確認の受信に使用される受信メールサーバー要件（リモート受信確認が許可されている場合）を定義します。

#### メールサーバープリファレンスの設定

- [システム環境設定]** で、**[メール設定]** タブを選択します。
- [送信サーバー]** エリアに、有効な「差出人」アドレスを入力します（viewLinc からのメール通知はこのアドレスから送信されるため、メールアドレスが社内に存在しなければなりません）。その後、以下を入力します。
  - SMTP サーバー:** メールサーバーのアドレス。例: smtp.company.com など。
  - ポート:** 送信メールサーバーのポート番号（1～65535の番号。既定値は25）。この情報は、ITネットワーク管理者が持っています。
  - 送信メールサーバーで認証が必要な場合は、**[SMTP 認証]** を選択し、メールを送信するのに必要なユーザー名またはメールアドレス、およびパスワードを入力します。


 SMTP サーバーでサポートされている場合は、viewLinc は自動的にセキュア SMTP を使用します。

3. **[テストメールを送信]**を選択して、テストメールが正常に送信されることを確認します。
4. **[受信サーバー]**エリアで、接続タイプに合わせて必要なメールサーバー設定を構成します。
  - a. **接続タイプ: POP3**
    - **POP3サーバー:** 受信 POP3 メールサーバー名を入力します (例: pop.company.com など)。
    - **ポート:** 受信メールサーバーのポート番号を入力します (既定値は 110)。
    - メール受信に必要な、有効な POP3 アカウントのユーザー名 (またはアドレス) とパスワードを入力します。
  - b. **接続タイプ: IMAP**
    - **IMAPサーバー:** 受信 IMAP メールサーバー名を入力します (例: imap.company.com など)。
    - **ポート:** IMAP 受信メールサーバーのポート番号を入力します。
    - メール受信に必要な、有効な IMAP アカウントのユーザー名 (またはアドレス) とパスワードを入力します。
5. **[保存]**を選択します。

## 7.16.2 SMS モデム プリファレンスの設定

### システムの管理

SMS 設定では、(携帯電話のプロバイダーが要求するとおりに) システムアラーム SMS 通知の送信時およびシステムアラーム SMS 受信確認の受信時の SMS モデム設定を定義します。

-  SMS メッセージは 70 文字以内に制限されています。ネットワークでより長い SMS メッセージがサポートされている場合は、より長いメッセージを送ることができます。サポートをご希望の方は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。


### SMS モデム プリファレンスの設定

1. **[システム環境設定]**で、**[SMS 設定]** タブを選択します。
2. **[SMS モデム]** セクションに入力します。
  - **SMS COM ポート:** SMS モデムのポート番号。
  - **ボーレート:** モデムでサポートされている最適なレートを選択します。
  - **SIM カードの PIN 番号:** PIN 番号を入力します。これは着信メッセージを受信するために必要です。
3. **[SMS のテスト送信]**を選択します。SMS メッセージが正しい携帯電話に送信されない場合は、テストの SMS が正常に送信されるまで設定を調整します。
4. **[保存]**を選択します。

## 7.17 システム アラーム プリファレンス


### システムの管理

システムアラームは、一般的なシステムの問題、データベース履歴の整合性、およびイベントログの改ざんを示すために自動的に生成されます。システムアラームは常にプライオリティが高く、すぐに発動します。また常に受信確認を必要とします。システムアラームの受信確認は、viewLinc で行う（「アラーム通知の受信」(125 ページ)）を参照）か、メールまたは SMS でリモート受信確認することができます。

 システムアラームをメールまたは SMS でリモート受信確認できるようにするには、「リモート受信確認」(88 ページ)を参照してください。

### システムアラームプリファレンスを設定する

1. **[システム環境設定]** で、**[システムアラーム]** タブを選択します。
2. **[IT ネットワーク マネージャー]** エリアに、viewLinc システム通知を受信する携帯電話番号とメールアドレスを入力します。また、システムアラーム通知を管理者グループのメンバーに送信するかどうかを選択することができます。
3. **[データベース検証アラーム]** エリアでは、**[プライオリティ]**、**[遅延]** および **[受信確認]** オプションは変更できません。次のオプションは変更できます。
  - **アラーム通知テンプレート:** システムアラーム通知に含めるアラーム通知テンプレートを選択します。アラーム通知テンプレートは、メールと SMS 通知を出すかどうか、アラームがトリガーされてからどれぐらい時間が経過してから通知を送信するか、また通知をどのような頻度で繰り返すかを定義します。

 選択したアラーム通知テンプレートで設定されたメールと SMS 設定のみがシステムアラームに適用されます。コマンドはシステムアラームに対しては発行されません。「アラーム通知テンプレートの作成」(79 ページ)を参照してください。
  - **アラームメッセージ:** アラームメッセージテキストが、データベース検証アラームメールテンプレートの `[AlarmMessage]` マクロを置き換えます（「メール / SMS の内容」(83 ページ)）を参照してください。
  - **アラームコメント:** 事前定義されているコメントを含めるよう選択するか（使用可能な場合）、カスタムコメントを入力するかを選択します。コメントテキストが、データベース検証メールテンプレートの `[Comments]` マクロを置き換えます（「メール / SMS の内容」(83 ページ)）を参照してください。
4. **[イベントログ検証アラーム]** エリアでは、**[プライオリティ]**、**[遅延]** および **[受信確認]** オプションは変更できません。次のオプションは変更できます。
  - **アラーム通知テンプレート:** システムアラームメッセージに含めるアラーム通知テンプレートを選択します。アラーム通知テンプレートは、メール、SMS、コマンド通知のどれを発行するか、アラームトリガー後、通知を送信するまでの時間、繰り返す頻度を定義します。「アラーム通知テンプレートの作成」(79 ページ)を参照してください。


- **アラームメッセージ:** アラームメッセージ テキストが、イベント ログ アラーム メール テンプレートの [AlarmMessage] マクロを置き換えます(「メール / SMS の内容」(83 ページ))を参照してください。
  - **アラームコメント:** 事前定義されているコメントを含めるよう選択するか(使用可能な場合)、カスタムコメントを入力するかを選択します。コメント テキストが、イベント ログ メール テンプレートの [Comments] マクロを置き換えます(「メール / SMS の内容」(83 ページ))を参照してください。
5. **[保存]**を選択します。

## 7.18 コメント

### システムの管理

ユーザーが入力したコメントにより、システムに加えられた変更やネットワーク イベントへの応答などの貴重な情報が得られます。

ユーザーの手動コメント入力を必須にするか、事前定義済みコメントを選択すべきかを指定することができます。コメントは、イベントに追加する、レポートやメール通知テンプレートに含める、またはアラーム通知の受信確認時に追加するなど、さまざまな場所で使用できます。

 事前定義済みコメントを設定するには、「事前定義済みコメントの追加」(99 ページ)を参照してください。

### コメントプリファレンスの設定

1. **[システム環境設定]** で、**[全般]** タブを選択します。
2. **[変更についてのコメント]** ロウで、リストの中からオプションを選択します:
  - **不要:** システムの変更が行われた場合、ユーザーにはコメント入力が求められません。
  - **省略可:** システム変更に関する [コメント] ウィンドウが表示され、ユーザーにはコメントを入力するか、事前定義済みコメントを選択するかのオプションが提示されます。
  - **必要:** [コメント] ウィンドウが表示され、ユーザーはコメントを入力する、または事前定義済みコメントを選択する必要があります。
  - **事前定義済みコメントのみが必要:** 選択可能な事前定義済みコメントのリストが入った [コメント] ウィンドウが表示されます。このオプションを使用する場合は、事前定義済みコメントを選択できるように設定する必要があります。
3. **[保存]**を選択します。

### 7.18.1 事前定義済みコメントの追加

#### システムの管理

事前定義済みコメントは、アラームへの対処として標準的でよく繰り返すアクションを記述したり、システム変更の一般的な論拠を説明したりする際にユーザーが素早く使用できます。

viewLinc 管理者は、送信システムまたはしきい値アラーム通知に事前定義済みコメントを含めて、必要なアクションに関するガイダンスを提供することができます。時間を節約するために、ユーザーはアラーム通知に応答する際に、事前定義済みコメントを追加して、実行した一般的なアクションを説明できます。また、事前定義済みコメントは、イベントログにイベントを記述する際にも使用できます。

### 事前定義済みコメントを追加する

1. **[システム環境設定]** で、**[コメント]** タブを選択します。
2. **[追加]** を選択します。
3. 新しいコメントを入力します(最大 300 文字)。
4. **[保存]** を選択します。

- すべてのシステム変更/追加/削除に関するコメント入力をユーザーに要求する場合は、**[システム環境設定]** > **[全般]** の順に選択して、コメントプリファレンスを設定します。

事前定義済みコメントを追加できる場所:

- システムアラーム(「システムアラームプリファレンス」(98 ページ)を参照してください)。
- ロケーションしきい値アラーム設定(「アラーム通知テンプレートの適用」(81 ページ)を参照してください)。
- アラーム受信確認(「[アラーム] ウィンドウでのアラームの受信確認」(127 ページ)を参照してください)。
- イベント(「イベントへのコメントの追加」(135 ページ)を参照してください)。

## 8. 追加の設定タスク

主要な viewLinc 構成タスクがすべて完了すると、さらに多くの viewLinc 機能を活用できるようになります。

- ゾーンとロケーションにグループ **アクセス許可**を追加します。アクセス許可によって、グループが表示、構成、管理できる viewLinc ゾーンおよび関連付けられているロケーションを制御できます。
- **スケジュール**を作成して、アラームと通知をアクティブにする期間を定義できます。スケジュールを使用すると、当番ではないユーザーに通知が届かないようにしたり、メンテナンス期間中に不要なアラームが作動しないようにすることができます。
- **ビュー**を作成すると、ユーザーが簡単に重要なロケーションを識別できるようになります。大規模なインストールで、ビューはロケーションのさまざまなカテゴリを整理するのに役立ちます。
- **リモートディスプレイ**を設定して、倉庫の大型モニターにライブ状態をブロードキャストできます。

## 8.1 アクセス許可

アクセス許可は 4 段階のレベルでグループメンバーが表示、アクセスできるゾーンとロケーションを定義し、与えられたアクセス許可レベルによってユーザーが実行できる機能を定義します。グループに「サイトの管理」権限があったとしても、グループのメンバーは、グループにアクセス許可の与えられているリンクしたロケーションの設定しか変更できません。

### 権限

ウィンドウおよび機能への  
アクセスコントロール

### アクセス許可

表示または管理できるゾーンと  
ロケーションを定義する



アクセス許可レベルはゾーンに適用され、サブゾーンとロケーションは含むことも除外することもできます。既定では、viewLinc [全員] グループのすべてのユーザーに最上位のシステムゾーン、つまり viewLinc を表示するビューアクセス許可が与えられていますが、追加されたゾーンまたはロケーションを表示するには別途にビューアクセス許可が必要になります。viewLinc 管理者グループのメンバーは、最高のアクセス許可レベルの「フルコントロール」が与えられており、追加された新規のゾーンとロケーションをすべて表示、管理することができます。



- アクセス許可を効果的に管理するには、グループのアクセス許可レベルを特定のゾーンに適用し、すべてのサブゾーンに継承されるようにします。

### アクセス許可に関する重要な注意事項

- ゾーンに与えられるアクセス許可は、すべてのサブゾーンおよびロケーションに適用されます(継承による)。
- 各ユーザーのアクセス許可は、該当ゾーンでのグループのアクセス許可の最高レベルで決まります。
- 以前のバージョンの viewLinc からアップグレードした場合、ユーザーに割り当てられたアクセス許可は維持されますが、ユーザーのアクセス許可を削除した場合に再び適用することはできません。

- ① グループにアクセス許可を割り当てる前に、各グループがゾーンまたはロケーションに関連するタスクを完了するのに必要な権限があることを確認します(「権限」(55 ページ))を参照)。

### 例

フランシスさんは、「ラボ A」ゾーンと「倉庫 X」ゾーンで作業するチームが作成したアラームレポートの生成と配信を担当しています。また、サブゾーン ワークステーション 1 の全ロケーションでのしきい値アラームの受信確認も担当しています。サブゾーン ワークステーション 2、および「ラボ B」、「ラボ C」ゾーンは表示する必要がありません。

1. フランシスさんは、「レポートの管理」権限があるグループに追加します。
2. グループのビューアクセス許可を倉庫 X に割り当て、このアクセス許可をすべてのサブゾーンとロケーションに継承させます。
3. また、このグループの「アラーム受信確認」アクセス許可をラボ A に割り当てて、このアクセス許可をすべてのサブゾーンとロケーションに継承させます。

## 8.1.1 アクセス許可レベル

最もベーシックなアクセス許可レベルの「ビュー」では、あるグループがさまざまな viewLinc ウィンドウで、ゾーンとそのロケーションを表示できます。より高いアクセス許可レベルでは、あるグループがゾーン内にあるゾーンおよびロケーションに対して多様なアクションを実行できます。

表 12 アクセス許可レベル


| 名前       | 許可されたアクション   |
|----------|--|
| フルコントロール | ゾーンにおけるすべてのロケーションの表示、アラーム受信確認、アラームテンプレートの構成、アラームスケジュールの適用、およびアクセス許可の割り当てを行います。 |
| アラームの構成  | ゾーンのすべてのロケーションにおける表示、アラームの受信確認、およびしきい値アラームテンプレートの適用または変更を行います。                 |
| アラーム     | ゾーンにおけるすべてのロケーションのアラームの表示と受信確認を行います。   |

| 名前    | 許可されたアクション            |
|-------|-----------------------|
| の受信確認 |                       |
| ビュー   | ゾーンのすべてのロケーションを表示します。 |

## 8.1.2 ゾーンにグループアクセス許可を適用する


### サイトの管理

グループが viewLinc でゾーンまたはロケーションを閲覧できるようにするには、特定のゾーンに対してグループが「ビュー」以上のアクセス許可を持っている必要があります。

-  選択したゾーンに対して追加でグループにアクセス許可を与えるには、フルコントロールのアクセス許可が必要です。

### アクセス許可の追加


1. **[サイトマネージャー]** で、**[ゾーンとロケーション]** ツリーに移動して、ゾーンまたはサブゾーンを選択します。
  - 現在適用されているアクセス許可を確認するには、**[アクセス許可]** のタブを選択して、**[アクセス許可ビューア]** を開きます（「[アクセス許可ビューアの使用]」(105 ページ) を参照）。
2. **[管理]** > **[アクセス許可の編集]** を選択します。

-  各グループに所属するユーザーを表示するには**[プロパティ]** を選択します。

3. **[アクセス許可の編集]** ウィンドウでアクセス許可を追加します。
  - 選択したゾーンのグループアクセス許可をすべてのサブゾーンとロケーションに適用するには、グループを選択した後、**[継承元]** を選択します。
  - グループアクセス許可レベルを変更するには、**[継承元]** の選択を外し、**アクセス許可** のコラムにある許可レベルを選択します。
  - 選択したゾーンのサブゾーンとロケーションのすべてにおいて、現在および今後、アクセス許可レベルがグループに確実に引き継がれるようにするには、**継承可能** のオプションが選択されていることを確実にします。
4. **[保存]** を選択します。

### アクセス許可の編集

継承したアクセス許可を持つグループでは、継承したアクセス許可を特定のサブゾーンから除外することができます。

-  viewLinc の旧バージョンからユーザーが継承したアクセス許可は変更できません。ユーザーのアクセス許可は削除することしかできません。

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、ゾーンを選択します。
2. [管理] > [アクセス許可の編集] を選択します。
3. [アクセス許可の編集] ウィンドウで、グループの [継承元] チェックボックスの選択を外し、**アクセス許可** カラムで新たにアクセス許可レベルを選択します。すべてのアクセス許可レベルの選択が外れされると、サブゾーンが表示されなくなります。(アクセス許可 カラムが **非表示** になります)。
4. [保存] を選択します。

### アクセス許可の削除

アクセス許可を削除するには、継承したアクセス許可が削除されている必要があります ([アクセス許可の編集] を参照)。



#### 注意

グループのアクセス許可を削除すると、サブゾーンに適用されたグループのアクセス許可レベルが無効になることがあります。

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、ゾーンを選択します。
2. [管理] > [アクセス許可の編集] を選択します。
3. [アクセス許可の編集] ウィンドウで、グループを選択します。
4. [削除] を選択します。[削除] ボタンが有効になっていない場合は、まず継承されたアクセス許可を無効にする必要があります。
5. [保存] を選択します。

## 8.1.3 アクセス許可ビューアの使用

### サイトの管理

複数のゾーンやロケーションそして特殊なアクセスコントロールが必要な大きな組織では、アクセス許可ビューアを使用すると、現在適用されているグループアクセス許可を簡単に表示できます。

#### アクセス許可を検索

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、ゾーンを選択します。
2. **アクセス許可** タブを選択します。グループまたはアップグレードしたユーザーに割り当てられた利用可能な最高レベルのアクセス許可レベルは、[アクセス許可] のカラムに表示されます。ゾーンでグループアクセス許可がない場合は、グループアクセス許可レベルは **非表示** です。
3. 特定のグループまたはユーザーに対するアクセス許可すべてを表示するには、[アクセス許可ビューア] ボタンを選択します。
4. [アクセス許可ビューア] ウィンドウで、**グループの表示** または **ユーザーの表示** を選択します。
5. 割り当てられたアクセス許可すべてを表示するグループまたはユーザーを選択します。アクセス許可を変更するには、「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ) を参照してください。

## 8.2 スケジュール



既定では、ロケーションしきい値アラームは常にアクティブな状態になっており、アラーム通知が常に送信されます。ゾーンまたはロケーションで監視が必要とされていない場合、または特定のユーザーにアラーム通知の受信が要求されていない場合に、ネットワークトラフィックを管理する上でスケジュールが役立ちます。

例えば、日勤シフトのユーザー宛に午前6時～午後4時に通知を送信するスケジュール、および夜勤シフトのユーザー宛に午後4時～午前2時に通知を送信する別のスケジュール、さらに午前6時～午前2時にアクティブなアラームのしきい値アラームスケジュールを設定することができます。

- システムメンテナンス期間中などに、すべてのしきい値アラームを一時的にオフにして、通知が送信されないようにすることができます。「しきい値アラームの一時停止」(131 ページ)を参照してください。

### 8.2.1 スケジュールの作成

#### 🔒 システムの管理

スケジュールでは、ユーザーがアラーム通知を受信するタイミングや、ロケーションに対してしきい値アラームをトリガーできるタイミングが定義されます。

- スケジュールをユーザーまたはロケーションに適用する前に、スケジュール機能が有効になっていることを確認します(「スケジュール機能」(89 ページ)を参照)。

#### スケジュールの作成

- [アラームテンプレート]で、[スケジュール]>[追加]を選択します。

### スケジュールの追加

スケジュールでは、ユーザーがアラーム通知を受信するタイミングや、ロケーションに対してしきい値アラームをトリガーできるタイミングが定義されます。

スケジュール  有効

名前

タイムゾーン  ▼  
サーバータイムゾーン (UTC-07:00) 山地標準時 (米国およびカナダ)

開始日

スケジュールの繰り返し間隔  日

アクティブな期間の定義:

| 日 | 曜日  | 日付         | 期間          |
|---|-----|------------|-------------|
| 1 | 月曜日 | 2018-03-05 | 07:00-16:00 |
| 2 | 火曜日 | 2018-03-06 | 07:00-16:00 |
| 3 | 水曜日 | 2018-03-07 | 07:00-16:00 |
| 4 | 木曜日 | 2018-03-08 | 07:00-16:00 |
| 5 | 金曜日 | 2018-03-09 | 07:00-16:00 |
| 6 | 土曜日 | 2018-03-10 | 00:00-24:00 |
| 7 | 日曜日 | 2018-03-11 | 00:00-24:00 |

複数の期間はコンマで区切って入力します。終日アラームのモニタリングを行う場合は、00:00-24:00と入力します。モニタリングを行わない場合は空白のままにします。

## 2. [スケジュールの追加] ウィンドウでスケジュール設定を入力します。

- スケジュール:** スケジュールを有効にする前に、スケジュールを作成します。スケジュールがユーザーまたはロケーションに適用されたら、この時点でスケジュールの有効化と無効化を素早く切り替えることができます。スケジュールが無効な場合、しきい値は常に監視され、しきい値の逸脱に対して常に通知が送信されます。
- 名前:** このスケジュールに一意の名前を入力します。
- タイムゾーン:** スケジュールで使用するタイムゾーンを選択します。所属先の会社が複数のタイムゾーンで状態を監視している場合は、タイムゾーンごとにスケジュールを作成する方とよいでしょう。
- 開始日:** テキストボックスに入力するか、カレンダーから日付を選択して開始日を選択します。この日付はスケジュールを開始する曜日を定義します。

- **スケジュールの繰り返し間隔**: 標準的な週7日の労働スケジュールを繰り返すように設定するには、**7**を入力して、休日の期間を入力しないようにします。連続する週(休日なし)の場合は、**9**を入力します。最大値は99日間です。
- **アクティブな期間の定義**: 周期内の1日の時間帯を24時間形式で入力します。次の形式を使用します: **xx:xx-yy:yy**、**xx:xx** がその開始時刻、**yy:yy** が終了時刻です。この時間帯にしきい値アラームとアラーム通知がアクティブになります。


### 3. **[保存]**を選択します。

これでこのスケジュールをロケーションやユーザーに適用できます(「ユーザースケジュールの追加」(109 ページ)および「しきい値アラームスケジュールの設定」(108 ページ)を参照)。


## 8.2.2 しきい値アラームスケジュールの設定

### サイトの管理

ゾーンまたはロケーションにスケジュールを適用して、しきい値を逸脱してアラーム通知をトリガーする条件を定義します。スケジュールは、[アラーム テンプレート] ウィンドウで作成します(「スケジュールの作成」(106 ページ)を参照してください)。

-  スケジュールを追加する前に、スケジュール作成機能がオンになっていることを確認してください(「スケジュール機能」(89 ページ)を参照)。

### ロケーションしきい値アラームスケジュールを設定する

-  すべてのロケーションまたはゾーンに対する「アラームの構成」アクセス許可が必要です。

1. **[サイト マネージャー]**の**[ゾーンとロケーション]** ツリーで、ロケーションを選択します。
2. **[管理]** > **[しきい値アラームスケジュールの設定]** を選択します。
3. **[しきい値アラームスケジュールの設定]** ウィンドウで **[スケジュールに基づく]** を選択して、ドロップダウンリストでスケジュールを選択します。



#### 注意

viewLinc はスケジュール設定された時間の範囲外のしきい値限界値は監視しません(しきい値アラームは有効にならず、通知も送信されません)。**[常に]** を選択して、アラームの監視が 1 日 24 時間、週 7 日で行われるようにします。

4. **[保存]**を選択します。

## 8.2.3 ユーザースケジュールの追加

### 🔒 システムの管理

スケジュールをユーザーに適用して、そのユーザーがアラーム通知を受信する条件を定義します。スケジュールは、[アラーム テンプレート] ウィンドウで作成します（「スケジュールの作成」(106 ページ)を参照）。

**i** スケジュールを追加する前に、スケジュール作成機能がオンになっていることを確認してください（「スケジュール機能」(89 ページ)を参照）。

### ユーザースケジュールの追加

1. [ユーザーおよびグループ] ウィンドウで、[編集] ツールバー ボタンを選択します。
2. [アラーム通知の送信] フィールドの [ユーザーの編集] ウィンドウで、次の操作を実行します。
  - 既定の設定では、スケジュールは [常に] に設定されています。これはこのユーザーが 1 日 24 時間、週 7 日、アラーム通知を常に受け取ることを示します。
  - このユーザーが一切アラーム通知を受信しないようにするには、[なし] を選択します。これはユーザーが休暇中で不在の場合に便利なオプションです。
  - [スケジュールに基づく] を選択し、ドロップダウンリストでスケジュールを選択します。
3. [保存] を選択します。

## 8.3 ビュー

ビューを使用すると、ユーザーは自分の職務権限に基づく重要なロケーションやグループのロケーションデータを監視しやすくなります。



ビューを設定して、新しいダッシュボード画像にロケーション状態を表示したり、選択したロケーションのトレンドグラフを表示したりすることができます(リモートディスプレイ端末でビューを表示する際に便利です)。新しいビューは[**ビューマネージャー**]で作成し、[**概要**]ウィンドウからアクセスします。

### 8.3.1 あなたのビュー

viewLinc にログインすると、[**概要**]ウィンドウにあなたのビューが表示されます。ビューは[**ビューマネージャー**]で作成したカスタムのロケーションの集合です。また、アクセス許可のある他人が作成したビューも表示できます(「**ビュー**」(109 ページ)を参照)。

ビューを使用して、次のことができます。

- ビューのロケーションで現在の状態を監視する([**状態**]タブ)。
- ビューを示すダッシュボードを表示する([**ダッシュボード**]タブ)。
- ビューで全ロケーションのアラームレポートを生成するか、アラームにตอบสนองする([**ロケーションアラーム**]タブ)。
- ビューの全ロケーションで収集したデータをもとにトレンドを作成する([**トレンド**]タブ)。

### 8.3.2 ビューの作成

[**サイト**]と[**サイトマネージャー**]のゾーンとロケーションツリーの構成は、(「**サイトの管理**」権限を持つ)viewLinc 管理者のみが変更できます。その他の viewLinc ユーザーは誰でもビューを作成して、重要なロケーションのディスプレイをカスタマイズすることができます。

#### ビューの作成

1. [**ビューマネージャー**]で、**+**[**追加**]>[**ビューの追加**]を選択します。
2. [**ビューの追加**]ウィンドウで、ビューの名前を入力します。
3. **+**[**追加**]>[**ロケーションの追加**]を選択します。
4. ビューに含めるすべてのロケーションを選択します。
  - ゾーン内の全ロケーションを選択するか([**ゾーン**]チェックボックスを選択)、1つ以上のゾーンでロケーションを1つずつ選択します。
  - 選択したゾーン内のロケーションのみがビューに含まれます。フォルダーを使用して、ビュー内のロケーションを整理できます。
5. [**追加**]を選択します。
6. ビューを保存します。

「**ビューの管理**」権限を持つグループのメンバーである場合は、ビューを共有することもできます(「**ビューの共有**」(111 ページ)を参照)。

#### ビューでのロケーションの整理

1. [**ビューマネージャー**]の[**ビュー**]ツリーで、保存済みのビューを選択します。
2. **+**[**追加**]>[**フォルダーの追加**]を選択します。保存されていない変更がツリーにある場合はこのメニューがアクティブの状態になりません。
3. [**フォルダーの追加**]ウィンドウで、フォルダーの名前を入力します。
4. ダッシュボード上に表示するアイコンを選択します。



5. **[追加]**を選択します。
6. **[ビュー]** ツリーで、ロケーションを新しいフォルダーにドラッグします。

### 既定のビューの設定

- ログインすると、既定のビューが自動で表示されます。

1. **[概要]** の **[ビュー]** ツリーで、ビューを選択します。
  2. **[オプション]** > **[既定のビューとして設定]** を選択します。
- ユーザーごとに異なった既定のビューを指定することができます。

## 8.3.3 ビューの共有

### 🔒 ビューの管理

あなたが作成したビューを他のユーザーにアクセスできるようにします。ユーザーがログインすると、**[概要]** ウィンドウに新しく共有したビューが自動的に表示されます。ビューを共有すると、リモートディスプレイが簡単にカスタマイズできるようになります(「リモートディスプレイ用のビューの作成」(112ページ)参照)。

- 📘 グループに表示のアクセス許可が与えられているロケーションのみがビューに表示されません。

### ビューを共有する

1. **[ビューマネージャー]** の **[ビュー]** ツリーで、ビューを選択します。
2. **[アクセス許可]** タブで、**[追加]** を選択します。**[アクセス許可の追加]** ウィンドウが表示されます。
3. 1つ以上のグループを選択し、続いて付与するアクセス許可レベルを選択します。
  - **ビュー:** グループがこのビューを **[概要]** ウィンドウで表示できるようにします。
  - **フルコントロール:** グループが、**[ビューマネージャー]** でビューを変更したり、他のユーザーとビューを共有できるようにします。
4. **[保存]** を選択します。


## 8.3.4 既定のビューの選択

他のユーザーによりビューが割り当てられている場合、または独自のビューを設定している場合は、その1つのビューを既定のビューにできます。ログインすると既定のビューが自動的に開き、現在のダッシュボードが表示されます(追加されている場合)。

### 既定のビューの選択

1. **[概要]** の **[ビュー]** ツリーで、ビューを選択します。
2. **[オプション]** > **[既定のビューとして設定]** を選択します。既定のビューに星のアイコン ☆ が表示されます。



既定のビューをすばやく見つけるには、**[既定のビューの選択]** ツールバーアイコン  をクリックします。

既定のビューを変更するには、**[ビュー]** ツリーで新しいビューを選択し、**[オプション]** > **[既定のビューとして設定]** を選択します。

## 8.3.5 リモートディスプレイ用のビューの作成

### システムの管理、ビューの管理

ビューを作成して、スタンドアロンのディスプレイ端末、またはウォールマウント型ディスプレイ端末に表示される内容を制御します。

#### リモートディスプレイビューの設定

1. ディスプレイ端末に表示したいゾーンまたはロケーションを含めた新しいビューを作成します（「**[ビュー]**」(109 ページ)を参照）。
2. ビューでゾーンまたはロケーションに対して「**[アラームの受信確認]**」アクセス許可を持つ新しいグループを作成します（「**[グループ]**」(57 ページ)を参照）。
3. ビューをグループと共有します（「**[ビューの共有]**」(111 ページ)を参照）。
4. グループにはユーザーが最低1人いるようにします。このユーザーを使用してリモートディスプレイにログインします。リモートディスプレイ専用のユーザーを作成し、このユーザーを新しいグループに追加することができます（「**[ユーザー]**」(58 ページ)を参照）。
5. ユーザーの既定ビューとしてビューを設定します（「**[既定のビューの選択]**」(111 ページ)を参照）。



リモートディスプレイの電力が中断された場合は、ログインしているユーザーの既定のビューに自動的に再接続されます。再度ログインする必要はありません。

## 8.4 リモート ディスプレイまたはモバイル デバイスで viewLinc にアクセスする

リモートディスプレイ端末での viewLinc のセットアップや、モバイル デバイスでのアプリケーションへのアクセスが簡単に実行できます。

- **リモートディスプレイ:** 特定の監視環境で便利な場所にある視覚表示を設定します。大型モニターは、完全なワークステーション(タワーまたはキーボード付き)をセットアップする必要がなく、大規模な視覚表示が必要な領域に最適です。リモートディスプレイ画面には **[概要]** ウィンドウ タブに **[ビュー]** ナビゲーション ツリーが折りたたまれた状態で表示されます。ロケーション情報は、ログインしているユーザー アカウントに割り当てられた既定のビューによって決まります。

- リモート ディスプレイの電力が中断された場合は、ログインしているユーザーの既定のビューに自動的に再接続されます。再度ログインする必要はありません。

- **モバイル デバイス:** お使いのスマートフォンまたはタブレットで監視とアラーム受信確認を実行します。

- ℹ viewLinc はPOS 端末もサポートします。サポートをご希望の方は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。

## 8.4.1 リモート ディスプレイ要件

リモート ディスプレイ端末を設定する前に、以下の点を確認してください。

- ディスプレイのハードウェアが viewLinc システム要件を満たしている(「ハードウェア要件」(1 ページ)を参照)。
- ディスプレイが有線キーボード、またはタッチスクリーン式のキーパッドに接続できる。
- ログインユーザーはリモート ディスプレイビューが使用できる(「リモートディスプレイ用のビューの作成」(112 ページ)を参照)。

- ℹ すべての viewLinc ユーザーはリモート ディスプレイにログインできますが、表示されるデータはログインしたユーザーに提供されているビュー設定によって定義されます。

## 8.4.2 リモート ディスプレイの設定

### リモート ディスプレイ端末の設定

- ℹ 既定の viewLinc 管理者グループに割り当てられたユーザーのみが、リモート ディスプレイを設定できます。サポートが必要な場合は、IT ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1. リモート ディスプレイビューを設定します(「リモートディスプレイ用のビューの作成」(112 ページ)を参照してください)。
2. リモート ディスプレイ端末では、Windows アカウントを作成し、自動ログオンに設定します(例: <http://support.microsoft.com/kb/324737>)。
3. Windows スタートアップフォルダーで、対応するブラウザーを開くためのデスクトップショートカットを作成します(「ハードウェア要件」(1 ページ)を参照してください)。これによって、ユーザーのログイン時にブラウザーが自動的に起動します。
4. Windows Update を無効にし、ディスプレイ画面でポップアップが開かないようにします。
5. 端末のブラウザーを起動し、既定のホームページを viewLinc アドレスに設定します。末尾に「/display」を付けます(例: <http://viewLinc.com/display>)。
6. リモート端末ブラウザーを全画面モードで操作できるように設定しします([F11]を押す)。

7. リモート ユーザー アカウント名とパスワードを使用して、viewLinc リモート ディスプレイ アプリケーションにログインします。ユーザーの既定のビューが自動的に開きます。これらの設定は、ユーザーがディスプレイ アプリケーションからログアウトするまで記憶されます。

- 何らかの理由でディスプレイが再起動した場合、Windows 自動ログオン設定によって、ブラウザが自動的に再起動し、前回のユーザーとしてログインします。

### 8.4.3 viewLinc Mobile の使用

チームメンバーが viewLinc ネットワークから離れている場合でも、ユーザーは viewLinc Mobile でデータにアクセスし続けることができます。サポートされている Android ブラウザー、またはサポートされている iOS Mobile Safari ブラウザーが必要です。

#### viewLinc Mobile を開く

1. モバイル デバイスでインターネット ブラウザーを開きます。
2. viewLinc IP アドレスを入力して、その末尾に「/mobile」を付けます (例: ###.###.###/mobile)。



3. 表示する言語を選択します。英語以外の言語に変更すると、ページが自動的に更新され、新しい言語で表示されます。
4. viewLinc ユーザー名とパスワードでログインします。
5. **[ログイン]** をタップします。

詳細については、「「viewLinc Mobile でのデータの表示」(156 ページ)」を参照してください。

## 9. 毎日の作業

viewLinc ワークスペースについて理解を深めるために、ツアー「viewLinc の使用」(viewLinc ツールバー、[ヘルプ]メニューからアクセス)をご覧になることをお勧めします。

一般に、viewLinc ユーザーの毎日の作業には、以下のようなものがあります。

- 状態のモニタリング(「状態のモニタリング」(119 ページ)を参照)。
- アラームの受信とアラームへの対応(「アラーム通知の受信」(125 ページ)を参照)。
- アラームの一時停止(「アラームを一時停止する」(130 ページ)を参照)。
- イベントログ アクティビティの確認(「イベントの追跡」(134 ページ)を参照)。
- 履歴データの分析(「トレンドの作成」(139 ページ)を参照)。
- さまざまなタイプのレポートの生成(「レポート」(144 ページ)を参照)。

- 毎日の作業の方法を紹介する複数のツアーがご利用いただけます([ヘルプ]>[ツアー])。

### 9.1 デスクトップのオリエンテーション

viewLinc は、貴社の監視エリアをゾーンとロケーションを使用して容易に識別できるようにデザインされています。表示が許可されているすべてのゾーンとロケーションは、[ゾーンとロケーション]ナビゲーションツリーの[サイト]ウィンドウに表示されます。



[サイト]と[概要]ウィンドウのタブでは、データをさまざまな方法で表示させることができます。

| 状態                             | ダッシュボード                                  | ロケーションアラーム                           | トレンド   |
|--------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| ゾーンとロケーションのしきい値および構成状態を表示、監視する | インポートした画像を表示して、監視対象となる物理的環境を識別できるようにします。 | ツリーのゾーンとロケーションのアクティブなアラームイベントを表示します。 | リアルタイム データを可視化したグラフでロケーション履歴を組み合わせて、対照して比較します。 |

- [ゾーンとロケーション] ツリーは展開/折りたたみで視覚的に見やすくすることができるほか、ビューを使ってさらにカスタマイズすることもできます。最も重要性の高いロケーションのみを含めるようにビューを設定することができます。ビューの詳細については、「あなたのビュー」(110 ページ)を参照してください。

## 9.1.1 アイコン

表13 アイコンの用語集

### ホーム画面のアイコン



任意のデバイスから最後にデータを受信してから経過した時間。ビューが定期的に更新している場合、アイコンは緑色になります。ビューの更新ができなかった場合、アイコンは赤色になります。



ユーザーが表示許可を与えられているロケーションでの現在アクティブなアラームの数。[アラーム] ウィンドウをクリックして開き、アラームを受信確認します。



音声アラームがアクティブです。音声をキャンセルするには、クリックして [アラーム] ウィンドウを開きます。



オンライン ヘルプを開くか、ツアーを視聴します。



ログアウトするか、[ユーザーおよびグループ] ウィンドウを開いて、自分の個人情報編集します。「システムの管理」権限が必要です。

UTC+7

viewLinc で使用されるタイムゾーンは UTC (協定世界時) との差で示されます。UTC は、インターネットを介してコンピューターの時計を同期する際に基準となる時刻です。

### ウィンドウのアイコン



更新 - 最新のシステム変更、またはデータ更新を表示します。





















ツリーで検索 - [ゾーンとロケーション] ナビゲーション ツリーで、選択されているロケーションが強調表示されます。



クイックレポート - 選択したゾーンまたはロケーションのアラーム/ロケーション履歴/システムに関するレポートを生成します。



測定の種類: 温度

|  |  |
|--|--|
|       | 測定の種類: 湿度                                  |
|       | 測定の種類: その他                                 |
|       | 測定の種類: ブール値                                |
|  ラボ A | リンクしていないチャンネルおよびロケーションは、グレーの斜体で表示されます。     |
|  ラボ A | 非アクティブ化されたロケーションは、取り消し線が入った赤色のテキストで表示されます。 |
|       | Vaisala デバイス アイコン: RFL100 シリーズ             |
|       | Vaisala デバイス アイコン: DL デバイス                 |
|       | Vaisala デバイス アイコン: HMT140 シリーズ             |
|       | Vaisala デバイス アイコン: 300 シリーズ                |
|       | ホストアイコン: アクセス ポイント                         |
|       | ホストアイコン: デバイス ホスト サーバー                     |
|       | viewLinc ES サーバー                           |
|       | 一次停止されたアラーム                                |
|       | グループ                                       |
|       | 校正アラーム                                     |
|       | 通信アラーム                                     |
|       | 構成アラーム                                     |
|      | 検証アラーム                                     |

## 9.1.2 ゾーンとロケーションの検索

ゾーンとロケーションのリストが長い場合、特定のロケーションを見つけるのに時間がかかることがあります。

### フル検索

すべてのユーザーはゾーンとロケーションのナビゲーション ツリーの一番上にある検索フィールドにアクセスできます。

- **[ゾーンとロケーション]** ツリー上の**[サイト]**で検索条件を入力し、拡大鏡アイコンをクリックして検索を起動します(「x」を使って検索フィールドをクリアします)。

## 検索のヒント

- 「South」という語を含むロケーションを検索するには、**South**と入力します (viewLinc は「South」という単語、または「South-West」や「Fridge: South Corner」などその単語が組み込まれたフレーズを含むゾーンまたはロケーションを検索します)。
- 「Room」で始まるゾーンを検索するには、「**Room\***」と入力します。
- 「Room」で始まるゾーンで、さらに「Temp」で始まるロケーションをすべて検索するには、「**Room\*/Temp\***」と入力します。
- 「temperature」と「température」など、1文字のみ異なる語を含めて検索するには、「**temp?rature**」と入力します。

を参照「リンクしたチャネル/リンクしたロケーションの検索」(49 ページ)。

## 9.1.3 カラムの操作

いくつかの viewLinc ウィンドウには、ロケーションの詳細がカスタマイズ可能な列の集合という表形式で提示されます。

### カラムの内容を並べ替える

列の内容によっては、自動的にアルファベット順または数値順に並べ替えることができます。

- マウスのカーソルをロウ見出しに重ねて、下向き矢印  $\downarrow$  をクリックします。
- 表示されるメニューで、**[昇順に並べ替え]** または **[降順に並べ替え]** を選択します。または、カラム見出しをクリックして、そのすべてのロウをアルファベット順の昇順または降順で並べ替えることもできます。

### 列順序の変更

マウスを使って列を左右に移動できます。

- 調整可能なカラムのあるウィンドウ、**[概要]**、**[サイト]**、**[アラーム]**、**[ビュー マネージャー]**、**[イベント]**、**[ユーザーおよびグループ]**、**[サイト マネージャー]** のいずれかを開きます。
- カラム見出し名を選択し、クリックしたまま左右にドラッグします。
- ドロップインジケータが出たら、カラムを放してドロップします。



ドロップインジケータが出ない場合、カラムが固定位置にあり、移動できないことを示します。

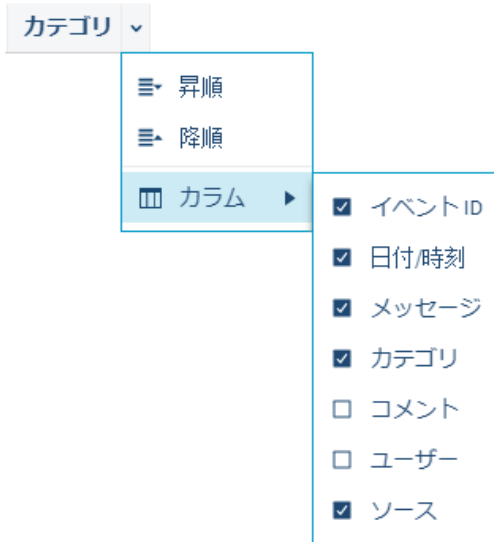
### 列の表示/非表示

- マウスのカーソルをロウ見出しに重ねて、下向き矢印  $\downarrow$  をクリックします。





- 表示されるメニューで【カラム】を選択し、表示するカラムを選択するか、非表示にするカラムの選択を外します。



- リストを閉じるには、カラムのリストの外をクリックするか【Esc】キーを押します。

## 9.2 状態のモニタリング

重要なロケーションのみを監視するには、[サイト]、または[概要]のウィンドウを開き、アクティブなしきい値とデバイスアラームを表示させます。表示アクセス許可のあるロケーションまたはゾーンのみアラームが表示されます。

アラームには次の方法のいずれかで対応してください:

- しきい値アラームは、そのロケーションのアラーム通知のアクセス許可を持っていれば受信確認できます。
- デバイスアラームは、そのデバイスにリンクされている1つ以上の[ロケーション]に対してアラーム受信確認のアクセス許可があれば受信確認できます。



すべてのアクティブなアラームの種類は、システムアラームも含めて [アラーム] ウィンドウに表示されます。表示アクセス許可のあるロケーションまたはゾーンのみアラームが表示されます。アラームの種類の詳細については、「アラームのタイプ」(62 ページ)を参照してください。

## 9.2.1 アクティブアラームの識別

アラームウィンドウには全種類のアクティブアラーム - しきい値アラーム、デバイスアラーム、システムアラームが表示されますが、ロケーションのアラームに関しては表示が許可されたアラームのみが表示されます。

[アラーム] ウィンドウを使用してアラームを受信確認し、アラームレポートを印刷またはエクスポートします。



[サイト] ウィンドウまたは [概要] ウィンドウの [ロケーションアラーム] タブにて、しきい値アラームとデバイスアラームの表示と受信確認を行うことができます。

### アクティブなアラームと非アクティブなアラーム

- **[状態]** カラムを確認して、アラームがアクティブなアラーム状態にあるか、以前はアラーム状態にあったが現在は非アクティブであるかを判断します。
- 受信確認が必要なアクティブアラームと非アクティブアラームの両方がグリッドに表示されます。
- 受信確認が不要な非アクティブなアラームはグリッドに表示されません。
- すべての非アクティブなアラームの受信確認のオプションは、既定の viewLinc 管理者グループのメンバーに制限されています。

### アラームの受信確認

- **[受信確認]** カラムを確認して、アラームに受信確認が必要か、また受信確認が終わっているかを判断します。
- しきい値アラームは、そのロケーションのアラーム通知のアクセス許可を持っていれば受信確認できます。
- デバイスアラームは、そのデバイスにリンクされている1つ以上のロケーションに対してアラーム受信確認のアクセス許可があれば受信確認できます。
- システムアラームは、既定の viewLinc 管理者グループのメンバーだけが受信確認できます。

## 9.2.2 [サイト]または[概要]ウィンドウ:[状態]タブ

[サイト]または[概要]ウィンドウで[状態]タブを選択して、アクティブなしきい値アラームとデバイスアラームの重大度レベルを確認します。

表14 [状態]タブのカラム

| 列          | 定義                              |
|------------|---------------------------------|
| 状態         | 現在のしきい値状態(このカラムは削除できません)        |
| 種類         | 測定対象の値(このカラムは削除できません)           |
| しきい値の状態    | すべてのアクティブなしきい値アラームのサマリー         |
| デバイスの状態    | viewLincとの接続状態                  |
| 値          | 現在の測定値                          |
| タイムスタンプ    | 直近で値が記録された時間                    |
| しきい値のサマリー  | しきい値測定基準の説明                     |
| ロケーションID   | 参考目的でシステムが生成したID。               |
| ロケーションパス   | フォルダー                           |
| ロケーションの説明  | ユーザー定義の説明                       |
| デバイスID     | 参考目的でシステムが生成したID。               |
| デバイスシリアル番号 | デバイス固有のシリアル番号                   |
| デバイスアドレス   | デバイスホストのロケーション                  |
| デバイスの説明    | ユーザー定義の説明                       |
| サンプル間隔     | デバイスで構成されたサンプル取得間隔              |
| バッテリー残量    | バッテリー寿命の推定残り時間                  |
| 信号の質       | ワイヤレス受信の質                       |
| チャンネルID    | デバイスで構成されたチャンネルID               |
| チャンネル番号    | デバイスで構成されたこのロケーションのチャンネル番号記録データ |
| チャンネルの説明   | ユーザー定義のチャンネルの説明                 |

## 9.2.3 viewLinc がしきい値アラームを識別する方法

ロケーション状態(温度や相対湿度など)が一定のしきい値限度値(しきい値アラームテンプレートで指定)の範囲外になると、しきい値アラームがトリガーされます。しきい値アラームテンプレートをロケーションに適用する際に、アラーム通知テンプレートを追加して、アラーム条件が発生した場合の通

知の受取人を定義することもできます。

問題の最初の兆候が起きたときに通知を出し、モバイル デバイスやコンピューター ディスプレイに SMS テキストやメール通知の警告を送信するように viewLinc を構成することができます。これらの通知は、特定の日にちや期間、またはユーザーの業務スケジュールに従って配信するようにスケジュール設定をすることも可能です。

また、しきい値アラームのカラー設定を使用して、viewLinc ディスプレイに、アラーム条件が軽度の懸念なのか、重度の懸念なのかを視覚的に示すこともできます(色は低～極度の懸念に従って事前設定されています)。

## 9.2.4 アラームがトリガーされた場合

viewLinc ヘッダーバーのアラームアイコンは、アクティブなアラームの数を示します(▲)。アクティブなアラームをすべて表示するには、アイコンをクリックして [アラーム] ウィンドウを開きます。

音声アラームを受信するように設定されている場合は、アクティブなアラーム サウンドアイコンをクリックするとそれがオフになります(🔕)。

アラーム状態が発生したら、指定したユーザーまたはグループにさまざまな種類の通知を送信できるように viewLinc を構成できます。

- **メールまたは SMS:** メールまたは SMS 通知は、ロケーションおよびユーザーの作業スケジュールに従って、アラーム通知テンプレートを基盤に一度だけ送信するか繰り返し送信することができます。メールまたは SMS メッセージは、特定のグループのユーザーに自動送信できます。
- **コマンド:** アプリケーションを起動して外付けデバイスをオンにするか、音声アラームを発動させることが可能です。例えば、アラーム状態が発生したとき、コマンドでライトやブザーを発動させたり、コンピューターで特定の番号を呼び出したり電話をかけたりできます。




viewLinc を構成して、指定したユーザーまたはグループにそれぞれ別の時間にアラーム通知を送信する、メッセージの内容を定義する、アラームに対してメールまたは SMS での受信確認を要求する、およびチームが応答しやすくなるように事前定義済みコメントを設定することができます。

- しきい値アラームテンプレートを作成して、アラームが発生される状態を定義します(「しきい値アラームテンプレートの作成」(64 ページ)を参照してください)。
- アラーム通知テンプレートを作成して、しきい値、デバイス、またはシステムのアラームが発生した場合に通知を送信するユーザーを定義します(「アラーム通知テンプレートの作成」(79 ページ)を参照してください)。




## 9.2.5 ダッシュボードで状態を表示

ダッシュボード画像は、「サイトの管理」権限と「フルコントロール」アクセス許可を持つユーザーがゾーンやロケーションに追加します。ダッシュボード画像は、「ビューの管理」権限を持つユーザーがビューに追加します。

ユーザーは誰でも、[サイト] ウィンドウでサイトのダッシュボードを表示し、[概要] ウィンドウでダッシュボードを表示することができます。ダッシュボード上のロケーションは、色コードで識別されたアイコンまたは背景色でアラーム状態を表示する場合があります（「ダッシュボード表示設定の変更」(52 ページ)」を参照）。


|               |             |  |
|---------------|-------------|--|
| アラーム状態検出なし    | 緑色          |  49.1 %RH |
| 高プライオリティアラーム  | 赤色のアイコン、または |  43.4 %RH |
|               | 赤色の背景色      |  21.7 °C  |
| 中プライオリティアラーム  | オレンジ色       |  21.5 °C  |
| 低プライオリティアラーム  | 黄色          |  21.7 °C  |
| 情報プライオリティアラーム | 青色          |  21.5 °C  |

### ダッシュボードナビゲーションツール

|   |   |
|---|---|
|    | <b>更新/元に戻す:</b> データ読み取り値を更新するか、またはダッシュボードに未保存の変更がある場合には、アイコンが変化してすべての未保存の変更を元に戻せるようになります。 |
|   | <b>トレンドの表示:</b> 新しいブラウザー ウィンドウでロケーションの履歴データをトレンドとして表示します。                                 |
|  | <b>ツリーで検索:</b> [ゾーンとロケーション] ナビゲーション ツリーで、選択されているロケーションが強調表示されます。                          |

## 9.2.6 ダッシュボード ロケーションのトレンドの表示

### ロケーション履歴のトレンドを表示する

1. **[サイト]** ウィンドウまたは **[概要]** ウィンドウでダッシュボード画像を使用しているゾーンまたはロケーションを選択します。
2. **[ダッシュボード]** タブで、現在のデータ読み取り値を選択します。
3.  **[トレンドの表示]** ツールバー ボタンを選択します(またはデータ読み取り値を右クリックして、**[トレンドの表示]** を選択します)。開いているトレンド ウィンドウで、トレンドの開始時刻と終了時刻、グラフの内容を変更することができます。

トレンド表示の変更方法の詳細については、「[「トレンドの作成」\(138 ページ\)](#)」を参照してください。

## 9.2.7 リンクしたダッシュボード ロケーションの検索

任意のダッシュボード タブ(サイト、サイト マネージャー、概要、ビュー マネージャー)で、**[リンクしたロケーションの検索]** ツールを使用すると、**[ゾーンとロケーション]** ツリー、または **[ビュー]** ツリー内のダッシュボード ロケーションを特定できます。

### リンクしたダッシュボード ロケーションの検索



1. **[サイト]** でダッシュボード画像を使用しているゾーンまたはロケーションを選択します(あるいは **[ビュー マネージャー]** の **[ビュー]** ツリーでビューを選択します)。
2. **[ダッシュボード]** タブで、現在のデータ読み取り値を選択します。
3. **[ツリーで検索]** ツールバー ボタンを選択します(またはダッシュボード データ読み取り値を右クリックします)。黄色のハイライト バーが **[ゾーンとロケーション]** ツリー(または **[ビュー]** ツリー)に一時的に表示され、対応するロケーションを示します。

## 9.2.8 現在のアラーム データの印刷またはエクスポート




記録保存のために、アクティブなアラーム状態のハードコピーを印刷するとよいでしょう。特定の期間中のアラームレポートを印刷するには、「[アラーム期間のレポート](#)」(148 ページ)を参照してください。**[アラーム]**、**[サイト]**、または **[概要]** ウィンドウで、現在のアラーム データを直接プリンターで印刷すること、またはデータをスプレッドシート(.tsv)にエクスポートすることができます。スプレッドシートでは、会社の報告要件に合わせて情報の表示を調整することができます。

特定のアラームの種類、または特定の期間のアラームレポートの生成方法については、「[アラームレポートの作成](#)」(153 ページ)を参照してください。

### 現在のアラーム データの印刷


- **[アラーム]** ウィンドウで、 **[印刷]** を選択します。所望の印刷設定を選択して、印刷します。
- **[サイト]** または **[概要]** ウィンドウの **[ロケーションアラーム]** タブでアクティブなアラームを1つ以上選択して、 **[印刷]** を選択します。所望の印刷設定を選択して、印刷します。


### 現在のアラームデータのエクスポート


1. **[アラーム]** ウィンドウでアクティブなデータをエクスポートする方法：
  -  **[Excelへエクスポート]** を選択します。アクティブなアラームのリストがすべて、スプレッドシートプログラム(既定のスプレッドシートソフトウェアはユーザーのPCに設定されています)の .tsv 形式ファイルでエクスポートされます。
2. **[サイト]** ウィンドウでアクティブなデータをエクスポートする方法：
  - a. **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、現在アクティブなアラーム状態を持つロケーションまたはゾーンを1つ以上選択 ([Ctrl] キーを押しながらクリック) します。
  - b. **[ロケーションアラーム]** タブで、 **[Excelへエクスポート]** を選択します。アクティブなアラームのリストがすべて、スプレッドシートプログラムの .tsv 形式ファイルでエクスポートされます。
3. **[概要]** ウィンドウでアクティブなデータをエクスポートする方法：
  - a. **[ビュー]** ツリーで、現在アクティブなアラーム状態を持つロケーションが含まれているビューを1つ以上選択します。
  - b. **[ロケーションアラーム]** タブで、 **[Excelへエクスポート]** を選択します。アクティブなアラームのリストがすべて、スプレッドシートプログラムの .tsv 形式ファイルでエクスポートされます。
4. 表示ウィンドウ下のステータス バーに、ダウンロード ファイル (.tsv) が表示されます。このファイルアイコンをダブルクリックして、**activealarms.tsv** ファイルを選択したスプレッドシートプログラムで開きます。
5. プロンプトが表示されたら、**[保存]** (既定のダウンロードフォルダーにファイルを保存) または **[開く]** を選択します。ファイル形式が認識されない場合は、Windows の **[すべてのプログラム]** で Excel を選択してファイルを表示し、変更を加えます。

## 9.3 アラーム通知の受信

アラーム応答を担当するグループのメンバーは、以下のようなさまざまな方法でアラーム状態またはイベントに関する通知を受信します。

 メールまたは SMS 通知を受信する

 viewLinc または 外付けデバイスの視覚インジケータで確認する

 音声アラームを聴く

viewLinc でアラームを受信確認して、アラームに応答することができます。お使いのシステムがリモート受信確認に対応するように設定されている場合、メールまたは SMS アラーム通知に返信することができます。

### 9.3.1 アラームの受信確認方法

受信確認とは、アラーム状態が認識されたことを viewLinc システムおよびその他に通知することを指します。アラーム状態を修正するために実行した手順やコメントなど、受信確認の際に提供された詳細は、[イベント] ウィンドウにイベントとして表示されます。

リモートで作業している場合は、モバイル デバイスでアラームを受信確認することができます。

「viewLinc Mobile でのアラームの受信確認」(159 ページ)を参照してください。

- i** アラームが発生しているロケーションの「アラームの受信確認」(またはそれ以上の)アクセス許可を持つ viewLinc ユーザーのみがアラームを受信確認することができます(「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)を参照してください)。

#### メールまたは SMS 経由でのアラームの受信確認

お使いの viewLinc システムでリモート受信確認がサポートされている場合は、メールまたは SMS テキストでアラーム通知を受信することができます(「メールと SMS 設定」(96 ページ)を参照してください)。

- アラーム通知を開きます。
  - 電子メール通知は viewLinc サーバー管理者アカウント(例: viewLinc.boulder@companyemail.com)から送信されます。
  - SMS 通知は viewLinc SMS モデム番号から送信されます。
- メールを受信確認するには、既定の件名行(およびチケット番号)が含まれている返信メッセージの本文に自身の PIN 番号を入力して送信します。例:

```
To: viewLincadmin@mycompany.com
Subject: RE: [Ticket 1234] viewLinc - Threshold Alarm on Location 'East Lab', Zone 'Boston'

4545

-----Original Message-----
From: viewLincadmin@mycompany.com
Sent: February 01-17 2:56 pm
Subject: [Ticket 1234] viewLinc - Threshold Alarm on Location 'East Lab', Zone 'Boston'

There has been a threshold alarm on 2017-02-01 14:55:00 on Location 'East Lab', Zone 'Boston'.
```

- i** 返信メール メッセージの本文に PIN が入っていない場合や件名にチケット番号が含まれていない場合は、アラームの受信確認とはみなされません。

- SMS 通知を受信確認するには、チケット番号と PIN が含まれている返信を携帯電話から送信します。


[1234] Threshold Alarm  
East Lab Zone Boston

5:52 PM

1234 4545

8:55 PM



 認識された電話番号とPIN から送信された SMS 返信のみがアラームの受信確認とみなされます。


### [サイト] または [概要] でのアラームの受信確認

1. [サイト] または [概要] ウィンドウで、[ロケーションアラーム] タブを選択します。
2. すべてのアクティブなアラームのリストを確認します ([状態] カラム)。
3. [受信確認] カラムを使用して、受信確認が必要なアラームを識別します。複数のアラームを受信確認する場合は、[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら、複数のアラームを選択します。
4. [受信確認] を選択 (または右クリックして [受信確認] を選択) します。

5. [アラームの受信確認] ウィンドウで、アラーム状態を修正するために実行したアクションの説明と追加コメントを入力します。事前定義済みコメントがある場合は、それをドロップダウンリストで選択します。または、テキストボックスに独自のコメントを入力します。例えば、冷蔵施設に関する高温アラームを受け取り、冷蔵庫のドアが開いたままの状態であることが判明した場合は、冷蔵庫のドアを閉じてから、[アラームの受信確認] ウィンドウでそのアクションを説明します。
6. [受信確認] を選択します。コメントとアクションがイベントログに追加され、[アラームの受信確認] プロンプトが閉じます。行われた変更に応じて、ロケーションの状態および [アラーム] ウィンドウの [受信確認] カラムが更新されます。

### [アラーム] ウィンドウでのアラームの受信確認

[アラーム] ウィンドウには、すべてのアラームの種類がプライオリティ順に一覧表示されます。デバイスアラームとシステムアラームはすべてのユーザーが表示できますが、ロケーションのアラームは表示権限のあるユーザー以外は表示することができません。


 既定の viewLinc 管理者グループのメンバーのみがシステムアラームを受信確認できます。

1. [アラーム] ウィンドウで、すべてのアクティブなアラームのリストを確認します ([状態] カラム)。
2. [受信確認] カラムを使用して、受信確認が必要なアラームを識別します。複数のアラームを受信確認する場合は、[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら、複数のアラームを選択します。
3. [受信確認] を選択 (または右クリックして [受信確認] を選択) します。
4. [アラームの受信確認] ウィンドウで、実行したアクションとコメントを入力します。事前定義済みコメントがある場合は、それをドロップダウンリストで選択します。または、テキストボックスに独自のコメントを入力します。

5. **【受信確認】**を選択します。コメントとアクションがイベント ログに追加されます。ロケーションおよび**【アラーム】**ウィンドウの**【受信確認】**カラムはこの状態変更で更新されます。

### システムアラームの受信確認

システムアラーム(データベースまたはイベントログ検証アラーム)は、**【アラーム】**ウィンドウでのみ受信確認できます。システムアラームは、受信確認されるまで**【アラーム】**ウィンドウに表示されたままになります。

 すべてのシステムアラームの受信確認機能を使用するには、viewLinc 管理者グループのメンバーである必要があります。

1. **【アラーム】**ウィンドウのアラームグリッドで、システムアラームを右クリックして、**【受信確認】**を選択します。
2. **【アラームの受信確認する】**ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
3. **【受信確認】**を選択します。


### すべてのシステムアラームの受信確認

1. **【アラーム】**ウィンドウで、**【受信確認】**>**【すべてのシステムアラームの受信確認】**の順に選択します。複数のロケーションを選択する必要はありません。
2. **【アラームの受信確認する】**ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
3. **【受信確認】**を選択します。

### 9.3.2 非アクティブなアラームの受信確認

会社によっては、非アクティブなアラームの受信確認が要請される場合があります。非アクティブなアラームとは、アラームはトリガーされたものの、アラーム状態が既に存在しないことを示します。

非アクティブなしきい値アラームまたはデバイスアラームを受信確認するには、[アラーム]、[サイト]、または[概要]ウィンドウを使用できます。

 既定の viewLinc 管理者グループのメンバーだけが非アクティブなアラームの受信確認を行うことができます。

#### 非アクティブなアラームの受信確認-[アラーム]ウィンドウ

1. [アラーム]ウィンドウのアラームグリッドで、非アクティブなアラームを右クリックし、**[受信確認]**を選択します。
2. **[アラームの受信確認]**ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
3. **[受信確認]**を選択します。
  - 受信確認された非アクティブなデバイス通信アラームはグリッドに表示されたままになります。
  - グリッドに表示されているデバイス校正の期日通知を受信確認します。
  - 受信確認された非アクティブなしきい値アラームはビューでは非表示になります。

#### すべての非アクティブなアラームを受信確認する-[アラーム]ウィンドウ

1. [アラーム]ウィンドウで、**[受信確認]>[すべての非アクティブなアラームを受信確認する]**を選択します。複数のロケーション選択は不要です。
2. **[アラームの受信確認する]**ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
3. **[受信確認]**を選択します。

#### 非アクティブなアラームの受信確認-[サイト]ウィンドウ

1. [ゾーンとロケーション]ツリー上の**[サイト]**ウィンドウで、ゾーンを選択します。
2. アラームグリッドの**[ロケーションアラーム]**タブで、非アクティブなアラームを右クリックし、**[受信確認]**を選択します。
3. **[アラームの受信確認]**ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
4. **[受信確認]**を選択します。

## 非アクティブなアラームの受信確認-[概要] ウィンドウ




1. **[概要]** ウィンドウの**[ビュー]** ツリーで、ビューを選択します。
2. アラームグリッドの**[ロケーションアラーム]** タブで、非アクティブなアラームを右クリックし、**[受信確認]**を選択します。
3. **[アラームの受信確認]** ウィンドウで実行されたアクションを表示し、事前定義済みのコメントが使用可能な場合はこれを選択します。また、非アクティブなアラームを受信確認する理由についてコメントを入力します。
4. **[受信確認]** を選択します。

## 9.3.3 音声アラームへの応答

お使いのシステムで音声アラームが生成された場合、ユーザープロファイルで音声アラームプリファレンスを有効にしているユーザーが viewLinc にログインしている間のみそれを受信できます。ユーザーPCの音量がオンになっている必要があります。

音声アラームをオフにすると、viewLinc でアラームの受信確認として認識されなくなります。音声アラームのアクティブ化とキャンセルは、イベントログでは追跡されません。

### アクティブな音声アラームをオフにする

1. アクティブな音声アラームをキャンセルするには、viewLinc 画面最上部の赤の音声アラームアイコン  を選択します。
2. アクティブな音声アラームをキャンセルし、アラームを受信確認するには:
  - a. viewLinc 画面最上部の赤の音声アラームアイコン  を選択します。アイコンがアラームアイコン  に変わります。
  - b. アラームアイコンを選択して、**[アラーム]** ウィンドウを選択します。
  - c. アラームテーブルでアラームを見つけ、**[受信確認]** > **[アラームの受信確認]** を選択します。
3. **[アラームの受信確認]** ウィンドウに必要な情報を入力します。アラームの受信確認の詳細については、「**[アラーム]** ウィンドウでのアラームの受信確認」(127 ページ)を参照してください。

## 9.4 アラームを一時停止する

デバイスの移動時や、所定のしきい値を超える条件がすでに分かっている場合に、不要なしきい値またはデバイスアラーム通知を回避するために、1つ以上のロケーションでしきい値アラームを一時停止したり、1つのデバイス、あるいはホストに接続されているすべてのデバイスでデバイスアラームを一時停止したりできます。

一時停止したアラームは、期限までに手動で再開されない限り、24時間後に自動的に再開されます。一時停止中も、データの収集はリンクしたすべてのロケーションで継続されます。



一時停止するロケーションに対するアラーム構成のアクセス許可が必要です。管理者グループのメンバーのみが、ホストアラームを一時停止することができます。

## アラームの無効化との違い

しきい値アラームとデバイスアラームは、手動で有効にするまで無効化状態が続きます(「デバイスアラームの種類」(69 ページ)を参照)。

### 9.4.1 しきい値アラームの一時停止

しきい値アラームを一時停止して、不要なしきい値アラームのトリガーを回避します。例えば、監視対象在庫を1つの施設から別の施設に移す場合や、追加の在庫があり、このアクティビティがデバイス読み取り値に影響を及ぼす場合などが考えられます。

しきい値アラームを一時停止しても、viewLinc は引き続きロケーションを監視しますが、しきい値レベルはすべて無視します。デバイスでのデータログは記録され、デバイスのアラームはアクティブな状態を維持します。

[サイト] ウィンドウで1つ以上のロケーションのしきい値アラームを一時停止したり、[概要] ウィンドウでビューに割り当てられたロケーションのすべてのしきい値アラームを一時停止したりできます。リモートで作業している場合は、モバイル デバイスからアラームを一時停止することができます。「viewLinc Mobile でのアラームの一時停止または再開」(158 ページ)を参照してください。



アラームを一時停止するロケーションごとに、「アラーム構成」のアクセス許可が必要です。

#### ロケーションでのしきい値アラームの一時停止

1. [サイト] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、1つ以上のロケーションまたはゾーンを選択 ([Ctrl] キーを押しながらクリック) します。
2. [オプション] > [しきい値アラームを一時停止] (または右クリックして [しきい値アラームを一時停止]) を選択します。
3. [しきい値アラームの一時停止] ウィンドウで、以下を指定します。
  - a. **期間:** アラームを一時停止する期間 (1 ~ 24 時間) を入力します。
  - b. **コメントの追加:** 必要に応じて、事前定義済みのコメント (これがある場合) を使用してしきい値のアラームを一時停止する理由を入力するか、テキストボックスに独自のメモを入力します。
4. [OK] を選択します。[ロケーションアラーム] タブのアクティブなアラームリストが自動更新されます。

#### ビューでのしきい値アラームの一時停止

1. [概要] ウィンドウの [ビュー] ツリーで、1つ以上のビューを選択 ([Ctrl] キーを押しながらクリック) します。
2. [オプション] > [しきい値アラームを一時停止] (または右クリックして [しきい値アラームを一時停止]) を選択します。
3. [しきい値アラームの一時停止] ウィンドウで、以下を指定します。
  - a. **期間:** アラームを一時停止する期間 (1 ~ 24 時間) を入力します。
  - b. **コメントの追加:** 必要に応じて、事前定義済みのコメント (これがある場合) を使用してしきい値のアラームを一時停止する理由を入力するか、テキストボックスに独自のメモを入力します。

4. **[OK]**を選択します。**[ロケーション アラーム]** タブのアクティブなアラームリストが自動更新されません。

## 9.4.2 デバイスまたはホストアラームの一時停止

デバイスまたはホストのアラームを一時停止させて、不要なアラームを回避します(制限区域のリフォーム中に一時的に電源を遮断する必要が生じた場合など)。アラームを一時停止しても、viewLincでは引き続きロケーションの監視が行われますが、デバイスとホスト間の通信停止はすべて無視されます。

デバイスまたはホストアラームを一時停止しても、リンクしたロケーションのデータ収集は中断されません。

**[サイト]** ウィンドウで1つ以上のロケーションのアラームを一時停止するか、**[概要]** ウィンドウでビューに割り当てられたすべてのロケーションを一時停止することができます。

リモートで作業している場合は、モバイル デバイスからアラームを一時停止することができます。

「**[viewLinc Mobile でのアラームの一時停止または再開]**(158 ページ)」を参照してください。

**i** 一時停止するロケーションに対するアラーム構成のアクセス許可が必要です。管理者グループのメンバーのみが、ホストアラームを一時停止することができます。

### 単一ロケーションでデバイスのアラームを一時停止する

1. **[サイト]** ウィンドウの **[ゾーンとロケーション]** ツリー上で、ロケーションを選択します。
2. **[オプション]** > **[デバイス アラームの一時停止]** (または右クリックして **[デバイス アラームの一時停止]**) を選択します。
3. **[デバイス アラームの一時停止]** ウィンドウで、適切なデータロガー チャネルが選択されていることを確認し、**[はい]** を選択して先に進みます。
  - **期間:** アラームを一時停止する期間(1 ~ 24 時間)を入力します。
  - **コメントの追加:** 必要な場合は、デバイス アラームを一時停止する理由を入力します。事前定義済みのコメントが利用可能な場合はここから選択するか、編集可能なテキストボックスにメモを入力します。
4. **[OK]**を選択します。

### 複数のロケーションでデバイスアラームを一時停止

1. **[サイト]** ウィンドウの **[ゾーンとロケーション]** ツリーで、複数のロケーションを選択 (**[Ctrl]** キーを押しながらクリック)して、**[オプション]** > **[デバイス アラームの一時停止]** の順に選択(または、右クリックして **[デバイス アラームの一時停止]** を選択)します。
2. **[デバイス アラームの一時停止]** ウィンドウで、選択したデータロガー チャネルを確認し、**[はい]** を選択して先に進みます。
  - **期間:** アラームを一時停止する期間(1 ~ 24 時間)を入力します。
  - **コメントの追加:** 必要な場合は、事前定義済みのコメント(利用可能な場合)を使用してデバイスのアラームを一時停止する理由を入力するか、編集可能なテキストボックスにメモを入力します。
3. **[OK]**を選択します。

### ビューでのデバイスアラームの一時停止

1. **[概要]** ウィンドウの **[ビュー]** ツリーで、1つ以上のビューを選択 ([Ctrl] キーを押しながらクリック) します。
2. **[オプション]** > **[デバイスアラームを一時停止]** (または右クリックして **[デバイスアラームを一時停止]**) を選択します。
3. **[デバイスアラームの一時停止]** ウィンドウで、**[はい]** を選択して先に進みます。
  - **期間:** アラームを一時停止する期間 (1 ~ 24 時間) を入力します。
  - **コメントの追加:** 必要な場合は、定義済みのコメント (利用可能な場合) を使用してホストのアラームを一時停止する理由を入力するか、テキストボックスにメモを入力します。
4. **[OK]** を選択します。


### ホストアラームの一時停止

1. **[ゾーンとロケーション]** ツリーの **[サイト]** ウィンドウで、マウスを使用してロケーションを選択し、続いて **[オプション]** > **[ホストアラームを一時停止]** (または右クリックして **[ホストアラームを一時停止]**) を選択します。
2. **[ホストアラームの一時停止]** ウィンドウで、**[はい]** を選択して先に進みます。
  - **期間:** アラームを一時停止する期間 (1 ~ 24 時間) を入力します。
  - **コメントの追加:** 必要な場合は、定義済みのコメント (利用可能な場合) を使用してホストのアラームを一時停止する理由を入力するか、テキストボックスにメモを入力します。
3. **[OK]** を選択します。

## 9.4.3 しきい値、デバイス、ホストアラームの再開

[サイト] ウィンドウで1つ以上のロケーションのアラームを再開すること、または [概要] ウィンドウでビューに割り当てられているロケーションのアラームを再開することができます。

### アラームを再開する

 アラームを一時停止するロケーションごとに、「アラーム構成」のアクセス許可が必要です。

1. **[サイト]** ウィンドウの **[ゾーンとロケーション]** ツリー上で、現在アラームを一時停止しているロケーションまたはゾーンを選択します。または、**[概要]** ウィンドウの **[ビュー]** ツリーで、現在アラームが一時停止されているビューを選択します。
2. **[オプション]** > **[...] アラームを再開する** (または右クリックして **[...] アラームを再開する**) を選択します。

## 9.5 イベントの追跡

[イベント] ウィンドウを使用してイベントを分析し、特定の問題が発生した時点と場所を判定します。または、トラブルシューティングが必要な状況を診断します。

すべての viewLinc システム アクティビティはイベントとして扱われ、すべてのイベントはイベントログで追跡されます。イベントとして追跡されたデータは、デバイスに記録された監視データとは異なります。主な違いは次のとおりです。

- アラーム、アラーム受信確認、システム構成変更、全般システム通知などのイベントは viewLinc システム内で発生します。
- 温度、相対湿度、空気圧、電圧など、デバイスは監視対象の環境内で変更を追跡します。

viewLinc による継続的なイベントログ履歴の監視と保存を確実にするために、viewLinc イベントログが外部的に改ざんされた場合は、イベント検証アラームによって通知されます。

### 9.5.1 イベントの表示

[イベント] ウィンドウには、イベントログが表示されます。これはテキストで一覧表示したもので、影響を受けるシステム上のデバイスやソフトウェアで発生するすべてのイベントタイプ(アラーム、デバイス変更、システム更新)を表示します。

- 確実に改ざんが記録されないようにするには、イベント ウィンドウの右上隅の [イベントログ状態] をチェックします。

#### イベントの表示

- [イベント] ウィンドウを開きます。
- 特定期間のイベントを表示するには、[期間の編集] を選択します。
- 時間枠を指定します。

#### 期間の編集

イベント表示の対象: 1日間 終了 2018-03-08 12:15

次の時刻開始のイベントを表示: 2018-03-07 12:14 終了時点 2018-03-08 12:14

保存 キャ...

- イベント表示の対象/終了: 終了日で時間枠を選択します。
  - 次の時刻開始/終了時点のイベントを表示: 特定の日時を入力するか、カレンダーボタンを使用して選択します。
- 表示イベントを絞り込むには、[詳細フィルターの表示] を選択します。



5. 使用可能なフィルターの中から選択します。
  - **カテゴリ**: エクスポートに含めるイベントの種類を選択します(複数可)。
  - **ロケーション**: 含めるゾーンやロケーションを選択します。
  - **グループおよびユーザー**: 選択したグループまたはユーザーによって記録されているイベントを表示します。
6. **【フィルターの適用】**を選択します。フィルターをリセットするには、**【クリア】**を選択します。



フィルターを設定したら、[検索] フィールドを使って、特定のユーザーまたはグループが受信確認したイベントのみや、特定のロケーションで発生したイベントのみに絞って表示します。

7. コメントやカスタム イベントに追加された詳細などの追加のイベント情報を表示するには、イベントをダブルクリックして**【イベントの詳細】** ウィンドウを開きます。

イベントの詳細では、アラーム イベントの発生原因についての具体的な情報や入力されたコメントを確認できます。

## 9.5.2 イベントへのコメントの追加

発生したイベントの原因、またはイベントや問題への対応を詳しく説明するために、イベントログ欄にコメントを追加するとよいでしょう。

### イベントコメントを追加する

1. **【イベント】** ウィンドウでイベントを選択し、**【コメントの追加】** を選択します。
2. **【コメントの追加】** ウィンドウで、事前定義済みコメントが使用可能な場合はここから選択するか、自身のコメントを入力します。
3. **【保存】** を選択します。

### イベントコメントを表示する

1. **【イベント】** ウィンドウで、イベントが含まれる行を選択します(コメントアイコン(Q)が**【コメント】** コラムに表示されます)。
2. イベントの行をダブルクリックします。
3. **【イベントの詳細】** ウィンドウで、グリッドの最後の行にコメントが表示されます。



コメントはイベント ログ レポートにも表示されます。

## 9.5.3 カスタム イベントの追加

カスタム イベント (システム アップグレードを示す場合など) を作成すると、新しいイベントが [イベント] ウィンドウの上部に表示されます。

### イベントを追加する

1. [イベント] ウィンドウで、[カスタム イベントの追加] を選択します。
2. カスタム イベントのメッセージと詳細を入力し、[保存] を選択します。
  - **イベントメッセージ:** [イベント] ウィンドウの [メッセージ] カラムに表示される短い説明を入力します。
  - **詳細:** カスタム イベントの説明全文を入力します (必須)。この情報は、イベント ログ レポートを印刷したときに印字されます。
3. 新しいイベントを保存します。新しいイベントがイベントグリッドの最上部に表示されます。

## 9.5.4 イベント ログの印刷とエクスポート

レコード保持目的で、印刷されたレコードのイベントを生成しなければならない場合があります。標準 viewLinc イベント ログ レポートを生成したり、カスタムレポート用に .tsv 形式を使用して、レコード詳細をスプレッドシートにエクスポートしたりできます。

### イベント ログの印刷

1. [イベント] ウィンドウで、レポートのパラメーターを指定します。
  - a. 事前設定またはカスタム時間枠を選択するには、[期間の編集] を選択します。
    - **イベント表示の対象/終了:** 終了日で時間枠を選択します。
    - **次の時刻開始/終了時点のイベントを表示:** 特定の日時を入力するか、カレンダー ボタンを使用して選択します。
  - b. レポートの内容を絞り込むには、[詳細フィルターの表示] を選択します。
    - **カテゴリ:** レポートに含めるイベントの種類を確認します。
    - **ロケーション:** 選択した 1 つ以上のゾーンまたはロケーションで発生したイベントを表示します。
    - **グループ/ユーザー:** 選択したグループまたはユーザーによって記録されているイベントを表示します。
2. [フィルターの適用] を選択します。フィルターをリセットするには、[クリア] を選択します。
3. [印刷] を選択します。新しいブラウザー ウィンドウで、イベント ログ レポートが印刷レイアウトで開きます。

## viewLinc イベント ログ レポート

イベントの開始日時: 2018/03/28 18:40:28 終了日時: 2018/03/28 18:40:28

フィルターなし

タイムゾーン (UTC-07:00) Mountain Time (US &amp; Canada)

イベント ログが 8: 実行

| イベント ID | 日時/時刻               | メッセージ  | カテゴリ | イベントの種類            | コメント  | ユーザー               | ソース   |
|---------|---------------------|--|------|--------------------|-------|--------------------|---|
| 5824237 | 2018/03/28 18:40:28 | 接続の成功。ユーザー: dres (Dres Durkap)。  | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824238 | 2018/03/28 18:40:40 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824239 | 2018/03/28 18:37:28 | 接続の成功。ユーザー: dres (Dres Durkap)。  | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824234 | 2018/03/28 18:37:12 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824233 | 2018/03/28 18:29:28 | 接続の成功。ユーザー: dres (Dres Durkap)。  | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824232 | 2018/03/28 18:29:10 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824231 | 2018/03/28 18:23:48 | 接続の成功。ユーザー: dres (Dres Durkap)。  | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824230 | 2018/03/28 18:23:20 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824229 | 2018/03/28 18:13:20 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824228 | 2018/03/28 18:05:20 | 接続の成功。ユーザー: dres (Dres Durkap)。  | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824227 | 2018/03/28 18:05:21 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がログアウトしました。   | システム | クライアント-UTC オフセット   | UTC+7 | dres (Dres Durkap) | システム  |
| 5824226 | 2018/03/28 18:00:24 | ユーザー: dres (Dres Durkap) がしきい値を越え、温度アラームをトリガーしました。温度: 39.0°C (98.2°F) (正常値: 38.0°C) (正常値: 98.6°F)。 | 警報   | dres (Dres Durkap) | システム  | しきい値を設定<br>ゾーン     | viewLinc/Recoverer<br>PLC-18-0200004<br>[4/03/2018] |
|         |                     |  |      |                    |       | ロケーション             | CRP Temperature<br>(+ 200.0)<br>[4/03/2018]         |
|         |                     |  |      |                    |       | 状態                 | 実行  |

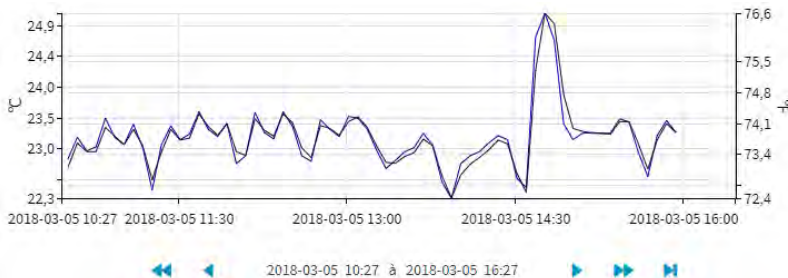
- 印刷パラメーターを設定して、レポートを印刷します([ファイル]>[印刷])。

## イベントログのエクスポート

- [イベント] ウィンドウで、エクスポート用にパラメーターを指定します。
  - 事前設定またはカスタム時間枠を選択するには、[期間の編集] を選択します。
    - イベント表示の対象/終了: 終了日で時間枠を選択します。
    - 次の時刻開始/終了時点のイベントを表示: 特定の日時を入力するか、カレンダーボタンを使用して選択します。
  - エクスポートの内容を絞り込むには、[詳細フィルターを表示] を選択します。
    - カテゴリ: エクスポートに含めるイベントの種類を確認します。
    - ロケーション: 選択した 1 つ以上のゾーンまたはロケーションで発生したイベントを表示します。
    - グループおよびユーザー: 選択したグループまたはユーザーによって記録されているイベントを表示します。
- [フィルターの適用] を選択します。フィルターをリセットするには、[クリア] を選択します。
- [エクスポート] を選択します。
- ファイルを開くには、.tsv ファイルで使用するスプレッドシートプログラムを指定します。エクスポートした .tsv ファイルが読み取り専用モードで開きます。

## 9.6 トレンドの作成

ロケーションの状態の逸脱について理解を深めるために、**トレンド**を作成します。トレンドには、1つ以上のロケーションの現在、および履歴データ読み取り値がグラフ形式で表示されます。



複数ロケーションのトレンドは、[サイト] ウィンドウまたは [ビュー マネージャー] ウィンドウの [トレンド] タブで作成できます。各トレンド グラフには、最大 16 ロケーションのデータ、および最大 4 つの測定タイプを含めることができます。


- [概要] ウィンドウ ([状態] と [ダッシュボード] タブ)、[サイト] ウィンドウ ([状態] タブ)、[サイト マネージャー] ウィンドウ ([ロケーション プロパティ] と [ダッシュボード] タブ) で使用可能な [トレンドの表示] のツールバー ボタン、 を使うと、単一ロケーショントレンドのクイックビューが利用できます。

表15 トレンド グラフの重要な要素

| 項目             | 説明  |
|----------------|---|
| グラフエリア         | ロケーション データ履歴をグラフ形式にしたもの。  |
| 左右の Y 軸で測定スケール | グラフに表示されるデータの範囲が表示されます。スケールの最小値と最大値を変更できます(「トレンドの修正」(141 ページ)をご覧ください)。                      |
| X 軸時間スケール(下部)  | レポート作成時間枠を表示します。グラフの下の「進む」ボタンと「戻る」ボタンを用いて報告するタイムフレームを調整します(「トレンド ナビゲーション」(140 ページ)をご覧ください)。 |
| ロケーションライン      | 特定の日付または時間のタイムフレームに基づいて、履歴測定値のパスが示されます。マウスを移動してあるポイント上にカーソルを合わせると、特定の X 軸と Y 軸値が表示されます。     |

| 項目              | 説明   |
|-----------------|--|
| しきい値ライン         | 履歴しきい値を示すために色分けされた線(しきい値設定に基づく)。マウスを移動してあるポイント上にカーソルを合わせると、特定のX軸とY軸値が表示されます。 |
| ロケーション / グループ統計 | ロケーションの詳細を別々のロウに表示するか、すべてのロケーションの統計をグループ化します。                                |

## 9.6.1 トレンドの作成

複数ロケーションのライブ データを比較し、データをグラフ表示します。トレンド グラフに含めたいすべてのロケーションに対して、「表示」アクセス許可が必要です。

- トレンドは、[サイト] ウィンドウ、[概要] ウィンドウまたは [ビュー マネージャー] ウィンドウで作成できます。

### トレンドの作成

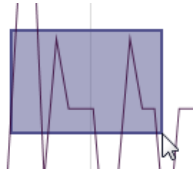
1. [サイト] ウィンドウ、[概要] ウィンドウ、または [ビュー マネージャー] で、[ゾーンとロケーション] ツリーを移動し、トレンドに追加するロケーションを選択します。あるいは、[ビュー マネージャー] の [ビュー] ツリーで、トレンドとして表示するロケーション が含まれるビューを選択します。
2. [トレンド] タブを選択します。
3. 選択したロケーションまたはビューをマウスで [トレンド] パネルにドラッグします。グラフに他のロケーションをドラッグすれば、いつでもトレンドの作成、変更を継続できます(最大 16 個のロケーション、4 つの測定単位まで)。
4. トレンド開始日を変更するには、[トレンドの編集] を選択します。
  - **終了時刻[date/time] で 期間[time]のトレンドを表示:**現在の時刻までにログに記録されたデータのみが表示されます。現在の日時に先立ち、最大 1 か月までの特定のトレンド期間を選択できます。
  - **[date/time] から [date/time] までのトレンドを表示:**もっと多くの履歴データを表示する場合は、表示したい時間を選択します(将来の日付を選択することはできません)。
  - **リアルタイム サンプルを含める:**このオプションを選択すると、記録されたデバイス データ(デバイスのサンプルレートに基づく)に加えて、頻度の高いリアルタイム サンプルが含まれます。
  - **データマーカーを表示する:**選択すると、このオプションは読み取りが行われた時間を正確にマーカーでトレンドグラフに示します。
  - **縦軸スケール:**測定値ごとに、トレンドに含める最小範囲または最大範囲を設定するか、[自動]を選択してすべての値を含めるかを選択することができます。



**更新 オン** トレンドを最新の読み取り値で継続的に更新する場合は、このオプションをオンにします(このオプションは **▶** ボタンを押すのと同じです)。



ズームインしてトレンドの詳細を確認するには、トレンドラインをクリックして左右にドラッグします。ズームインするには右に、ズームアウトするには左にドラッグします。



**i** トレンドグラフ内で移動またはズームすると、**[更新 オン]** が自動的にオフになります。トレンドグラフ内を移動するにつれて、履歴データが表示されます。

## 9.6.4 トレンドの修正

[サイト] ウィンドウか [ビュー マネージャー] ウィンドウのいずれかで、トレンドグラフの内容と表示設定の両方を変更することができます。トレンド表示設定の変更は、[概要] ウィンドウでのみ可能です。

**o** [サイト] または [ビュー マネージャー] ウィンドウで変更したトレンドは保存および他のユーザーと共有することができます(「トレンドの保存」(142 ページ)を参照)。

### 選択したロケーションの表示/非表示

1. [トレンド] タブの [サイト] で、グラフの下の [ロケーション] を選択します。
2. [表示] カラムで、グラフに表示するロケーションを選択、または選択を外します。ロケーションデータをグラフから完全に削除するには、[削除] を選択します。

### トレンド最大/最小統計を表示

1. [トレンド] タブの [サイト] で、グラフの下の [グループ統計] を選択します。
2. [グループ統計] タブで、全ロケーションの最大/最小範囲を表示します。

### トレンドの期間/データ/スケールの変更

1. [トレンドの編集] を選択します。
2. トレンド期間を変更する
  - 事前設定された時間の範囲を選択します。指定した終了時刻から遡って、選択した時間範囲のデータがグラフに表示されます(既定では6時間遡って現在の時刻で終了します)。
  - 指定したカレンダー上の日付で期間を選択します。
3. ラインのプロパティを変更する(既定ではこのオプションは選択されていません)
  - **リアルタイム サンプルを含める**: ロケーションのトレンドラインを更新して、viewLinc 走査速度をもとに viewLinc で収集したデータ、およびデバイスのサンプル レートをもとにしたデバイスのレポート データの両方を含めます。

- **データマーカーを表示する:** データサンプルが記録された時間を示すポイントをロケーションのトレンドラインに追加します。
4. グラフでの縦軸スケールの最小/最大範囲を定義する
    - グラフに含まれる測定の種類ごとに、実測値をもとにした最小/最大値を自動で設定したり、グラフに含める最小/最大値を指定したりできます(既定では最小/最大値設定は自動生成されます)。

#### トレンドのクリア-[サイト] ウィンドウ

- すべてのロケーションにおけるグラフの線を削除するには、**[トレンドのクリア]>[すべてのラインを削除]**を選択します。トレンド設定には変更は加えられません。
- すべてのグラフのラインを削除し、既定のトレンド設定に戻すには、**[トレンドのクリア]>[既定値にリセットする]**を選択します。

#### トレンドデータの更新

- ▶ **最新データの表示** か、**[更新オン]**を選択して、viewLinc Enterprise Server が収集した最新データをグラフに反映させます。
- ☻ **更新:** viewLinc Enterprise Server が収集した最新データを強制的に取得します。**[更新オン]**が有効になっていると、トレンドグラフは毎分自動的にリアルタイムのデータ読み取り値を取得します。
- **更新オン/オフ:**トレンドをリアルタイムのデータ読み取り値で、最大7日間のトレンド期間まで更新します。トレンド期間が7日間を超えて設定されている場合、**[更新オン]**設定は自動的に無効になります。

## 9.6.5 トレンドの保存

### ビューの管理、レポートの管理

トレンドを保存する方法は2つあります。

- [サイト] ウィンドウで、トレンドをビューとして保存し、これを他のユーザーまたはグループと共有することができます。「ビューの管理」権限が必要です。
- [サイト] または [ビュー マネージャー] ウィンドウで、トレンドをロケーション履歴レポートとして保存します。「レポートの管理」権限が必要です。

#### トレンドをビューとして保存する

1. **[サイト]** ウィンドウで、トレンドを作成します(「**[トレンドの作成]**(139 ページ)」を参照)。
2. **[名前を付けて保存]>[ビュー]**を選択します。
3. ビューに付ける名前を入力し、**[保存]**を選択します。

- **[概要]** ウィンドウで、ビューを使用できることをチームに通知してください。




### トレンドをレポートとして保存する

1. **[サイト]** ウィンドウまたは **[ビュー マネージャー]** ウィンドウで、トレンドを作成します(「**トレンドの作成**」(139 ページ)を参照)。
2. **[名前を付けて保存]** > **[ロケーション履歴レポート]** を選択します。
3. レポートに付ける名前を入力し、**[保存]** を選択します。

● **[レポート]** ウィンドウで、レポートを使用できることをチームに通知します。

## 9.7 クイックトレンドの表示

ロケーションデータをトレンドグラフで素早く表示するには、**[トレンドの表示]** ツールバー ボタン  を使用します(**[サイト]**、**[サイト マネージャー]**、**[概要]** ウィンドウで使用可能)。

複数のトレンドビュー ウィンドウを開くことで、個々のロケーションのトレンドをいくつも表示できます。Internet Explorer をご使用の場合には、新しいウィンドウまたはタブ内で新しいリンクを開くように設定されていることを確認してください(**[ツール]** > **[インターネット オプション]** > **[全般]**)。

● アラーム状態に反応して自動的にトレンドを表示するようにアラームを構成します(「**アラーム通知**」(78 ページ)を参照)。

### クイックトレンド - **[サイト]** ウィンドウ


1. **[ゾーンとロケーション]** ツリー上の **[サイト]** ウィンドウで、ゾーンを選択します。
2. **[状態]** タブでロケーションを選択し、**[トレンドの表示]** ツールバー ボタンを選択します(または右クリックして **[トレンドの表示]** を選択します)。
3. 開いた **[トレンド]** ウィンドウでは、トレンドの開始時刻と終了時刻、グラフの内容を変更することができます。

### クイックトレンド - **[サイト マネージャー]** ウィンドウ

1. **[サイト マネージャー]** ウィンドウの **[ゾーンとロケーション]** ツリー上で、ゾーンを選択します。
2. **[ロケーション プロパティ]** タブでロケーションを選択し、**[トレンドの表示]** ツールバー ボタンを選択します(または右クリックして **[トレンドの表示]** を選択します)。
3. 開いた **[トレンド]** ウィンドウでは、トレンドの開始時刻と終了時刻、グラフの内容を変更することができます。

### クイックトレンド - **[概要]** ウィンドウ

1. **[概要]** ウィンドウの **[ビュー]** ツリーで、ビューを選択します。
2. **[状態]** タブで1つ以上のロケーションを選択し、**[トレンドの表示]** ツールバー ボタンを選択します(または右クリックして **[トレンドの表示]** を選択します)。
3. 開いた **[トレンド]** ウィンドウでは、トレンドの開始時刻と終了時刻、グラフの内容を変更することができます。

 トレンドの変更に関する詳細については、「[「トレンドの作成」\(138 ページ\)](#)」を参照してください。

## 9.8 レポート

Vaisala デバイスで収集される履歴データを使用すると、レポートを自動的に作成して、特定期間のデータの変化を分析すること、または異なるデバイスで記録された状態を比較することができます。レポートは次の用途に使用できます。

- 選択した期間、特定の監視対象エリアのデータ読み取り値をレビューする。
- アラームの継続時間、受信確認、行われたアクションなど、1つ以上のロケーションのサマリーまたは詳細アラーム履歴の値を入手する。
- データ、統計、グラフなど、プレゼンテーション対応の資料を作成する。
- スケジュールに従って、特定の担当者にメールでデータを届ける。

### 9.8.1 レポートの種類

viewLinc には、既定のレポートがあり、データトレンドやアラーム統計を簡単に表示できます。「レポートの管理」権限を持つユーザーは、カスタムレポートを作成して特定の内容パラメーターを設定し、[サイト] ウィンドウと [概要] ウィンドウから他のユーザーが簡単に使用できるようにすることができます（「クイックレポートの共有」(145 ページ)を参照）。

レポートを生成するための権限はありません。ユーザーは誰でも、表示アクセス許可があるゾーンまたはロケーションのレポートを生成できます。

- **アラームレポート:** 特定期間のアラームイベントの概要が表示されます。すべてのアラームに関連するイベントはグループ化され、読みやすい形式で表示されます。
- **ロケーション履歴レポート:** ロケーション データ値の詳細な履歴が表示されます（グラフおよび表形式で表示されます）。
- **システムレポート:** システム構成、使用可能なテンプレートのリストなど、特定のシステム情報の全体的なスナップショットが表示されます。また、システムレポートを生成し、現在のユーザーおよびグループ、ロケーション、およびアクセス許可の詳細を一覧表示できます。

### 9.8.2 レポートの生成

使用可能なレポートはすべて [レポート] ウィンドウに一覧表示されます。利用可能なレポートは、既定の viewLinc レポート、ユーザーが作成したレポート、または他のユーザーが共有したレポートのいずれかとなります（「クイックレポートの生成」(146 ページ)を参照してください）。

レポートとは、生成済みのデータを自動入力できる「テンプレート」です。レポートが生成されたら、[ダウンロード] タブを開いてレポートの印刷 (.pdf ファイルを生成) の準備完了を確認したり、スプレッドシートにエクスポート (.tsv ファイル) を生成したりできます。「[「ダウンロードしたレポートの表示」\(146 ページ\)](#)」を参照してください。

また、レポートは、定期的なスケジュールで自動的に生成して、メール受信者に送信することができます(.pdf)。送信されたレポートはすべて、[ダウンロード] タブでダウンロードできます。

**i** 生成済みレポートの内容は、表示許可があるゾーンまたはロケーションに制限されます。レポートに追加のロケーション情報が必要な場合は、そのゾーン/ロケーションの表示アクセス許可をリクエストするか、メールでレポートを受け取るように要請してください。

### レポートデータを生成する

1. [レポート] でレポートを選択して、 [生成] を選択します。
2. レポートオプションを選択します。
  - **PDF**: このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートで利用できます。このオプションを選択すると、スケジュール生成パラメーターで指定されたPDF設定に従ってレポートが生成されます。
  - **Excel (tsv)**: .tsv形式でレポートを生成します。
  - **メール**: レポートを生成して、.pdfの添付ファイルとして、あらかじめ決められたユーザーまたはグループのリストにレポートを送信します(システムレポートは.xlsファイルとしてのみ添付できます)。生成されたレポートは、レポートスケジュール設定の生成パラメーターに従って送信されます。

**i** 自動的に生成されて、メール送信されるレポート内容は、受信者の言語プリファレンスに従って生成されます。

- 受信者の言語プリファレンスが指定されていない場合は、レポートに指定されている言語で内容が生成されます(自動的に生成・保存されるレポートに言語を指定することができます)。
- 受信者またはレポートの言語が指定されていない場合は、システムの既定の言語で内容が生成されます([システム構成] > [プリファレンス])。

3. [ダウンロード] タブには、最近生成されたレポートがレポート一覧の最上部に表示されます。レポートの生成が完了したら、[進行状況] カラムのリンクをクリックして、レポートを開くか保存します。


手動で生成されたレポートおよびスケジュールされたレポートは24時間の間ダウンロードできるため、オフピーク時間中に生成されたレポートも通常の業務時間にダウンロードすることができます。

## 9.8.3 クイックレポートの共有

### **🔒** レポートの管理

他のユーザーが、[サイト] ウィンドウと[概要] ウィンドウから素早くレポートを生成できるようにします。レポートの内容は、ユーザーまたはグループが表示許可があるゾーンまたはロケーションに制限されます。

管理者、レポートの管理権限が割り当てられたグループ内のユーザー、およびレポート所有者は、自分たちのレポートのどれをクイックレポートとして使用できるようにするかを指定できます。

 クイックレポートの内容は、ユーザーがログインしたときの言語で生成されます。


### クイックレポートの追加

1. [レポート] ウィンドウで、レポートを選択し、[編集] を選択します。
2. [クイックレポートとして使用可能] フィールドで、[はい] を選択します。
3. 変更を保存します。

## 9.8.4 クイックレポートの生成

クイックレポートとは、[サイト] ウィンドウまたは [概要] ウィンドウから他のユーザーが簡単にレポートを生成できるように提供されたレポートです。レポートの構造は、レポート所有者が定義した構造に従っていますが、レポートの内容（データ）は、ユーザーが表示を許可されているゾーンとロケーションに制限されます。

「レポートの管理」権限がある場合は、別のユーザーにクイックレポートとしてレポートを提供することができます（「クイックレポートの共有」（145 ページ）を参照）。

 ユーザーがクイックレポートを生成すると、ユーザーの言語設定と異なる場合でも、ユーザーのログインした言語に従って内容が生成されます。

### クイックレポートの生成


1. [サイト] ウィンドウまたは [概要] ウィンドウで、1 つ以上のロケーションまたはゾーンを選択します。
2. [オプション] > [クイックレポート] を選択し、レポートの種類（アラーム、ロケーション履歴、システム）を選択してから、利用可能なクイックレポートを選択します。
3. レポートの .pdf 出力を作成するには、[レポートを作成する (\*.pdf)] を選択します。
4. スプレッドシートで操作できるレポートを作成するには、[Excel 用に生成 (\*.tsv)] を選択します。
5. レポートを別のユーザーに送信するには、[レポートを生成して電子メールで送信] を選択します。
  - a. レポート形式を選択します。
  - b. 受信者のメールアドレスと、レポート送信先の追加の viewLinc ユーザーまたはグループがあれば入力します。
  - c. 省略可: メールメッセージの [件名] および [本文] フィールドを変更します。
  - d. [送信] を選択します。
6. レポートをダウンロードおよび印刷する準備ができたかどうかを確認するには、[レポート] > [ダウンロード] を開きます。

## 9.8.5 ダウンロードしたレポートの表示

レポートを生成するたびに、[ダウンロード] タブが更新され、レポートをダウンロードして印刷できることが示されます。

### ダウンロードしたレポートを表示する


1. [レポート] ウィンドウで、[ダウンロード] タブを選択します。
2. レポートの状況を確認するには、リストの中からレポートを見つけます。
  - **以下により生成:** レポート生成を開始した人物(ユーザー名)を表示したり、自動生成(システム)かどうかを示したりします。
  - **生成形式:** レポート所有者がレポートを生成した(レポートにすべてのソース データが含まれている)か、別のユーザーがクイックレポートとして生成したか(レポートにはそのロケーションユーザーの閲覧許可があるデータのみが含まれる)かを示します。
  - **生成の日付時刻:** レポートの内容が生成された日時をそのユーザーの現地時間で表示します。
  - **利用可能期限:** 生成されたレポートのダウンロードと印刷が可能な残り時間を示します。手動で生成されたレポートおよびスケジュールされたレポートは 24 時間の間ダウンロードできます。

 レポートを永久保存するには、使用可能なダウンロード時間が切れる前にダウンロードして保存するか、レポートのプロパティを[自動生成して保存]に編集します(「レポートの管理」権限が必要です)。

- **タイムゾーン:** サーバーのタイムゾーン。表示したいレポートが別のタイムゾーンのサーバーで生成された場合は、ご自分のタイムゾーンを選択すると、その現地時間でレポートの詳細が表示されます。
  - **進行状況:** レポートがダウンロードできる時間、キューの状態、レポート生成エラーなどを示します。
  - **状態:** スケジュールされたレポートがネットワークロケーションに保存されたか、受信者に送信されたかを示します。
3. 生成されたレポートをダウンロードまたは印刷するには、[進行状況] カラムでレポートリンクを選択し、ダウンロードフォルダーを開きます(またはプロンプトに従って、ファイルを開くか、あるいは保存します)。

## 9.8.6 レポートの非アクティブ化/アクティブ化

レポートを非アクティブ化すると、レポートが使用できなくなるか、特定の期間中に自動生成されなくなります。再び使用するときは、レポートを再アクティブ化します。レポートが必要なくなった場合は、レポートを削除します(🗑)。

 非アクティブ化したレポートを削除することはできません。

### レポートの非アクティブ化

1. [レポート] ウィンドウで削除するレポートを選択します。
2. [非アクティブ化]を選択します。

## レポートのアクティブ化

1. [レポート] ウィンドウで、[ビュー]>[非アクティブ化されたレポートを含める]を選択します。

- 非アクティブ化されたすべてのレポートをリストの最上部に表示するように並べ替えるには、[アクティブ] カラムの見出しを選択します。

2. 再アクティブ化するレポートを選択して、[アクティブ化]を選択します。

## 9.8.7 アラーム期間のレポート

既定の viewLinc アラームレポート(過去 8 時間、昨日、先週)は、[サイト]または[概要]ウィンドウですべてのユーザーが生成できます。追加のカスタムアラームレポートは、[クイックレポート]として設定されている場合に、これらのウィンドウから利用することができます(「カスタムレポートの作成」(148 ページ)を参照してください)。

現在アクティブなアラームデータだけを印刷するには、「現在のアラームデータの印刷またはエクスポート」(124 ページ)を参照してください。


### [特定のゾーンまたはロケーションのアラームレポートの生成]

- [ゾーンとロケーション] ツリー上の [サイト] ウィンドウで、[ゾーン]または[ロケーション]を選択します。[Ctrl] キーを押しながら複数の[ゾーン]/[ロケーション]を選択します。
- [オプション]>[クイックレポート]¥[アラームレポート]を選択して、レポートの種類と出力形式を選択します: .pdf(標準的なプレゼンテーション形式)、.tsv(スプレッドシートプログラムで開くことができる修正可能な形式)、またはメール添付としてレポートを送ります。
- レポートを生成してメール受信者へ送るには以下を行います。
  - 受信者のメールアドレスと、レポート送信先の追加の viewLinc ユーザーまたはグループがあれば入力します。
  - 省略可: メールメッセージの [件名] および [本文] フィールドを変更します。
  - [送信]を選択します。
- レポートをダウンロードおよび印刷する準備ができたかどうか、または送信されたかどうかを確認するには、[レポート]>[ダウンロード]を開きます。

## 9.9 カスタムレポートの作成

新しいロケーション履歴、アラーム、システムレポートを作成して、必要なレポート情報を含めます。さらに、以下を指定できます。

- レポート変更が許可されているユーザーまたはグループ
- データ生成時に使用するタイムゾーン
- メールでレポートを受信できるグループ
- レポートを自動生成するスケジュール
- クイックレポートとして使用できるかどうか

 レポートを作成または変更するには、「レポートの管理」権限が必要です。


## 9.9.1 ロケーション履歴レポートの作成

### レポートの管理

ロケーション履歴レポートでは、一定期間の状態値に関する情報を特定できます。

### 新しいロケーション履歴レポートの作成

1. [レポート]で、[追加]>[ロケーション履歴レポート]を選択します。

 既存のロケーション履歴レポートの設定を再利用するには、レポートを選択してから、[追加]>[選択したレポートのコピー]の順に選択します。

2. [全般]タブで、以下の情報を入力します。

### ロケーション履歴レポートの追加

[全般](#) [内容](#) [ソースデータ](#) [ページレイアウト](#)

**全般設定**

名前

レポートの所有者

範囲の種類   固定した日付 (手動レポート生成用)  
 最も最近のイベント (自動または手動レポート生成用)

レポートの期間

タイムゾーン 

PDFのフォント 

クイックレポートとして使用可  いいえ

**自動生成**

生成してメールで送信  いいえ

生成して保存  いいえ

- **名前:** 新しいレポートの一意の名前を入力します。
  - **レポートの所有者:** viewLinc のユーザー名がレポート所有者として自動的に表示されます。「レポートの管理」権限がある場合は、このレポートを変更する別の、または追加のユーザーを選択することができます。
  - **範囲の種類:** レポートの対象とする期間を指定します。特定の日付を決めて指定期間とするか、時間/日/週/月で期間を選択します。
  - **レポートの期間:** レポートに含める期間を指定します。過去 8 時間のデータを対象とするには 8 と入力し、ドロップダウンリストの中から **[時間]** を選択します。
  - **タイムゾーン:** この値は、報告側のタイムゾーンがサーバーのタイムゾーンと同じでない場合に変更します。
  - **PDF のフォント:** レポートの出力形式を選択します。例えば中国語でレポートを生成する場合、**[中国語サポート]** を選択します。
  - **クイックレポートとして使用可能:** すべてのユーザーが **[サイト]** ウィンドウと **[概要]** ウィンドウでこのレポートを生成できるようになります。クイックレポートは、ユーザーが選択したロケーションまたはビューのデータを生成します。
3. 範囲の種類として **[最新のイベント]** を選択した場合は、レポートを自動生成するよう選択することができます。**[自動生成]** セクションに入力します。



大規模なレポートの場合は、それほど多くのユーザーがこのシステムを利用していない時間帯、すなわち営業時間後などに、レポート生成をスケジュールすることをお勧めします。

- **生成してメールで送信:** レポートを生成し、特定の viewLinc ユーザーおよびグループに直接レポートを送信します。
  - **生成して保存:** レポートを生成し、特定のファイル ロケーションに保存します。
    - **保存先:** レポートを保存する、アクセス可能なネットワーク サーバー、または制限付きのファイル ロケーションを指定します。
    - **言語:** 保存されるレポートは、レポート言語が指定されていない限り、自動的にシステムの既定の言語で生成されます。
  - **生成開始:** データ生成開始日付および開始時刻を設定します。
  - **レポートの生成間隔:** レポート生成開始日時を入力します。
  - **レポート形式:** レポートを毎時、毎日、毎週、毎月生成するかどうかを指定します。
4. **[内容]** タブでレポートに含めるデータを指定します。



**編集 ロケーション履歴レポート**

全般 内容 ソースデータ ページレイアウト

内容を含める

- タイトルページ
- トレンドグラフ
  - グラフ毎に1つのロケーション
  - 同じ単位のグループロケーション
  - 異なる単位のグループロケーション (最大4単位)
- しきい値ラインを表示
- データマーカーを表示する
- サマリーテーブルを表示
- レポートサマリーテーブル
- インターバル統計テーブル
  - 期間 1 日 0 時間
  - 暦月
  - グラフを表示
- 履歴サンプル統計テーブル
- グループ統計テーブル
- リアルタイムサンプル
- 履歴サンプル

統計テーブル(履歴サンプルの計算のみ)に含める

- 最小値 (MIN)

レポートサンプル

トレンドグラフ



レポートサマリー...

| ロケーション  | 値   |
|---------|-----|
| ロケーション1 | 100 |
| ロケーション2 | 200 |
| ロケーション3 | 300 |
| ロケーション4 | 400 |

インターバル統計

| 期間 | 最小値 |
|----|-----|
| 1日 | 100 |
| 2日 | 200 |
| 3日 | 300 |
| 4日 | 400 |

グループ統計テ...

| グループ  | 最小値 |
|-------|-----|
| グループ1 | 100 |
| グループ2 | 200 |
| グループ3 | 300 |
| グループ4 | 400 |

保存 キャンセル

- **タイトルページ**: 内容の概要を記入します。
- **トレンドグラフ**: レポートデータのグラフを生成します。ロケーションごとにさまざまなグラフを含めたり、すべてのロケーションデータを1つのグラフにコンパイル(既定のオプション、ロケーション最大16個までに限定)したりするように選択するか、あるいは測定単位を同一グラフにまとめるように選択できます(同一グラフには測定単位を最大4種類含むことができます)。統計サマリーを含めるよう選択した場合は、統計サマリーテーブルがレポートに盛り込まれます。**統計テーブルに含める**セクションでサンプルを選択します。
- **レポートサマリーテーブル**: このオプションは、統計サマリーテーブルとは切り離して選択解除することができます。
- **インターバル統計テーブル**: 時間枠(日/時間または暦月単位で測定)を選択します。日次間隔でインターバル統計が必要な場合に、**レポートの期間**の[全般]タブ設定が1週間間隔になっていて、1日間隔にしたい場合は、**1日、0時間**と指定します。統計のグラフ表示を含める場合は、[**グラフを表示**]を選択します。**統計テーブルに含める**セクションでサンプルを選択します。

● インターバル統計テーブルは、期間がレポート期間よりも短い場合にのみ表示されます。

- **履歴サンプル統計テーブル**: ロケーション別に計算された統計情報が含まれます(測定の種類に応じて並べ替えられます)。**統計テーブルに含める**セクションでサンプルを選択します。

- **グループ統計テーブル:** 同じ測定の種類すべてのロケーションに関する単一の統計テーブルが生成されます。(例: 温度を記録する全ロケーションの最高温度がレポートに含まれます)。統計テーブルに含めるセクションでサンプルを選択します。
  - **リアルタイム サンプル** および/または **履歴サンプル:** 履歴サンプルを含める選択をした場合、設定されたデータ期間 (5、15、30、60 分毎) を選択し、最後のサンプルがその期間間隔のタイムスタンプの一番近い読み取り値を反映するように指定します。このオプションはレポート内のロケーションが異なるサンプル レートを使用している場合に便利です。
  - **統計テーブルに含める:** すべての統計テーブルに含める履歴サンプル データを選択します。
5. **[ソース データ]** タブで、**[ゾーンとロケーション]** ナビゲーション ツリーを使用して、レポートに含めるゾーンおよび/またはロケーションを選択します。

**編集 ロケーション履歴レポート**

全般 内容 ソースデータ ページレイアウト

レポートに含めるゾーンまたはロケーションを選択してください。ゾーンを選択した場合、現在、および今後のサブゾーンとロケーションが含められます。


| ゾーンとロケーション               | 選択                                  | 選択したゾーンとロケーション                                   |                                     | 種類      | 単位  | ライン色  | 縦軸スケール |     |
|--------------------------|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---------|-----|---|--------|-----|
|                          |                                     |  |                                     |         |     |   | 最小値    | 最大値 |
| viewLinc                 | <input checked="" type="checkbox"/> |  |                                     |         |     |   |        |     |
| + Vancouver Office       | <input checked="" type="checkbox"/> |  |                                     |         |     |   |        |     |
| + VIM Products & Syst... | <input checked="" type="checkbox"/> | viewLinc/Vancouver Office/VIM Products & Syst... | <input checked="" type="checkbox"/> | ロケーシ... | %RH |  | 自動     | 自動  |
| + Post in middle...      | <input type="checkbox"/>            | viewLinc/Vancouver Office/VIM Products & Syst... | <input type="checkbox"/>            | ロケーシ... | °C  |  | 自動     | 自動  |
| + Test...                | <input type="checkbox"/>            | viewLinc/Vancouver Office/VIM Products & Syst... | <input type="checkbox"/>            | ロケーシ... | °C  |  | 自動     | 自動  |
| + Validation Con...      | <input type="checkbox"/>            | viewLinc/Vancouver Office/VIM Products & Syst... | <input type="checkbox"/>            | ロケーシ... | %RH |  | 自動     | 自動  |
| + East Wa...             | <input checked="" type="checkbox"/> |  | <input checked="" type="checkbox"/> |         |     |   |        |     |
| + East Wa...             | <input checked="" type="checkbox"/> |  | <input checked="" type="checkbox"/> |         |     |   |        |     |

レポートのグラフ用に既定の縦軸スケールの最小値と最大値を定義するか、自動を選択して実際の値を使用します。個別のロケーショングラフでは、個別のロケーションの最小値と最大値は上の縦軸のカラムで設定できます。

| 縦軸スケールの既定値 |     |      |      |
|------------|-----|------|------|
|            | %RH | °C   | °F   |
| Min. Value | 自動  | Auto | Auto |
| Max. Value | 自動  | Auto | Auto |

- **ゾーンとロケーション:** ゾーンすべてのロケーションを選択するには、ゾーン名のチェックボックスを選択します。ゾーンを選択すると、現在および将来のすべてのロケーションが自動的にレポートに含められます。ゾーンの特定のロケーションを選択または選択解除するには、ゾーンを展開します。
  - **ラインの色:** ロケーションを識別する色を指定します(ゾーンでは使用できない色)。次の使用可能な色が自動的に選択されます(色のスペクトル シーケンスについては、「Q: viewLinc では、レポートの色はどのように選択されますか?」(187 ページ)を参照してください)。
  - **縦軸スケールの最小値/最大値:** トレンド グラフを生成する場合は ([内容] タブ、トレンド グラフ-グラフ毎に1つのロケーション)、各ロケーショングラフに最小値/最大値を指定すること、または既定値を受け入れるように設定することができます。
  - **縦軸スケールの既定値:** グラフの測定範囲の上限と下限を定義する最小値と最大値を入力します。自動
6. **[ページレイアウト]** タブで、レポート出力表示のオプションを変更します。:
- **用紙:** レポート ページのサイズと方向を選択します。

- **ページヘッダー/ページフッター**:ヘッダーまたはフッターを表示するページの設定を全ページ、最初のページのみ、最後のページのみ、最初と最後のページのみ、のオプションから選びます。
- ご使用のヘッダーまたはフッターの内容を定義するには、テキストをその**[左ヘッダー]**、**[中央ヘッダー]**または**[右ヘッダー]**のフィールド内に入力してください。[フッター]フィールドを使って**[署名]**ボックスまたは**[コメント]**ボックスを含めることもできます。
- **[左ヘッダー]**にテキストの代わりに画像を入れる場合は、**[画像]**を選択して、ドロップダウンリストで.jpg 画像ファイル(以前に使用されている画像)を選択します。または、**[新しくアップロード]**ボタンを使用して、新しい.jpg 画像ファイルをアップロードします。

 レポートで使用できるのは.jpgファイルのみです。画像ファイルは、154 x 48ピクセル以下にする必要があります。

7. 新しいレポートを保存します。

新しいロケーションの履歴レポートを生成するには、「レポートの生成」(144ページ)を参照してください。


## 9.9.2 アラームレポートの作成

### レポートの管理

アラームレポートは、一定期間におけるアラームイベントのパターンを明らかにします。

#### アラームレポートの作成

1. **[レポート]**で、**[追加]**>**[アラームレポート]**を選択します。

 既存のアラームレポート設定を再利用するには、レポートを選択してから、**[追加]**>**[選択したレポートのコピー]**の順に選択します。

2. **[全般]**タブの情報を入力します。


- **名前**:新しいレポートの一意の名前を入力します。
- **レポートの所有者**:viewLincのユーザー名がレポート所有者として自動的に表示されます。「レポートの管理」権限がある場合は、このレポートを変更する別の、または追加のユーザーを選択することができます。
- **範囲の種類**:レポートの対象とする期間を指定します。特定の日付を決めて指定期間とするか、時間/日/週/月で期間を選択します。
- **レポートの期間**:レポートに含める期間を指定します。過去8時間のデータを対象とするには**8**と入力し、ドロップダウンリストの中から**[時間]**を選択します。
- **タイムゾーン**:この値は、報告側のタイムゾーンがサーバーのタイムゾーンと同じでない場合に変更します。
- **PDFのフォント**:レポートの出力形式を選択します。例えば中国語でレポートを生成する場合は、**[中国語サポート]**を選択します。

- **クイックレポートとして使用可能:** すべてのユーザーが [サイト] ウィンドウと [概要] ウィンドウでこのレポートを生成できるようになります。クイックレポートは、ユーザーが選択したロケーションまたはビューのデータを生成します。
3. 範囲の種類として **[最新のイベント]** を選択した場合は、レポートを自動生成するよう選択することができます。 **[自動生成]** セクションに入力します。

大サイズのレポートデータのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用している時、すなわち営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しています。

- **生成してメールで送信:** レポートを生成し、特定の viewLinc ユーザーおよびグループに直接レポートを送信します。
  - **生成して保存:** レポートを生成し、特定のファイル ロケーションに保存します。
    - **保存先:** レポートを保存する、アクセス可能なネットワーク サーバー、または制限付きのファイル ロケーションを指定します。
    - **言語:** 保存されるレポートは、レポート言語が指定されていない限り、自動的にシステムの既定の言語で生成されます。
  - **生成開始:** データ生成開始日付および開始時刻を設定します。
  - **レポートの生成間隔:** レポート生成開始日時を入力します。
  - **レポート形式:** レポートを毎時、毎日、毎週、毎月生成するかどうかを指定します。
4. **[内容]** タブでレポートに含めるデータを指定します。
- **内容を含める:** ロケーション別のすべてのアクティブな、アクティブ化された、非アクティブ化された、および受信確認済みのアラームのサマリーが含まれます。
  - **レポートの詳細レベル:** すべてのアラームの詳細を簡易形式でグループにまとめるか、すべてのアラームの詳細が含まれるようにレポートの長さを拡張するかを選択します。アラームの数によっては、レポートの量や生成時間が大幅に増大する可能性があります。
  - **アラームの内容:** 特定の種類のデバイス アラームをレポートに含めるように選択します。
5. **[ソース データ]** タブで、ナビゲーション ツリーを使用して、レポートに含めるゾーンまたはロケーションを選択します。
- **ゾーンとロケーション:** ゾーンのすべてのロケーションを選択するには、ゾーン名のチェックボックスを選択します。ゾーンを選択すると、現在および将来のすべてのロケーションが自動的にレポートに含められます。ゾーンの特定のロケーションを選択または選択解除するには、ゾーンを展開します。
6. **[ページ レイアウト]** タブで、レポート出力表示のオプションを変更します。:
- **用紙:** レポート ページのサイズと方向を選択します。
  - **ページ ヘッダー/ページ フッター:** ヘッダーまたはフッターを表示するページの設定を全ページ、最初のページのみ、最後のページのみ、最初と最後のページのみ、のオプションから選びます。
  - ご使用のヘッダーまたはフッターの内容を定義するには、テキストをその **[左ヘッダー]**、**[中央ヘッダー]** または **[右ヘッダー]** のフィールド内に入力してください。 **[フッター]** フィールドを使って **[署名]** ボックスまたは **[コメント]** ボックスを含めることもできます。

- ・ [左ヘッダー] にテキストの代わりに画像を入れる場合は、[画像] を選択して、ドロップダウンリストで .jpg 画像ファイル (以前に使用されている画像) を選択します。または、[新しくアップロード] ボタンを使用して、新しい .jpg 画像ファイルをアップロードします。

 レポートで使用できるのは .jpg ファイルのみです。画像ファイルは、154 x 48ピクセル以下にする必要があります。

7. 新しいレポートを保存します。

新しいアラームレポートを生成するには、「レポートの生成」(144 ページ)を参照してください。

### 9.9.3 システムレポートの作成

#### レポートの管理

システムレポートは、特定のシステム情報の全体像をつかむ情報を提供します。

#### システムレポートの作成

1. [レポート] ウィンドウで、[追加] > [システムレポート] を選択します。

- 別のシステムレポートの設定を再利用するには、グリッド上でレポートを選択し、[追加] > [選択したレポートのコピー] を選択します。

2. [全般] タブの情報を入力します。

- ・ **名前:** 新しいレポートの一意の名前を入力します。
- ・ **レポートの所有者:** viewLinc のユーザー名がレポート所有者として自動的に表示されます。「レポートの管理」権限がある場合は、このレポートを変更する別の、または追加のユーザーを選択することができます。
- ・ **レポートの期間:** レポートに含める期間を指定します。過去 8 時間のデータを対象とするには 8 と入力し、ドロップダウンリストの中から [時間] を選択します。
- ・ **タイムゾーン:** この値は、報告側のタイムゾーンがサーバーのタイムゾーンと同じでない場合に変更します。
- ・ **PDF のフォント:** レポートの出力形式を選択します。例えば中国語でレポートを生成する場合は、[中国語サポート] を選択します。
- ・ **クイックレポートとして使用可能:** すべてのユーザーが [サイト] ウィンドウと [概要] ウィンドウでこのレポートを生成できるようになります。クイックレポートは、ユーザーが選択したロケーションまたはビューのデータを生成します。

3. (任意指定) [自動生成] セクションを完了します。

- 大サイズのレポートデータのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用している時、すなわち営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しています。

- ・ **生成してメールで送信:** レポートを生成し、特定の viewLinc ユーザーおよびグループに直接レポートを送信します。


- **生成して保存:** レポートを生成し、特定のファイル ロケーションに保存します。
    - **保存先:** レポートを保存する、アクセス可能なネットワーク サーバー、または制限付きのファイル ロケーションを指定します。
    - **言語:** 保存されるレポートは、レポート言語が指定されていない限り、自動的にシステムの既定の言語で生成されます。
  - **生成開始:** データ生成開始日付および開始時刻を設定します。
  - **レポートの生成間隔:** レポート生成の開始日時を入力します。
4. **[内容]** タブでレポートに含めるデータを指定します。
- **サーバー:** viewLinc Enterprise Server 構成の詳細が含まれます。
  - **システム環境設定:** 現在選択している viewLinc システム環境設定が含まれます。
  - **アラーム テンプレート:** 選択したテンプレート(アクティブ/非アクティブ)の詳細が含まれます。
  - **ユーザーとグループ:** すべてのユーザーおよび/またはグループ、並びにロケーションに対して割り当てられているユーザー/グループのアクセス許可が含まれます。
- レポートでは、各ロケーションで使用可能な最高のアクセス許可が、ユーザーまたはグループごとにアルファベット順に一覧表示されます。アクセス許可の詳細については、「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)を参照してください。
- **サイト:** 現在のしきい値とデバイス アラーム テンプレートに関するロケーションの詳細、また各ロケーションのユーザー/グループに付与されているアクセス許可レベル(アクティブ/非アクティブ)が含まれます。
- レポートでは、ユーザーまたはグループで使用可能な最高のアクセス許可が、ロケーションごとにアルファベット順に一覧表示されます。アクセス許可の詳細については、「ゾーンにグループアクセス許可を適用する」(104 ページ)を参照してください。
- **デバイス:** リンクされているすべてのシステム ホスト、データ ロガー、およびトランスミッタ(アクティブ/非アクティブ)の一覧が含まれます。
5. 新しいレポートを保存します。
- 新しいシステムレポートを生成するには、「レポートの生成」(144 ページ)を参照してください。

## 9.10 viewLinc Mobile でのデータの表示


モバイル デバイスを使って viewLinc 機能にアクセスできるものもあります。ログインするには、デバイス ブラウザーを開き、IP アドレス/mobile (###.###.###.###/mobile) を入力します。ログイン後に表示される最初の画面が、**[サイト]** ウィンドウのナビゲーション ツリーです。ゾーンの名前をタップすると、その下にロケーションが表示されます。ロケーションを選択し、**[オプション]** ボタンをタップして利用可能なオプションを表示します。

- **更新:** 表示を更新して、最新の収集データを表示します。
- **ポップアップトレンド:** 選択したロケーション データをトレンドグラフで表示します。
- **しきい値アラームの一時停止/再開:** 選択したゾーンのすべてのロケーションで、しきい値アラームを1時間一時停止します。


## モバイル データを表示する方法


 **サイトビュー:**トレンドの表示、トレンドグラフの設定変更、しきい値アラームの一時停止が可能です。ゾーンを選択すると、ビューが展開されてサブゾーンとロケーションが表示されます。

- 1つ上のフォルダーに移動するには、前の画面ボタンをタップします(デバイスの[戻る]ボタンを使用しないでください。アクティブなタブが閉じられ、閲覧セッションが終了します)。


 **テーブルビュー:**[サイト]ビューで選択した詳細なロケーション情報を表示します。しきい値、ホストまたはデバイスのアラームを一時停止します。


- ロケーション情報を表示するには、ロケーションを選択し、ダブルタップして詳細を表示します。✖をタップすると前の画面に戻ります。

- 1つ上のフォルダーに移動するには、**サイトビューアイコン**の  を選択します(デバイスの[戻る]ボタンを使用しないでください。アクティブなタブが閉じられ、閲覧セッションが終了します)。

 **アラームビュー:**ロケーションパネルビューで選択したロケーションのアラーム情報(選択されていない場合は、すべてのロケーションアラーム情報)を表示します。


- アラーム情報を表示するには、ロケーションを選択し、ダブルタップして詳細を表示します。✖をタップすると前の画面に戻ります。

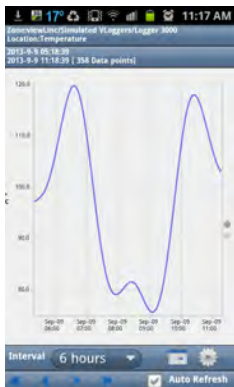
- 1つ上のフォルダーに移動するには、**サイトビューアイコン**の  を選択します(デバイスの[戻る]ボタンを使用しないでください。アクティブなタブが閉じられ、閲覧セッションが終了します)。

 アクティブなアラームのあるロケーションのみがモバイル デバイスに表示されます。例えば、システムレベルのユーザーがアラームグリッドを押すと、システム内にアクティブなアラームがあればそのすべてが表示されます。

## ポップアップトレンドを開く

モバイル デバイスでポップアップトレンドを表示するには、デバイス ブラウザーがポップアップをブロックする設定がかかっていないことを確認してください。詳細は、各該当デバイスのユーザーガイドを参照してください。

1.  **[サイト]** ボタンをタップし、特定のロケーションに移動します。
2. **[オプション]** > **[ポップアップトレンド]** の順にタップします。[ポップアップトレンド] ウィンドウが新しいブラウザー タブに表示されます。



- **間隔:**トレンドには、現在の日付までに記録された最大1ヶ月間のデータが表示されます。
  - カレンダーボタンをタップして終了日を設定します。
  - 設定アイコンをタップして、グラフに表示するリアルタイムのサンプルやしきい値ラインを含めます。
- **自動更新:**このオプションを選択すると、トレンドをリアルタイムのデータ読み取り値で更新します。最大7日間のトレンドにのみ利用可能です。
- 矢印を使用してトレンドを前後にスクロールします(「トレンドナビゲーション」(140ページ)を参照)。

## 9.10.1 viewLinc Mobile でのアラームの一時停止または再開

モバイルデバイスで、デスクトップディスプレイにおける表示のアクセス許可が与えられているロケーションのアラームを一時停止または再開することができます。アラームの一時停止の詳細については、「アラームを一時停止する」(130ページ)を参照してください。

### アラームの一時停止または再開

1. [テーブル]ビュー(☰)を開きます。
2. アラームを一時停止または再開するロケーションを選択し、[オプション]を選択します。
3. [Xアラームを一時停止]または[Xアラームを再開] (Xは制御するアラームのタイプ、しきい値、ホスト、デバイスなどを指します)をタップします。
  - 一時停止されたアラームは1時間停止します。
  - 1時間以内にアラームを再開する場合は上記手順を繰り返し[Xアラームを再開]を選択します。



## 9.10.2 viewLinc Mobile でのアラームの受信確認


表示できるロケーションのアラームの受信確認する権限がある場合、これらのアラームをリモートで受信確認する権限があります。アラームの受信確認の詳細については、「アラームの受信確認方法」(126 ページ)を参照してください。

### アラームの受信確認

1. **[アラーム]** ボタンをタップします。
2. 受信確認対象のアラームを選択します。
3. **[オプション]** > **[受信確認]** をタップします。プロンプトが表示されたら、実行した処置を入力し、事前定義済みコメント(必要な場合)と追加コメント(オプション)を選択します。
4. 必須情報を入力して、**[受信確認]** をタップします。


## 9.10.3 リモートディスプレイでのデータの表示

いくつかの viewLinc 機能は、リモートディスプレイで利用できます。

 ディスプレイ端末にタッチスクリーン機能がない場合は、キーボードを接続する必要があります。

### リモートディスプレイ端末で viewLinc を開く

1. ディスプレイ端末でインターネットブラウザを開きます。
2. viewLinc IP アドレスを入力して、その末尾に「/mobile」を付けます(例: ###.###.###.###/display)。
3. 表示する言語を選択します。英語以外の言語に変更すると、ページが自動的に更新され、新しい言語で表示されます。
4. リモートディスプレイユーザーとしてログインします。表示される内容は、サインインしているユーザーの既定のビューによって定義されます。これらの設定は、ユーザーがログアウトするまで記憶されます。
5. 表示オプションを選択します。
  - [ダッシュボード] タブを開いて、ビューで監視されているロケーションのグラフィックを表示します(ビューのダッシュボードは、ビューマネージャーで設定します)。
  - [トレンド] タブを開いて、ビューを選択します。ビューのすべてのロケーションにおけるデータが、グラフに自動的に読み込まれます。
  - 1つのモニターで複数のロケーションのトレンドを表示する場合は、複数のブラウザウィンドウを開きます。それぞれのブラウザウィンドウで、異なるユーザーとして viewLinc にログインします。それぞれに異なる既定のビューがあります。

 予期せずにブラウザが再起動した場合は、viewLinc では自動的にブラウザが再起動し、最後のユーザーとしてログインされます。最後に開いていたタブが表示された状態で、ブラウザでユーザーの既定のビューが開きます。

## 9.10.4 ディスプレイ端末ビューの変更

ディスプレイ端末に表示されるビューを変更するには、現在ログインしているユーザーに割り当てられている異なるビューを選択するか、別のビューが使用可能な新しいユーザーでログインします。

### 表示ビューを変更する

1. viewLinc リモート ディスプレイで、**[ビュー]** パネルを展開します。
2. **[ビュー]** ツリーで、使用可能な別のビューを選択します。ディスプレイが自動的に更新されます。

### 新しいユーザーとしてログインする

1. viewLinc リモート ディスプレイで **[ユーザー]** > **[ログアウト]** を選択し、**[はい]** を選択します。
2. viewLinc ログイン プロンプトで、新しいユーザー名とパスワードを入力します。
3. **[ビュー]** パネルを展開して、使用可能なビューを選択します。

# 10. 管理者タスク

viewLinc システムを設定して、システムの監視がアクティブになったら、管理者グループのメンバー、または必要な権限を割り当てられたユーザーが継続的なシステムメンテナンス タスクを実行することができます。

## 10.1 グループとユーザー

チームメンバーが増えたり担当が変わったりしたときに、ユーザー情報やグループプロパティをすばやく調整することができます。

グループとユーザーの追加に関する詳細は、「[「グループとユーザー」\(55 ページ\)](#)」を参照してください。

### 10.1.1 ユーザーまたはグループの詳細の編集

#### システムの管理

##### ユーザーまたはグループを編集する

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、編集するユーザーまたはグループを選択し、続いて **[編集]** を選択します (または右クリックし、**[編集]** を選択します)。
2. 必要に応じて設定を編集します (ユーザー、グループのプロパティに関する詳細は、「[「グループとユーザー」\(55 ページ\)](#)」を参照)。
  - 管理者グループのメンバーのみがユーザーのグループ割り当てを変更することができます。
  - viewLinc のパスワードのみが変更可能です。
3. **[保存]** を選択します。

### 10.1.2 ユーザーの非アクティブ化/再アクティブ化

#### システムの管理

ユーザーを viewLinc データベースから削除することはできませんが、非アクティブ化機能を使用して、他の職務に異動したユーザーや退職したユーザーが、グループアラーム通知またはグループレポート配信に含まれないようにすることができます (個々のアラームテンプレートやレポートからグループを削除するよりも簡単です)。

##### ユーザーの非アクティブ化

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、**[ユーザー]** タブを選択します。
2. 非アクティブ化したいユーザーを選択します。ユーザーリストが長い場合は、検索ツールでユーザーを見つけ出すか、カラム見出しをクリックして名前をアルファベット順に並べ替えます。

3. **※[非アクティブ化]**を選択します。
  4. 確認するために、**[非アクティブ化]**を選択します。
- このユーザーのロウは自動的に非表示になります。

- 非アクティブ化した全ユーザーを表示するには、**[表示]>[非アクティブ化したユーザーを含める]**を選択します。

#### ユーザーの再アクティブ化

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、**[ユーザー]** タブを選択します。
  2. **[表示]>[非アクティブ化したユーザーを含める]**を選択します。
  3. 非アクティブ化したユーザーロウを選択します(グレーになったテキストロウ)。
  4. **✓[アクティブ化]**を選択します。
- 選択したユーザーロウが表に再表示されます。

### 10.1.3 グループの非アクティブ化/再アクティブ化

#### システムの管理

グループを viewLinc データベースから削除することはできませんが、非アクティブ化機能を使用して、グループが、グループアラーム通知またはグループレポート配布に含まれないようにすることができます(複数のアラーム通知テンプレートやレポートからグループを削除するよりも簡単です)。

- ⓘ グループを非アクティブ化する前に、グループのすべてのユーザーを非アクティブ化する必要があります。

#### グループの非アクティブ化

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、**[グループ]** タブを選択します。
  2. 非アクティブ化するグループを選択します。
  3. **※[非アクティブ化]**を選択します。
  4. 確認するために、**[非アクティブ化]**を選択します。
- 選択したグループロウは自動的に非表示になります。

- 非アクティブ化した全グループを表示するには、**[表示]>[非アクティブ化したグループを含める]**を選択します。


#### グループの再アクティブ化

1. **[ユーザーおよびグループ]** ウィンドウで、**[グループ]** タブを選択します。
  2. **[表示]>[非アクティブ化したグループを含める]**を選択します。
  3. 非アクティブ化したグループロウを選択します(グレーになったテキストロウ)。
  4. **✓[アクティブ化]**を選択します。
- 選択したグループが表に再表示されます。

## 10.2 ゾーンとロケーション

### サイトの管理

ゾーンとロケーションの変更は[サイト マネージャー] ウィンドウで実行できます。管理者の一般的な作業には、ゾーンまたはロケーションの名前変更、リンク解除、ロケーションの別のゾーンへの移動、異なるアクセス許可の適用、スケジュールの作成、異なるしきい値テンプレートの適用などがあります。

 ゾーンまたはロケーションに変更を加えるにはフルコントロールのアクセス許可が必要です。

#### ゾーン表示プロパティの編集

1. [ゾーンとロケーション] ツリーの [サイト マネージャー] で、編集するゾーンを選択します。
2. 右クリックして[プロパティの編集] を選択するか、[管理]>[プロパティの編集] を選択します。
3. [ゾーンの編集] ウィンドウで、ゾーンを表示するために viewLinc が使用する情報(名前、ダッシュボードのフォルダーアイコン、説明)を変更します。
4. 変更を保存します。

#### ロケーション表示プロパティの編集

1. [サイト マネージャー] の [ゾーンとロケーション] ツリーで、編集するロケーションを選択します。
2. 右クリックして[プロパティの編集] を選択するか、[管理]>[プロパティの編集] を選択します。
3. [ロケーションの編集] ウィンドウで、ロケーションを表示するために viewLinc が使用する情報(名前、説明、単位、小数点以下の桁数)を変更します。こうした設定は、viewLinc 全体を通してロケーションが表示される形式を制御します。デバイスが読み取れるよりも小数点以下の桁数を小さくした場合、viewLinc はデバイスから受信するデータを自動的に四捨五入して最も近い小数点以下の桁数に四捨五入します。
4. 変更を保存します。

### 10.2.1 ロケーション プロパティの表示

[サイト マネージャー] ウィンドウの [ロケーション プロパティ] タブを使用すると、重要なロケーションの詳細を一覧表示できます。サイト マネージャー ウィンドウへアクセスするには「サイトの管理」権限が必要です。




-  **トレンドの表示:** 新しいブラウザ ウィンドウでロケーションの履歴データをトレンドとして表示します。
-  **ツリーで検索:** [ゾーンとロケーション] ナビゲーション ツリーで、選択されているロケーションが強調表示されます。
-  **リンクしたチャネル履歴の表示:** 特定のデバイス チャネルが選択したロケーションにリンクされている期間とリンク開始時をチェックします。

表16 ロケーションプロパティ列

| 列            | 説明   |
|--------------|--|
| 種類           | ロケーションタイプアイコン。この列は移動できません。アイコンの説明については、「アイコン」(116 ページ)を参照してください。   |
| ゾーン          | 親ゾーンの完全なパス。  |
| ロケーション       | ナビゲーション ツリーに表示されているロケーション名。  |
| ロケーション ID    | viewLinc が新しいロケーションに割り当てた番号。変更はできません。複数ロケーションに同名が与えられた場合の間違いを避けるために使用します。                                |
| 説明           | ユーザーが入力したデバイスの説明。  |
| デバイスの説明      | ユーザーが定義したデバイス名。  |
| デバイス シリアル番号  | viewLinc に自動的に保存されたデバイスのシリアル番号。  |
| チャンネルの説明     | ユーザーが提供した説明。   |
| デバイス ID      | viewLinc により作成され、新しいデバイスに割り当てられた番号で、変更できません。複数のデバイスに同一名が与えられた場合の間違いを避けるために使用します。                         |
| チャンネル ID     | viewLinc により作成され、新しいチャンネルに割り当てられた番号で、変更できません。複数のチャンネルに同一名が与えられた場合の間違いを避けるために使用します。                       |
| チャンネル インデックス | リンクしたロケーションに割り当てられたチャンネル番号。  |
| ロケーション単位     | 単位は、viewLinc で設定した形式を表示します。これはレポートの目的で変更されることがよくあります(例えば、米国のサイトでは読み取り値を標準測定単位や華氏で、カナダではメートル法や摂氏で表示するなど)。 |
| 優先表示単位       | 特定のロケーションでの表示単位オプション(C や F など)(異なるロケーションで異なる単位に設定可能)。  |
| デバイス単位       | C、DEGC、TDC など、Vaisala で設定されたデータロガーまたはトランスミッタの単位。これらは、有用な表示をするために viewLinc で変更できません([ロケーション]または[優先表示単位])。 |
| 測定の種類        | 測定値(温度、湿度、プール値、圧力)。  |
| 小数点以下の桁数     | システム定義のプリファレンス。  |
| デバイス アドレス    | このロケーションへのシステムフォルダーパス。   |

| 列              | 説明  |
|----------------|---|
| リンクの開始         | ロケーションでデータを記録した日付(「無制限」とは、ロケーションがデータ監視を開始してから、現在のチャンネルへのリンクの接続が維持されていることを示す)。 |
| リンクの終了         | ロケーションでデータ記録を停止した日付(「無制限」とはロケーションで現在のチャンネルへのリンクが維持され、継続的にデータが記録されていることを示す)。   |
| アクセス許可         | このロケーションでユーザーに許可されているアクセス許可。  |
| しきい値アラームスケジュール | 割り当てられた場合のこのロケーションに設定されたしきい値アラームスケジュールの名前。                                    |

## 10.2.2 ロケーションまたはゾーンの名前変更

### サイトの管理


ゾーンの名前変更ではゾーン名だけが編集されます。割り当てられたロケーションは変更されません。

1. **[ゾーンとロケーション]** ナビゲーションツリー上の **[サイトマネージャー]** で、名前を変更するロケーションまたはゾーンを選択します。
2. **[管理]** メニューの **[プロパティの編集]** を選択するか、右クリックして **[プロパティの編集]** を選択します。
3. 新しい意の名前を入力してから **[更新]** を選択します。
4. **[保存]** を選択するか、または **[元に戻す]** を選択して変更をキャンセルします。

## 10.2.3 ロケーションとチャンネルのリンクを解除/再リンクする

### サイトの管理

監視の対象空間の変更や施設の移動などに伴い、会社の監視ニーズが変化した場合は、デバイスチャンネルを別の viewLinc ロケーションにリンクするとよいでしょう。viewLinc のリンク解除/再リンク機能を使えば簡単に変更できます。

 ロケーションがリンク/リンク解除されているすべてのゾーンに対してフルコントロールアクセス許可が必要です。

チャンネルは個別にリンク解除するか、またはゾーン内のすべてのチャンネルを同時にリンク解除することができます。このオプションを使うと、監視の必要がなくなったゾーンを非アクティブ化する際に時間が節約できます。

組織によっては、ロケーションとゾーンのリストが長くなり、最初のステップとしてチャンネルがリンクされているロケーションを特定する必要があります(「リンクしたチャンネル/リンクしたロケーションの検索」(49 ページ))を参照)。

## チャンネルからのロケーションのリンクを解除する

デバイスチャンネルのリンクが viewLinc ロケーションから解除された場合も、データ履歴はロケーション履歴レポートに保持されます。

1. **[サイトマネージャー]**で、**[ゾーンとロケーション]**ツリーでリンクしたロケーションに移動します。
2. **[管理]**>**[チャンネルのリンク解除]**を選択(または右クリックして**[チャンネルのリンク解除]**を選択)します。
3. **[リンク解除]**を選択します。これでデバイスチャンネルを別のロケーションにリンクできるようになりました。
4. **[保存]**を選択します。

## ゾーン内のすべてのロケーションのリンクを解除する

**i** ゾーンを削除する場合はこの手順が必要です(「**[ゾーンとロケーションの削除]**」(169 ページ)を参照)。

1. **[サイトマネージャー]**で、**[ゾーンとロケーション]**ツリーに移動し、リンク解除するロケーションのゾーンを見つけます。
2. **[管理]**>**[チャンネルのリンク解除]**を選択(または右クリックして**[チャンネルのリンク解除]**を選択)します。
3. **[リンク解除]**を選択して変更を確認します。
4. **[保存]**を選択します。

## 以前にリンクしたチャンネルを新しいロケーションにリンクする

1. **[サイトマネージャー]**で、**[ホストとデバイス]**タブを選択します。
2. **[ゾーンとロケーション]**ツリーで、リンクされていない新しいロケーションに移動します。
3. **[ホストとデバイス]**ツリーで、リンク解除したチャンネルを選択します(以前にリンクされたチャンネルでも、現在リンク解除されている場合は斜体で表示されます)。
4. **[構成]**>**[チャンネルのリンク]**を選択します。



5. **[チャンネルをロケーションにリンク]** ウィンドウで、この新しいロケーションでデータ監視を開始する時間を選択します。
  - **今すぐ開始**: このロケーションでのデータの記録は、チャンネルに記録された次の使用可能なサンプリング時間に開始されます。



- **使用可能な最も早いリンク時刻[]から開始:**最後にチャンネルがリンクされた時間に基づいて、このロケーションに対する新しいチャンネル データの記録が開始されます。
  - **指定した日時から開始:**データ履歴の記録を開始する時刻を設定します。
6. [リンク]を選択します。
  7. [保存]を選択します。

#### 以前にリンクしたロケーションに新しいチャンネルをリンクする

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ゾーンとロケーション] ツリーで、リンクされていないロケーションに移動します(ロケーションが以前に別のチャンネルにリンクされていても、現在はリンク解除されている状態であれば、斜体テキストで表示されます)。
3. [ホストとデバイス] ツリーで、リンクされていないチャンネルを選択します。
4. [構成]>[チャンネルのリンク]を選択します。



5. [チャンネルをロケーションにリンク] ウィンドウで、この新しいロケーションでデータ監視を開始する時間を選択します。
  - **今すぐ開始:** 次のチャンネルの読み取り値から、このロケーションでデータが記録されます。
  - **使用可能な最も早いリンク時刻[]から開始:**最後にロケーションがリンクされた時間に基づいて、このロケーションに対する新しいチャンネル データの記録が開始されます。
  - **指定した日時から開始:**データ履歴の記録を開始する特定の時刻を設定します。
6. [リンク]を選択します。
7. [保存]を選択します。

#### 以前にリンクしたチャンネルを以前にリンクしたロケーションにリンクする

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ゾーンとロケーション] ツリーで、既存のリンクされていないロケーションに移動します。
3. [ホストとデバイス] ツリーで、既存のリンクされていないチャンネルを選択します。
4. [構成]>[チャンネルのリンク]を選択します。



5. **【チャンネルをロケーションにリンク】** ウィンドウで、このロケーションでデータ監視を開始する時間を選択します。
  - **今すぐ開始:** 次回から使用可能なサンプリング時間から、このロケーションでデータが記録されます。
  - **使用可能な最も早いリンク時刻[]から開始:** このオプションは、直近のリンクされた時間、ロケーション、またはチャンネルリンクを自動選択します。これにより、データの重複と無効なアラームを回避できます。
  - **指定した日時から開始:** データ履歴の記録を開始する特定の時刻を設定します。
6. **【リンク】** を選択します。
7. **【保存】** を選択します。

**i** デバイスをリンク解除/再リンクしても、ロケーションデータとアラーム履歴は保持されます。

## 10.2.4 ロケーションの移動

### **🔒** サイトの管理

viewLinc は割り当てられたゾーンに関係なくデバイスを認識するため、データ履歴を失うことなく、デバイスとチャンネルを1つのゾーンから別のゾーンに移動できます。

例えば、監視対象の冷蔵ユニットを別の物理的位置に移動しなければいけない場合、viewLinc では単にデバイス ロケーション データポイントを別の冷蔵ゾーンに移動します。このロケーションに対するフルコントロール アクセス許可が必要です。

#### ロケーションを別のゾーンに移動する

1. **【サイト マネージャー】** で、そのロケーションの移動先ゾーンが作成されていることを確認します。
2. **【ゾーンとロケーション】** ツリーで、移動するロケーションを選択します。
3. マウスを使ってロケーションを移動するには、**【ゾーンとロケーション】** ツリーで、ロケーションを選択し、新しいゾーンまでドラッグします。

**i** 新しいロケーションが、ゾーン内の他のロケーションと同じ名前の場合、表示されプロンプトでロケーション名を変更します。

4. 手でロケーションを移動するには、**[ゾーンとロケーション]** ツリーで、ロケーションを選択します。
  - a. **[管理]** > **[切り取り]** (または右クリックして**[切り取り]**) を選択します。
  - b. ロケーションの移動先のゾーンを選択してから**[管理]** > **[貼り付け]** を選択します。
5. **[保存]** を選択するか、または**[元に戻す]** を選択して移動をキャンセルします。

## 10.3 ゾーンとロケーションの削除

会社が成長し、モニターニーズが変わると、デスクトップのゾーンやロケーションを表示する必要がなくなることがあります。完全な監査証跡の記録を残すために、ロケーションはデータ収集チャンネルにリンクされたことがない場合のみ削除できます。削除できないロケーションでも非アクティブ化機能を使って viewLinc デスクトップに表示できなくすることができます。

- **非アクティブ化:** ロケーションは(ゾーンとロケーション ツリーで)非表示になっていますが、後で再アクティブ化できます。
- **削除:** ゾーンまたはロケーションは使用できなくなります。このオプションは非アクティブ化したゾーンやロケーションに関連した不要になった表示を除去するのに役立ちます。

**i** 最上位のゾーンやデータ収集に使用したロケーションを含むゾーンは削除できません。ゾーンの削除は、すべての子ロケーションが削除されたか、他のゾーンに移動された場合のみ使用できます。

### 10.3.1 ロケーションの非アクティブ化

#### **i** サイトの管理

データを記録したりロケーションを監視する必要がなくなったら、ロケーションを非アクティブ化して**[ゾーンとロケーション]** ツリー上に表示されないようにします。以前に記録された履歴はすべて保存されます。

#### ロケーションを非アクティブ化する

1. **[ゾーンとロケーション]** ツリー上の **[サイト マネージャー]** で、非アクティブ化するロケーションを選択します。
2. **[管理]** > **[非アクティブ化]** (または 右クリックして**[非アクティブ化]**) を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、**[非アクティブ化]** を選択します。ロケーションはビューで非表示になります。
4. **[保存]** を選択するか、または**[元に戻す]** を選択して変更をキャンセルします。

**o** 非アクティブ化されたすべてのゾーンまたはロケーションの表示/非表示を切り替えるには、**[詳細]** > **[非アクティブ化されたロケーションを含める]** を選択します。

## 10.3.2 ロケーションの再アクティブ化

### サイトの管理

デバイス チャネルに一度もリンクされたことのない非アクティブ化されていたロケーションのみが再アクティブ化できます。

#### 非アクティブ化されたロケーションを再アクティブ化する

1. **[サイトマネージャー]**の**[ゾーンとロケーション ツリー]** ツリーで、**[詳細]** > **[非アクティブ化されたロケーションを含める]**を選択します。
2. 非アクティブ化されたロケーション(**赤の取り消し線** 付きテキストで表示)を選択し、続けて**[管理]** > **[アクティブ化]** (または右クリックして**[アクティブ化]**)を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、アクティブ化を確定します。
4. **[保存]**を選択します。

## 10.3.3 非アクティブ化されたロケーションの非表示/表示

### サイトの管理

ロケーションを非アクティブ化すると、**[ゾーンとロケーション]** ツリーのビューでは表示されなくなります。これらを再表示するには、**[サイトマネージャー]**を開き、**[詳細]** > **[非アクティブ化されたロケーションを含める]**を選択または選択解除します。

## 10.3.4 ゾーンまたはロケーションの削除

### サイトの管理

デバイス チャネルにリンクされたことがないロケーションは、削除できます。削除されると、**[ゾーンとロケーション]** ツリーでご利用できなくなります。

ロケーションが以前デバイス チャネルにリンクされた経緯がある場合、そのロケーションは非アクティブ化しかできません。非アクティブ化されたロケーションはビューで非表示となりますが、再アクティブ化することができます(「**ロケーションの非アクティブ化**」(169 ページ)を参照)。

ゾーンを削除できるのは、子ロケーションがすべて削除された場合のみです。

#### ロケーションを削除する

1. **[サイトマネージャー]**で、リンクされていないロケーションを選択します
2. **[管理]** > **[削除]** (または右クリックして**[削除]**)を選択します。削除するオプションが使用できない場合は、選択したロケーションが以前にチャネルにリンクしたことがあり、削除できない(非アクティブ化のみ)ことを意味します。
3. **[保存]**を選択します。

#### ゾーンを削除する

1. **[サイトマネージャー]**で、削除する空のゾーンを選択します。ゾーンに非アクティブ化されたロケーションが含まれていないことを確認するには、**[詳細]** > **[非アクティブ化されたロケーションを含める]**を選択します。

- 削除したいゾーンに非アクティブ化されたロケーションが含まれている場合、使用されていない別のゾーンにドラッグできます。

2. **[管理]**>**[削除]** (または右クリックして**[削除]**)を選択します。
3. **[保存]**を選択します。

## 10.4 アラームの無効化/有効化

### デバイスの管理

24時間を超える可能性があるシステム メンテナンス期間中に不要なアラームが発動するのを防ぐには、デバイス アラームを無効にします。

- デバイス アラームの無効化/有効化
- しきい値アラーム設定の無効化/有効化
- しきい値アラーム テンプレートレベルの無効化/有効化 (テンプレートを使用しているすべてのロケーションが影響を受けます)

最大 24 時間まで一時的にデバイスのアラームを無効にするには、「アラームを一時停止する」(130 ページ)を参照してください。

追って通知があるまで、または恒久的にデバイス アラームとデータログを停止する場合は、デバイスまたはホストを非アクティブ化する必要があります(「ホストまたはデバイスの非アクティブ化/再アクティブ化」(174 ページ)を参照してください)。

### 10.4.1 しきい値アラーム設定の無効化/有効化


#### アラーム テンプレートの管理

1 つ以上のロケーションのしきい値アラームを一時的に停止する場合に、しきい値アラーム設定の無効化は便利な手段となります。しきい値アラーム テンプレートの個々のレベルを無効にすることもできます(「しきい値アラーム テンプレートの無効化/有効化」(172 ページ)を参照してください)。

しきい値アラーム設定は無効にしてもviewLinc 画面に表示されたままとなり、いつでも有効化することができます。

- しきい値設定を今後使用しない場合は、非アクティブ化のオプションを使用します(しきい値アラーム設定は削除できません)。非アクティブ化されたしきい値アラームは非表示となりますが、いつでも再アクティブ化することができます。「しきい値アラームの非アクティブ化/再アクティブ化」(68 ページ)を参照してください。


### しきい値アラーム設定の有効化/無効化

1. [サイトマネージャー]で、[ゾーンとロケーション] ツリー上の1つのロケーションに移動します。
2. [しきい値アラーム設定] タブで、1つ以上のロウを選択してから ([Ctrl] キーを押しながらクリックする)、複数を選択することができます)、 [しきい値アラーム設定の編集] を選択 (または、メニューを右クリック) します。
3. [しきい値アラーム設定の編集] ウィンドウで、[状態] 設定を有効化または無効化します。
4. [保存] を選択します。


## 10.4.2 しきい値アラーム テンプレートの無効化/有効化

### アラーム テンプレートの管理

しきい値アラーム テンプレートを作成する際、すべてのレベルを有効化しない方がよい場合があります。しきい値アラーム テンプレートを複数のロケーションに適用して、それぞれ別の時間に特定のレベルを有効化するとよいでしょう。

 しきい値アラーム テンプレートレベルを有効化または無効化すると、テンプレートを使用しているすべてのロケーションが影響を受けます。

### しきい値アラームレベルの有効化/無効化

1. [アラーム テンプレート] で、[しきい値アラーム] タブを選択します。
2. 変更するしきい値アラーム テンプレートを選択して、 [編集] を選択します。
3. [有効] カラムのしきい値グリッドで、しきい値レベルを有効化または無効化します。少なくとも1つのしきい値レベルを有効のままにする必要があります。
4. [保存] を選択します。


## 10.4.3 デバイスアラームの無効化/有効化

### デバイスの管理

24 時間を超える可能性があるシステム メンテナンス期間中に不要なアラームが発動するのを防ぐには、デバイス アラームを無効にします。または、最大 24 時間まで一時的にデバイスのすべてのアラームを無効にすることができます (「アラームを一時停止する」(130 ページ) を参照)。

または、追って通知があるまで、もしくは恒久的にすべてのデバイスのアラームとデータログを停止するために、デバイス/ホストを非アクティブ化することができます (「ホストまたはデバイスの非アクティブ化/再アクティブ化」(174 ページ) を参照)。

### ロケーションに割り当てられたデバイス アラームの有効化/無効化

1. [サイトマネージャー]で、[ゾーンとロケーション] ツリーからロケーションを選択します。
2. [デバイス アラーム設定] タブで、有効または無効にするデバイス アラームの種類を選択します。
3.  [デバイス アラーム設定を編集する] を選択します。
4. [デバイス アラーム設定を編集する] ウィンドウで、[状態] オプションを [有効] または [無効] に設定します。

5. **【保存】**を選択します。

#### 複数のデバイスアラームの有効化/無効化

1. **【サイトマネージャー】**の**【ゾーンとロケーション】**ツリーで、1つ以上のゾーンまたはロケーションを選択 ([Ctrl] キーを押しながらクリック)します。
2. **【デバイスアラーム設定】** タブで、有効または無効にするアラームの種類を選択します。
3. ✂ **【デバイスアラーム設定を編集する】**を選択します。
4. **【デバイスアラーム設定を編集する】** ウィンドウで、**【状態】** オプションを**【有効】**または**【無効】**に設定します。または、複数のアラームの種類が選択されている場合は、選択されている既定のオプションのままにします**(混合 - 変更しない)**。
5. **【保存】**を選択します。

## 10.4.4 ホストアラームの無効化/有効化

### デバイスの管理

メンテナンス期間中に継続的にアラームが発生しないように、ホストアラームを無効にします。

#### ホストアラームの有効化/無効化

1. **【サイトマネージャー】**の**【ホストとデバイス】** ツリーで、ホストを選択します。
2. **【構成】**>**【ホスト通信/ホスト構成アラーム設定】**の順に選択します。
3. **【状態】** オプションを**【有効】**または**【無効】**に設定します。
4. **【保存】**を選択します。

## 10.5 デバイス メンテナンス

既定の管理者グループの一員であるか、「デバイスの管理」権限が割り当てられているグループの一員であるユーザーは、**【サイトマネージャー】** ウィンドウでホストとデバイスの管理とメンテナンスを実行できます。

ホストとデバイスの構成タスクを完了するには、「ホストとデバイスの構成」(34 ページ)を参照してください。

## 10.6 デバイスの削除

### デバイスの管理

ネットワークからデバイスを削除する、または同じネットワークの新しい監視エリアに移す前に、デバイスを非アクティブ化する必要があります。非アクティブ化されたデバイスは、データのログ記録を停止し、すべてのデバイスアラームとしきい値アラームも無効になります。

デバイスは次の場合に削除してください。

- デバイスのメンテナンスが必要な場合 (再校正など)
- デバイスが不要になった場合

ホストまたはデバイスを非アクティブ化するには、「ホストまたはデバイスの非アクティブ化/再アクティブ化」(174 ページ)を参照してください。

アクセス ポイントから RFL データロガーを削除するには、「RFL データロガーの解放」(175 ページ)を参照してください。



デバイスを交換すると、デバイスは自動的に非アクティブ化されます。「デバイスの切り替え」(175 ページ)を参照してください。

## 10.6.1 ホストまたはデバイスの非アクティブ化/再アクティブ化

### デバイスの管理

ホストに接続されている単一デバイス、または全デバイスを非アクティブ化することができます。この操作を行うと、デバイス/ホストを再アクティブ化するまで、アラームおよびデータ収集はすべて停止されます。

#### ホストまたはデバイスを非アクティブ化する

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、非アクティブ化するホストまたはデバイスを選択します。
3. [構成] > [非アクティブ化] (または 右クリックして [非アクティブ化]) を選択します。
4. メッセージが表示され、ホスト/デバイスの非アクティブ化について確認を要求してきます。[非アクティブ化] を選択します。

ホスト/デバイスは [ホストとデバイス] ツリーに表示されなくなりますが、ネットワーク接続はそのままなため、後でホスト/デバイスを再アクティブ化することもできます。

#### ホストまたはデバイスを再アクティブ化する

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、[詳細] > [非アクティブ化されたデバイスを含める] を選択します。
3. 非アクティブ化されたホスト/デバイスを選択し (**赤の取り消し線**付きで表示)、続けて [構成] > [アクティブ化] (または右クリックして [アクティブ化]) を選択します。

#### 非アクティブ化されたホストまたはデバイスを表示または非表示にする


1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、[詳細] を選択し、[非アクティブ化したデバイスを含める] オプションをチェックするか、チェックを外します。



## 10.6.2 RFL データロガーの解放


### デバイスの管理

お使いのネットワーク上の RFL データロガーを移動、または削除する前に、不要なアラームが鳴るのを防ぐために、まずアクセス ポイントから解放する必要があります。

 所属先の施設でのデータロガーとアクセス ポイントの管理方法に関する詳細については、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

#### RFL データロガーを解放する

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、RFL データロガーを選択します(複数可)。
3. [構成] > [アクセス ポイントからデバイスを解放] を選択します。

 RFL データロガーを解放しても、その後、同じまたは他のアクセス ポイント ホストによって受理できます。

4. プロンプトが表示されたら、[解放] を選択します。

## 10.7 デバイスの切り替え

デバイス 切り替え機能を使用すると、現在ロケーションに適用されているしきい値アラーム設定とデバイス アラーム設定を維持しながら、ロケーションにリンクされているデバイスを交換することができます。


デバイスまたはプローブの校正、データロガー フェームウェアの更新、ワイヤレス デバイスへの変更など、保守目的で交換が必要になることがあります。

デバイスが交換されると(「デバイスのスワップ」(175 ページ)を参照)、変更がロケーション履歴レポートに記録されます(レポートにはレポート期間に該当するデバイスのシリアル番号が表示されず)。レポート期間中、デバイスが交換された場合、このイベントがレポートサマリーにリストされます。

### 10.7.1 デバイスのスワップ


#### サイトの管理

ロケーションにリンクされているデバイスは、しきい値のモニタリングを中断させたり、デバイス アラームを発動させることなく、交換することができます。

 交換できるのは、同じ設定を持つデバイスのみ(例えば、3つのチャンネルを持つデバイスを2つのチャンネルを持つデバイスと交換することはできませんし、チャンネルが同じ種類のデータを記録している必要があります)です。

## デバイスのスワップ

- 交換するデバイスが、次の条件を満たしていることを確認してください。
  - ネットワークに接続されている
  - 交換対象のデバイスと同じホスト上にある
  - サンプルレートが同じである
  - チャンネル インデックスと測定の種類が同じである
- [サイトマネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
- [ホストとデバイス]** ツリーで、交換するデバイスを選択します。
- [構成]** > **[このデバイスを次のものとスワップする]** を選択します。

 互換性があり、交換できるデバイスのみが表示されます。

### デバイスのスワップ


現在ポートに接続したデバイスの表示
  使用可能なすべての交換デバイスの表示

| 選択                    | アクティブ                               | デバイスの説明   | シリアル番号   | ホスト                   | 単位タイプ   |
|-----------------------|-------------------------------------|-----------|----------|-----------------------|---|
| <input type="radio"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | New York  | 10041259 | Device Host VAN Ho... |  |
| <input type="radio"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | Houston   | 13051014 | Device Host VAN Ho... |  |
| <input type="radio"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | Melbourne | 13051035 | Device Host VAN Ho... |  |

リンクの開始時刻

今すぐ開始
  ロケーションで前回記録したチャンネルサンプルから開始

- [デバイスのスワップ]** ウィンドウで、切り替えるデバイスを選択します。
  - 現在ポートに接続されているデバイスを表示:** DL ロガーを交換する際に新しいデバイスが既に接続されている場合、このオプションを有効にすると、特定のデバイスの場所を表示します。
  - リンク開始時間:[今すぐ開始]** を選択すると、その時点以降のすべてのチャンネル データがリンクされているロケーションに関連付けられます。
  - ロケーションで前回記録したチャンネル サンプルから開始:** このオプションでは、最近リンクされた時間から自動的に開始します。これにより、データの重複と無効なアラームを回避できます。

 データ間のギャップを防ぐため、viewLinc に接続されているデータ ロガーがオフラインになった場合、viewLinc はオフライン期間中、データ履歴の復元を試みません。


- [OK]** を選択します。

## 10.8 デバイスの校正

校正によって、計測機器（データロガー、トランスミッタ、プローブ）によって記録されたデータが信頼でき、正確であることが保証されます。

例えば、多くの人が腕時計を正しい時間に調整します。作業標準（時計）はほぼあらゆる場所で可視化されており、比較/校正が容易になっています。時計の時間が信頼できる基準値とは異なる場合は、調整を行います。信頼できる基準値（時計）に表示される計測データ（時刻）は基準点として信頼できます。

viewLincを使ってデバイス、プローブ、チャンネル校正値を更新します。デバイスがスケジュールどおりに校正されるようにするため、デバイスとプローブ用にviewLinc校正リマインダーを設定します。


 HMP110湿度・温度プローブの校正については、『HMP110シリーズのユーザーガイド』を参照してください。

### 10.8.1 チャネル校正プロパティの編集

#### デバイスの管理

チャンネル校正設定は、Vaisala データロガーの測定精度をテストするための基準値です。

#### チャンネル校正プロパティを編集する

 初期校正値がデバイスからviewLinc（デバイスがviewLincによって検出されたときに自動検出）にダウンロードされたことを確認します。

1. [サイトマネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、編集するデータロガーチャンネルを選択します。
3. [構成] > [プロパティの編集] を選択します。
4. [チャンネルプロパティの編集] ウィンドウで、Vaisala から提供された情報か、オンサイトの校正テストで収集した情報を使用して、[校正スケール] および [校正オフセット] プロパティを編集します。
5. HMT140 デバイスで校正設定を変更する場合は、デバイス校正設定をリセットするよう求めるメッセージが表示されます（「デバイスやプローブの校正プロパティの編集」（178 ページ）を参照）。
6. [OK] を選択します。

## 10.8.2 デバイスやプローブの校正プロパティの編集

### 🔒 デバイスの管理

デバイスとそのプローブの校正日を設定すると、viewLinc は自動的に、期日の 3 か月前、1 か月前、当日に校正日を知らせるリマインダー通知を発行します。

アラーム テンプレートで校正通知のプロパティ(プライオリティ、遅延、受信確認)を設定し(「デバイス校正期間」(91 ページ)を参照)、通知メッセージの内容を定義することができます(「メール / SMS の内容」(83 ページ)を参照)。

- 校正期間は、[システム環境設定] で [既定の校正期間] オプションの横の値カラムを選択することで、すべてのデバイスに対して設定できます。ただし、データロガーまたはプローブで設定した校正期間は、システム環境設定より優先されます。

### デバイスやプローブの校正プロパティを編集する

- 一部のデバイスの校正情報は自動的に設定されるため、変更できません。

- [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
- [ホストとデバイス] ツリーで、デバイスを選択します。
- [構成] > [プロパティの編集] を選択します。
- [デバイス プロパティの編集] ウィンドウで、デバイスと接続されているすべてのプローブの校正フィールドが使用可能になります。校正の詳細を入力します。
  - 校正日:** Vaisala 校正サービスで事前設定されていない限り、最終校正日を入力します。
  - 校正者:** Vaisala 校正サービスで事前設定されていない限り、前回デバイスを校正した人物の名前を入力します。
  - 次回の校正日:** 次回実施予定の校正日を入力します。日付を入力しないと、システムは最終校正日から 1 年後の日付を自動設定します。
- [OK] を選択します。

## 10.8.3 オフサイトでの校正

viewLinc システムの高精度測定機能を維持するため、Vaisala では ISO 17025 認定を取得し、ISO/IEC 17025 および ANSI/NCSL Z540-1-1994 に準拠しているラボでの校正および完全機能テストをご提供しています。

校正サービスには次のものが含まれます

- 元の校正に照らし合わせた仕様検証
- バッテリーの確認と交換(必要な場合)
- ファームウェアの更新(必要な場合)

## 10.8.4 オンサイトでの校正

再校正のためにデバイスを送付することができない場合は、Vaisala のオンサイト校正チームがお手伝いします。オンサイトでの校正には、NISTトレーサブル認証と、再校正期日のリマインダーなどが含まれています。

校正コストを削減するため、Vaisala では価格高騰を防ぎ、校正コストの大幅な節約につながる前払いの3年/5年プランをオプションで提供しています。お客様の便宜をはかるために、レンタル機器も利用可能です。

## 10.9 DL データ ロガーをロック/ロック解除する

お使いの viewLinc モニタリングシステムに DL データ ロガーが含まれている場合、viewLinc で他のソフトウェア (他の viewLinc、または vLog のインストール) が DL データ ロガーに変更を加えることができないように設定することができます。

DL データ ロガーをロックして他のソフトウェアで次のことをできなくします。

- データロガーやチャンネル説明を変更する
- チャンネルを有効または無効にする
- サンプル間隔を設定する
- データロガーをクリアする
- チャンネル スケーリングを設定する
- ウォームアップ時間を変更する

### リモートロック

viewLinc に接続する前に、vLog または Spectrum ソフトウェアにリンクされていた DL データ ロガーは、リモート ロックされています。vLog でデータ ロガーのリンクを解除 (手順については、vLog のユーザーガイドを参照) するか、viewLinc でリモート ロックを解除することができます。

## 10.9.1 DL データ ロガーのロック/ロック解除

### デバイスの管理

#### DL データ ロガーをviewLinc にロックする

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. デバイスを選択 (複数の場合は Ctrl キーを押しながらクリック) します。
3. [構成] > [デバイスのロック] を選択します。
4. [保存] を選択します。

## DL データロガーのロックを viewLinc から解除する

**i** DL データロガーに、他のソフトウェアへの既存のリンクがある場合、このリモートロックは管理者グループのメンバーのみが解除できます。

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、編集するデバイスを選択 (複数の場合は Ctrl キーを押しながらクリック) します。
3. **[構成]** > **[デバイスのロック解除]** を選択します。
4. **[ロック解除]** を選択します。

## 10.10 履歴サンプルのクリア

お使いのシステムが DL データロガーを備えている場合は、履歴のクリア機能を使用すると、次のことができます。

- 校正または修理に出す前に、DL データロガー上の収集データを削除します。
- 校正時に DL データロガーに収集されたデータ削除します (viewLinc でデバイス チャネルをロケーションに再リンクしたときに、一時データを無視するよう選択することもできます)。
- DL データロガー サンプリングを **[メモリフルで上書き]** に設定します (viewLinc で継続的にデータ収集をする場合に必要なデバイス設定)。

**i** DL データロガー プロパティの編集 (サンプリング間隔、サンプル ウォームアップ時間、チャンネルの有効化/無効化、校正設定) を行うと、データ履歴が自動的にクリアされます。

- タイムベース同期をサポートしない、以前のモデルの Vaisala DL データロガー (グレー ケース版) を使用している場合、履歴をクリアするとデータロガー クロックが viewLinc クロックと自動同期され、すべての時間ドリフトが修正されます。

**o** 時間の経過に伴ってデータロガーのクロック時間が viewLinc のクロック時間とずれてきます。これを時間ドリフトと呼びます。長期のデータ監視では多少の時間ドリフトが想定されますが、同期によって修正されます。タイミングを同期することで、精度の高いデータ収集結果が得られます。「**[タイムベースの同期]**」(92 ページ) を参照してください。

## 10.10.1 DL データ ロガーでの履歴サンプルのクリア

### 🔒 デバイスの管理

**i** DL データ ロガーがすでに(校正チーム、または vLog を使用して)[メモリフルで上書き]に設定されている場合、履歴サンプルをクリアする必要はありません。

#### 履歴サンプルをクリア

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、DL データ ロガー(複数の場合は Ctrl キーを押しながらクリック)を選択します。
3. [構成] > [履歴サンプルをクリア] を選択します。
4. 警告プロンプトが表示されたら、[クリア] を選択します。
5. 完了プロンプトが表示されたら、[OK] を選択します。

## 10.11 セキュリティ状態の修正

**i** 既定の viewLinc 管理者グループのメンバーだけがこのタスクを実行できます。

DL データ ロガーのセキュリティ状態が改ざんされた形跡がある場合([サイト マネージャー] の [ホストとデバイス] タブ、[プロパティ] テーブル、[セキュリティ状態] カラム)、管理者グループのメンバーが問題を調査して、原因を突き止めることをお勧めします。サポートをご希望の方は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。


問題が特定され、貴社のセキュリティポリシーに従って訂正されたら、次の手順を使用してセキュリティ状態をリセットできます。

**o** セキュリティ状態に変更を加えても、継続的監視が妨げられることはありません。

#### 改ざんされたセキュリティ状態のクリア

1. [サイト マネージャー] で、[ホストとデバイス] タブを選択します。
2. [ホストとデバイス] ツリーで、編集するデバイスを選択(複数の場合は Ctrl キーを押しながらクリック)します。
3. [構成] > [セキュリティ状態の修正] を選択します。
4. 警告プロンプトが表示されたら、[はい] を選択します。
5. 完了プロンプトが表示されたら、[OK] を選択します。

## 10.12 ネットワーク通信のテスト


 既定の viewLinc 管理者グループのメンバーだけがこのタスクを実行できます。

通信アラームを何度も受信している場合、ネットワーク通信の安定性を確認するとよいでしょう。

### ホスト通信のテスト

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、ホストを選択します。
3. **[構成]** > **[ホストへの Ping]** を選択します。ネットワークトラフィックに応じて、これには最大で1分かかる場合があります。
4. **[Pingの結果]** ウィンドウに、通信障害が検出されたかどうかが表示されます。**[OK]** を選択して、ウィンドウを閉じます。

## 10.13 viewLinc の再起動

 既定の viewLinc 管理者グループのメンバーだけがこのタスクを実行できます。

時折、viewLinc をオフラインにしたり、システムを再起動したりするとよいでしょう（これはデータ収集には影響しません）。viewLinc を再起動したり、一時的に停止したりすることを選択することができます。また、デバイス ホストまたはアクセス ポイントホストを再起動して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

デバイス ホストまたはアクセス ポイントを再起動しても、接続されているデバイスのデータ収集が中断されることはありません。

システムまたはホストの再起動はイベントログに記録されます。

### viewLinc Enterprise Server の再起動

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、viewLinc Enterprise Server を選択し、**[構成]** > **[viewLinc Enterprise Server の再起動]** を選択します。
3. **[はい]** をクリックして、再起動を確定します。イベントメッセージが生成され、電子メールが IT ネットワーク マネージャー（**[システム環境設定]** > **[システムアラーム]** で指定）に送信されます。

### viewLinc Device Host またはアクセス ポイントの再起動

1. **[サイト マネージャー]** で、**[ホストとデバイス]** タブを選択します。
2. **[ホストとデバイス]** ツリーで、デバイス ホストまたはアクセス ポイントを選択し、**[構成]** > **[Device Host/Access Point] の再起動** を選択します。システム全体のメッセージによって、すべてのログイン ユーザーに対して viewLinc が再起動されることが通知されます。



# 11. よくある質問 (FAQ)

このセクションでは、一般的な設定に関する質問に対する回答と、viewLinc、Vaisala デバイス、および vNet または Digi ネットワーク デバイスの一般的な問題を解決するための情報について説明します。また、viewLinc 管理者およびネットワーク サポートスタッフのための技術情報も含まれています。

## 11.1 viewLinc のインストール

**Q:** viewLinc では、viewLinc 5.0 で使用できるようにデータをどのようにアップグレードすればよいですか？

**A:** viewLinc では、自動的にデータが検出され変換されます。これは、viewLinc のインストール時に透過的に行われます。

**バージョン 3.6.1 から 5.0 へのアップグレード:**

1. ユーザーが旧バージョンで設定したゾーン構造に基づいて、新しい最上位ゾーンが作成されます。さらに、割り当てられていないゾーンに対して、「未割り当て」という最上位ゾーンが作成されます。
2. すべてのアクティブなチャンネルに対してロケーションが作成されます。ロケーション名は、チャンネルの優先説明(システム環境設定に応じて、割り当てられたエイリアスまたはデバイスの説明)からコピーされます。複数のゾーンに割り当てられた重複チャンネルは無視されます。
3. viewLinc の旧バージョンで制限付きのユーザーが構成されている場合は、以下の手順に従って、viewLinc 5.0 のアクセス許可が適用されます。
  - a. すべてのユーザーは、自動的に「**全員**」グループに割り当てられます。
  - b. 「**全員**」グループには、最上位ゾーンのロケーションのビューアクセス許可を継承することなく、最上位ゾーンのビューアクセス許可が割り当てられます。
  - c. ユーザーには、ゾーンに自動的に割り当てられた過去のアクセス許可レベルが付与されず。
  - d. 以前にチャンネルへのアクセス許可が付与されているユーザーには、リンクしたロケーションに自動的に割り当てられた過去のアクセス許可レベルが与えられます。
  - e. ユーザーは、過去のアクセス許可に従ってグループに割り当てられます。
  - f. フルコントロールのアクセス許可が付与されているユーザーは、自動的に既定の「**管理者**」グループに追加されます。
4. アクティブなチャンネルで設定されているしきい値は、リンクしたロケーションに適用されます。
5. レポートはアップグレードされ、新しいロケーション/ゾーンからデータが取得されるようになります。
6. POS ディスプレイはアップグレードされ、新しいロケーションからデータが取得されるようになります。

アップグレードの変更の詳細については、「アップグレード ユーザー向けの新規機能に関する情報」(5 ページ)を参照してください。

**Q:viewLinc のファイアウォールはどのように設定できますか？**

A:viewLinc では、ドメインおよびプライベートネットワークに例外が追加されます。パブリック ネットワークには例外は追加されません。これが必要な場合は、手動で追加する必要があります。ヘルプが必要な場合は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。

**Q:証明書エラーが表示されるのはなぜですか？これは削除できますか？**

A:viewLinc では、ネットワーク PC と viewLinc Enterprise Server 間の安全な接続を確立するために、証明書とセキュリティキーが使用されます。証明書を使用して、データが暗号化され、viewLinc Web サーバーが認証されます。お使いのシステムで自己署名セキュリティ証明書を使用している場合に、このエラーが発生することがあります。これを削除するには、ユーザーのブラウザーが証明書を信頼するように設定します。または、認証局から信頼できる証明書を購入することもできます。自己署名証明書を信頼できる証明書に置き換えると、自動的に証明書エラーが表示されなくなります。

**Q:セキュリティ証明書とキーファイルを更新するにはどうすればよいですか？**

A:viewLinc では、インストール中にアップロードまたは生成された証明書とキーファイルが viewLinc インストール ディレクトリに格納されます。ファイルは随時更新できます。

1. 新しいファイルを viewLinc Enterprise Server データ ディレクトリにコピーします (<data folder>%config%keys%)。
2. ファイル名が元のファイル名と異なる場合は、viewLinc.cfg ファイルを更新します (<data folder>%config%viewLinc.cfg):  
[web]  
privatekeyfile = <newname>.key  
certificatefile = <newname>.crt
3. viewLinc Web サーバーを再起動します(「viewLinc の再起動」(182 ページ)を参照してください)。

## 11.2 データの管理

**Q:viewLinc に関連付けられているすべてのファイルをバックアップしたいのですが、ファイルはどこにありますか？**

A:バックアップを完了する前に、すべての viewLinc サービスを停止することをお勧めします。次に、これらのフォルダーのファイルをバックアップします。

- 構成ファイル: **app\_data\_root%config%\*\***
- 履歴データファイル、リポジトリファイル、アップロードされた画像: **app\_data\_root%db%\*\***
- イベントログ: **app\_data\_root%log%\*\***

**Q:構成などのために USB ケーブルをデバイスに接続すると、viewLinc でのサンプリングはどうなりますか？**

A:デバイス (HMT140 など) に USB ケーブルを接続すると、サンプリングは中断します。USB ケーブルを取り外すと、サンプリングは再開します。ケーブルが取り外された時点でサンプル タイムスタンプが開始します。これは、前のサンプリングからの整数のサンプル レート秒数ではありません。運用には影響はないはずですが、USB ケーブルが長時間接続された場合は (送信レートの 2 倍以上)、履歴データの欠落を知らせる構成アラームが発生します。これは、サンプリングが再開されるとクリアされません。

**Q:**ファイルを使用してログ情報アップロードしても、アップロードが何度も失敗します。正常にアップロードが行われるようにするにはどうすればよいですか？

**A:**空白やコンマなどではなく、タブでパラメーターが区切られていることを確認してください。タブ区切り(.tsv形式)で入力されたパラメーター以外は機能しません。

## 11.3 デバイスの管理

### デバイスの設定

**Q:**定義ファイルを作成して、一度に複数の種類のデバイスを追加するにはどうすればよいですか？

**A:**デバイスクラスとデバイスプロパティを特定する.txtの定義ファイルを作成します(各フィールドをタブで区切ります)。

表17 定義ファイルフィールド

| デバイスの種類 | 定義するプロパティ   |
|---------|---|
| DL      | 以下の例のように、デバイスが接続されているCOMポート番号を定義します。<br>vcom com_port=101<br>vcom com_port=102<br>vcom com_port=103   |
| HMT330  | 以下を定義します。<br>sample_rate = デバイスの内部サンプルレート<br>timeout = 通信イベントのタイムアウト<br>connection = 接続の種類。COMポートまたはTCP<br>com_port = デバイスが接続されているCOMポート番号 (COMポート接続の値はユーザー定義)<br>serialno = お使いのデバイスのシリアル番号<br>udp_port = UDPポート番号<br>ip_port = TCPポート (TCP接続の値)。ip_address および ip_port はユーザー定義) |
|         | TCPとCOMポート接続の共通の値:<br>sample_rate = 10s 90s (既定)、12m、2h、2d、または 12d  |
|         | 任意指定のCOMポート接続用の値:<br>baud = 300、2400、4800、9600、19200 (既定)、57600、または 115200<br>stopbits = 1 (既定) または 2<br>databits = 7 または 8 (既定)<br>parity = 奇数、偶数、またはなし (既定)   |
| HMT140  | シリアル番号を定義 : hmt140 serial_number  |

**Q:**イーサネットデバイス (Digi、Moxa、または vNet デバイスなど)を使用して、Vaisala デバイスのIPアドレスを追加するにはどうすればよいですか？

**A:**それはできません。しかし、Vaisala デバイスにIPアドレスを割り当てることはできます。viewLincで

は COM ポートを使用して通信が行われるため、イーサネット/IP アドレスを使用して Vaisala デバイスをネットワークに接続するには、vNet などのイーサネット インターフェース デバイスを使用する必要があります。イーサネット インターフェース デバイスにより仮想 COM ポートが作成されるため、これによりイーサネット経由で Vaisala デバイスと viewLinc が通信できるようになります。

Vaisala デバイスでは動的 IP アドレスを使用しないことをお勧めします。その代わりに、予約済みまたは静的 IP アドレス (IT 部門から取得) を使用してください。IP アドレスは、ドライバー設定時にイーサネット インターフェース デバイスに割り当てられます。

vNet デバイスの使用方法の詳細については、[www.vaisala.com/products](http://www.vaisala.com/products) を参照してください。Digi デバイスの詳細については、[www.digi.com](http://www.digi.com) を参照してください。

#### Q: ワイヤレスまたはイーサネットを介して、300 シリーズ トランスミッタに接続するにはどうすればよいですか？

**A: 内部 LAN-1 モジュール (イーサネット):** これにより、標準の TCP/IP イーサネット ネットワークを介して、単一の PTU300\*、HMT330、DMT340、または MMT330 トランスミッタを viewLinc ホストコンピューターに接続することができます。LAN-1 モジュールはトランスミッタによって内部的に給電されます。

- **内部 WLAN-1 モジュール (802.11b/g Wi-Fi):** これにより、標準の 802.11b/g ワイヤレス ネットワークを介して、単一の PTU300\*、HMT330、DMT340、または MMT330 デバイスを viewLinc サーバーに接続することができます。WLAN-1 モジュールはトランスミッタによって内部的に給電されます。
- **単一ポートのイーサネット デバイス:** 標準の TCP/IP イーサネット ネットワークを介して、単一の PTU300、HMT330、DMT340、または MMT330 デバイスを viewLinc サーバーに接続することができます。viewLinc ホストコンピューターに、関連するデバイス ドライバーをインストールして、仮想 COM ポートを構成する必要があります。DB9 シリアル ケーブルで構成されたトランスミッタが必要です。イーサネット デバイスとトランスミッタの間に DB9 シリアル ケーブル接続が必要です。
- **複数ポートのイーサネット デバイス:** 標準の TCP/IP イーサネット ネットワークを介して、複数の PTU300、HMT330、DMT340、または MMT330 デバイスを viewLinc サーバーに接続することができます。viewLinc ホストコンピューターに、イーサネット デバイス ドライバーをインストールして、仮想 COM ポートを構成する必要があります。これにより、共通の TCP/IP ネットワーク インターフェース モジュールを介して、複数の PTU300、HMT330、DMT340、または MMT330 をホストコンピューターに接続することができます。DB9 シリアル ケーブルで構成されたトランスミッタが必要です。イーサネット デバイスと Vaisala トランスミッタの間に DB9 シリアル ケーブル接続が必要です。
- **単一ポートのネットワーク デバイス (802.11b/g Wi-Fi):** これにより、標準の 802.11b/g ワイヤレス ネットワークを介して、単一の PTU300、HMT330、DMT340、または MMT330 デバイスを viewLinc ホストコンピューターに接続することができます。viewLinc ホストコンピューターに、ネットワーク デバイス ドライバーをインストールして、仮想 COM ポートを構成する必要があります。DB9 シリアル ケーブルで構成されたトランスミッタが必要です。
- **複数ポートのネットワーク デバイス (802.11b/g Wi-Fi):** これにより、標準の 802.11b/g ワイヤレス ネットワークを介して、複数の PTU300、HMT330、DMT340、または MMT330 デバイスを viewLinc サーバーに接続することができます。viewLinc ホストコンピューターに、ネットワーク デバイス ドライバーをインストールして、仮想 COM ポートを構成する必要があります。これにより、共通の 802.11b/g ワイヤレス ネットワークを介して、複数の データ ロガーをホスト サーバーに接続することができます。DB9 シリアル ケーブルで構成されたトランスミッタが必要です。
- データ ロガー モジュールがインストールされていない場合は、PTU300 では WLAN-1 と LAN-1 モジュールしかサポートされません。

### vNet などのネットワーク デバイスに割り当てられた COM ポートの確認

1. Windows のコントロールパネルでデバイス マネージャーを開きます。
2. ポート(COM&LPT)を展開して、どの COM ポートがどのデバイスに接続されているかを確認します。既定では、vNet デバイスは「CDL-VNET-P-モデル名」という名称になっています。
3. 詳細については、デバイス マネージャーのマルチポートシリアルアダプターで、当該のデバイスを右クリックします。[プロパティ]>[詳細] タブの順に選択して、[プロパティ] をクリックします。左側には、デバイスに使用されている COM ポートのリストが表示されます。どのデバイスが viewLinc によって制御されているかを確認するには、[システム] タブを開きます。

## 11.4 事前定義済み設定

**Q:** viewLinc では、レポートの色はどのように選択されますか？

**A:** ロケーションのラインの色が「自動」に設定されている場合は、viewLinc では組み込みのカラーパレットにある次の未使用の色が割り当てられます。色は以下の順番で選択されます。

- a. 黒色 (0, 0, 0)
- b. 赤色 (255, 0, 0)
- c. 緑色 (0, 128, 0)
- d. オレンジ色 (255, 165, 0)
- e. 青色 (0, 0, 255)
- f. 黄色 (255, 255, 0)
- g. 紫色 (128, 0, 128)
- h. 茶色 (150, 75, 0)
- i. 灰色 (128, 128, 128)
- j. 栗色 (128, 0, 0)
- k. ライム色 (0, 255, 0)
- l. トマト色 (255, 99, 71)
- m. 空色 (30, 127, 255)
- n. 琥珀色 (255, 204, 0)
- o. ビザンチウム色 (112, 41, 99)
- p. 青銅色 (205, 127, 50)
- q. 銀色 (192, 192, 192)
- r. 深紅色 (220, 20, 60)
- s. 鮮緑色 (80, 200, 120)
- t. 珊瑚色 (255, 127, 80)
- u. 濃青色 (0, 191, 255)
- v. 淡褐色 (205, 178, 128)
- w. 濃紫色 (97, 64, 81)
- x. 淡黄色 (240, 220, 130)

**Q:** メールまたは SMS 通知テンプレートには、どのようなコンテンツ変数を追加できますか？

**A:** マクロを使用して、自動生成した内容をメールまたは SMS テンプレートに追加することができます。すべてのメール/SMS テンプレートですべてのマクロを使用できるわけではありません。

表18 メールおよび SMS の内容用のマクロ

| マクロ                          | 説明   |
|------------------------------|--|
| すべてのアラーム テンプレートで使用可能         |  |
| [AlarmMessage]               | 対応するアラームタイプ(しきい値、デバイス、またはシステム)に指定されている場合は、カスタムメッセージがメッセージの内容に含まれます。アラームメッセージが指定されていない場合は、マクロで内容は生成されません。       |
| [Comments]                   | 対応するアラームタイプ(しきい値、デバイス、またはシステム)に指定されている場合は、事前定義済みまたはカスタムコメントがメッセージの内容に含まれます。コメントの内容が指定されていない場合は、マクロで内容は生成されません。 |
| [Date]                       | アラームの日付。   |
| [Server]                     | viewLinc がインストールされているサーバー名   |
| [Time]                       | アラーム イベントの時刻。  |
| アラーム関連メッセージ                  |  |
| [AlarmObject]                | アラームがトリガーされた場所の説明(チャンネル、データロガー、ホスト)。   |
| [AlarmType]                  | アラーム、通信、またはしきい値のタイプ。   |
| [AlarmTimestamp]             | アラームの発生時刻。   |
| [AlarmDeactivationTimestamp] | アラームがオフになった時刻。   |
| アラームの受信確認メッセージ               |  |
| [Acknowledger]               | アラームを受信確認したユーザー。   |
| [AcknowledgerAction]         | アラームに応答して行ったアクション。   |
| [AcknowledgerComments]       | アラームの受信確認をしたユーザーが入力したコメント。   |
| [AcknowledgeTimestamp]       | アラームが受信確認された時刻。  |
| [AlarmID]                    | アラーム チケット ID(リモート受信確認で使用)  |
| しきい値アラーム                     |  |

| マクロ                        | 説明                                       |
|----------------------------|--|
| [AlarmValue]               | アラーム発生時のロケーション値。                         |
| [MinAlarmValue]            | アラーム期間中の最小ロケーションアラーム値。                   |
| [MaxAlarmValue]            | アラーム期間中の最大ロケーションアラーム値。                   |
| [CalibrationUrl]           | 校正サービス Web サイトアドレス。                      |
| [LocationValue]            | メール発行時のロケーションアラーム値。                      |
| [ThresholdCondition]       | しきい値状態のサマリー。                             |
| [LocationTimestamp]        | <b>デバイス通信アラーム</b>                        |
| [DeviceChannelsSummary]    | アラームイベントに関連付けられているすべてのデータロガーチャンネルの簡単な説明。 |
| [LocationSummary]          | アラーム状態のデータロガーチャンネルのリスト。                  |
| <b>ホスト通信アラーム</b>           |  |
| [DeviceHostDevicesSummary] | アラームイベントに関連付けられているホストのすべてのデータロガーの簡単な説明。  |
| [DeviceChannelsSummary]    | アラームイベントに関連付けられているすべてのデータロガーチャンネルの簡単な説明。 |

## 11.5 トラブルシューティングのヒント

**Q:**正しいユーザー名とパスワードを使用しているにもかかわらず、viewLinc にログインできないのはなぜですか？

**A:**viewLinc Enterprise Server サービスが稼働していることを確認してください。

viewLinc が稼働していないと、デスクトップディスプレイがブルースクリーンになって状態メッセージが表示されます。viewLinc Web サービスが稼働していないと、ブラウザーにエラーメッセージが表示されます。Windows のコントロールパネルで **[管理ツール | サービス]** を選択して、リスト中の「viewLinc Enterprise Server」を右クリックして **[開始]** を選択します。

- ドメイン名が変更されていませんか。Windows 認証を使用している場合は、ドメイン名が現在のログインパスワードと一致していることを確認してください。

**Q:ゾーンとロケーションが表示されないのはなぜですか？**

**A:**グループに viewLinc のゾーンとロケーションを表示する許可が付与されている場合にのみ、それらが表示されます。viewLinc 管理者により、ゾーンのグループアクセス許可が設定されます。[サイトマネージャー]、[サイト]、[アラーム]、または[イベント] ウィンドウでゾーンとロケーションが表示されるようにするには、ゾーンへのアクセス許可が必要です。

**Q:一部の viewLinc ナビゲーションパネル ウィンドウにアクセスできないのはなぜですか？**

**A:**viewLinc 管理者により、viewLinc の機能エリアに対するグループ権限が設定されます。別の viewLinc ウィンドウにアクセスするための追加権限が必要な場合は、管理者に連絡してください。

**Q:バッテリーが新品であるにもかかわらず、バッテリー残量低下を示すデバイス構成アラームが表示されるのはなぜですか？**

**A:**古いモデルの DL データロガーを使用している場合に、バッテリーに問題がなくても、バッテリー残量低下のアラームがトリガーされる場合があります。[イベント] ウィンドウでデバイス構成アラームに対応するイベントを検索して、イベントの詳細を確認してください。ヘルプが必要な場合は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。

**Q:viewLinc で通信アラームが発生しました。ネットワーク デバイスまたは Vaisala デバイスが応答停止したようです。どうすればよいですか？**

1. Vaisala データロガーとトランスミッタが接続されていること、およびバッテリーが低下していないことを確認してください。
2. ネットワーク デバイスに電源が入っており、電源供給装置がコンセントに接続されていることを確認してください。Digi または vNet ネットワーク デバイスでは、デバイス前面の電源ライトが赤色に点灯します。
3. 各デバイスがネットワークに接続されており、ネットワークと通信していることを確認してください。デバイスとの接続を試みてください(「ネットワーク通信のテスト」(182 ページ)を参照してください)。
4. デバイスとネットワークの通信が確立している場合は、Vaisala が提供しているケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ライトが赤色に点灯している場合は、ネットワーク デバイスかデバイス ケーブルに問題があります。デバイスが RealPort を使用するよう構成されていることを確認してください(<http://www.vaisala.com/en/lifescience> を参照してください)。それでも問題が解決しない場合は、ステップ 6 に進みます。
5. ライトが正常に機能しているにもかかわらず通信アラームが継続した場合は、viewLinc コンピューターで Windows のデバイス マネージャーを開いて、デバイスがインストールされていることを確認します。
  - a. Windows のコントロールパネルで、[システムとセキュリティ]>[管理ツール]>[コンピューターの管理]>[デバイス マネージャー] の順に選択します。
  - b. デバイス マネージャーのマルチポートシリアルアダプターのカテゴリで、同じ COM ポートを使用する重複ドライバーを探します。
6. ケーブルのライトが正常に機能していない場合は、vLog を開いて、ケーブルが Vaisala デバイスと通信できるかどうかを確認します。デバイスと vLog グラフアプリケーションとの通信に問題がある場合は、デバイスかデバイス ケーブルが正しく機能していない可能性があります。デバイスを新しい vNet または Digi ネットワーク デバイスに接続するか、または USB を使用してコンピューターに接続して、vLog からデバイスに接続できるかどうかを確認してください。



**Q:ストレージエリアを再構成している間、アラームを停止するにはどうすればよいですか？**

表19 アラーム管理のヒント

| 目的   | 機能      | 説明   |
|--|---------|--|
| 一時的にロケーションしきい値アラームを停止する。                   | 一時停止/再開 | ロケーションしきい値アラームは最大 24 時間停止することができます(24 時間後、しきい値アラームが自動的に再開します)。それ以上ロケーションしきい値アラームを一時停止する必要がある場合は、しきい値アラーム テンプレートを無効にします(テンプレートを使用するすべてのロケーションに影響します)。<br><b>サイト&gt;ゾーンとロケーション&gt;アラーム</b> |
| デバイスアラームを一時的に停止する。                         | 一時停止/再開 | デバイスアラームは最大 24 時間停止することができます(24 時間後、デバイスアラームが自動的に再開します)。デバイスとすべてのデバイスチャンネル(およびリンクしたロケーション)に影響します。<br><b>サイト&gt;ゾーンとロケーション&gt;アラーム</b>  |
| 一時的にホストアラームを停止する。                          | 一時停止/再開 | ホストアラームは一時的に最大 24 時間停止することができます(ホストアラームは24 時間後、自動的に再開します)。ホスト、ホストに接続されているすべてのデバイス、およびすべてのデバイスチャンネル(およびリンクしたロケーション)に影響します。<br><b>サイト&gt;ゾーンとロケーション&gt;アラーム</b>                            |
| 特定のロケーションまたはゾーンのすべてのしきい値アラームを 24 時間以上停止する。 | 無効化/有効化 | 選択したロケーションまたはゾーンのしきい値アラームを停止する。<br><b>サイト マネージャー&gt;しきい値アラーム設定&gt;編集</b>   |
| いくつかのロケーションのすべてのしきい値アラームを 24 時間以上停止する。     | 無効化/有効化 | 選択したしきい値アラーム テンプレートを使用して、すべてのロケーションのしきい値アラームを停止する。<br><b>アラーム テンプレート&gt;しきい値アラーム&gt;プロパティ</b>  |
| いくつかのロケーションの 1 つ以上のしきい値レベルを無視する。           | 無効化/有効化 | テンプレートを使用するすべてのロケーションにしきい値レベルが認識されないようにします。<br><b>アラーム テンプレート&gt;しきい値アラーム&gt;編集&gt;レベルの選択解除</b>  |

| 目的                    | 機能             | 説明   |
|-----------------------|----------------|--|
| しきい値アラーム テンプレートを削除する。 |                | しきい値アラーム テンプレートは削除できません。それが適用されているロケーションで非アクティブ化または無効化することができます。   |
|                       | 非アクティブ化/アクティブ化 | <b>サイト マネージャー &gt; しきい値アラーム設定</b><br>非アクティブ化されたしきい値アラーム設定は非表示となり、ロケーションは監視されません。設定が非アクティブ化されている間は、しきい値データはレポートには含まれません。  |
|                       | 無効化/有効化        | <b>サイト マネージャー &gt; しきい値アラーム設定</b><br>無効されたしきい値設定はロケーションに留まりますが、監視やレポートには使用されません。   |
| ロケーションの削除             | 非アクティブ化/アクティブ化 | <b>サイト マネージャー &gt; ゾーンとロケーション &gt; 管理</b><br>現在リンクしたロケーションまたは以前にリンクしたロケーションを削除することはできませんが、非表示にすることはできます(監査証跡目的のため)。削除できるのは、リンクされたことのないロケーション(データ記録に使用)のみです([管理] > [削除])。 |
| ホストまたはデバイスを削除する。      | 非アクティブ化/アクティブ化 | <b>サイト マネージャー &gt; ゾーンとロケーション &gt; ホストとデバイス</b><br>デバイスでは引き続き viewLinc にデータが記録されますが、viewLinc UI では非表示となります(監査証跡目的のため、デバイスを削除することはできません)。                                 |

**Q:セキュリティ証明書が失効しました。それでも viewLinc を実行できますか？**

**A:**はい。証明書またはキー ファイルが移動したり期限切れとなったりしても、viewLinc 5.0 は引き続き実行可能です。自己署名証明書を更新するには、新しい証明書を手動で作成する必要があります。ヘルプが必要な場合は、Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。



サーバーにアクセスするために使用している URL が「<https://viewLinc.mycompany.com/>」である場合は、ファイル名は「viewLinc.mycompany.com.key」および「viewLinc.mycompany.com.crt」でなければなりません。

# 用語集

## A

### ANSI 文字

サポートされているすべてのヨーロッパの言語のキーボード文字。<https://www.w3schools.com>を参照。

## E

### Enterprise Server

Vaisala viewLinc 監視システム ソフトウェアが必要。

## I

### IQOQ

据付時適格性評価 / 運転時適格性評価プロトコルに関する文書。システム検証時に使用する。

### IT ネットワーク マネージャー

接続されているすべてのソフトウェアやハードウェアも含めたネットワーク管理責任者。

## M

### MKT 活性化エネルギー

平均動態温度 (MKT)

## P

### PIN

個人識別番号

### PoE

Power over Ethernet。1本のケーブルでワイヤレス アクセス ポイントなどのデバイスにデータと電力の両方を供給する。PoE のメリットは長いケーブルと近くに電源コンセントが必要ないこと。

## R

### RFL

VaiNet 無線周波数データロガー。

### ROC (変更レート)

変更レート。1分以内の変動値。例えば、冷蔵庫のドアを開いた後に冷蔵庫の温度が上昇する速度を知りたい場合に使用する。

## T

### TLS(SSL)

トランスポート層セキュリティ(前身:セキュアソケットレイヤー)。ネットワーク サーバーとWebブラウザ間の通信を保護するために使用される通信プロトコル。

## V

### VaiNet デバイス

LoRa 技術を採用した Vaisala の無線通信デバイス。

### vLog

DL データ ロガーと一緒に出荷された構成ソフトウェア (viewLinc 5 のリリース前)。

## あ

### アクセス許可

特定のロケーションとゾーンを表示、設定、管理できるグループのアクセスレベル。

### アクセス ポイント (AP)

ネットワークの有線と無線部分間の通信を可能にするホスト デバイス。アクセス ポイントは通常、特定のネットワーク規格を使用する。「ゲートウェイ」とも呼ばれる。RFL100 シリーズのデータロガーを viewLinc に接続するために必要。

### アラーム イベント

アラーム状態の記録。

### アラーム ウィンドウ

アクティブなアラームの監視に使用されるウィンドウ。

### アラーム オフ マージン

「デッドバンド」とも呼ばれる。状態の逸脱がこの設定マージン内の場合には、アクティブなアラームはオフにならない。

### アラーム 状態

アラーム イベントを始動させる環境状態。

### アラーム 通知 テンプレート

通知先相手、通知時期、通知方法を定義する。しきい値テンプレートを使用してロケーションに適用したり、デバイス アラーム テンプレートを使用してデバイスに割り当てることも可能。

### アラーム テンプレート ウィンドウ

しきい値、デバイス、通知アラーム テンプレートの作成、メールとSMSアラーム メッセージの内容の定義、およびスケジュールの作成に使用されるウィンドウ。

### アラーム テンプレートの管理

グループに割り当てられた、アラーム テンプレート(しきい値、デバイス、通知、メールおよびSMS)を構成できる権限。

#### アラームの構成 アクセス許可

グループがロケーションを表示したり、ロケーションアラームを受信確認したり、ロケーションしきい値アラームを追加または変更したりできるアクセス許可レベル。

#### アラームの受信確認 アクセス許可

グループがロケーションを表示したり、ロケーションアラームを受信確認したりできるアクセス許可レベル。

### い

#### 逸脱

ロケーションの状態が指定されたしきい値限界を超えたか、外れた状態。

#### イベントウィンドウ

すべてのシステムアクティビティの記録に使用されるウィンドウ。イベントに関するコメントの追加、特定のイベント期間におけるレポートの生成などの機能がある。

#### イベントの管理

グループに割り当てられた、カスタム イベントの追加、イベントへのコメントの追加、イベント詳細の印刷とエクスポートが行える権限。

### お

#### 親

サブゾーンやロケーションを含むゾーン

### か

#### 概要 ウィンドウ

ユーザー定義のビューと共有ビュー、ゾーンとロケーションの特定の集合体の表示に使用されるウィンドウ。ログイン時に自動的に開く既定のビューを設定し、ビュー固有のレポートとトレンドを生成する。

#### 監査証跡

デバイスまたは viewLinc システムに加えたすべての変更の継続的な記録。viewLinc 監査証跡はイベントログに記録される。

#### 管理者グループ

管理者グループのメンバーには、すべての権限に加えて、以下を実行できるシステムレベルの追加権限がある。DL データロガーのリモートロックの解除、viewLinc の再起動、ネットワーク通信のテスト、非アクティブなアラームの受信確認、システムアラームの受信確認、セキュリティ状態の訂正、管理者グループへのユーザーの追加、管理者グループのユーザープロフィールの編集。

### け

#### 継承

アクセス許可レベルを自動的に最上位フォルダーからそのサブゾーンやロケーションに付与すること。

## 権限

権限により、グループが viewLinc ウィンドウおよび追加のウィンドウ機能にアクセスできる。すべてのユーザーに、[概要] ウィンドウ、[サイト] ウィンドウ、[レポート] ウィンドウ、[アラーム] ウィンドウ、[ビュー マネージャー] ウィンドウ、および [イベント] ウィンドウにアクセスできる「ビューの管理」権限が付与される。これらのウィンドウのゾーンとロケーションにおける機能を表示して実行できるように、グループにアクセス許可を与える必要がある。

## 検証アラーム

データ収集に関する問題が検出されたときに送られる通知。

## こ

## 子

ゾーンの中にあるロケーションまたはゾーンの中にあるサブゾーン。

## 校正

測定装置の読み取り値をチェックして補正するプロセス。

## 構成アラーム

内部システムエラーの通知。

## さ

## サイト

ゾーンやロケーションの集合を指す用語。

## サイト ウィンドウ

グループが表示できるゾーンとロケーションの表示に使用されるウィンドウ。アラームの一時停止、クイックレポートの生成、ダッシュボードでの状態のモニタリング、トレンドの構築などの機能がある。

## サイトの管理

グループに割り当てられた、ゾーンやロケーションの追加または変更、しきい値アラーム、アクセス許可、スケジュールの追加が行える権限。

## サイト マネージャー ウィンドウ

ゾーン、ロケーション、デバイス、ホストの管理に使用されるウィンドウ。ホストとデバイスの管理、ゾーンとロケーションの作成、アクセス許可の構成、ロケーションしきい値と通知の設定、ダッシュボード画像の読み込みなどの機能がある。

## サンプリングレート

経時的に記録したサンプルの頻度。

## サンプル

1つの記録済み/タイムスタンプ付きのデータロガー測定値。

## し

## しきい値

これを超えるとしきい値アラームが始動するレベル。

## しきい値アラーム

しきい値レベルを超えたことを知らせる通知。

## システムアラーム

viewLincが、標準のviewLinc操作以外の変更が加えられた(データベース改ざんの可能性など)ことを検出したときに出す通知。

## システムの管理

グループに割り当てられた、すべてのシステム環境設定の構成、ユーザーとグループの追加、スケジュールおよび事前定義済みコメントの追加が行える権限。

## システム環境設定 ウィンドウ

システム言語などのグローバル設定、リモート受信確認の有効化、音声アラームの設定、スケジュールの使用の有効化、デバイスの既定設定、およびコメントの有効化に使用されるウィンドウ。

## 受信確認

アラームイベントに対するユーザーの応答。

## そ

### ゾーン

監視対象のロケーションの集合。ゾーンはサブゾーンに分割できる。

## た

### ダッシュボード

監視下にある実際の空間を視覚的に参照できる画像ファイル。

## ち

### チャンネル

デバイス データ送信パス。1つのデバイスに複数のチャンネルを持たせることができる。

## つ

### 通信アラーム

データの転送に問題があることを知らせる通知。

## て

### デッドバンド

アラームオフ マージン。状態の逸脱がこの設定マージン内の場合には、アクティブなアラームはオフにならない。

### デバイス

ネットワークに接続されたデータ収集ハードウェア(データロガー、トランスミッタ)。

### デバイスの管理

グループに割り当てられた、デバイスの追加と削除、構成、デバイス設定の編集が行える権限。

## デバイス ホスト

viewLinc デバイス ホストソフトウェアを実行する追加サーバー。接続済みデバイスの管理が簡単になり、ネットワークの安定性が増加する。

## と

### ドリフト

データロガーの時刻が viewLinc のサーバーの時刻から徐々に外れて行く状況。

## ひ

### ビュー

ユーザーまたはグループ固有のロケーションの集合。これは [ビュー マネージャー] で作成し、[概要] ウィンドウで使用できる。

### ビューのアクセス許可

グループが持つアクセス許可レベルの 1 つ。ロケーションの表示、ロケーションアラームの受信確認、ロケーションしきい値アラームの構成、ゾーンおよびロケーションの変更または削除ができる。

### ビューの管理

新しいビューの作成、ゾーンの追加、ゾーン名の変更、ゾーンへのアクセス許可の定義、ダッシュボード画像の追加、トレンドの共有と管理を行う権限をグループに割り当てる。

## ふ

### フルコントロール アクセス許可

グループが持つアクセス許可レベルの 1 つ。ロケーションの表示、ロケーションアラームの受信確認、ロケーションしきい値アラームの構成、ゾーンおよびロケーションの変更または削除ができる。

## ま

### マクロ

カスタムメールと SMS 内容テンプレートに追加できる事前定義済みのテキスト文字列。

## め

### メモリフルで上書き

この設定により、最大容量に達したら古い記録を新しい履歴で上書きすることで、デバイスがデータを記録し続けることができる。データ記録の中断なし。

## り

### リアルタイム データ

viewLinc は、設定されたデバイスのサンブルレート (通常は 10 秒間隔) よりも頻繁に、デバイスからリアルタイムのデータを収集する。



## れ

### レポート ウィンドウ

レポートの生成・作成、およびユーザー生成レポートと共有レポートのダウンロードに使用されるウィンドウ。

### レポートの管理

グループに割り当てられた、他のユーザーが作成したレポートを追加、構成できる権限(すべてのユーザーは自分のレポートを追加、編集、削除が可能)。

### レポートの所有者

レポートを作成した個人。

### 連続監視

環境監視の連続記録。

## ろ

### ロケーション

Vaisala viewLinc 監視システムの一環として、冷凍庫や保管棚のようにデバイス チャンネルに接続されている viewLinc データ収集ポイント。

### ロケーションアラーム

しきい値レベルを超えたか、データ収集時に通信問題が発生したことを知らせる通知。

# 索引

[

[アラーム] ウィンドウ  
アラームの受信確認 129  
現在のアラームデータの印刷 124

[概要] ウィンドウ 111  
アラームの一時停止 131-132  
アラームの受信確認 130  
アラームを再開 133  
ビューの追加 109  
概要 110  
既定のビュー 111  
現在のアラームデータの印刷 124

[管理者] グループ  
システム権限 55

[サイト マネージャー] ウィンドウ  
しきい値アラーム設定 66  
スケジュール 108  
デバイス アラーム設定 75  
ホストとデバイス 29  
概要 43

[サイト] ウィンドウ  
アラームの一時停止 131-132  
アラームの監視 119  
アラームの再開 133  
アラームの受信確認 129  
クイックレポートの生成 145  
現在のアラームデータの印刷 124

[レポート] ウィンドウ 144

[

「アラームの構成」アクセス許可 103  
「アラームの受信確認」アクセス許可 103

1

140 シリーズ Wi-Fi データ ロガー  
タイムアウト 40  
送信期間 40  
追加 31

3

300 シリーズ トランスミッタ  
エイリアス 39  
サンプルレート 39  
タイムアウト 39  
追加 30

C

COM ポート  
見る 187

D

Digi デバイス  
トラブルシューティング 185  
DL データ ロガー  
ウォームアップ時間 39  
サンプル間隔 39  
検出 31  
追加 32  
DL データ ロガーのロック/ロック解除 179

E

eラーニング 15  
Enterprise Server  
セキュリティ証明書 23  
概要 1  
Excel レポート 150, 154, 156

G

GxP 対応 90

## H

- HMP110 プロローブ
- HMT140シリーズ Wi-Fi データロガー
  - プロパティ 41
- HMT140シリーズ Wi-Fi データロガー
  - viewLinc でのサンプリング 184
  - タイムアウト 40
  - ビーコン毎の最大ブロック数 40
  - 送信期間 40
  - 追加 31

## I

- IMAP 97
- iphone 1
- IT ネットワーク管理者 98

## M

- MKT 活性化エネルギー
  - 値の設定 90

## P

- PC 要件 3
- PDF レポート 150, 154, 156
- PIN
  - モデムの SIM カード 97
  - ユーザー 58
- POP3 97
- POS 113

## R

- RFL100シリーズ データロガー
  - LED 設定 39
  - アクセス ポイントから解放 175
  - プロパティ 39
  - 追加 31
  - 表示パネル設定 39

## S

- SIM カード PIN 97
- SMS
  - SIM カード PIN 97
  - メッセージの内容 84
  - メッセージ内容 83
  - モデム設定 96-97
  - 通知設定 97
- SMS通知テンプレート 79
- SMTP 設定 96

## T

- TLS (SSL)
  - セキュリティ 17

## U

- UDP ポート 37
- UDPポート 38

## V

- Vaisala デバイス
  - RFL/HMT140 データロガーの受理 31
  - 検出 30
  - 設定 9
  - 追加 30, 32
- viewing
  - COM ポート 187
- viewLinc
  - Enterprise Server、概要 1
  - SMTP 96
  - インストールのオプション 10
  - エンド ユーザー PC 要件 3
  - サーバー要件 2
  - サポート対象の Internet ブラウザー 1
  - セキュリティオプション 93
  - ツアー 9
  - デスクトップ オリエンテーション 115
  - デバイス ホスト、概要 1
  - デバイス ホスト要件 2

## 索引

- デバイスの接続 9
- バックアップ 186
- リモートディスプレイ 112-113
- ログイン 25
- 概要 1
- 計画ワークシート 19
- 構成 18
- 再起動 182
- 新機能 4-5
- 新規機能 4
- 前のバージョンからのアップグレード 24
- viewLinc での vLog 機能 179
- viewLinc について 9
- viewLinc の停止 182
- viewLinc Aware 92
- viewLinc Mobile
  - アラームの一時停止/再開 158
  - アラームの受信確認 159
  - 概要 112, 114
- vNet デバイス
  - viewLinc Aware サービス 92
  - インストール 10, 12
  - トラブルシューティング 185
- あ
- アクセス
  - ビューに 111
  - ロケーションに 104
- アクセス許可 103, **関連項目**: アクセスコントロール
  - アップグレード 103
  - ユーザー、レガシー 6
  - ロケーションに割り当て 104
  - 概要 102
  - 継承した 104
  - 定義 103
- アクセス許可ビューア 105
- アクセスコントロール 参照: アクセス許可
- アクセスポイント
  - デバイスの解放 175
  - 構成アラーム 62
  - 再起動 182
  - 追加 30
  - 通信アラーム 62
- アクティブなアラーム、表示 122
- アップグレード
  - インストール 24
  - 以前のバージョンから異なる 103
  - 以前のバージョンとの違い 5
- アラーム
  - [サイト] ウィンドウで表示 116
  - [概要] ウィンドウで表示 116
  - アラームを再開 133
  - しきい値 61, 63, 68
  - しきい値アラーム設定の編集 68
  - システム 97
  - デバイス 69
  - デバイス アラームを無効にする 171
  - デバイス アラーム設定の編集 77
  - バッテリー残量低下 190
  - ホスト 63
  - メールと SMS メッセージ内容 62
  - リモート受信確認 88
  - レポート 124
  - 一時停止 130-132
  - 音声 59, 78, 89, 130
  - 概要 62
  - 監視 119-121
  - 検証 71
  - 校正 71, 91
  - 構成 62, 72
  - 識別 122
  - 受信確認 126
  - 通信 70-71, 190
  - 非アクティブ 120
  - 非アクティブ化/再アクティブ化 68
  - 複数通知 78
  - 無効化/有効化 171-173
  - 有効化/無効化 172

- アラーム ウィンドウ
  - アラームの監視 120
- アラーム オフ マージン 65
- アラーム 受信 確認
  - リモート 受信 確認 88
- アラーム 状態の 識別 方法 121
- アラーム 通知
  - sms 122
  - アプリケーション または デバイスの 起動 122
  - コマンド 122
  - スケジュール 106
  - メール 122
  - 音声 78, 89
  - 受信 125
- アラーム 通知 テンプレート
  - システム アラーム への 追加 97
  - デバイス アラーム に 追加 82
  - ロケーション しきい 値 アラーム に 追加 81
  - 概要 62, 78
  - 作成 79
  - 編集 83
- アラーム テンプレート
  - アラーム 通知 78-79
  - しきい 値 アラーム 63
  - スケジュール 106
  - デバイス アラーム 73, 77
  - メール と SMS の 内容 83
  - 概要 61
- アラーム の 再開 133
- アラーム の 受信 確認
  - viewLinc Mobile!にて 159
  - システム アラーム 120, 127-128
  - 概要 126
  - 通知 の 受信 125
  - 非アクティブ な アラーム 120, 129
- アラーム の タイプ 62
- アラーム の リモート 受信 確認 88
- アラーム への 応答 126
- アラーム への 対応 130
- アラーム レポート
  - 現在の データ の 印刷 124
  - 作成 148, 153
  - 非アクティブ化/再アクティブ化 147
- アンドロイド 1
- い
- イーサネット インターフェース
  - viewLinc の インストール 方法 12
  - トラブルシューティング 185
- 一時 停止/再開
  - アラーム 130
  - しきい 値 アラーム 131
  - デバイス または ホスト アラーム 132
- 移動
  - ロケーション または ゾーン 169
- イベント ウィンドウ
  - イベント ログ の 表示 134
  - カスタム イベント の 追加 136
  - コメント の 追加 135
  - 印刷/エクスポート 136
  - 概要 134
- イベント ログ 検証 アラーム 63
- 色
  - レポート 用に 選択 152
  - 既定 の バレット 187
- 印刷
  - [ロケーション] アラーム 148
  - イベント ログ 136
  - カスタム レポート 148
  - クイック レポート 145-146
  - システム レポート 155
  - レポート 144, 146
  - ロケーション 履歴 レポート 149
  - 現在の アラーム データ 124
- インストール
  - viewLinc Enterprise Server ソフトウェア 22
  - viewLinc の アップグレード 24
  - vNet デバイス 12
  - デバイス ホスト 23
  - デバイス ホスト ソフトウェア 23
- インストール、システム テスト 26

## 索引

インターネットブラウザ、対応バージョン 1

## う

ウォームアップ時間  
DL データロガー 39

## え

エイリアス  
チャンネル用 41  
デバイス向け 38-39  
使用 87, 91  
エクスポート  
[ロケーション]アラームレポート 148  
アラーム データ、現在 124  
イベントログ 136

エスカレーションパス 79

エラー  
証明書 184

## お

オフサイト校正 178  
オフにする 130  
音声アラーム 130  
オリエンテーション  
viewLinc デスクトップ 115  
オンサイト校正 179  
音声アラーム 78, 130  
ユーザー向け 59  
応答 130  
有効化/無効化 89  
音声アラームのサウンド 89  
温度  
測定単位の設定 90

## か

カスタム  
イベント 136  
メールとSMSテンプレート 83  
レポート 148, 153

## カラム

追加/削除 118  
非表示 118  
カラムの追加/削除 118  
監査証跡 134  
監視  
アラーム 119-121  
イベント 134  
管理  
グループとユーザー 55  
サイト 43  
ホストとデバイス 29  
管理者グループ  
権限 56

## き

黄色のハイライトバー、表示されない 49  
技術サポートログ 94  
既定のアプリケーションファイルの場所 3  
既定のビュー 111  
共有  
ビュー 111  
レポート 145

## く

クイックレポート 145-146  
生成 146  
クリア  
DLデータロガー履歴 181  
履歴サンプル 180  
グループ  
ビューへのアクセス 111  
ロケーションとゾーンへのアクセス 104  
権限 55  
作成 57  
非アクティブ化または再アクティブ化 162

## け

継承したアクセス許可 103-104

## 権限

- [管理者]グループ 55
- グループへの割り当て 55
- ユーザー、レガシー 5, 7, 56
- 定義 56

## 言語

- viewLinc でサポートされている 95
- ユーザーの設定 58
- レポート内 145
- 画面上 26

## 検索 117

- ダッシュボード ロケーション 124
- リンクしたロケーション 49
- 割り当てられたアクセス許可 105
- 検索ツール 117

## 検出

- デバイス 30-31, 33

## 検証アラーム 62-63, 71

- 通知設定 98

## こ

## 校正

- アラーム 71, 91
- オフサイトサービスの要請 178
- オンサイトサービスの依頼 179
- チャンネル設定の編集 177
- デバイス設定の編集 178
- 概要 177
- 期間、設定 178

## 構成

- viewLinc 18-19
- デバイス 34

## 校正アラーム 62

## 構成アラーム

- デバイスまたはホスト 70
- ホストの設定 72

## コピー

- アラーム通知テンプレート 79
- しきい値アラームテンプレート 64
- しきい値アラーム設定 67

## デバイスアラームテンプレート 73

## コマンド通知

- 追加 79

## コメント

- イベントログで表示 134
- イベントへの追加 135
- レポートへの追加 153-154
- 概要 99
- 事前定義 99

## さ

## サーバー

- 名前 37
- 要件 2

## 再アクティブ化/非アクティブ化

- グループ 162
- しきい値アラーム 68
- デバイス/ホスト 174
- ユーザー 162
- ロケーション 170

## 再起動 182

## サイト

- 概要 44
- サイトウィンドウ 139
- トレンドの作成 143

## サイト マップ

- ダッシュボード 50
- サイト マネージャー ウィンドウ
- アクセス許可 104
- ゾーンとロケーション 44

- ダッシュボード 50

- デバイス アラーム設定 69

## 削除

- ゾーン 166, 169-170
- ゾーンまたはロケーションのアクセス許可 104
- ダッシュボード画像またはデータポイント 54
- デバイス 173
- ユーザー 161
- レポート 147
- ロケーション 169-170
- ロケーションまたはゾーン 169

## 索引

- 単位 96
- 作成 110
  - アラームレポート 153
  - アラーム通知テンプレート 79
  - グループ 57
  - サブゾーン 45
  - しきい値アラーム テンプレート 66
  - スケジュール 89
  - ゾーン 44-45
  - ダッシュボード 50-51
  - デバイス アラームテンプレート 73
  - トレンド 139
  - ビュー 109-111
  - メールとSMSテンプレート 83
  - ユーザープロフィール 58
  - レポート 146, 148
  - ロケーション 45
- サブゾーン 45
- サポートされている言語 94
- サポート情報 15
- サポートのご利用
  - テクニカル サポート 15
- サンプル間隔 39
- サンプルレート 40
- し
- 時間の同期 92
- しきい値アラーム
  - スケジュール 108
  - 一時停止 130-131
  - 一時的に無効化 171-172
  - 概要 63
  - 状態の特定 121
  - 非アクティブ化/再アクティブ化 68
- しきい値アラーム設定
  - コピー 67
- しきい値アラームテンプレート
  - アラームオフマージン 65
  - ロケーションへの適用 66
  - 概要 61
  - 作成 64
  - 通知テンプレートの追加 81
  - 編集 67
- しきい値、読み取り値 139
- システム
  - ITネットワーク管理者、通知 96
  - SMSモデム 97
  - インストールテスト 26
- システムアラーム
  - プリファレンス 97
  - 概要 63
  - 受信確認 128
- システムレポート
  - 作成 148, 155
  - 生成 144
  - 非アクティブ化/再アクティブ化 147
- システム環境設定
  - viewLinc Aware サービス 92
  - コメント 99
  - スケジュール 106
  - セッション有効期限 93
  - メール/SMS設定 96
  - ライセンスキー 93
  - リモートアラーム受信確認 88
  - 温度単位 90
  - 言語 94
  - 単位 95
- 事前定義済みコメント 99
- 手動でのデバイスの追加 32
- 小数点以下桁数 163
- 状態
  - 識別 121-122
- 証明書
  - インストール方法 23
  - エラーの修正 184
  - セキュリティ 17
- 署名
  - レポートに追加 153-154
- シリアルポート 13
- シリーズ 11



新規機能 4-5

## す

スキャン後に切断する 39

スケーリング 141

スケジュール

ユーザーに適用 109

レポート生成 150, 154, 156

ロケーションに適用 108

作成 106

有効化 89

## せ

生成済みレポートの入手可能性 146

整理

ビュー 110

セキュア SMTP 96

セキュリティ

自己署名証明書または信頼できる証明書  
184

証明書 17, 23

証明書エラー 184

セキュリティキー 参照: ライセンス キー

セキュリティ状態の修正 181

セキュリティ状態、DL データロガー 181

摂氏または華氏 90

セッション有効期限 93

接続タイプ

IMAP 97

POP3 97

設定

SMS モデム 97

スケジュール 106

チャネル校正プロパティ 177

デバイス 9, 31, 33

デバイス校正プロパティ 178

メール サーバー 96

リモート ディスプレイ 113

リモート受信確認 126

ロケーションとゾーン 43

既定のビュー、[概要] ウィンドウ 111

計画ワークシート 19

構成手順 18

設定チェックリスト 17

セットアップ

デバイス 31-32

選択

既定のビュー 111

## そ

送信間隔 40

ゾーン

アクセス許可 102

アクセス許可の割り当て 104

しきい値アラームの一時停止/再開 131

ダッシュボード 50

データの表示 43

デバイス アラーム 69

ロケーションの移動 168

ロケーションの追加 45

概要 43-44

検索 117

削除 169

設定 43-44

追加 45

名前変更 165

測定単位

温度 90

表示 95

## た

対応しているデバイス 2

対応しているブラウザ 2

タイムアウト期間 38, 93

300 シリーズ トランスミッタ 39

HMT140 Wi-Fi データロガー 40

ダッシュボード

データポイントの削除 54

データポイントの追加 51

データ表示の変更 52

## 索引

- トレンドの表示 124
- フォントの変更 52
- リンクしたロケーションの検索 124
- 画像の削除 54
- 画像の追加 51
- 概要 50, 123
- ダッシュボード上の項目
  - トレンドの表示 124
  - リンクしたロケーション 124
  - 表示オプション 52
- ダッシュボード上のロケーションデータ 123
- ダッシュボード用の画像要件 51
- 単位
  - プリファレンス 95
  - 削除 96
  - 追加または変更 95

## ち

- チェックリスト
  - サイト準備用 17
- 遅延、アラーム通知 79
- チャンネル
  - エイリアス 87, 91
  - リンクしたロケーションの検索 49
  - リンク履歴の表示 48
  - ロケーションにリンク 47, 165
  - ロケーションのリンク解除/再リンク 47, 166
  - ロケーションへのリンク 47, 166, 168
  - 説明 41
  - 単位表示 95
  - 命名 48
  - 有効/無効 39
- チャンネルとロケーションのリンク/リンク解除 46-47, 165
- チャンネルの再リンク/リンク解除 166
- チャンネルのリンク解除/再リンク 165-166
- 調整
  - ダッシュボードレイアウト 52
  - トレンドのスケール値 141

## つ

- ツアー 9
- 追加
  - 140シリーズ データ ロガー 31
  - 300シリーズトランスミッタ 30
  - DL データ ロガー 32
  - RFL データ ロガー 31
  - アクセス ポイント ホスト 30
  - アクセス許可 104
  - イベントへのコメント 135
  - カスタム イベント 136
  - グループ 57
  - コメント 99
  - サブゾーン 45
  - スケジュール 89, 106
  - セキュリティ証明書 23
  - ゾーン 45
- ダッシュボード画像 51
- デバイス 29-33
- デバイス ホスト サーバー 29
- ビュー 109
- ホスト 29
- ユーザー 58
- レポート 148
- レポートにコメント 153-154
- レポートに署名 153-154
- ロケーション 45, 168
- ロケーションに対するしきい値 64
- 単位 95
- 複数デバイス 33

## 通信

- ネットワークテスト 182

## 通信アラーム

- デバイスまたはホスト 70
- トラブルシューティング 190
- ホストの設定 71
- 一時停止 130
- 無効化/有効化 173

## 通知

SMS設定 84,97

コマンド 122

スケジュール 106

メール設定 84,96

メッセージ内容 83

音声 89

概要 122

## 通知テンプレート

ロケーション デバイス アラーム設定に適用  
82

ロケーションしきい値アラーム設定に追加 81

通知の受信 125

ツールバーアイコン 116

## て

定義 103

定義ファイル 33

定義ファイルのアップロード 33

## データ

履歴のクリア 180

データトレンド 139

## データロガー

viewLincで構成 38

セキュリティ状態の修正 181

タイムベース同期 92

チャンネルプロパティ 41

デバイスアラーム 69,77

切り替え 175

接続 10

設定 9

説明とエイリアス 38

対応 2

追加 29

履歴のクリア 181

データベース検証アラーム 63

## 適用

アラームしきい値への通知テンプレート 81

ロケーションへのしきい値アラームテンプレ  
ート 66

テクニカル サポート 15

## テスト

システム インストール 26

ネットワーク通信 182

## デバイス

APホストの追加 29

PCホストの追加 30

RFL データロガー 31,175

アラーム 69

アラーム テンプレート 73

アラームの再開 133

アラーム設定 77

インストール 10

エイリアス 87,91

サポートされた 2

セキュリティ状態の修正 181

チャンネルプロパティ 41

チャンネル校正プロパティ 177

データロガーまたはトランスミッタの追加 30,  
32-33デバイスまたはホスト アラームの一時停止  
132

プロパティ 34

ライセンス キーの要件 93

ロック/ロック解除 179

ワイヤレス デバイスの受理 31

解放 175

管理 29

拒否 32

検出 31,33

検証アラーム 62

交換 175

校正 178-179

校正アラーム 62,71,91

校正プロパティ 177-178

校正期間 178

構成 34

構成アラーム 70

削除 173

小数点以下桁数 163

## 索引

- 切り替え 175
- 接続 9
- 通信アラーム 63
- 定義ファイル 33
- 非アクティブ化/再アクティブ化 174
- 編集 38
- 履歴のクリア 181
- デバイス アラーム
  - デバイス アラーム テンプレート 73, 75
  - 概要 61, 69
  - 構成 70, 72
  - 通信 70-71
  - 通知テンプレートの適用 82
  - 有効化/無効化 171-172
- デバイス アラーム テンプレート
  - 作成 73, 77
  - 適用 75
  - 編集 77
- デバイスの切り替え 175
- デバイスのスワップ(交換) 175
- デバイスのセキュリティ状態の修正
  - DL データ ロガー 181
- デバイス ホスト
  - アラームの一時停止 132
  - アラームの種類 70
  - アラームを再開 133
  - 追加 29
- デバイス ホストソフトウェア 1, 22
- テンプレート
  - アラーム通知 78
  - しきい値アラーム 61, 64, 67
  - スケジュール 106
- デバイス アラーム 61, 69, 75, 77
- メールとSMS 62
- メールとSMS 83
- 事前定義済みコメント 99
- 編集 83

## と

- 同期
  - ロガータイムベース 92
- ドライバー
  - USB ケーブル 13
- ドラッグ & ドロップ
  - ダッシュボードにロケーションを追加 51
  - トレンド作成方法 139
  - ロケーションのリンク方法 47
- トラブルシューティング 183
- トランスミッタ
  - 設定 9
  - 追加 29
- トレーニング 15
- トレンド
  - ダッシュボードで表示 124
  - ナビゲーション 140
  - 概要 137
  - 期間 141
  - 機能 140
  - 作成 139
  - 修正 141
  - 設定 141
  - 表示 137
  - 保存 142
- トレンド作成 139
- トレンドのグラフ作成 139
- トレンドの最小/最大統計 141
- トレンドの保存 142

## ね

- ネットワークトラフィック、負荷の分散 29
- ネットワークのテスト 182

## は

- はじめに
  - 設定チェックリスト 17
- 始める前に
  - アップグレード 5

概要 1, 116  
計画ワークシート 19  
新規機能 4  
パスワード  
  デバイス 38  
  ユーザー 161  
バックアップ 185  
バッテリー低下の警告 190

ひ

非アクティブ化対象を表示/非表示  
  グループ 162  
  デバイス/ホスト 174  
  ユーザー 162  
  ロケーション/ゾーン 170  
非アクティブ化を表示/非表示  
  しきい値アラーム設定 69  
非アクティブ化/再アクティブ化  
  グループ 162  
  しきい値アラーム設定 68  
  ゾーン 169  
  デバイス/ホスト 174  
  ユーザー 161  
  レポート 147  
  ロケーション 169  
非アクティブなアラーム  
  受信確認 129  
非表示/表示  
  カラム 118  
  非アクティブ化したグループ 162  
  非アクティブ化したデバイス/ホスト 174  
  非アクティブ化したユーザー 161-162  
  非アクティブ化したロケーション/ゾーン 170  
ビューコン毎のブロック数 40  
ビュー 110  
  アラームの一時停止/再開 131-133  
  フォルダーの追加 110  
  リモートディスプレイのビュー変更 160  
  リモートディスプレイ端末用 112  
  既定 111

共有 111  
  作成 109-110  
ビューのアクセス許可 104  
表示  
  アクセス許可 105  
  アクティブなアラーム 122  
  イベントログ 134  
  イベントコメント 135  
  デバイスプロパティ 34  
  トレンド 124, 143  
  ロケーションとゾーン 116  
  ロケーション状態 163  
  測定単位 95

## ふ

ファイアウォール 184  
ファイルの場所 3  
フォント、変更 52  
複数のアラーム通知 78  
ブラウザ  
  サポート対象 2  
  対応 1  
  複数のトレンドを開く 143  
プリファレンス  
  システムアラーム 97  
  スケジュール 106  
  メール/SMS 96  
  温度単位 90  
  音声アラーム 89  
  言語 94  
  事前定義コメント 99  
フルコントロール アクセス許可 103  
プロパティ  
  チャンネル 41  
  デバイス 38  
  ロケーション 162

## へ

平均動態温度 90

## 索引

### ヘルプ

eラーニング 15

### 変更

アラーム通知テンプレート 83

しきい値アラーム設定 68

ダッシュボードの表示 52

デバイス 175

デバイス アラーム設定 77

トレンド 141

リンクしたロケーション 168

ロケーションアラーム設定 68,77

監視対象エリア 168

既定のビュー 111

単位表示 95

### 編集

[ロケーション]または[ゾーン]プロパティ 162

RFL データログプロパティ 39

しきい値アラーム設定 68

しきい値テンプレート 67

ゾーンとロケーション 165

チャンネル プロパティ 41

デバイス アラーム テンプレート 77

デバイス アラーム設定 77

デバイス プロパティ 38

ホストプロパティ 37

メールとSMSテンプレート 83

ユーザー アカウント 161

校正プロパティ 178

### 編成

ロケーションとゾーン 45

## ほ

### ホスト

viewLinc Device Host インストール 23

デバイスの拒否 32

ネットワーク通信のテスト 182

プロパティの編集 37

構成アラーム 62,72

再起動 182

追加 29-30

通信アラーム 63,71

非アクティブ化/再アクティブ化 174

ホストアラーム 69

## む

### 無効化/有効化

しきい値アラーム 171

しきい値アラームレベル 172

スケジュール機能 89

デバイス アラーム 171-172

音声アラーム 90

通信アラーム 173

## め

### 命名

デバイスまたはチャンネルのエイリアス 87,91

ロケーション 45,47

### メール

カスタムの内容 84

カスタム内容 83

サーバー設定 96-97

既定の内容 83

### メール設定

ITネットワーク管理者アドレス 96

通知設定 96

### メール通知

テンプレート 79

受信 122

受信確認 88,125

メール / SMS のメッセージ内容 83

メッセージ内容 83

### メンテナンス

viewLinc の再起動または停止 182

デバイスのスワップ 175

デバイスの削除 173

## も

モデム、SMS 97

モバイル デバイス 112,114,156

## ゆ

## 有効化/無効化

viewLinc Aware サービス 92

しきい値アラーム 171

しきい値アラームレベル 172

スケジュール機能 89

デバイスアラーム 171-172

音声アラーム 89

通信アラーム 173

## ユーザー

アクセス許可 101, 104

グループに追加 58-59

スケジュール 106

スケジュールの追加 109

タイムアウト期間の設定 93

ビュー 109-111

ビューへのアクセス 111

リモートディスプレイ端末用 112

レガシーアクセス許可 6

レガシー権限 7

ログイン 25

権限の割り当て 55

追加 58

非アクティブ化/アクティブ化 161

非アクティブ化/再アクティブ化 161

編集 161

優先言語 58

## よ

## 要件

viewLinc 設定 2

リモートディスプレイ 113

## ら

## ライセンスキー

入力 93

## り

リモート端末での viewLinc の表示 159

リモート端末で viewLinc を表示 160

## リモート ディスプレイ

ビュー 109

ビューの作成 112

画面ビューの変更 160

概要 112, 159

設定 113

要件 113

リモートロック 179

## 履歴

クリア 180-181

リンク済みチャンネル対象 48

リンクしたチャンネル/ロケーション、検索 49, 117

リンク履歴、表示 48

## れ

レガシーユーザーアクセス許可 6

レガシーユーザー権限 5, 7, 56

## 列

並べ替え順 118

列の並べ替え 118

## レポート

[ロケーション]アラーム 148

Excel 150, 154, 156

PDF 150, 154, 156

アラーム履歴 148

イベントログ 136

クイック 145-146

システム 155

スケジュールの繰り返し 150, 154, 156

ダウンロード進行状況 145-146

ユーザー言語 58

ロケーションデータの色 152

ロケーション履歴 149

印刷 144

現在のアラーム 124

言語 145

作成 146, 148, 153

削除 147

種類 144

## 索引

署名またはコメントボックスの追加 153-154  
生成 144  
非アクティブ化/再アクティブ化 147  
レポートの種類 144  
レポートの生成  
クイックレポート 146  
ダウンロード状況 146  
概要 144  
レポートのダウンロード 146  
連絡先情報  
Vaisala 校正サービス 177  
テクニカル サポート 15

## ろ

ロードマップ  
viewLinc の設定 18  
ロガー **関連項目:** デバイス  
DL、セキュリティ状態の修正 181  
DL、履歴のクリア 181  
アラーム設定の編集 77  
チャンネルの説明 41  
ロック 179  
設定 9  
説明とエイリアス 38  
追加 29  
ログイン 25, 114, 189  
ログ容量 39  
ロケーション  
アクセス許可 102  
アクセス許可の割り当て 104  
アラーム状態 121  
アラーム通知スケジュールの追加 108  
アラーム通知テンプレートの適用 81  
しきい値アラームの一時停止 131  
しきい値アラームの再開 133  
しきい値アラームの追加 66  
しきい値アラーム設定の変更 68  
スケジュールを追加 106  
ダッシュボード 50  
チャンネルのリンク/リンク解除 47

デバイスの交換 175  
トレンド 124, 137, 142  
プロパティの編集 162  
リンクしたチャンネルの変更 165  
レポート 149  
移動 168  
概要 44  
検索 49, 117, 124  
削除 169  
状態 163  
設定 43, 45  
非アクティブ化/再アクティブ化 169-170  
名前変更 165  
ロケーション履歴レポート  
作成 148-149  
非アクティブ化/再アクティブ化 147  
ロケーション/ゾーンへのアクセス制御 101

## わ

ワークシート、構成 19  
ワイヤレスデバイス、接続 31  
ワイヤレス デバイスの解放 175  
ワイヤレス デバイスの拒否 31  
割り当て  
アクセス許可 104  
権限 55